

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第28集

埼玉県ふじみ野市

市内遺跡群 27

2023年3月

ふじみ野市教育委員会

はじめに

ふじみ野市は、都心から30km圏内という立地条件にあるため、昭和30年代ごろから急激な開発の波が押し寄せ、企業の工場や研究所の進出、住宅の建設ラッシュ、大規模都市基盤整備事業が計画・実施され、人口の増加も伴って周辺の自然・社会の環境は大きく変化しています。

市内には、権現山古墳群や福岡河岸記念館、復元大井戸跡や旧大井村役場など、多くの文化財が存在し、2万数千年前の旧石器時代から現代までの長い歴史をみることができます。

本報告書は、国・県からの補助金と民間開発に伴い各事業者の皆様からの費用負担を受けて実施した、「市内遺跡発掘調査」の成果を記録した報告書です。

今回、市内で発掘調査された成果を一冊の冊子にまとめることができました。その成果は、店舗や住宅建設などの開発に伴い発掘されたものです。長い歴史の中で繰り返し住まいの地として利用されるということは、いつの時代でも、ふじみ野の地が住み良い土地であることの証明ともいえます。

こうして発見された新たな歴史の一部である貴重な文化財を、「人がつながる 豊かで住み続けたいまち ふじみ野」の実現のため、将来にわたって保存・継承し、地域の皆様や子供たちが、生涯にわたって地域の歴史や文化を学び続けられるよう目指してまいります。貴重な文化財と共に、本書が将来にわたって活用されれば幸いです。

おわりに、土地所有者、開発関係者の皆様には多大なご負担とご協力を賜りました。地域の文化財保護・保存についてのご理解をいただいたことに対し、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。また、調査から本書刊行に至るまで、文化庁、埼玉県教育委員会文化資源課、市関係各課、調査関係者、そして各事業者の多くの皆様から、ご指導やご協力をいただきました。誌上をもって厚くお礼を申し上げます。

ふじみ野市教育委員会
教育長 朝倉 孝

例　　言

1. 本書は、埼玉県ふじみ野市内に所在する遺跡群の2021（令和3）年度の試掘調査と発掘調査の報告書である。
2. 2021（令和3）年度に行った試掘調査、発掘調査および整理作業は総経費6,665,794円に対し国庫補助金(3,330,000円)、県費(1,665,000円)の補助金の交付を受け、2021（令和3）年4月1日～2022（令和4）年3月31日まで実施したものである。民間開発を原因として行った8件の本調査は、開発原因者から委託を受け、ふじみ野市教育委員会が主体となって行った。開発原因者・委託者は次のとおりで、各発掘調査及び整理作業に伴う費用は各開発原因者・委託者からの委託費により行った。

遺跡名・地点名	委託者	契約期間
鶴ヶ岡外遺跡第7地点	株式会社オグラ	令和3年6月7日～令和4年3月31日
鶴ヶ岡外遺跡第8地点	パークサクラオート株式会社	令和4年3月7日～令和4年3月31日
長宮遺跡第60地点	吉野富男	令和4年5月9日～令和5年3月31日
亀久保堀跡遺跡第34地点	久保輝吉	令和3年9月10日～令和4年3月31日
駒林遺跡第42地点	鈴木一雄	令和3年4月1日～令和4年3月31日
西ノ原遺跡第181地点	グランディハウス株式会社	令和3年8月27日～令和5年3月31日
神明後遺跡第66地点	大澤和行	令和4年1月14日～令和5年3月31日
淨津寺遺跡第56地点	大石幸子、石井愛子、安野浩光	令和4年1月6日～令和4年3月31日

3. 調査組織

文化財保護係長

調査主体者	ふじみ野市教育委員会	文化財保護係長
担当課	社会教育課文化財保護係	鍋島 直久 (2021.4.1～)
教　育　長	朝倉 孝 (2014.4.1～)	文化財保護係調査担当者
部　　長	皆川 恒晴 (2019.4.1～2022.3.31)	鍋島 直久 (2021.4.1～)
課　　長	永倉 秀雄 (2020.4.1～)	岡崎 裕子 (2015.4.1～)
社会教育課副課長		庶務担当 橋本祐可子 (2015.4.1～)
		臨時の任用職員 高橋 京子 (2005.4.1～)
	小林 久美 (2018.4.1～)	

4. 本書作成において、調査に至る経過の執筆は岡崎、鍋島、田中で分担した。本書作成全般にわたり、田中信氏（ふじみ野市発掘調査・整理作業指導者）のご教示を賜った。また、立原達平氏には、松山遺跡出土の灰釉陶器についてご教示を賜った。

石器実測については、有限会社アルケーリサーチに委託した。

松山遺跡第12次出土の木片のサンプル分析は、株式会社パレオ・ラボに委託した。

鶴ヶ岡外遺跡第7地点の基準点測量及び測量図作成の一部は、株式会社東京航業研究所に委託した。

遺物接合・復元：川中ひろみ。

土器実測・拓本：岩城英子、坂本民子、佐竹里佳、鈴木千恵子、深谷美奈子、山内康代。

遺構・遺物図トレース：岩城英子、小林登喜江、坂本民子。

図版作成：青山奈保美、大久保明子、齋藤有紀、鈴木千恵子、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子。

遺構写真：岡崎、鍋島。 レイアウト・遺物写真：大久保、岡崎。

5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。（敬称略）

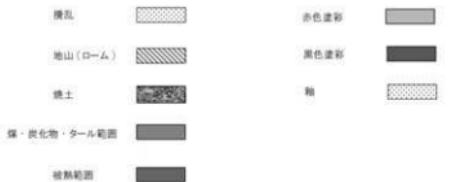
天ヶ嶋岳、上田寛、越前谷理、大久保淳、岡田賢治、久津間文隆、隈本健介、酒井智晴、菅森健一、佐藤一也、佐藤啓子、清水理史、鈴木清、田中信、坪田幹男、中村愛、原口雅樹、早坂廣人、比嘉洋子、平野寛之、藤波啓容、堀善之、松尾鉄城、三上栄一、水口由紀子、柳井章宏、大野朝日、齋藤麻耶、菅沼慎太郎、木村藍、和田晋治、埼玉県教育委員会市町村支援部文化資源課、上福岡歴史民俗資料館、大井郷土資料館。

6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。西ノ原遺跡第181地点の本調査において坪田幹男氏がボランティアとして参加した。記して厚く感謝の意を表したい。(敬称略)
- 青山奈保美、新井和枝、飯塚泰子、壹岐久子、岩城英子、逢坂英明、大久保明子、
小口広、香取秀明、川中ひろみ、小林登喜江、齋藤有紀、坂本民子、櫻井英史、佐竹里佳、鈴木千恵子、
須藤さち子、関田成美、高橋けい子、丹治つや子、野岡由紀子、長谷川雅之、比嘉洋子、深谷和江、深谷美奈子、
福田美枝子、藤井喜恵子、増澤勝実、山内康代、吉田一廣、若林紀美代。

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

- (1) 縮尺は原則として、遺構配置図1:300、遺構平面図・遺物出土状況図1:60・1:30、炉などの詳細図1:30、
土器実測図1:4、土器拓影図1:4、石器実測図1:4・2:3、銭1:1である。
- (2) 遺構断面図の水系高は海拔高を示す。明記していないものは同図版中の前遺構の海拔高と同じ。
- (3) 遺構図におけるscreen-toneの指示、遺物出土状況のドットの指示は、



- (4) 土器断面図は、■が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表している。
- (5) 遺構・遺物実測図中の▲▼マークは、図の接続、結合を示す。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。

3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会に保管してある。

埼玉県ふじみ野市

市内遺跡群 27 目次

はじめに	i
例 言	ii
凡 例	iii
目 次	iv
挿図目次	v
表 目 次	vi
写真図版目次	vii
第I部 試掘調査と個人住宅建設に伴う調査の成果	
第1章 遺跡と調査の概要	1
I 調査に至る経過	1
II 立地と環境	4
III 市内の遺跡	4
第2章 北野遺跡の調査	9
I 遺跡の立地と環境	9
II 北野遺跡第 52 地点	11
III 北野遺跡第 53 地点	11
IV 北野遺跡第 54 地点	11
V 北野遺跡第 55 地点	12
VI 北野遺跡第 56 地点	12
第3章 ハケ遺跡の調査	13
I 遺跡の立地と環境	13
II ハケ遺跡第 29 地点	15
III ハケ遺跡第 30 地点	15
第4章 滝遺跡の調査	16
I 遺跡の立地と環境	16
II 滝遺跡第 38 地点	19
III 滝遺跡第 39 地点	20
IV 滝遺跡第 40 地点	20
V 滝遺跡第 41 地点	22
第5章 亀居遺跡の調査	23
I 遺跡の立地と環境	23
II 亀居遺跡第 81 地点	23
第6章 鶴ヶ舞遺跡の調査	26
I 遺跡の立地と環境	26
II 鶴ヶ舞遺跡第 43 地点	26
第7章 松山遺跡の調査	28
I 遺跡の立地と環境	28
II 松山遺跡第 106 地点	31
III 松山遺跡第 107 地点	31
IV 松山遺跡第 108 地点	32
V 松山遺跡第 109 地点	33
第8章 江川東遺跡の調査	34
I 遺跡の立地と環境	34
II 江川東遺跡第 28 地点	34
III 江川東遺跡第 29 地点	35
第9章 駒林遺跡の調査	37
I 遺跡の立地と環境	37
II 駒林遺跡第 43 地点	41
III 駒林遺跡第 44 地点	41
第10章 東中学校西遺跡の調査	42
I 遺跡の立地と環境	42
II 東中学校西遺跡第 38 地点	44
第11章 西ノ原遺跡の調査	45
I 遺跡の立地と環境	45
II 西ノ原遺跡第 180 地点	48
III 西ノ原遺跡第 182 地点	49
第12章 神明後遺跡の調査	50
I 遺跡の立地と環境	50
II 神明後遺跡第 61 地点	52
III 神明後遺跡第 62 地点	55
第13章 苗間東久保遺跡の調査	56
I 遺跡の立地と環境	56
II 苗間東久保遺跡第 36 地点	56
第14章 淳津寺跡遺跡の調査	58
I 遺跡の立地と環境	58
II 淳津寺跡遺跡第 9 地点	58
III 淳津寺跡遺跡第 55 地点	61
IV 淳津寺跡遺跡第 57 地点	61
第15章 小田久保遺跡の調査	62
I 遺跡の立地と環境	62
II 小田久保遺跡第 15 地点	63
第16章 本村遺跡の調査	65
I 遺跡の立地と環境	65
II 本村遺跡第 138 地点	65
III 本村遺跡第 139 地点	65
IV 本村遺跡第 140 地点	69
第17章 東台遺跡の調査	70
I 遺跡の立地と環境	70
II 東台遺跡第 63 地点	73
III 東台遺跡第 64 地点	73
第II部 民間開発に伴う調査の成果	
第1章 長宮遺跡第 60 地点の調査	74
I 遺跡の立地と環境	74
II 本調査に至る経過と概要	78
III 構造と遺物	78
第2章 西ノ原遺跡第 181 地点の調査	86
I 本調査に至る経過と概要	86
II 構造と遺物	86
第3章 神明後遺跡第 59 - 60 地点の調査	140
I 神明後遺跡第 59 地点の本調査に至る経過と概要	140
II 構造と遺物	140
III 神明後遺跡第 60 地点の本調査に至る経過と概要	148
IV 構造と遺物	148
第4章 淳津寺跡遺跡第 56 地点の調査	155
I 遺跡の立地と環境	155
II 淳津寺跡遺跡第 56 地点	155
第III部 松山遺跡第 12 次の調査	158
I 調査の概要	158
II 構造と遺物	159
第IV部 まとめ	168
附 編	169
写真図版	175
抄 彙	223

挿 図 目 次

第 1 図	ふじみ野市の位置と周辺の地形 ······	5
第 2 図	ふじみ野市遺跡分布図 ······	7
第 3 図	北野遺跡の地形と調査区 ······	9
第 4 図	北野遺跡第 52・53 地点調査区域図・土層・第 52 地点出土遺物 ······	11
第 5 図	北野遺跡第 54・56 地点調査区域図、第 55 地点遺構配置図・第 54・56 地点土層 ······	12
第 6 図	ハケ遺跡の地形と調査区 ······	13
第 7 図	ハケ遺跡第 29・30 地点調査区域図・土層 ······	15
第 8 図	滝遺跡の地形と調査区 ······	16
第 9 図	滝遺跡遺構分布図 ······	18
第 10 図	滝遺跡第 38・39 地点調査区域図・土層・第 38 地点出土遺物 ······	19
第 11 図	滝遺跡第 40 地点遺構配置図・土層・出土遺物 ······	20
第 12 図	滝遺跡第 40 地点ピット・溝 ······	21
第 13 図	滝遺跡第 41 地点調査区域図・土層 ······	22
第 14 図	亀居遺跡の地形と調査区 ······	23
第 15 図	亀居遺跡第 81 地点調査区域図・土層 ······	25
第 16 図	鶴ヶ舞遺跡の地形と調査区 ······	26
第 17 図	鶴ヶ舞遺跡第 43 地点調査区域図・土層 ······	27
第 18 図	松山遺跡の地形と調査区 ······	29
第 19 図	松山遺跡遺構分布図 ······	30
第 20 図	松山遺跡第 106 地点調査区域図、第 107 地点遺構配置図・土層・ピット ······	31
第 21 図	松山遺跡第 108 地点調査区域図・土層 ······	32
第 22 図	松山遺跡第 109 地点調査区域図・土層 ······	33
第 23 図	江川東遺跡の地形と調査区 ······	34
第 24 図	江川東遺跡第 28 地点遺構配置図、第 29 地点調査区域図、第 28 地点溝・第 29 地点土層 ······	36
第 25 図	駒林遺跡の地形と調査区 ······	37
第 26 図	駒林遺跡遺構分布図 ······	40
第 27 図	駒林遺跡第 43 地点遺構配置図、第 44 地点調査区域図・土層 ······	41
第 28 図	東中学校西遺跡の地形と調査区 ······	42
第 29 図	東中学校西遺跡第 38 地点調査区域図・土層 ······	44
第 30 図	西ノ原遺跡の地形と調査区 ······	45
第 31 図	西ノ原遺跡第 180 地点調査区域図・土層・出土遺物 ······	48
第 32 図	西ノ原遺跡第 182 地点調査区域図・土層 ······	49
第 33 図	神明後遺跡の地形と調査区 ······	50
第 34 図	神明後遺跡遺構分布図 ······	53
第 35 図	神明後遺跡第 61 地点遺構配置図・土層・土坑・ピット・出土遺物 ······	54
第 36 図	神明後遺跡第 62 地点遺構配置図・土層 ······	55
第 37 図	苗間東久保遺跡の地形と調査区 ······	56
第 38 図	苗間東久保遺跡第 36 地点調査区域図・土層 ······	57
第 39 図	淨禪寺跡遺跡の地形と調査区 ······	58
第 40 図	淨禪寺跡遺跡第 9 地点調査区域図・土層 ······	60
第 41 図	淨禪寺跡遺跡第 55・57 地点調査区域図、第 55 地点土層・第 57 地点土層・出土遺物 ······	61
第 42 図	小田久保遺跡の地形と調査区 ······	62
第 43 図	小田久保遺跡第 15 地点調査区域図・土層 ······	63
第 44 図	小田久保遺跡第 15 地点出土遺物 ······	64
第 45 図	本村遺跡の地形と調査区 ······	66
第 46 図	本村遺跡第 138・139 地点調査区域図・土層 ······	68
第 47 図	本村遺跡第 140 地点遺構配置図・土層 ······	69
第 48 図	東台遺跡の地形と調査区 ······	70
第 49 図	東台遺跡第 63 地点遺構配置図、第 64 地点調査区域図、第 63・64 地点土層 ······	73
第 50 図	長宮遺跡の地形と調査区 ······	74
第 51 図	長宮遺跡遺構分布図 ······	77
第 52 図	長宮遺跡第 60 地点遺構配置図・土層 ······	78
第 53 図	長宮遺跡第 60 地点 H8 号住居跡 ······	79
第 54 図	長宮遺跡第 60 地点 H8 号住居跡竈掘方 ······	80
第 55 図	長宮遺跡第 60 地点出土遺物① ······	81
第 56 図	長宮遺跡第 60 地点出土遺物② ······	82
第 57 図	長宮遺跡第 60 地点出土遺物③ ······	83
第 58 図	西ノ原遺跡第 181 地点遺構配置図 ······	86
第 59 図	西ノ原遺跡遺構分布図 ······	87
第 60 図	西ノ原遺跡第 181 地点 184 号住居跡 ······	91
第 61 図	西ノ原遺跡第 181 地点 184 号住居跡出土遺物 ······	92
第 62 図	西ノ原遺跡第 181 地点 220・233 号住居跡 ······	94
第 63 図	西ノ原遺跡第 181 地点 220・233 号住居跡炉 ······	95
第 64 図	西ノ原遺跡第 181 地点 220 号住居跡出土遺物 ······	96
第 65 図	西ノ原遺跡第 181 地点 233 号住居跡出土遺物 ······	98
第 66 図	西ノ原遺跡第 181 地点 221 号住居跡 ······	99
第 67 図	西ノ原遺跡第 181 地点 221 号住居跡遺物出土状況・炉 ······	100
第 68 図	西ノ原遺跡第 181 地点 221 号住居跡出土遺物 ······	101
第 69 図	西ノ原遺跡第 181 地点 222・228・229 号住居跡・土層 ······	103
第 70 図	西ノ原遺跡第 181 地点 222・228・229 号住居跡土層・ピット ······	104
第 71 図	西ノ原遺跡第 181 地点 222・228・229 号住居跡遺物出土状況 ······	105
第 72 図	西ノ原遺跡第 181 地点 222・228・229 号住居跡炉 ······	106
第 73 図	西ノ原遺跡第 181 地点 222 号住居跡出土遺物① ······	107
第 74 図	西ノ原遺跡第 181 地点 222②・228 号住居跡出土遺物 ······	108
第 75 図	西ノ原遺跡第 181 地点 229 号住居跡出土遺物① ······	110
第 76 図	西ノ原遺跡第 181 地点 229 号住居跡出土遺物② ······	111
第 77 図	西ノ原遺跡第 181 地点 223 号住居跡・炉 ······	113
第 78 図	西ノ原遺跡第 181 地点 223 号住居跡出土遺物 ······	114
第 79 図	西ノ原遺跡第 181 地点 224 号住居跡 ······	115
第 80 図	西ノ原遺跡第 181 地点 224 号住居跡遺物出土状況・炉 ······	116
第 81 図	西ノ原遺跡第 181 地点 224 号住居跡出土遺物① ······	117
第 82 図	西ノ原遺跡第 181 地点 224 号住居跡出土遺物② ······	118
第 83 図	西ノ原遺跡第 181 地点 225 号住居跡・出土遺物 ······	120

第 84 図	西ノ原遺跡第 181 地点 226 号住居跡 ······	122
第 85 図	西ノ原遺跡第 181 地点 226 号住居跡遺物出土状況・炉・出土遺物① ······	123
第 86 図	西ノ原遺跡第 181 地点 226 号住居跡出土遺物② ···	124
第 87 図	西ノ原遺跡第 181 地点 227・234 号住居跡 ······	126
第 88 図	西ノ原遺跡第 181 地点 227 号住居跡遺物出土状況、227・234 号住居跡炉 ······	127
第 89 図	西ノ原遺跡第 181 地点 227 号住居跡出土遺物① ···	128
第 90 図	西ノ原遺跡第 181 地点 227 号住居跡出土遺物② ···	129
第 91 図	西ノ原遺跡第 181 地点 227 号住居跡出土遺物③ ···	130
第 92 図	西ノ原遺跡第 181 地点 234 号住居跡出土遺物 ······	131
第 93 図	西ノ原遺跡第 181 地点 230・231 号住居跡 ······	133
第 94 図	西ノ原遺跡第 181 地点 231 号住居跡遺物出土状況、230・231 号住居跡炉 ······	134
第 95 図	西ノ原遺跡第 181 地点 230・231 号住居跡出土遺物 ···	135
第 96 図	西ノ原遺跡第 181 地点土坑・ピット ······	136
第 97 図	西ノ原遺跡第 181 地点溝 ······	137
第 98 図	西ノ原遺跡第 181 地点土坑・ピット・溝出土遺物 ···	138
第 99 図	西ノ原遺跡第 181 地点遺構外出土遺物 ······	139
第 100 図	神明後遺跡第 59 地点遺構配置図・土層 ······	141
第 101 図	神明後遺跡第 59 地点落とし穴・土坑 ······	142
第 102 図	神明後遺跡第 59 地点 B 区堀跡・ピット ······	143
第 103 図	神明後遺跡第 59 地点 A 区溝 4 ······	144
第 104 図	神明後遺跡第 59 地点 A 区トレチ 1 溝 5・井戸・トレチ 2 溝 5 ······	145
第 105 図	神明後遺跡第 59 地点 C 区トレチ 6 溝・B 区トレチ 7 ピット・溝 ······	146
第 106 図	神明後遺跡第 59 地点出土遺物 ······	147
第 107 図	神明後遺跡第 60 地点遺構配置図・土層 ······	149
第 108 図	神明後遺跡第 60 地点大型土坑・ピット ······	150
第 109 図	神明後遺跡第 60 地点溝・井戸 ······	151
第 110 図	神明後遺跡第 60 地点出土遺物① ······	152
第 111 図	神明後遺跡第 60 地点出土遺物② ······	153
第 112 図	淨禪寺跡遺跡第 56 地点遺構配置図 ······	156
第 113 図	淨禪寺跡遺跡第 56 地点出土遺物 ······	157
第 114 図	松山遺跡第 12 次遺構配置図 ······	158
第 115 図	松山遺跡第 12 次井戸平面図・断面模式図 ······	159
第 116 図	松山遺跡第 12 次出土遺物① ······	160
第 117 図	松山遺跡第 12 次出土遺物② ······	161
第 118 図	松山遺跡第 12 次出土遺物③ ······	162
第 119 図	松山遺跡第 12 次出土遺物④ ······	163

表 目 次

第 1 表	過去 3 年間の調査件数と面積一覧表 ······	1
第 2 表	2021(令和 3)年度埋蔵文化財調査一覧表 ······	2
第 3 表	2021(令和 3)年度立会調査一覧表 1(埋蔵文化財包蔵地内) ······	3
第 4 表	2021(令和 3)年度立会調査一覧表 2(埋蔵文化財包蔵地外) ······	3
第 5 表	ふじみ野市遺跡一覧表 ······	8
第 6 表	北野遺跡調査一覧表 ······	10
第 7 表	ハケ遺跡調査一覧表 ······	14
第 8 表	滝遺跡調査一覧表 ······	17
第 9 表	亀居遺跡調査一覧表 ······	24
第 10 表	鶴ヶ舞遺跡調査一覧 ······	27
第 11 表	松山遺跡調査一覧表 ······	28
第 12 表	江川東遺跡調査一覧表 ······	35
第 13 表	駒林遺跡調査一覧表 ······	38
第 14 表	東中学校西遺跡調査一覧表 ······	43
第 15 表	西ノ原遺跡調査一覧表 ······	46
第 16 表	神明後遺跡調査一覧表 ······	51
第 17 表	苗間東久保遺跡調査一覧表 ······	57
第 18 表	浄禪寺跡調査一覧表 ······	59
第 19 表	小田久保遺跡調査一覧表 ······	63
第 20 表	小田久保遺跡第 15 地点出土遺物観察表 ······	64
第 21 表	本村遺跡調査一覧表 ······	67
第 22 表	東台遺跡調査一覧表 ······	71
第 23 表	長宮遺跡調査一覧表 ······	75
第 24 表	長宮遺跡古代住居跡一覧表 ······	76
第 25 表	長宮遺跡第 60 地点出土遺物観察表 ······	84
第 26 表	西ノ原遺跡住居跡一覧表 ······	88
第 27 表	西ノ原遺跡第 181 地点 184 号住居内ピット一覧表 ···	90
第 28 表	西ノ原遺跡第 181 地点 220・233 号住居内ピット一覧表 ······	93
第 29 表	西ノ原遺跡第 181 地点 221 号住居内ピット一覧表 ···	100
第 30 表	西ノ原遺跡第 181 地点 222・228・229 号住居内ピット一覧表 ······	102
第 31 表	西ノ原遺跡第 181 地点 223 号住居内ピット一覧表 ···	112
第 32 表	西ノ原遺跡第 181 地点 224 号住居内ピット一覧表 ······	116
第 33 表	西ノ原遺跡第 181 地点 225 号住居内ピット一覧表 ······	119
第 34 表	西ノ原遺跡第 181 地点 226 号住居内ピット一覧表 ······	121
第 35 表	西ノ原遺跡第 181 地点 227・234 号住居内ピット一覧表 ······	125
第 36 表	西ノ原遺跡第 181 地点 230・231 号住居内ピット一覧表 ······	132
第 37 表	西ノ原遺跡第 181 地点ピット一覧表 ······	138
第 38 表	神明後遺跡第 59 地点堀跡内ピット一覧表 ······	143
第 39 表	神明後遺跡第 59 地点出土遺物観察表 ······	147
第 40 表	神明後遺跡第 60 地点ピット一覧表 ······	151
第 41 表	神明後遺跡第 60 地点出土遺物観察表 ······	154
第 42 表	浄禪寺跡遺跡第 56 地点出土遺物観察表 ······	157
第 43 表	松山遺跡第 12 次出土遺物観察表 ······	164

写真図版目次

写真図版 1	北野遺跡第 52 ~ 55 地点 ······	175
写真図版 2	北野遺跡第 56 地点、ハケ遺跡第 29 ~ 30 地点、 滝遺跡第 38 地点 ······	176
写真図版 3	滝遺跡第 39 ~ 41 地点 ······	177
写真図版 4	亀居遺跡第 81 地点、鶴ヶ舞遺跡第 43 地点、 松山遺跡第 106 ~ 109 地点 ······	178
写真図版 5	江川東遺跡第 28 ~ 29 地点、駒林遺跡第 43 ~ 44 地点 ······	179
写真図版 6	東中学校西遺跡第 38 地点、西ノ原遺跡第 180 ~ 182 地点、神明後遺跡第 61 地点(1) ······	180
写真図版 7	神明後遺跡第 61(2) ~ 62 地点、苗間東久保遺跡 第 36 地点、淨津寺跡遺跡第 9 地点 ······	181
写真図版 8	淨津寺跡遺跡第 55 ~ 57 地点、小田久保遺跡第 15 地点 ······	182
写真図版 9	本村遺跡第 138 ~ 140 地点、東台遺跡第 63 ~ 64 地点 ······	183
写真図版 10	長宮遺跡第 60 地点(1) ······	184
写真図版 11	長宮遺跡第 60 地点(2) ······	185
写真図版 12	長宮遺跡第 60 地点(3) ······	186
写真図版 13	長宮遺跡第 60 地点(4) ······	187
写真図版 14	西ノ原遺跡第 181 地点(1) ······	188
写真図版 15	西ノ原遺跡第 181 地点(2) ······	189
写真図版 16	西ノ原遺跡第 181 地点(3) ······	190
写真図版 17	西ノ原遺跡第 181 地点(4) ······	191
写真図版 18	西ノ原遺跡第 181 地点(5) ······	192
写真図版 19	西ノ原遺跡第 181 地点(6) ······	193
写真図版 20	西ノ原遺跡第 181 地点(7) ······	194
写真図版 21	西ノ原遺跡第 181 地点(8) ······	195
写真図版 22	西ノ原遺跡第 181 地点(9) ······	196
写真図版 23	西ノ原遺跡第 181 地点(10) ······	197
写真図版 24	西ノ原遺跡第 181 地点(11) ······	198
写真図版 25	西ノ原遺跡第 181 地点(12) ······	199
写真図版 26	西ノ原遺跡第 181 地点(13) ······	200
写真図版 27	西ノ原遺跡第 181 地点(14) ······	201
写真図版 28	西ノ原遺跡第 181 地点(15) ······	202
写真図版 29	西ノ原遺跡第 181 地点(16) ······	203
写真図版 30	西ノ原遺跡第 181 地点(17) ······	204
写真図版 31	西ノ原遺跡第 181 地点(18) ······	205
写真図版 32	西ノ原遺跡第 181 地点(19) ······	206
写真図版 33	西ノ原遺跡第 181 地点(20) ······	207
写真図版 34	西ノ原遺跡第 181 地点(21) ······	208
写真図版 35	西ノ原遺跡第 181 地点(22) ······	209
写真図版 36	西ノ原遺跡第 181 地点(23) ······	210
写真図版 37	西ノ原遺跡第 181 地点(24) ······	211
写真図版 38	西ノ原遺跡第 181 地点(25) ······	212
写真図版 39	西ノ原遺跡第 181 地点(26) ······	213
写真図版 40	西ノ原遺跡第 181 地点(27) ······	214
写真図版 41	神明後遺跡第 59 地点(1) ······	215
写真図版 42	神明後遺跡第 59 地点(2) ······	216
写真図版 43	神明後遺跡第 60 地点(1) ······	217
写真図版 44	神明後遺跡第 60 地点(2) ······	218
写真図版 45	淨津寺跡遺跡第 56 地点、松山遺跡第 12 次(1) ······	219
写真図版 46	松山遺跡第 12 次(2) ······	220
写真図版 47	松山遺跡第 12 次(3) ······	221
写真図版 48	松山遺跡第 12 次(4) ······	222

第Ⅰ部 試掘調査と個人住宅建設に伴う調査の成果

第1章 遺跡と調査の概要

I 調査に至る経過

埼玉県ふじみ野市では平成17年から国庫・県費の補助を受けて、「市内遺跡群発掘調査事業」（旧上福岡市、旧大井町では昭和53年度から合併まで）として試掘・確認調査及び個人住宅建設に伴う発掘調査を実施してきた。また民間の開発に伴う本調査も原因者と協議の上、協定書並びに契約書を締結し原因者負担のもと、市教育委員会が主体となって本調査を実施している。

埋蔵文化財の調査は庁内関係各課と連絡調整を行い、農業委員会事務局からの農地転用許可申請段階、建設課（民間の指定確認検査機関含む）への建築確認申請段階、都市整備課からの開発行為の事前申請段階等でそれぞれチェックされる。その後、教育委員会では開発主体者または土地所有者から「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」（以下「埋蔵文化財事前協議書」）の提出を受けて事前協議を行う。埋蔵文化財包蔵地内及びその縁辺部の申請に対して遺跡地図と照合のうえ現地踏査及び現況確認を実施、遺跡に影響を及ぼすとみなされる開発行為に対して申請者と協議を行った。

協議後、文化財保護法第99条第4項にもとづき、民間・公共事業を問わず確認調査については全て公費で対応し、埋蔵文化財包蔵地の詳細な範囲の把握を積極的に実施している。またその個人の用に供する住宅（個人住宅）の建設に伴う発掘調査についても、教育委員会が発掘調査主体者となって調査を実施した。

2021年度の試掘及び発掘調査は第2表のとおりで、国庫・県費補助事業対象の調査15件である。また、試掘調査の結果、個人住宅建設に伴う本調査0件、公共事業に伴う本調査1件、民間開発に伴う本調査7件を行った。開発面積は25,099.62m²で、そのうち実質調査面積は試掘5,327.64（本調査面積1595.35）m²である。過去2年間の調査件数と調査面積を第1表に掲載する。

今後、中小規模の再開発を含む民間開発の増加が見込まれる中で、埋蔵文化財の保存及び活用と、調査体制の強化が求められるところである。

第1表 過去3年間の調査件数と面積一覧表

	試掘件数	個人住宅等	原因者負担	調査原因の内訳	
		本調査件数	本調査件数		
開発面積m ²	開発面積m ²	開発面積m ²	開発面積m ²		
2019 (平成31・令和元年度)	38件	3件	1件	個人住宅16、分譲住宅18、共同住宅3、診療所	
	12,194.64	162.5	60.0	兼住宅1	
2020 (令和2年度)	25件	1件	1件	個人住宅5、分譲住宅11、共同住宅7、事務所1、宅地造成1	
	13,536.14	44.9	681.5		
2021 (令和3年度)	46件	1件	8件	個人住宅12、分譲住宅19、共同住宅5、宅地造成2、倉庫兼個人住宅1、貸家1、建物解体1、土砂採集2、建物解体・道路整備1、アンテナ設置1	
	25,099.62	62.0	1,595.35		

第2表 2021(令和3)年度埋蔵文化財調査一覧表

No.	遺跡・地点	申請地住所	開発面積 (m ²)	試掘面積 (m ²)	個人住宅等 本調査面積 (m ²) 既開発 本調査面積 (m ²)	原因	試掘期間	調査措置
							本調査期間	
1	鶴ヶ岡外遺跡第7地点	龜久保字大野原 1607-6	2,043.00	688.00	350.00	土砂採取	4/22 ~ 6/8 6/9 ~ 30 1/14 ~ 3/9	試掘調査・ 本調査 試掘調査・ 本調査
2	鶴ヶ岡外遺跡第8地点	龜久保字大野原 1606-4	2,480.00	406.00	266.00	土砂採取	3/10 ~ 24	試掘調査・ 本調査
3	北野遺跡第52地点	北野 2-1822-5	73.00	5.70		個人住宅	4/22	試掘調査
4	北野遺跡第53地点	北野 1-3066-45	81.05	1.00		分譲住宅	7/6	試掘調査
5	北野遺跡第54地点	北野 1-3115-6・7	83.97	3.50		個人住宅	8/25	試掘調査
6	北野遺跡第55地点	北野 1-3112-4	62.00	1.20		分譲住宅	1/12	試掘調査
7	北野遺跡第56地点	大原(元吉川通分)1-2045-13	67.52	2.00		分譲住宅	2/1	試掘調査
8	ハケ遺跡第29地点	福岡 3-1249-3	50.81	6.60		個人住宅	8/5	試掘調査
9	ハケ遺跡第30地点	福岡 3-1260-2, 1257-10 (住居表示: 10-9)	101.84	14.20		個人住宅	10/27	試掘調査
10	瀧原跡第38地点	瀧 1-1-18	118.00	16.20		個人住宅	6/23	試掘調査
11	瀧原跡第39地点	瀧 3-1-12・36・37	1,301.00	3.75		分譲住宅	7/20	試掘調査
12	瀧原跡第40地点	瀧 2-5-23	191.94	51.10		分譲住宅	8/18 ~ 20	試掘調査
13	瀧原跡第41地点	瀧 3-3-100・174	245.00	42.75		分譲住宅	8/18・19	試掘調査
14	長宮遺跡第60地点	上ノ原 3-1-3	494.00	145.50	36.00	分譲住宅	12/13 ~ 15 2022/5/17 ~ 6/1	試掘調査・ 本調査
15	龜久保遺跡第81地点	龜久保 2-9-13	161.26	28.20		建売住宅	7/20	試掘調査
16	鶴ヶ舞遺跡第43地点	鶴ヶ舞 1-79-11	71.41	5.00		分譲住宅	5/20	試掘調査
17	松山遺跡第106地点	松地 2-1-8	198.00	57.00		個人住宅	6/1	試掘調査
18	松山遺跡第107地点	仲 2-4-10(分譲後 2-4-49)	422.94	10.50		分譲住宅	6/2	試掘調査
19	松山遺跡第108地点	松山 2-6-8	145.80	11.00		個人住宅	2/16	試掘調査
20	松山遺跡第109地点	仲 2-1-16	99.17	23.25		分譲住宅	3/7	試掘調査
21	江川東遺跡第28地点	東久保 1-146-5	105.99	9.80		分譲住宅	5/6	試掘調査
22	江川東遺跡第29地点	東久保 1-162-22	113.79	18.30		分譲住宅	5/20	試掘調査
23	龜久保塚原遺跡第34地点	じふみ野 2-14-4・5	1,543.00	439.50	102.50	共同住宅	8/27 ~ 31 10/6 ~ 11	試掘調査・ 本調査
24	駒林遺跡第42地点	新駒林 2-310-1	899.00	149.29	122.85	共同住宅	2020/2/16 ~ 17 4/12 ~ 21	試掘調査・ 本調査
25	駒林遺跡第43地点	新駒林 2-304-6・8	89.40	19.00		貸家	5/28	試掘調査
26	駒林遺跡第44地点	新駒林 2-304-2・3	100.02	3.00		個人住宅	11/4	試掘調査
27	東中学校西遺跡第38地点	じふみ野 3-1-5	1,000.00	248.76		宅地造成	4/19	試掘調査
28	西ノ原遺跡第180地点	旭 1-6-6	309.42	19.05		分譲住宅	7/6	試掘調査
29	西ノ原遺跡第181地点	旭 1-14-4・27	652.00	232.50		宅地造成	7/26 ~ 8/6	試掘調査・ 本調査
30	西ノ原遺跡第182地点	苗間 1-2-5 の一部	493.00	96.80	510.00	共同住宅	9/1 ~ 11/4	試掘調査
31	神明(後)遺跡第59地点	苗間字神明後 248-2, 249-1	836.67	62.75		建物解体	9/6	
	神明(後)遺跡第59地点(1)	苗間字神明後 248-1, 264-2, 264-4, 250-5, 251-9	1,013.00		62.00		7/7 ~ 12 ~ 21	試掘調査・ 本調査
	神明(後)遺跡第59地点(2)	苗間字神明後 248-6, 249-4		414.50			7/26	
	神明(後)遺跡第59地点(3)	苗間字神明後 250-2					9/17	
32	神明(後)遺跡第60地点	苗間 367-1, 368-1・4・5・6	2,909.00	909.40		分譲住宅	12/15 ~ 16 2022/1/5 ~ 14 1/17 ~ 21	試掘調査・ 本調査
33	神明(後)遺跡第61地点	苗間字神明後 260 の一部	255.00	43.74		個人住宅	9/22	試掘調査
34	神明(後)遺跡第62地点	苗間字神明後 246-2, 247-3	133.32	52.80		個人住宅付属の 倉庫	11/4 ~ 5	試掘調査
35	苗間東久保遺跡第36地点	苗間 630-11	105.64	4.70		分譲住宅	6/17	試掘調査
36	淨禪寺跡遺跡第9地点	苗間字神明後 353-5・6	245.00	2.00		分譲住宅	12/7	試掘調査
37	淨禪寺跡遺跡第55地点	苗間字神明後 340-15	57.92	7.50		建物解体	5/7	試掘調査
38	淨禪寺跡遺跡第56地点	苗間 338-5 外 14 番	2,909.84	751.25	148.00	宅地造成	11/8 ~ 16 1/20 ~ 31	試掘調査・ 本調査
39	淨禪寺跡遺跡第57地点	苗間字神明後 510-7・11	164.00	47.00		分譲住宅	1/13	試掘調査
40	小田久保遺跡第15地点	大井字西原 1023-10・11	336.00	90.50		個人住宅	4/8	試掘調査
41	本村遺跡第138地点	大井 2-3-7・8	205.00	49.20		分譲住宅	4/5・6	試掘調査
42	本村遺跡第139地点	市沢 2-14-4・5・6・7	776.64	52.00		共同住宅	4/20, 5/10	試掘調査
43	本村遺跡第140地点	大井 2-1-8	692.00	182.85		分譲住宅	2/22・24	試掘調査
44	東台遺跡第63地点	大井字東台 630-1	2.25	2.25		アンテナ設置	2/9	試掘調査
45	東台遺跡第64地点	大井字東台 596-16	76.42	3.50		コンクリート建室	3/4	試掘調査
合計			25,099.62	5,434.39	62.00			
					1595.35			

第3表 2021(令和3)年度立会調査一覧表1 (埋蔵文化財保蔵地内)

No.	道路・地点	申請地住所	開免面積 (m ²)	原 因	立会日	備 考
1	鶴ヶ岡	鶴ヶ岡 3-15-4	1.00	電柱埋地樁新設	10/12 立会	掘削面横狭く調査不可。工事立会
2	北野	北野 1 丁目 3066-46	76.00	分譲住宅	12/6 立会	基礎撤去時立会。遺構踏査まで 70 cm で保護層有、工事立会
3	川崎	川崎市竹ノ花 388-1、387-2 の一部	141.00	農業用倉庫	1/6 立会	立会時一部試掘、地表面下 60 ~ 70 cm で地山ローム層確認。保護層有工事立会
4	ハケ	福岡 3-1221-1, 1222-3・4	116.15	個人住宅	5/18 立会	1996 年既認定。遺構遺物なし。記録がないため基礎撤去時工事立会
5	ハケ	福岡 3-1363-1・12・13	318.21	宅地造成	9/28 立会	アスファルト磨き去立会時確認調査。遺構遺物なし。保護工事
6	ハケ	福岡 3-1363-10 の一部	296.98	建物解体	10/6 立会	基礎撤去立会時一部試掘調査実施。遺構遺物なし。保護工事
7	ハケ	福岡 3-1-6 ~ 29	86.80	ガス管新設	11/12 ~ 14 立会	掘削面横狭く調査不可。工事立会
8	港	港 3-1-2 ~ 長富 1-2	10.40	ガス管新設	11/22 立会	掘削面横狭く調査不可。工事立会
9	虎島	虎島 1-2 ~ 長富 1-2	11.35	ガス管新設	立会済	掘削面横狭く調査不可。工事立会
10	鶴ヶ舞	鶴ヶ舞 1-106-2・3・5	340.64	分譲住宅	5/月立会済	一帯 40 点点として調査済。(遺構確認面まで 120 cm)、根切立会
11	鶴ヶ舞	鶴ヶ舞 1-98-741 (住居表示: 24-91)	86.95	分譲住宅	8/16 立会	基礎撤去立会時一部試掘、遺構遺物なし。保護工事
12	鶴ヶ舞	鶴ヶ舞 1-104-6 (住居表示: 9-23)	51.35	建物解体	1/25 立会	基礎撤去立会時
13	基土・既存構築跡	基土・既存構築跡 563-16-17	143.86	個人住宅	1/21 立会	調査確認面が大きく削平され遺構残存の可能性低く保護工事
14	松山	仲 1 丁目 2-58	210.99	個人住宅	6/10 立会	既存建物撤去時立会。現地表面下 70 ~ 80 cm で地山ローム層確認。保護層有工事立会
15	松山	葉地 1-1-11	205.02	分譲住宅	10/15 立会	基礎撤去立会。現地表面下 70 ~ 80 cm で地山ローム層確認。保護層有工事立会
16	城山	福岡市大字神原 163-1	1313.47	事務所兼自宅	3/7 立会	現地表面下 180 cm でも地山確認できず。保護層有工事立会
17	城山	福岡 194-1	2.00	電柱新設併用工事	立会済	立会済
18	江川東	東久保 1-155-3	1.00	電柱埋地樁新設	11/25 立会	掘削面横狭く調査不可。工事立会
19	江川東	東久保 1-168-4 ~ 14	73.85	個人住宅	立会済	基礎撤去立会。遺構確認面まで 50 cm 以上で保護層有。工事立会
20	東久保 58	ふじみ野 2-2-7	137.22	個人住宅	1/31 立会	2004/4 月既認定。7/13 基礎撤去立会。保護工事
21	東久保宿跡 23	ふじみ野 2-2-15~29	137.38	個人住宅	1/7, 3/30 立会	現地表面下 80 cm で地山確認できず。保護層有工事立会
22	東久保跡	ふじみ野 3-4-17	201.07	コンテナ貯蔵	立会済	現地位置が既存範囲外のため保護層有。工事立会
23	神明後	福岡 241-1・2・3・4	1070.49	分譲住宅	4/23・30 立会	事業者の重機で 1 × 1.5 m (6 台所) × 2 m (2 台所) 展示して地山確認。遺構遺物なし。保護工事
24	神明後	福岡 240-1 ~ 235-14	38.45	ガス管理設	立会済	既存建物解体時立会。現地表面下 75 ~ 90 cm で地山ローム層確認。保護層有工事立会
25	神明後	福岡市神明後 293-14	165.00	個人住宅	11/24 立会	既存建物解体時立会。現地表面下 75 ~ 90 cm で地山ローム層確認。保護層有工事立会
26	神明後 59(4)	福岡市神明後 249-2 ～ 2	722.45	上下水道管設置工事	3/8 立会	掘削面横狭く調査不可。工事立会
27	神明後	福岡 241-1	2.00	電柱埋地樁新設	12/3 立会	掘削面横狭く調査不可。工事立会
28	神明後	福岡市神明後 241-6	134.57	個人住宅	12/3 立会	2021/1 月解体時立会。現地表面下 90 ~ 100 cm で遺構確認面確認。保護層有工事立会
29	神明後	福岡市神明後 241-11	142.06	個人住宅	3/14 立会	2021/4/23・30 建物撤去時立会済。工事立会
30	神明後	福岡市神明後 241-2・5・14	178.13	個人住宅	3/14 立会	2021/4 月建物撤去時立会済。現地表面下 90 ~ 100 cm で遺構確認面確認有工事立会。3/14 案切会合予定
31	西園東・東久保・ 津守跡	基土・既存構築跡 295 ~ 346	123.92	ガス管新設・撤去	3/8 立会	掘削面横狭く調査不可。工事立会
32	小田久保	大井 1058	2.00	支障新設・搬土工事	5/12 立会	掘削面横狭く調査不可。工事立会
33	大井宿	大井 1-5-34 ~ 大井 1073-1	26.80	ガス管新設	R4 年度へ 繰り越し	立会日程未確定(予定 9 ~ 12 月)
34	西台	大井字西台 911-27	200.00	個人住宅	7/16 基礎 撤去立会	既存基礎撤去時立会。遺構確認面大きく削平され遺構残存可能
35	西台	大井字西台 911-54	96.84	分譲住宅	12/16 立会	解体時立会。遺構確認面まで 80 ~ 100 cm で保護層有工事立会
36	東台	大井字東台 698-5・7	221.78	個人住宅	7/30 立会	現地表面下 100 ~ 115 cm で遺構確認面提出。保護層有工事立会

第4表 2021(令和3)年度立会調査一覧表2 (埋蔵文化財保蔵地外)

No.	道路・地点	申請地住所	開免面積 (m ²)	原 因	立会日	備 考
1	鶴ヶ岡外接壤	東久保字太郎原 1670-113・114・ 115(現在: 1670-2・72・58 の一部)	3753.00	工 場	10 月立会済	包蔵外。工事立会
2	福岡接	福岡 1-1-7 の一部	227.00	個人住宅	9 月立会済	隣接地。工事立会
3	松山隣接	新井 2-427-5・6	185.00	個人住宅	6/8 立会	既存建物撤去時立会
4	松山隣接	本郷田 408-1 の一部	498.00	個人住宅	11/4 立会	隣接地の為基礎工事立会
5	鶴林隣接	鶴林字本町 215-1	774.44	個人住宅	6/8 立会	隣接地。基礎撤去時立会
6	鶴林近接	鶴林字本町 3-4-2・3-3・4-5 (System 本町: 1-3-6 ~ 8-9 の一部)	1561.32	保育所	9/13 立会	立会
7	東中学校西隣接	上じみ野 4-1-1・6	1140.37	共同住宅	3/30 立会	基礎撤去時立会
8	神明跡隣接	苗原 487-8 ~ 491-5	20.00	ガス管新設工事	立会済	既存建物撤去時立会
9	津守跡隣接	苗原 512-20 ~ 512-15	22.80	ガス管新設	3/3 立会	隣接地。工事立会
10	大井中央	大井中央 1-1168-2	5345.19	工場・事務所・倉庫	5/10 立会	
11	鶴ヶ岡字太郎原	鶴ヶ岡字太郎原 2188-1, 2189, 2190, 2192, 2194	9160.00	倉 库	8/16 立会	
12	新井 2-441-1・2・442-1・7	1862.43	宅地造成	5 月立会済	工事立会	
13	新井 2-1-7-11・12・20 ~ 30・33・37・38	1395.00	店舗	12/6 立会	基礎撤去時工事立会	
14	大井武藏野	大井字武藏野 1274-2	2350.00	引渡す付置場・駐車場	3/10 立会	後継時立会

II 立地と環境

ふじみ野市は、首都圏 30 km 圏内の県南西部に位置する。2005(平成 17)年 10 月 1 日に、上福岡市と大井町が合併して誕生した。面積 14.64 km²、人口は 2022(令和 4)年 3 月現在 114,056 人である。

旧上福岡市地域では明治・大正時代頃までは畑作と稻作、旧大井町地域では畑作を中心とする農村地帯であった。また、近世以降は川越街道(大井宿)や新河岸川(福岡河岸)、東武東上線(上福岡駅)などの交通網が発達した交通の要所でもあった。現在も市内には国道 254 号バイパス、東武東上線、川越街道(国道 254 号線)、関越自動車道といった、交通の幹線が北西から南東方向に平行して存在する。市内の開発はこうした幹線沿いや、東武東上線・福岡駅周辺、ふじみ野駅周辺を中心に進んでいるが、郊外には畠地や田園風景も多くみられる。

昭和初期の太平洋戦争時には、旧福岡村に通信施設や旧日本陸軍造兵廠東京工廠福岡工場(火工廠)が建設され、戦後の昭和 30 年代以降には各市町で中・小の宅地開発や大規模な団地が誕生し人口が急増した。また企業の工場や研究所も多数進出してきた。昭和 60 年代以降、旧大井町地域では大規模な土地区画整理事業が進み、埋蔵文化財の発掘調査も行われた。現在は上福岡駅周辺の再開発と、ふじみ野駅周辺の民間開発が活発に行われている。

ふじみ野市を地形的みると、武藏野台地と荒川低地に大きく分かれ、旧大井町域は武藏野台地縁辺部に位置し、旧上福岡市域は台地縁辺部から荒川低地の沖積地に広がる。

武藏野台地は古多摩川が形成した扇状地で、扇頂部で標高 180 m、扇端部は標高 15 ~ 20 m で比高差 10 m 前後の急斜面となって荒川低地と接している。台地には柳瀬川、黒目川、石神井川等の中河川が荒川低地へ向かって流れ、深い谷と沖積地を形成し、河川に沿って多くの遺跡が分布している。他にも多数の小河川が流れ、台地縁辺を鋸歯状に開析することが多いが、中には急崖もなく、緩斜面のまま低地に接していくことがある。この緩斜面はもともと低位の段丘面で、低位台地と呼ばれる。旧大井町地域を南北方向の断面図で見ると、北と南に高台が続き、その中間に低位台地(大井台)がある。この大井台の中を 3 本の河川が東流し、河川の流域に遺跡が集中している。中でも砂川堀は狭山丘陵に流れを発する中河川で、本来大井台はこの砂川の段丘面と捉えることができる。また、福岡江川や富士見市との境を流れるさかい川、浄禪寺川などの小河川は市内に湧水源をもつ。湧水源は浅い窪地から発しており、こうした窪地の形成は從来から伏流水が再湧出したことによるものと、宙水からの流出によるものとの二通りが考えられている。

荒川低地は、荒川により形成された沖積地で、ふじみ野市の北東部から東部にかけて広がる。荒川の支流であった新河岸川は川越市周辺に水源を発しその流れはふじみ野市、富士見市、志木市、朝霞市を経て東京都にまたがる。武藏野台地縁辺部を縫うように流れ、不老川、九十川、福岡江川、砂川堀、柳瀬川、黒目川、越戸川、白子川などの支川と合流し、現在は東京都北区で隅田川に合流する。低地部は平坦にみえるが、荒川や新河岸川の河川改修等で取り残された沼や、氾濫できた旧河道(埋没河川)、自然堤防、後背湿地などの地形が存在する。

III 市内の遺跡

ふじみ野市の遺跡分布をみると、台地上の中小河川沿いと荒川低地部を望む縁辺部、低地部分に分かれる。

市内の主な遺跡を時代順に河川ごとに概観する。

【旧石器時代・縄文時代】 市の北側を流れる川越江川では、右岸高台に鶴ヶ岡外遺跡、鶴ヶ岡遺跡、八幡神社遺跡(川越市)が位置し、縄文時代中期の集落である西遺跡へ続く。鶴ヶ岡外遺跡では旧石器時代の石器群と礫群が出土し、八幡神社遺跡では縄文時代中期の住居跡などが検出されている。

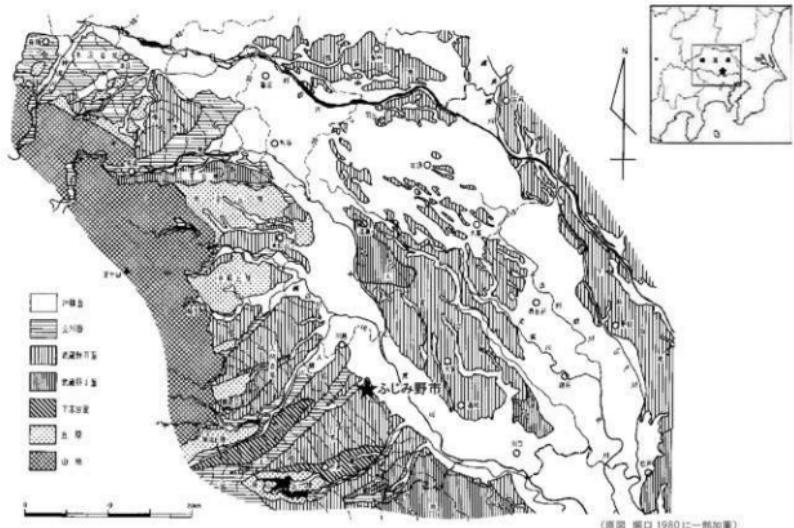
藤間江川・川越江川が新河岸川に合流する部分、荒川低地に張り出した舌状台地上に、川崎貝塚として

著名な川崎遺跡が立地する。本遺跡ではローム層中からではないが旧石器時代の石器が出土し、縄文時代早期から後期の住居跡などを検出する。新河岸川は川崎遺跡を回り込み、低地部で台地東縁を沿うように流れる。台地東端は急峻を成し、崖線上には縄文時代中期のハケ遺跡、学史上著名な前期集落の上福岡貝塚が形成され権現山遺跡へと続く。台地の南端、市立福岡中学校周辺はかつて「熊野山」と呼ばれ、湧出した水が丘上から流れ落ち滝となっていたため「滝地区」の名称が付いたとされる。清水は長宮氷川神社の裏手（北側）を北に流れていたが現在は道路となっており、新河岸川との合流部でその面影を残すのみである。滝遺跡、長宮遺跡はこの小河川に対峙して立地し、滝遺跡では前期の遺構と遺物を、長宮遺跡では前期開山期の集落跡が確認されている。

川越江川の1 km南には福岡江川が流れ、新河岸川へ注ぐ。福岡江川の湧水地周辺域に縄文時代中期前半の集落である亀居遺跡が存在し、対岸にも中期前半の江川南遺跡がある。この2遺跡と鶴ヶ舞遺跡では、旧石器時代立川ローム第IV層の礫群と石器群を検出している。さらに市立亀久保小学校周辺では福岡江川に注ぐ埋没谷がみられ、東久保遺跡、亀久保塚跡遺跡、東久保西遺跡、東中学校西遺跡で旧石器時代から縄文時代中期の遺構と遺物が確認されている。川越江川最下流の新河岸川との合流部域には、前期集落の鶯森遺跡が存在する。

福岡江川の900 m南には、富士見市との境にさかい川が流れ、3 km下流で砂川堀と合流する。流域には縄文時代中期の拠点集落である西ノ原遺跡の他、10遺跡が存在する。旧石器時代の遺跡は西ノ原遺跡、中沢前遺跡、中沢遺跡・外記塚遺跡（富士見市）で立川ロームIII層～X層の遺物が確認されている。縄文時代中期～後期の集落は時代を追うごとに、上流から下流域へ集落の拠点を移していく傾向がみられる。

さかい川の800 m南に、都市下水道と化した砂川堀が流れる。砂川流域は大きく3ヶ所の地域で遺跡分布がみられる。砂川最上流域の狭山丘陵部、伏流水となりはじめる中流域、一旦地中に姿を消したあと再び湧水してくる下流域である。下流域のふじみ野市地域では、砂川右岸が段丘となり5～6 mの急崖



第1図 ふじみ野市の位置と周辺の地形

を形成する。この高台上には縄文時代中期の拠点集落である東台遺跡があり、旧石器時代の遺跡も西台遺跡から東台遺跡まで連続と続く。一方砂川左岸の低位台地では、市内で最古の時期であるA T降灰前（立川ローム第VII層）の石器を本村遺跡の微高地から検出する。縄文時代中期には上流の小田久保遺跡で小規模な集落がみられ、本村遺跡では炉穴、落とし穴が散在する。

【弥生・古墳時代】 荒川低地を流れる新河岸川の自然堤防上に、弥生時代後期の環濠集落である伊佐島遺跡が立地する。新河岸川右岸、舌状台地崖線上の東端に立地する権現山遺跡は、縄文時代から中世までの複合遺跡で、縄文時代の住居跡も存在するが、主体は遺跡北東部と北西端に築造された古墳群と、古墳時代前期から奈良・平安時代にかけての集落跡である。北東部に築造された古墳時代前期の古墳群（埼玉県指定史跡権現山古墳群）は、方墳11基の他に古墳時代初期の前方後方墳（2号墳）1基である。また権現山古墳群北西端の台地縁辺部には、古墳時代中期の古墳群（通称権現山北古墳群）3基がある。ハケ遺跡第16地点の調査（2014）で、古墳の周溝から、6世紀後半頃とみられる複数の人物埴輪と、円筒埴輪が新たに発見されたが、古墳の形態や主体部については不明である。また第19地点の調査（2015）では6世紀代の円墳3基が新たに発見され、群集墳であることが判明した。

他に古墳時代の集落は川崎遺跡と上福岡貝塚、淹遺跡で確認されている。

【飛鳥・奈良・平安時代】 7世紀には、前述の舌状台地の西側、川崎遺跡の南西隣に川崎横穴墓群、さらに南約1.5kmの台地南側の崖線に、富士見台横穴墓群が存在する。集落は川崎遺跡、淹遺跡、松山遺跡、長宮遺跡など一段低い段丘面に展開し、川崎遺跡は10世紀前半まで、淹遺跡、松山遺跡は9世紀後半ごろまで続く。

8世紀代には前述の他、ハケ遺跡、上福岡貝塚、権現山遺跡、神明後遺跡、東久保南遺跡などで住居跡を検出する。8世紀中葉～9世紀前半まで、砂川堀右岸の台地縁辺部に東台遺跡の大規模な製鉄遺跡が現われ、周辺の遺跡でも木炭窯などが確認されている。さらに9世紀以降10世紀までは伊佐島遺跡、東台遺跡、西ノ原遺跡などで住居跡を検出している。またハケ遺跡からは銅帶金具が、川崎遺跡からは瓦塔片と布目瓦などが出土しており注目される。

【中世】 駒林遺跡では14世紀代に造立された板碑の下に、藏骨器が埋納された葺石墳墓を検出した。また本遺跡を囲む堀跡状の溝覆土層中から、茶毬跡などが確認されている。長宮遺跡、松山遺跡、本村遺跡などでは13～16世紀代の遺物を伴う遺構を検出する。特に本村遺跡では遺構を多数検出し、15世紀以降中世集落が発展したと思われる。

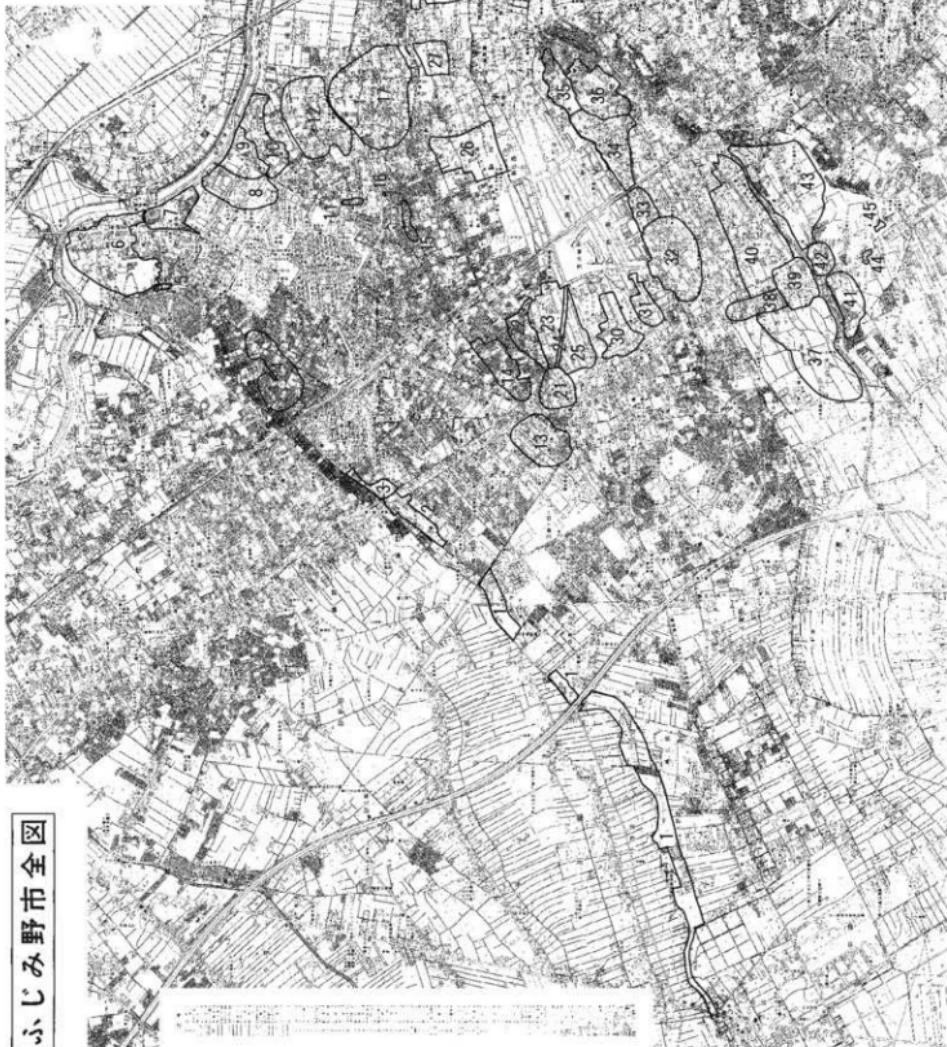
16世紀後半～17世紀前半では川崎遺跡、長宮遺跡、松山遺跡、神明後遺跡、淨禪寺跡遺跡などで屋敷地とみられる遺構を検出し、「新田」といった地名と共に開発の歴史を偲ばせる。特に城山遺跡は荒川低地の自然堤防上に立地し、周囲を方形に堀跡で囲む中世から近世の居館跡と思われる。

また、松山遺跡、駒林遺跡、亀久保堀跡遺跡、神明後遺跡では時期不詳の長大な堀跡が検出されている。

【近世】 近世以降の遺跡は、多数の遺跡で遺物などが確認されている。主な近世遺跡の分布は中世村落から続く集落跡や、街道沿いの宿場や新河岸川の河岸跡、寺院跡などにみられる。中でも、川越街道沿い大井宿の範囲にある大井氏館跡遺跡、大井戸上遺跡や大井宿遺跡、亀久保村地蔵院の江川南遺跡、旧苗間村の寺院跡である淨禪寺跡遺跡、長宮氷川神社周辺の長宮遺跡、新河岸舟運で栄えた福岡河岸の福田屋などまとまった遺構と遺物が確認されている。また鷺森遺跡で、近・現代の盛り土の中から陶磁器が多数出土しているが、埋め立ての為に他から持ち込まれた可能性がある。

近世以降では、昭和初期の旧日本陸軍の軍需工場である東京第一陸軍造兵廠川越製作所（通称造兵廠「火工廠」）の跡地で、防爆土壁・防空壕・水溜・消火栓・排水溝などの遺構や遺物が、近年の調査で確認されている。

位置図



第2図 ふじみ野市道路分布図 (1/30,000)

第5表 ふじみ野市遺跡一覧表

No	遺跡名	主な時代	遺跡番号
1	鶴ヶ岡外遺跡	旧石器、縄文早期の集落跡	30-036
2	鶴ヶ岡遺跡	旧石器、縄文早期・中期の集落跡	30-047
3	西遺跡	縄文中期の集落跡	25-001
4	北野遺跡	縄文中期、奈良・平安の集落跡	25-002
5	川崎横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-004
6	川崎遺跡	旧石器、縄文前期・中期、古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡	25-003
7	ハケ遺跡	縄文中期、奈良・平安の集落跡。6世紀代の古墳群	25-005
8	上福岡貝塚	縄文前期、古墳前期、奈良・平安の集落跡	25-006
9	桙現山遺跡群(古墳群)	古墳前期の集落跡、古墳群、縄文中期、奈良・平安の集落跡	25-007
10	瀬遺跡	縄文時代、古墳前期・中期、奈良・平安、近世の集落跡	25-008
11	西原遺跡	縄文の散布地	25-025
12	長宮遺跡	縄文前期、中・近世の集落跡	25-009
13	亀居遺跡	旧石器、縄文前期・中期の集落跡	30-030
14	鶴ヶ舞遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安の集落	30-046
15	富士見台	古墳後期の横穴墓	25-011
16	福遺跡	古墳後期の横穴墓	25-023
17	松山遺跡	奈良・平安、中・近世の集落跡	25-010
18	天神遺跡	古墳中期の散布地	25-018
19	城山遺跡	中・近世の館跡	25-019
20	川袋遺跡	奈良・平安の散布地	25-020
21	江川南遺跡	旧石器、縄文中期・中・近世の集落跡	30-007
22	江川東遺跡	奈良・平安、近世の集落跡	30-045
23	東久保遺跡	旧石器、縄文中期・近世の集落跡	30-009
24	龜久保坂跡遺跡	中世の坂跡	30-006

No	遺跡名	主な時代	遺跡番号
25	東久保西遺跡	旧石器、縄文早期・中期・近世の集落跡	30-042
26	駒林遺跡	近世の坂跡、中世の墳墓	25-013
27	福岡新田遺跡	縄文時代の散布地、中・近世の寺院	25-015
28	黒森遺跡	縄文前期の集落跡	25-017
29	伊佐鳥遺跡	古墳前期、平安の集落跡	25-021
30	東中学校西遺跡	縄文早期・中期・近世の集落跡	30-008
31	東久保南遺跡	旧石器、縄文早期・中期・近世の集落跡	30-032
32	西ノ原遺跡	旧石器、縄文早期・中期・後期・奈良・平安～近世の集落跡	30-001
33	中沢前遺跡	旧石器、縄文早期・中期・近世の集落跡	30-044
34	神明後遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安	30-041
35	間田東久保遺跡	旧石器、縄文早期～後期の集落跡	30-020
36	淨禪寺跡遺跡	旧石器、縄文早期・中期・中・近世の集落跡、近世寺院跡	30-022
37	小田久保遺跡	旧石器、縄文早期～中期・中・近世の集落跡	30-040
38	大井宿遺跡	近世～近代の宿場跡	30-010
39	大井氏館跡遺跡・大井戸遺跡	旧石器、縄文前期・中期・中・近世の集落跡	30-037
40	本村遺跡	旧石器、縄文早期～後期、中・近世の集落跡	30-034
41	西台遺跡	旧石器、縄文中期・奈良・平安・近世の集落跡	30-039
42	大井戸上遺跡	旧石器、縄文前期・中期・近世の集落跡	30-014
43	東台遺跡	旧石器、縄文早期～後期・奈良・平安	30-024
44	大井宿木戸跡	近世～近代の宿場跡	30-048
45	石塔畠	中世の散布地	30-027

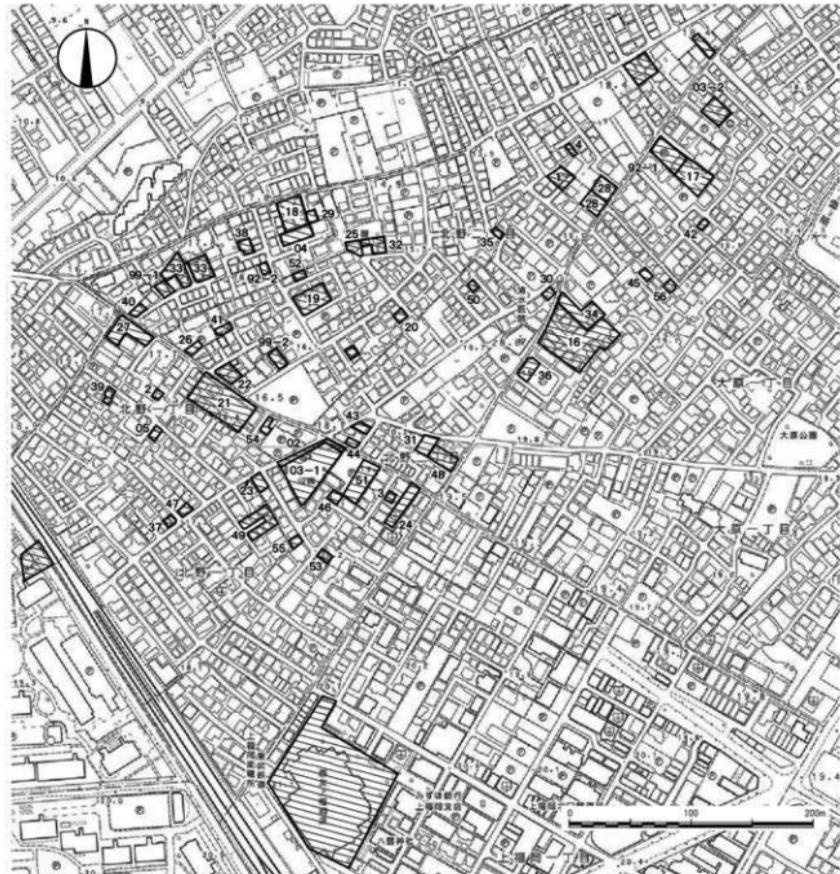
第2章 北野遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

北野遺跡は、藤間江川に面した標高 17 ~ 18m の台地縁辺にあり、開析した小支谷を囲うように立地する南北 250 m、東西 650 m 以上の遺跡である。上福岡駅まで 600 m に位置する利便性のため、昭和 30 年代から宅地開発され、ほとんど空き地は残っていない。

周辺の遺跡は、1km 上流に縄文集落の西遺跡、下流に旧石器時代から縄文、古代、中近世にわたる複合遺跡の川崎遺跡、川崎横穴墓群がある。

1965 年の分布調査、1970 年代後半の宅地開発で縄文時代早~中期の土器片が採集され、1980 年以来 2022 年 4 月現在 56ヶ所で試掘調査が行われている。縄文時代中期と平安時代の住居跡各 1軒、中世以前とみられる溝等を検出、縄文時代中期深鉢土器の顔面把手等も採集されている。



第3図 北野遺跡の地形と調査区（1/4,000）

第6表 北野遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試査)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	北野 2-2110-1 の一部、2112-1	(2006.4.7)	408	(44)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 3
2	北野 1-3119-11	(2006.8.4)	131		個人住宅	遺構遺物なし	H18-ふ生、市内 3	
3	北野 1-3061-4	(2006.4.28)	148		分譲住宅	遺構遺物なし		市内 3
4	北野 2-8-3	(2006.8.24)	58		個人住宅	遺構遺物なし	H18-ふ生	
92-1	大原 2-2079-1	(1992.6.19～22)	617		駐車場	遺構なし、土師器片	上堆 15	
92-2	北野 2-1809-1	(1992.8.6)	138		個人住宅	遺構遺物なし	上堆 15	
99-1	北野 2-1797-5	(1999.7.2)	157.4		個人住宅	遺構なし、縄文土器片	上堆 22	
99-2	北野 2-1787-1	(1999.8.9～12)	179.1		個人住宅	遺構なし、土坑、遺物	上堆 22	
02	北野 1-3058-1、3114-1 の一部	(2002.11.28～29)	100		公園歩道	遺構遺物なし		上堆 25
03-1	北野 1-3058-1、3114-1 の一部	(2003.7.1～11)	1,484		公園	遺構遺物なし		上堆 26
03-2	大原 2-2081-6	(2003.8.8～11)	350		宅地造成	土坑、縄文土器片	上堆 26	
04	北野 2-1827-1～3	(2004.4.16～19)	435		共同住宅	遺構遺物なし	上堆 27	
05	北野 1-3129-3～20	(2005.12.2)	101		個人住宅	遺構遺物なし	H17-ふ生	
16	大原 1-2070-1、2071-1	(2009.4.8～10)	1,888	(296)	宅地造成	ピット、縄文土器等		市内 8
17	大原 1-2079-1・6	(2009.10.13～17)	412	(122.5)	共同住宅	土坑、縄文土器		市内 8
18	北野 2-1828-2・12、1829-1・2	(2009.3.9～18)	507.9	(178)	分譲住宅	縄文時代住居跡1、古代住居跡1、土坑、ピット、縄文土器等		市内 8
19	北野 2-1821-1・2、1820-4	(2010.12.1～2)	476.3	(74)	共同住宅	ピット、遺物なし		市内 10
20	北野 2-1835-11	(2011.8.11)	61.3	(4)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
21	北野 1-3117-3、3118-1	(2011.12.8～20)	830	(281)	分譲住宅	昭跡、縄文土器等		市内 14
22	北野 2-1788-8 の一部	(2012.2.6～8)	207.1	(48)	分譲住宅	遺構なし、須恵器		市内 14
23	北野 1-3111-4(1)～4(9)、2(8.2.8)		140.8	(1)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 15
24	生野 1-3063-1	(2012.9.13～14)	335	(60)	分譲住宅	土坑、縄文土器		市内 15
25	北野 2-1833-3(2・6-6)	(2012.12.10)	142.7	(25)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 15
26	北野 2-1795-3	(2012.12.14)	117	(23)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 15
27	北野 1-3119-11	(2014.5.7)	481	(50.25)	共同住宅	遺構なし、縄文土器		市内 20
28	北野 2-2110-9	(2014.5.27～28)	100.6	(17.25)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 20
28	北野 2-2110-8	(2014.5.27)	101.4	(14)	個人住宅	集石土坑、溝、縄文土器		市内 20
		2014.5.28		3.5				
29	北野 2-1830-8	(2014.10.14～15)	83.7	(16.5)	分譲住宅	土坑、遺物なし		市内 20
30	北野 2-2067-8	(2014.10.30～11.5)	75.9	(12.8)	分譲住宅	土坑、遺物なし		市内 20
31	北野 2-2130-4・9	(2015.8.18)	179	(21.5)	分譲住宅	遺構なし、縄文土器		市内 22
32	北野 2-1841-7 他	(2015.8.27)	209	(4.5)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 22
33	北野 2-1801-3・4・42・43	(2015.12.1～8)	627.69	(169.55)	分譲住宅	第1土坑、縄文土器		市内 19
		2015.12.15～21		30				
34	大原 2073-1	(2015.12.7～8)	276.13	(24)	共同住宅	遺構なし、縄文土器		市内 22
35	北野 2-2116-4	(2015.12.8)	53	(4)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 22
36	大原 1-2058-10・11 の各一部	(2016.2.15～16)	212	(31.16)	共同住宅	遺構なし、縄文土器		市内 22
37	北野 1-3127-23・25	(2016.3.25)	70.25	(2.76)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 22
38	北野 2-1807-6・7・8、1808-3・5	(2016.7.29)	106.9	(9.5)	個人住宅	遺構なし、縄文土器		市内 24
39	北野 1-3129-27・28	(2016.12.5)	119	(21)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 24
40	北野 2-5-27	(2017.1.30～31)	65	(12.42)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 24
41	生野 2-1794-2 の一部	(2017.2.20～21)	157.49	(13)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 24
42	大原 2-5692-2	(2017.7.6)	63.83	(7.6)	分譲住宅	土坑、縄文土器		市内 24
43	北野 2-2129-11	(2017.8.4)	86.67	(7.7)	個人住宅	遺構なし、縄文土器		市内 24
44	北野 2-2129-7	(2017.12.14)	68.59	(2)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 24
45	大原 1-2049-7	(2018.4.16)	119.04	(7.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
46	北野 1-3065-18	(2019.3.12)	103	(0.49)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
47	北野 1-3127-12	(2019.7.8)	74.46	(4.83)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
48	北野 2-2130-1	(2019.8.28)	275.23	(55.5)	共同住宅	土坑、縄文土器		市内 25
49	北野 1-3109-8・15	(2020.1.29)	429.64	(71.96)	分譲住宅	土坑、遺物なし		市内 25
50	北野 2-2122-12	(2020.11.12)	85.76	(4.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 26
51	北野 1-3059-1・4 の各一部	(2020.11.13)	499	(124)	共同住宅	遺構なし、縄文土器等		市内 26
52	北野 2-1822-5	(2021.4.22)	73	(5.7)	個人住宅	遺構なし、土師器		市内 27
53	北野 1-3066-45	(2021.7.6)	81.05	(1)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 27
54	北野 1-3115-6・7	(2021.8.25)	83.97	(3.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 27
55	北野 1-3112-4	(2022.1.12)	62	(1.2)	分譲住宅	第1土坑、遺物なし		市内 27
56	大原 1-2045-13	(2022.2.1)	67.52	(2)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 27

II 北野遺跡第 52 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2021 年 4 月 19 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部やや北寄りに位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2021 年 4 月 22 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1m のトレント 1 本を設定し、人力による表土除去及び表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 40 cm である。

調査の結果、遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

表土中より遺物が 1 点出土した。土師器甕の口縁部破片と考えられる。8 世紀代。

III 北野遺跡第 53 地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2021 年 7 月 2 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2021 年 7 月 6 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は約 1m のトレント 1 本を設定し、人力による表土除去及び表面精査を行った。現地表面から約 60 cm 挖削したが、地山ローム層は未確認。

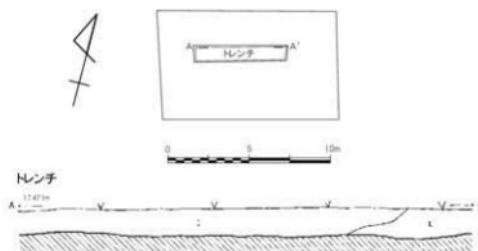
調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

IV 北野遺跡第 54 地点

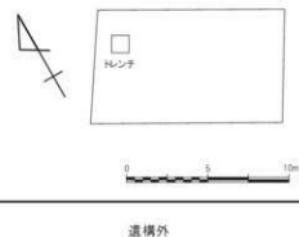
(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2021 年 8 月 16 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部やや西よりに位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2021 年 8 月 25 日に試掘調査を実施した。

第52地点



第53地点



第 4 図 北野遺跡第 52・53 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/60)、第 52 地点出土遺物 (1/4)

試掘調査は幅約1mと幅約0.3mのトレンチを1本ずつ設定し、人力による表土除去及び表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは、約20～30cmである。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

V 北野遺跡第55地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2021年10月21日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2022年1月12日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約2mのトレンチ1本を設定し、人力による表土除去及び表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは、約100～110cmである。

調査の結果、集石土坑1基を確認したが、保護層の確保が可能なため工事立会の措置とした。

(2) 遺構と遺物

集石土坑1基を調査区中央部で確認した。平面形態は円形で、確認面の規模は42×39cm、深さは不明。集石と考えられる範囲には炭化物が広がっている。詳細は不明。

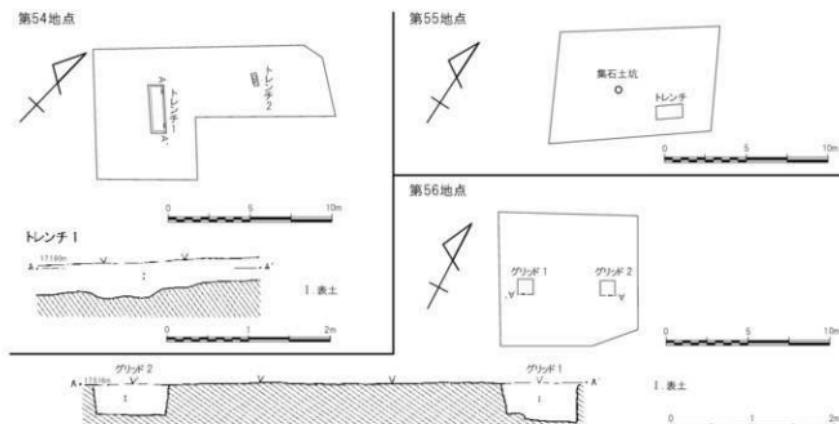
VI 北野遺跡第56地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2022年1月20日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2022年2月1日に試掘調査を実施した。

試掘調査は約1m四方のグリッドを2ヶ所設定し、人力による表土除去及び表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約40cmである。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第5図 北野遺跡第54・56地点調査区域図・第55地点遺構配置図(1/300)、第54・56地点土層(1/60)

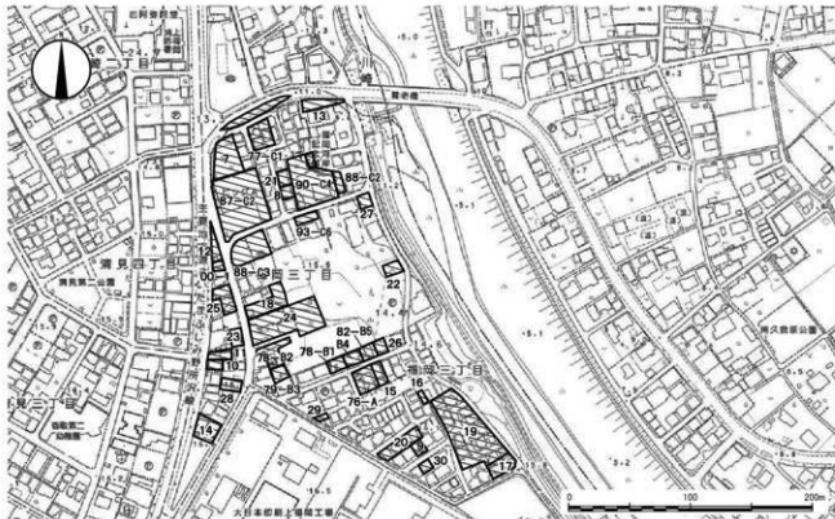
第3章 ハケ遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

ハケ遺跡は、武藏野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武藏野段丘面のいわゆる川崎台の東側付け根に立地している。遺跡の東側を新河岸川が台地東縁をなめるように流れ、東方は新河岸川に臨む急峻な崖が形成されている。遺跡の北側は落差 2 m 程度のゆるい斜面を形成し、小支谷が入る。標高は 14 ~ 16 m で、遺跡の範囲は南北 360 m、東西 160 m 以上ある。宅地開発される遺跡中央に烟が残る。

周辺の遺跡は、舌状台地の北側に旧石器、縄文、古墳～奈良・平安時代、中近世の川崎遺跡が隣接し、台地続きの南東側に縄文時代前期、中期、晚期、古墳時代の著名な上福岡貝塚、権現山遺跡がある。

1976 年以降、宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、2022 年 4 月現在 36ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は縄文時代前期から後期の住居跡、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡、近世鍛冶遺構（旧福田屋跡）と、2014 年に第 16 地点の発掘調査で、古墳の周溝から 6 世紀の人物埴輪と円筒埴輪多数が出土し、2015 年の第 19 地点でも新たに 3 基の円墳を検出した。本遺跡は便宜上東西に走る道路によって南側からハケ遺跡 A、ハケ遺跡 B、ハケ遺跡 C と呼称していたが、現在はハケ遺跡に統一している。



第6図 ハケ遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第7表 ハケ遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試査)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
76-A	大字中福同字通見 1228～2021	1976.9.11～16	306		個人住宅	古墳時代住居跡1、堅穴式遺構、土 器等	A-1次	上須賀、市史貢I
77-C1	大字中福同字清見 1480	1977.8.2～27	1,794		宅地造成	縄文時代住居跡5、古代住居跡2、 堅穴式遺構、炉跡、土坑、墨書き土 器等	C-1次	ハケC、市史貢I
78-B1	中福岡 1228-40	1978.8.28～9.10	165		個人住宅	遺構なし、縄文土器	B-1次	上堆I、市史貢I
78-B2	中福岡 1181-2	1978.9.11～25	360		貸家	臼跡、土坑、縄文土器	B-2次	上堆I、市史貢I
79-B3	中福岡 1228-37	1979.7.20～31	166			土坑、縄文土器	B-3次	上堆II、市史貢I
82-B5	大字中福同字通見 1228-46	1982.5.10～17	165			溝、縄文土器	B-5次	上堆V
87-C2	福岡 3-2068-1・2	1987.4.16～5.29	1,900		倉庫付住宅 改築	縄文時代住居跡11、古代住居跡4、 古代竪柱柱礎物跡1、土坑、縄文土 器、土師器等	C-2次	上堆X、市史貢I
88-C3	福岡 2-2-1	1988.8.15～20	627		駐車場	縄文時代住居跡4、古代住居跡2、 縄文土器等	C-3次	上堆11、市史貢I
88-C2	福岡 3-4-2	1988.10.24～28	60		擁壁改修	縄文時代住居跡2	C-試	上堆11、市史貢I
90-C4	福岡 3-2069-1 の一部 (旧福岡屋敷地内)	1990.6.20～9.6 H3.1月末	500		河岸記念館 管理棟、 庭園成	旧福岡屋敷柱礎石跡、竪治屋建物跡、 (磁石・火炎・物置跡・粘土遺構)、 縄文時代住居跡8、古代住居跡3、 土坑、溝、縄文土器、土師器等	C-4次	H2上社、市史貢I、 上堆17
93-C6	福岡 3-1189-2、2065-2	1993.5.6～18	141.91		個人住宅	土坑、縄文土器	C-6次	上堆 16
00-1	福岡 3-1184-8	2000.1.26	100		個人住宅	遺構遺物なし	C-試(2)	上堆 22
7	福岡 3-2	(2006.7.10～22)	666	(130)	宅地造成	縄文時代住居跡3、古代住居跡4、 集落土坑、土坑、溝、并戸、縄文土器、 漆器等	C-7次	市内 3・13
福岡 3-1479-1		(2013.8.10～11)	712.35	(34.7)	分譲住宅	遺構等		
8	福岡 3-2069-9	(2009.3.17)	99	(11)	個人住宅	縄文時代住居跡1、溝、縄文土器等	C-8次	市内 6
9	福岡 3-1257-7、 1259-1	(2010.2.2～4)	120	(30)	個人住宅	土坑、縄文土器	C-9次	市内 8
10	福岡 3-1363-14	(2013.4.22)	1223	(37)	個人住宅	溝、遺物なし		市内 14
11	福岡 3-1363-11	(2011.4.21～22)	157.7	(30)	分譲住宅	居外埋甕、縄文土器		市内 14
12	福岡 3-1472-1	(2012.9.24)	122	(22)	分譲住宅	ビット、縄文土器等		市内 15
13	福岡 3-1484-1	(2013.10.3)	183	(2.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 18
14	福岡 3-1363-15	(2013.11.22)	144	(15.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 18
15	福岡 3-1228-19	(2014.4.8～9)	184.09	(64.7)	分譲住宅	土坑、縄文土器等		市内 20
16	福岡 3-1254-7・14・ 17	(2014.8.11～9.2) 2014.9.3～9	68	(26.25) 19.36	分譲住宅	古墳1、人物・円筒埴輪、縄文土器等		市内 20・21
17	福岡 3-1219-1・2	(2014.9.26～30)	98.58	(50.4)	分譲住宅	溝、縄文土器等		市内 20
18	福岡 3-1182、2066-5	(2014.12.4～10) 2015.1.16～16	510.67	(107.85) 64	分譲住宅	縄文時代住居跡1、土坑、溝、縄文 土器		市内 16・20
19	福岡 3-1222-1、 1223～1225、1255	(2015.4.2～5.11・ 10.13)	2,296	(572.6) 885	宅地造成	古墳3、礎石建物跡1、溝、ビット、 象形・円筒埴輪、縄文土器等		市内 21・22
20	福岡 3-1252-1	(2015.10.14～16) 2015.10.29～30	375	(90.4) 33	分譲住宅	堅跡、土坑、火工跡境界机、ビット、 土師器等		市内 21
21	福岡 3-1193-4・15、 2069-10	(2016.1.5)	101	(20.2)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 22
22	福岡 3-2061-3 の一部	(2016.12.26～ 2017.1.19・9.11) 2017.1.25～2.8	249.32	(116.65) 40.5	はけ自治会 集会施設	古代住居跡1、土坑、ビット、縄文 土器等		市内 24
23	福岡 3-1183-1 の一部	(2017.7.18)	137	(14.27)	個人住宅	ビット、縄文土器		市内 24
24	福岡 3-1178-1、 1179-1、1180-1、 1181-1、2066-2、 2067	(2017.7.19～27) 2017.7.28～8.7	1,702.15	(446) 63.75	宅地造成	縄文時代住居跡1、堅穴式遺構、土坑、 堅石土坑、ビット、縄文土器等		市内 23
25	福岡 3-1184-5・6	(2018.6.12)	297	(68.27)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
26	福岡 3-1228-48	(2019.6.25～26)	135	(41.13)	分譲住宅	土坑、溝、漆器等、防護柵		市内 25
27	福岡 3-2061-2	(2020.3.25～27)	226.22	(61.8)	共同住宅	遺構なし、縄文土器等		市内 25
28	福岡 3-1363-7	(2020.9.10～11)	157.79	(46.75)	事務所	溝、縄文土器等		市内 26
29	福岡 3-1249-3	(2021.8.5)	50.81	(6.6)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 27
30	福岡 3-10-9	(2021.10.27)	101.84	(14.2)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 27

II ハケ遺跡第 29 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2021 年 8 月 2 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2021 年 8 月 5 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.2m のトレンチ 1 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 50 cm である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

III ハケ遺跡第 30 地点

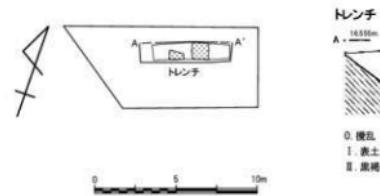
(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2021 年 10 月 15 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2021 年 10 月 27 日に試掘調査を実施した。

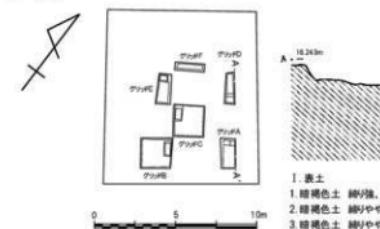
試掘調査は、幅約 30 ~ 100 cm のグリッドを 6ヶ所設定し人力による表土除去及び表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 90 ~ 100 cm である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

第29地点



第30地点



第 7 図 ハケ遺跡第 29・30 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/60)

I 遺跡の立地と環境

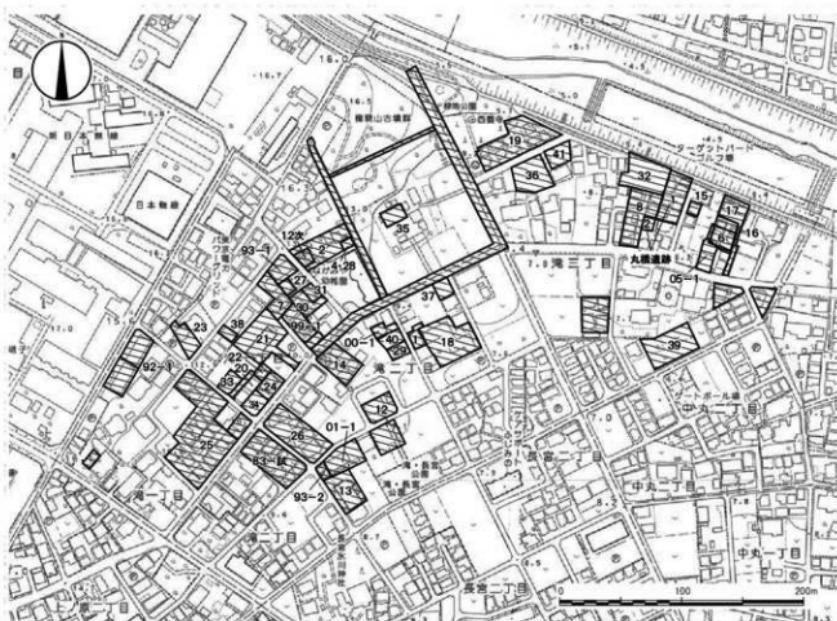
滝遺跡は武藏野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武藏野段丘面の台地東側の一段低い立川段丘面の縁に立地している。

「滝」の地名は、近年までこの段丘上から滝が落ちていたことに由来する。北西側は段丘面、北東側は新河岸川を挟んで荒川低地の沖積地と接し、南側は排水溝として利用される緩やかな小支谷を流れる旧清水に挟まれ、標高9～12m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北250m、東西500m以上ある。宅地開発が進むが部分的に烟が残っている。

周辺の遺跡は、北西側の段丘上に縄文時代前期、中期、晚期、古墳時代の遺跡である著名な上福岡貝塚と権現山遺跡群が新河岸川沿いに並び、旧清水を挟んだ南側には、縄文時代、飛鳥時代、中近世の長宮遺跡が広がる。

1976年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、遺跡の谷口に当たる旧丸橋遺跡（1981年の変更増補で滝遺跡と合併）で古墳時代前期と後期の住居跡を検出以来2022年4月現在47ヶ所で調査を行っている。なお、本遺跡の第3・5・9～11次調査、1995年度試掘調査・2002年度試掘調査（1）は権現山遺跡の範囲に入っているため、今後は本遺跡では欠番とし、権現山遺跡1・2・5～7・14・17地点とする。

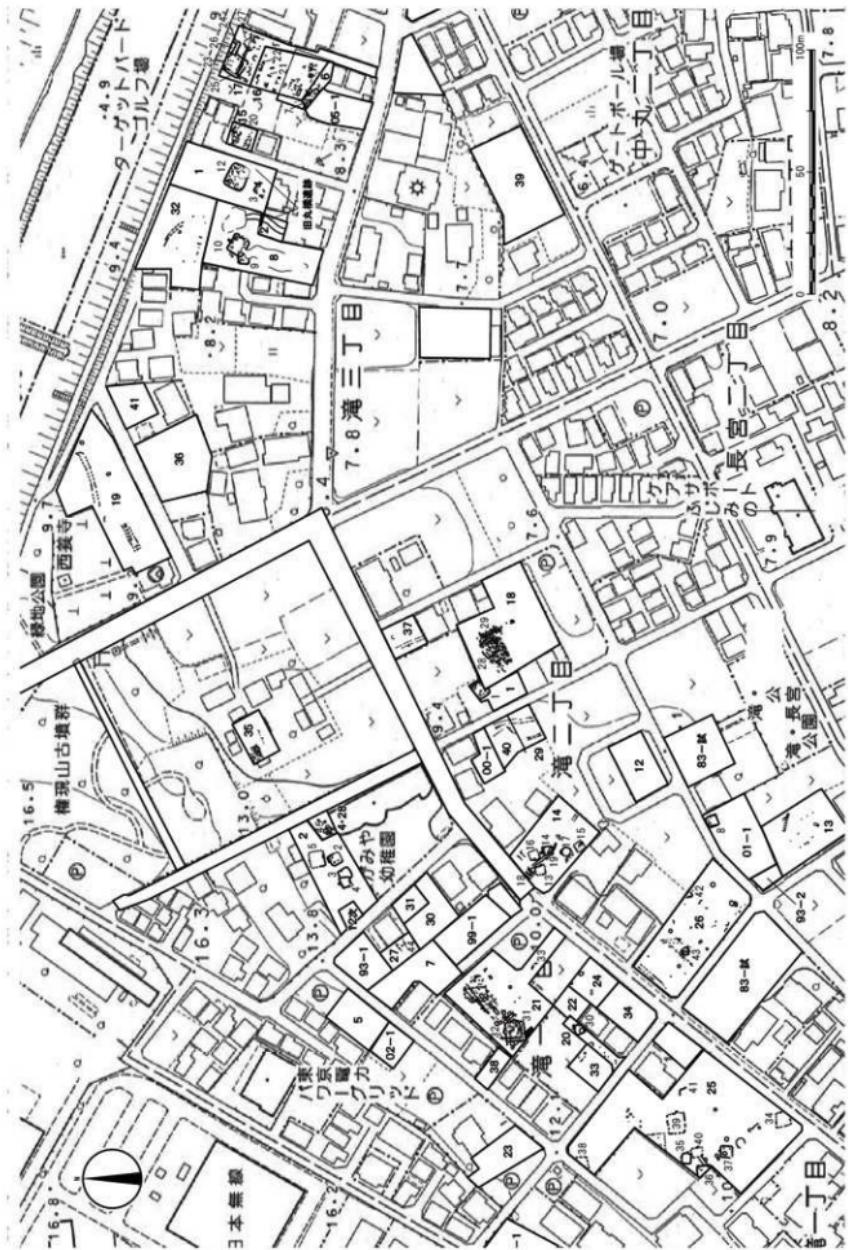
遺跡の主たる時代と遺構は、縄文時代早期・前期の土坑、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡、近世の段切り遺構（集石を伴う）である。



第8図 滝遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第8表 滝遺跡調査一覧表

地区地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
丸橋1次	周3-3-77~81	(1976.6.26~27) 1976.7.24~8.12	533.73		分譲住宅	古墳時代住居跡2、土師器	丸橋遺跡は滝遺跡へ統合	上図、上埋VI
丸橋2次	周3-3-13	1978.7.26~8.6	210		住宅建設	土坑、繩文土器		上埋I
1次	周2-6-11	1978.10.2~13	129		住宅建設	古墳時代住居跡1、土師器		上埋I
2次	周1-4-2	1979.4.15~5.7	278		幼稚園ブール	古墳時代住居跡1、古代住居跡3、土坑、土器、土器等		上埋II
3次	周1-4-15	1980.6.27~7.3	76		個人住宅	古墳時代住居跡1、甕	椎原山1地点へ変更	上埋III
4次	周1-4-1	1980.7.7~10	105		住宅建設	遺構なし、土師器		上埋III
5次	周1-3-21	1980.7.25~29	330		住宅建設	遺構無物なし	椎原山2地点へ変更	上埋III
6次	周3-3-6	1980.11.19~11.30	166		住宅建設	古代住居跡1、ピット、繩文土器等		上埋III
7次	周1-1-19	1981.7.30~31	400		個人住宅	遺構なし、土師器等		上埋IV
8次	周3-3-15他	1983.11.14~26	990		住宅建設	古墳時代住居跡2、土坑、周、土師器等		上埋V
83-試							詳細不明	上埋VI
9次	周1-4-4	1984.5.11~22	466		住宅建設	周、土師器等	椎原山5地点へ変更	上埋VI
10次	周1-3-17	1984.6.1~12	363		住宅建設	古墳時代住居跡1、土坑、ピット、周、土師器等	椎原山6地点へ変更	上埋VI
11次	周1-4-2	1984.6.28~30	33.12		物置	集石、土坑、ピット、陶器片等	椎原山7地点へ変更	上埋VI
12次	周1-4-2	1984.12.22~24	94		住宅建設	遺構なし、土師器等		上埋VI
92-1	周1-2-14の一部	(1992.7.6~8)	400		倉庫	遺構無物なし		上埋15
93-1	周1-1-4	(1993.4.27~28)	313.08		共同住宅	遺構無物なし		上埋16
93-2	周2-2-7	(1993.8.25)	99		個人住宅	遺構無物なし		上埋16
95-1	周1-3-13	(1995.11.27~30)	462		共同住宅	遺構無物なし	椎原山14地点へ変更	上埋18
99-1	周1-1-6	(1999.10.21~26)	511.69		宅地造成	遺構なし、土師器片等		上埋22
00-1	周2-5-20	(2001.1.23~24)	154.7		個人住宅	遺構なし、土師器等		上埋23
01-1	周2-2-8	(2001.4.17~20)	519.64		共同住宅	古代住居跡1、土師器		上埋24
02-1	周1-3-49	(2002.5.29~30)	165		個人住宅	遺構なし、繩文土器片	椎原山16地点へ変更	上埋25
05-1	周3-3-5~143	(2005.6.24~27)	350		個人住宅	遺構無物なし	市内1	
12	周2-5-3~4の一部	(2007.2.6)	472	(80)	個人住宅	遺構無物なし	市内3	
13	周2-2-6	(2007.10.24~11.1)	737.7	(113)	共同住宅	焼土、土坑、ピット、溝		市内4
14	周2-5-11~17	(2007.11.8~19)	692	(254)	分譲住宅	古代住居跡7、焼土、土坑、溝、井戸、土師器等		市内4
15	周3-3-84	(2009.9.2~14)	100	92	分譲住宅	古代住居跡1、土坑、ピット、井戸、土師器等		市内7
16	周3-3-145	(2009.12.2~14)	434	(129)	宅地造成	古代住居跡2、焼土、土坑、井戸、土師器等		市内8
17	周3-3-6~144	(2010.5.6~6.18)	331	(197)	分譲住宅	古代住居跡5、孤立柱建物跡1、集石、土坑、ピット、溝、井戸、土師器等		市内10
18	周2-6-4~6	(2011.6.6~13)	1,164	(124.3)	個人住宅	古墳時代住居跡2、孤立柱建物跡3、周、陶器等		市内14
19	周3-4-2	(2011.10.17~24)	1,277.16	(369)	分譲住宅	土坑、ピット、溝、井戸、土師器等		市内14
20	周1-8~9	(2012.5.9~11)	124.45	(65)	道路築造	古代住居跡1、土坑、ピット、井戸、土坑、土師器等		市内12
21	周1-1-7~26~31	(2012.5.11~21)	1,176.25	(226)	共同住宅	古代住居跡3、孤立柱建物跡1、土坑、ピット、溝、井戸、土師器等		市内12
22	周1-1-40	(2013.7.30)	114	(19)	個人住宅	遺構無物なし		市内18
23	周1-3-5~1の一部	(2014.2.12)	371	(38)	個人住宅	遺構無物なし		市内18
24	周1-1-8~1の一部	(2014.7.16~18)	222.8	(85)	分譲住宅	土坑、ピット、土師器等		市内20
25	周1-2-4~32	(2014.7.17~8.26)	2,804	(1115.8)	宅地造成	古代住居跡8、古代柱立柱建物跡1、土坑、ピット、溝、井戸、須恵器等		市内16
26	周2-5-6~8	(2015.10.19~27)	368.92	(242)	個人住宅	古代住居跡2、落とし穴、土坑、ピット、溝、井戸、土師器等		市内22
27	周1-1-25	(2015.11.27~12.11)	155	(29)	個人住宅	古代住居跡1、ピット、土師器等		市内22
28	周1-4-1~26~27	(2016.9.3~6)	2,492.15	(25)	幼稚園	古代住居跡1、ピット、土師器等		市内24
29	周2-5-46	(2016.11.10)	150.41	(34.95)	個人住宅	周、繩文土器等		市内24
30	周1-1-3~1の一部	(2017.2.13~15)	303	(104.5)	分譲住宅	遺構なし、繩文土器		市内24
31	周1-1-3~1の一部	(2017.2.13~15)	109	(26.1)	個人住宅	遺構無物なし		市内24
32	周3-3-14	(2017.6.26~29)	784.54	(176.1)	分譲住宅	ピット、溝、井戸、陶磁器等		市内24
33	周1-1-9~1の一部	(2018.12.14)	187	(38.15)	個人住宅	ピット群、須恵器等		市内25
34	周1-1-8	(2019.2.20~21、4.12)	333	(52.54)	兼診療所	遺構なし、須恵器等		市内25
35	周1-6-3	(2020.2.17)	171.83	(85.5)	個人住宅	土坑、井戸、地下水坑、板磚、カワラ等		市内25
36	周3-3-28	(2020.4.6~7)	668.54	(67)	分譲住宅	遺構無物なし		市内26
37	周2-6-7	(2020.4.15~16)	181	(36.6)	分譲住宅	土坑、ピット、溝、土師器		市内26
38	周1-1-18	(2021.6.23)	116	(16.2)	個人住宅	遺構なし、須恵器		市内27
39	周3-1-12~36~39	(2021.7.20)	1,301	(37.5)	分譲住宅	遺構無物なし		市内27
40	周2-5-23	(2021.8.18~20)	191.94	(51.1)	分譲住宅	ピット、溝、土師器		市内27
41	周3-3-100~174	(2021.8.18~19)	245	(42.75)	分譲住宅	遺構無物なし		市内27



第9図 滝遺跡分布図(1/2,000)

II 滝遺跡第38地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2021年4月13日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2021年6月23日に試掘調査を実施した。

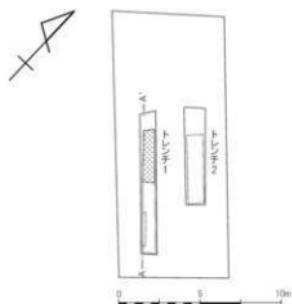
試掘調査は幅約1~1.3mのトレンチ2ヶ所を設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。現地表面から約100cm下で古代包含層を確認した。

調査の結果、遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

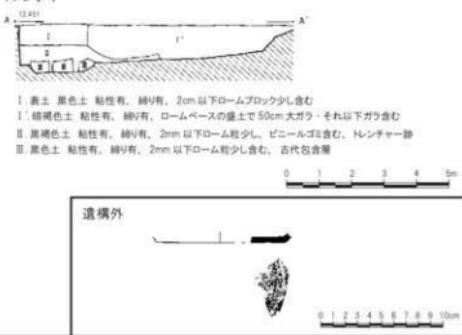
(2) 遺構と遺物

須恵器環の底部片が遺構外から出土した。轆轤成型、爪先技法、底部回転ヘラ削り。胎土に海綿骨針を含む。南北企産、8世紀中頃。

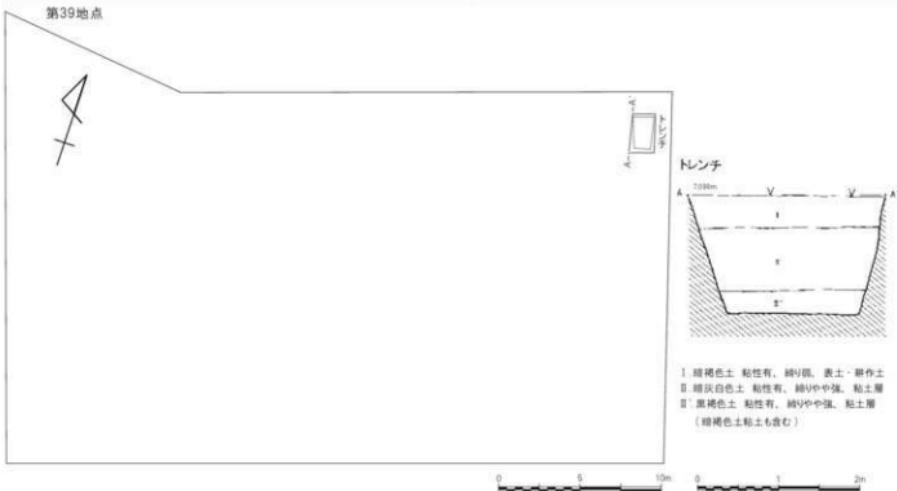
第38地点



トレンチ1



第39地点



第10図 滝遺跡第38・39地点調査区域図(1/300)、土層(1/150・1/60)、第38地点出土遺物(1/4)

III 滝遺跡第39地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2021年7月13日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2021年7月20日に試掘調査を実施した。

試掘調査は遺跡範囲にかかる位置に幅約1.4mのトレーナチを設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約120cmである。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

IV 滝遺跡第40地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2021年7月29日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2021年8月18~20日に試掘調査を実施した。

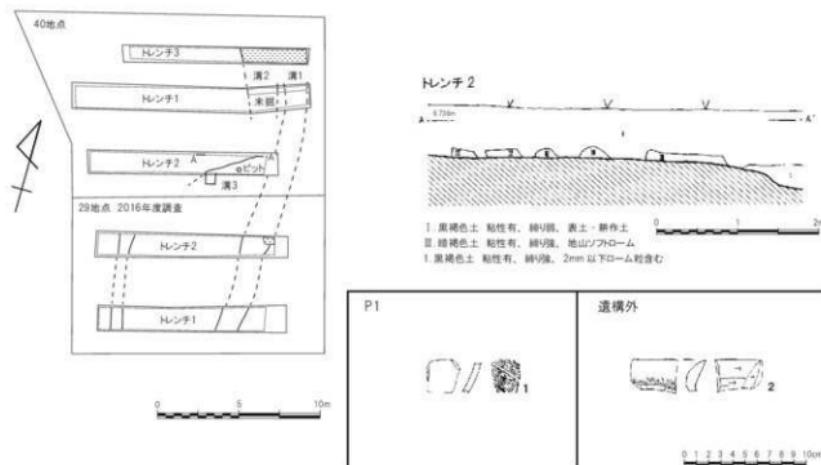
試掘調査は幅約1.1~1.5mのトレーナチ3本を設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約50cmである。

調査の結果、ピット1基、溝3条を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

①ピット

ピットは、調査区南西部に東西方向に伸びる溝の底部で検出した。確認面の規模は27×24cmで、深さは17.5cm。平面形態は円形を呈する。



第11図 滝遺跡第40地点遺構配置図(1/300)、土層(1/60)、出土遺物(1/4)

②溝

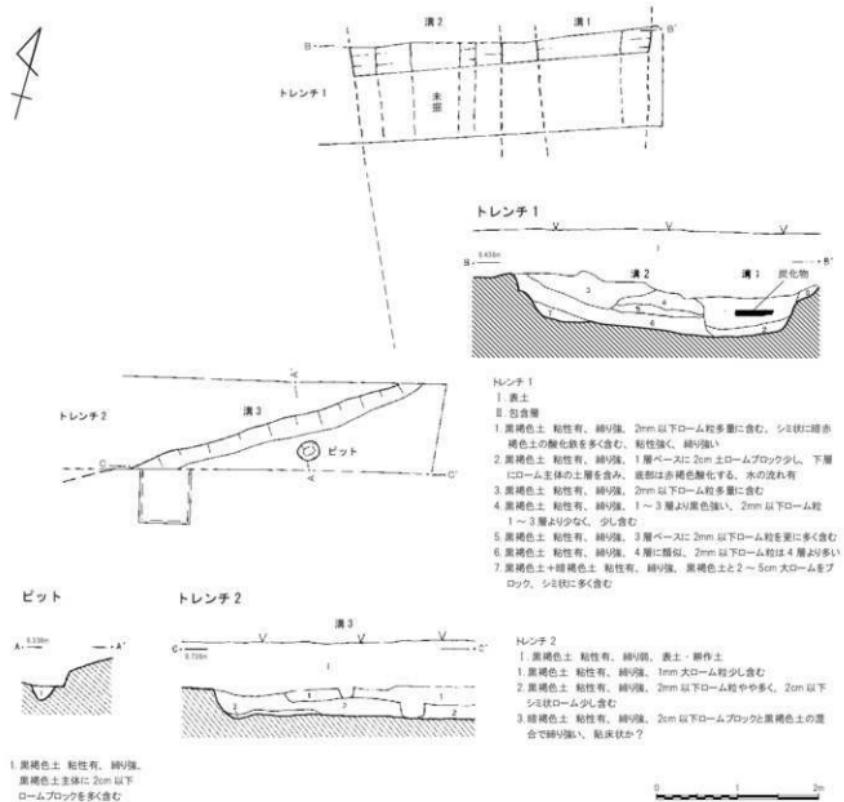
【溝1】溝1は調査区東部で検出された。南北方向に伸長し、2016年度調査の第29地点で検出した溝に繋がる可能性が高い。上幅140cm、下幅74cmで、深さは51.4cmである。断面形態はU字形を呈し、土層観察から溝2よりも新しいと考えられる。

【溝2】溝2は溝1と並行して掘られている。上幅184cm、下幅61cmで、深さは40cmである。断面形態はU字形を呈する。

【溝3】溝3は、調査区南部に位置し、溝1・2に直行して掘られている。上幅118cm、下幅100cmで、深さは33cmである。断面形態はU字形を呈する。

③出土遺物

出土遺物は第11図に掲載した。1は、ピット1から出土した土師器壺の胸部細片である。外面はヘラ削り、内面はハケ目調整が施されている。2は、遺構外から出土した壺の口縁部である。内外面横ナデ、胸部外面には斜位のハケ目が施されている。時期は、古墳時代前期。



第12図 滝遺跡第40地点ピット・溝(1/60)

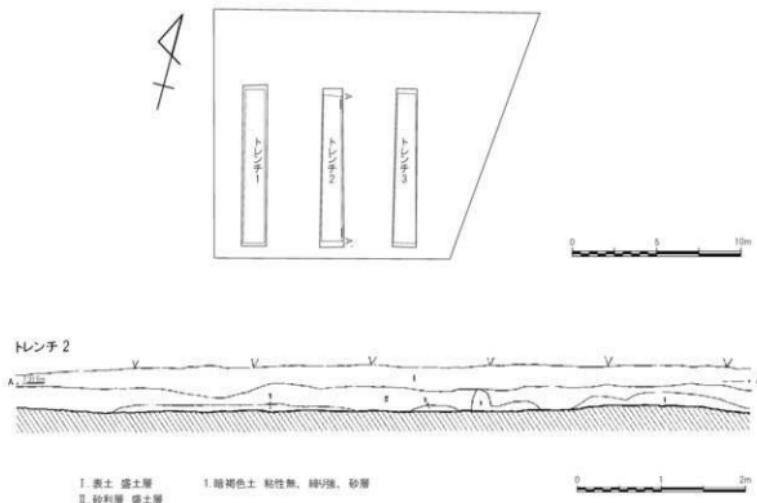
V 滝遺跡第41地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2021年8月3日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2021年8月18・19日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅1~1.4mのトレント3本を設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約140cmである。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第13図 滝遺跡第41地点調査区域図(1/300)、土層(1/60)

第5章 亀居遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

亀居遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部に位置している。標高 25 ~ 26m で現谷底との比高差は 5m を測る。本遺跡をのせる北側の台地は急傾斜をなすが、対岸の南側は緩やかな斜面を形成している。遺跡の時期は、旧石器時代及び縄文時代中期前葉で、特に後者は周辺では類例の少ない単一集落である。江川南遺跡の立地とあわせて台地の奥に形成された中期前葉の遺跡のあり方として特異な様相が窺える。遺跡周辺は、土地区画整理事業により区画道路が縱横にとりつけられ、宅地化が進んでいる。

1977 年の最初の調査から 2022 年 4 月現在まで 81 地点が調査され、縄文時代中期前半の住居跡、屋外埋甕、集石土坑が確認されている。旧石器のほか、縄文時代の阿玉台式、勝坂式土器が主体で一部五領ヶ台上層期の土器片も出土している。

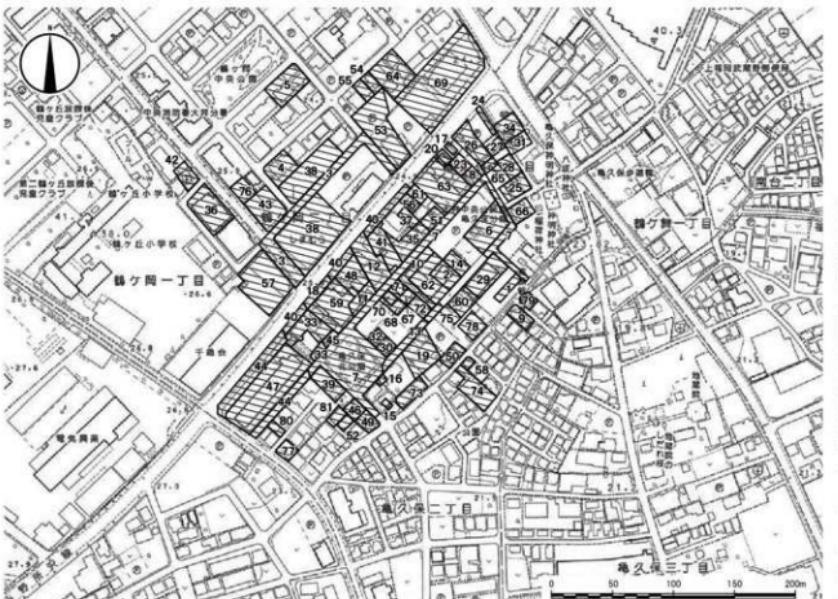
II 亀居遺跡第 81 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2020 年 7 月 8 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2021 年 7 月 20 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.2 ~ 1.5m のトレッチ 2 本を設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 60 ~ 70 cm である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



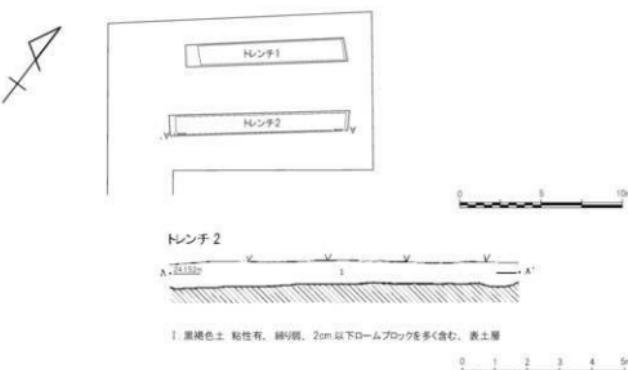
第 14 図 亀居遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第9表 亀居遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試底)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	亀久保 1000	1972	155		農地転用	遺構なし		町史貯1、大綱8
2	亀久保 1005	1973	350		農地転用	遺構なし		町史貯1、大綱8
3	轟ヶ岡 161-1	1979.11.26～12.15	750		区画整理	戦国時代住居跡2、集石土坑、土坑、屋外埋甕、縄文土器等	東部1、大綱8、町史貯1	
4	轟ヶ岡 2-2-6	1984.10.3～9	240		区画整理	遺構遺物なし		
5	轟ヶ岡 2-4-3	(1984)	1,080		区画整理	ピット		
6	亀久保 1000	1985.12.3 ～1986.1.13	914		区画整理	集石土坑、土坑、ピット、縄文土器等		東部VI
7	亀久保 999	1986.8.5～11.10	2,740		区画整理	戦国時代住居跡2、集石土坑、土坑、ピット、縄文土器等		大綱8、町史貯1
8	亀久保 1001	1986.8.12～19	181		個人住宅	集石土坑、土坑、ピット、縄文土器等		東部VII
9	亀久保 989-1	(1986.9)	580		住宅建設	遺構なし		
10	亀久保 1010-1	1986.9.22～10.18	650		区画整理	戦国時代住居跡1、土坑、ピット、縄文土器等		大綱8、町史貯1
11	亀久保 1011-3	1987.10.13～11.13	389		個人住宅	集石土坑、ピット、屋外埋甕、縄文土器等		東部VIII
12	亀久保 1011-1	1987.11.16～12.16	387		個人住宅	集石土坑、ピット、縄文土器等		東部VIII
13	亀久保 1007-3	1988.8	242		区画整理	戦国時代住居跡2、縄文土器等		大綱8、東部IX、町史貯1
14	亀久保 999-4	(1988.7.22～8.3)	165		個人住宅	遺構なし、縄文土器等		東部IX
15	亀久保 1007	(1989.2.13～14)	144		個人住宅	遺構なし		東部IX
16	亀久保 1007	(1989.2.13～14)	193		個人住宅	遺構なし		東部IX
17	亀居 995-3	1989.9.14～18	112		個人住宅	土坑、ピット、縄文土器等		東部X
18	亀久保 1000	1990.3	210		区画整理	遺構なし、縄文土器等		東部X
19	亀居 1007	1990.3.12～26	613		個人住宅	遺構なし、土器片		東部X
20	亀久保 1001-3	1990.5.21～25	118		個人住宅	土坑、縄文土器		東部XI
欠番								
欠番								
23	亀久保 1001-14-15	1990.9.3～10	160		個人住宅	ピット、縄文土器		東部XI
24	亀久保 995-1・7	1990.12.27 ～1991.3.20	1,324		区画整理	土坑、ピット、縄文土器		大綱8
25	亀久保 995-7	1991.3.12～16	162		個人住宅	遺構遺物なし		町内I
26	亀久保 1001-14	1991.2.14～3.15	259		個人住宅	集石土坑、ピット、縄文土器等		町内I
27	亀久保 995-2	1991.5.7～20	249		個人住宅	ピット、溝状窓、縄文土器		町内I
28	亀久保 995-6	1991.1.24～2.1	475		個人住宅	集石土坑、縄文土器		東部XI
29	亀久保 992-2	1991.7.17～9.25	925		集合住宅	戦国時代住居跡1、集石土坑、ピット、縄文土器等		大綱3
30	亀久保 1007-3・1008-3	1991.7.22～23	116		個人住宅	遺構なし、縄文土器		町内I
31	亀久保 995-2-7	1991.9.26～30	197		個人住宅	遺構なし、縄文土器等		町内I
32	亀久保 1008-1	1991.12.3～9	115		個人住宅	ピット、縄文土器等		町内I
33	亀久保 1011-7	1991.12.10 ～1992.4.30	998	679	個人住宅	戦国時代住居跡1、集石土坑、土坑、ピット、縄文土器等		町内II
34	亀久保 995-2	(1992.2.13)	634		個人住宅	遺構遺物なし		町内I
35	亀久保 1012-7	1993.9.28～11.5	470		個人住宅	戦国時代住居跡1、集石土坑、土坑、ピット、縄文土器等		町内I、町、史貯1
36	轟ヶ岡 1-2-2	(1994.2.17～18)	798.11		礼拝所建設	土坑、落とし穴、遺物なし		町内田
37	亀久保 1003-2-6 他	1994.2.18～25	566		店舗併用住宅	土坑、ピット、縄文土器等		町内III
38	轟ヶ岡 2-1-1,2-2-1	(1994.8.22～30) 1994.9	3,162		店舗	集石土坑、土坑、ピット、落とし穴、縄文土器等		大綱8、町内IV
39	亀久保 1008-5	(1994.8.26～29)	342		駐車場造成	炉穴、土坑、ピット、縄文土器		町内IV
40	亀久保 995-16 他	1995.2.1～3.15	380		道路築造	遺構なし		大綱8
41	亀久保 995-23-24 他	1995.5.31～8.4	530		道路築造	戦国時代住居跡1、ピット、縄文土器		大綱8
42	轟ヶ岡 1-3-14	(1995.7.11～18)	196.03		歯科医院建設	遺構なし、縄文土器		町内V
43	轟ヶ岡 2-3-1	(1995.8.9～30)	818		店舗兼用	集石土坑、土坑、縄文土器等		町内V
44	亀久保 1013-1	1995.10.22～12.4	1,030		道路築造	炉穴、礫群、土坑、ピット、溝、縄文土器		大綱8
45	亀久保 1008-5・1011-5	(1996.5.15～17)	619		共同住宅	炉穴、ピット、溝、縄文土器		町内VI
46	亀久保 1007-17	(1996.6.24～25)	192		分譲住宅	遺構なし		町内VI
47	亀久保 1013-1	(1996.9.11～17) 1996.10.1～12.11	2,741		共同住宅	戦国時代住居跡1、集石土坑、落とし穴、土坑、ピット、溝、縄文土器等		大綱8、町内VI
48	亀久保 995-19	(1997.1.20～29)	858		プレハブ 事務所	集石土坑、土坑、ピット、溝、縄文土器等		町内VI
49	亀久保 1007-14	(1997.11.6～10)	214		店舗併用住宅	遺構遺物なし		町内VII
50	亀久保 1007-5	(1998.2.9～20) 1998.2.6	197.99		個人住宅	戦国時代住居跡1、土坑、縄文土器		町内VII

I 遺跡の立地と環境

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試底調査	開発面積 (m ²)	調査面積 ()は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
51	亀久保 3 街区 4 地面	1999.6.15 ~ 7.9	222	(202)	個人住宅	屋外炉、集石土坑、土坑、ピット、 縄文土器等		町内 X
52	亀久保 7 街区 14 地面	(2000.2.1 ~ 2)	121	(30)	個人住宅	遺構遺物なし		町内 X
53	鶴ヶ岡 2-28-1 ~ 2001.1.18)		1,422	(628)	店舗	集石土坑、溝、縄文土器等		町内 X
54	鶴ヶ岡 2-28-17	(2001.4.24 ~ 27)	148	(56)	個人住宅	遺構遺物なし		町内 X
55	鶴ヶ岡 2-28-16	(2001.11.14 ~ 16)	148	(45)	個人住宅	遺物なし		町内 X
56	亀久保 2-13-14	2002.11.5 ~ 21	172	145.2	個人住宅	壁穴式遺構、堆土、ピット、縄文 土器等		町内 X
57	鶴ヶ岡 1-1-1	2003.4.24 ~ 28	1,356	(135)	店舗	遺構なし		市内 X
58	亀久保 2-975-19-24	(2005.4.18)	79	(8)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 2
59	亀久保 2-10-5	(2005.8.3 ~ 31)	1,073	258	共同住宅	縄文時代住居跡 2、集石土坑、ピッ ト、縄文土器片等	大綱 18、市内 2	
60	亀久保 2-17-7	(2005.10.26 ~ 27)	293	(52)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 2
61	亀久保 2-13-4 の一部	(2006.10.4)	171	(88)	個人住宅	縄文時代住居跡 1、集石土坑、土坑、 ピット、縄文土器等		市内 3
62	亀久保 2-12-3	(2007.11.12 ~ 26) 2008.1.7 ~ 18	1,284	(151) 170	共同住宅	土坑、ピット、縄文土器		市内 4
63	亀久保 2-13-5	2008.9.17 ~ 10.15	998.15	(312)	モデルルーム	縄文時代住居跡 1、土坑、ピット、溝、 縄文土器等		市内 6
64	鶴ヶ岡 2-28-19	2008.9.1 ~ 2	907	(56)	分譲住宅建設	遺構なし、陶器		市内 6
65	亀久保 2-14-9 の一 部、13	(2011.4.25 ~ 26)	179	(65)	公民館分館	遺構遺物なし		市内 14
66	亀久保 2-16-1	(2011.7.15 ~ 19)	408.5	(60)	神社社務所	遺構遺物なし		市内 14
67	亀久保 2-12-11・12	(2011.8.1 ~ 8)	136.8	(58)	個人住宅	土坑、遺物なし		市内 14
68	亀久保 2-12-2 の一部	(2011.9.1)	136	(42)	個人住宅	遺構なし、縄文土器		市内 14
69	鶴ヶ岡 2-159-1、160- 10、28-4・11 ~ 13	(2011.12.6 ~ 9)	2,426	(373)	店舗	溝、遺物なし		市内 14
70	亀久保 2-12-13	(2012.3.21) 2012.3.22	111	(31) 24	個人住宅	集石土坑、樺		市内 14
71	亀久保 2-12-2	(2012.8.27)	111.92	(23)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 15
72	亀久保 2-12-15・16	(2012.10.11)	247.88	(55.5)	個人住宅	ピット、石斧		市内 15
73	亀久保 2-17-14	(2014.7.8)	326.14	(92.75)	平地造成	遺構なし、縄文土器		市内 20
74	亀久保 2-975-1・34	(2014.11.27 ~ 12.4)	557	(155.3)	分譲住宅	土坑、縄文土器		市内 20
75	亀久保 2-17-10 の一部	(2015.6.8)	244.26	(21.7)	個人住宅	遺構なし、縄文土器		市内 22
76	鶴ヶ岡 2-3-2	(2015.8.6)	263	(52)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 22
77	亀久保 2-9-24	(2016.3.18)	168	(47.25)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 22
78	亀久保 2-17-10・11 の各一部	(2018.2.5)	266.57		個人住宅	遺構なし		市内 24
79	亀久保 3-8-10	(2019.10.3)	120.05	(11.5)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
80	亀久保 2-9-2	(2019.12.19)	93.58	(18.4)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
81	亀久保 2-9-13	(2021.7.20)	161.26	(28.2)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 27



第 15 図 亀居遺跡第 81 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)

第6章 鶴ヶ舞遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

鶴ヶ舞遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約 500 ~ 900 m 程下った左岸に位置している。標高 21 ~ 23 m で現谷底との比高差は 5 m を測る。福岡江川の左岸は急傾斜をなし、対岸の南側は緩やかな斜面を形成している。遺跡周辺は、急激な市街化によって商店や住宅が建ち、僅かに畠地が残っている。

周辺の遺跡は約 200 m 西に亀居遺跡、約 150m 南に江川南遺跡、約 200m 南東に東久保遺跡がある。

1987 年の最初の調査から 2022 年 4 月現在 43 地点で試掘及び発掘調査が行われ、旧石器時代の石器、縄文時代の炉穴、落とし穴、平安時代の溝を検出し、平安時代の須恵器壺が出土している。

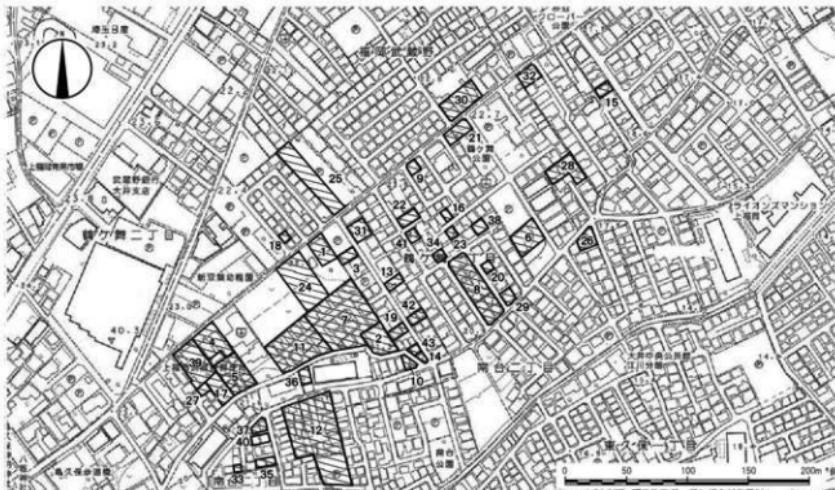
II 鶴ヶ舞遺跡第 43 地点

(1) 調査の概要

調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より 2021 年 3 月 30 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2021 年 5 月 20 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1m のトレンチを設定し、人力による表土除去及び表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 30 ~ 50 cm である。

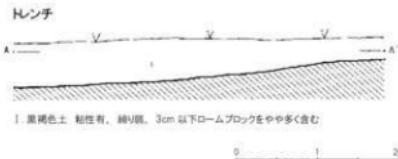
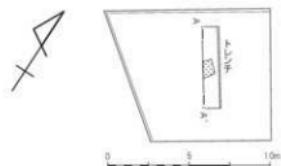
調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 16 図 鶴ヶ舞遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第10表 鶴ヶ舞遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	鶴ヶ舞 67-3	(1986.1.29 ~ 29)	499		個人住宅	土坑、縄文土器		東面VI
2	鶴ヶ舞 1-65-6	(1987.4.16 ~ 30)	495		個人住宅	炉穴、土坑、瓦、漆器器等		東面VII
3	鶴ヶ舞 1-69-1	(1994.7.10)	141		駐車場	遺構なし、洗濯		町内IV
4	鶴ヶ舞 1-60-6-10	(1997.8.26 ~ 29)	318		共同住宅	渠、井戸		町内VII
5	鶴ヶ舞 1-61-3	(1997.7.14 ~ 6)	266		分譲住宅	渠、縄文土器		町内VIII
6	鶴ヶ舞 1-84	(2002.9.10 ~ 13)	474	(201)	個人住宅	遺構なし		町内XII
7	鶴ヶ舞 1-65-1	(2003.5.29 ~ 6.14) 2003.6.23 ~ 7.3	2,030	(742) 130	分譲住宅	石器ブロック、落とし穴、ピット、壁群、縄文土器等		町内XII、大調 20
8	鶴ヶ舞 1-69-46 ~ 51 ~ 61 ~ 66	(2005.8.24)	1,087	(236) 16.5	分譲住宅	炉穴、ピット、縄文土器等		大調 18
9	鶴ヶ舞 1-16-5	(2005.11.11)	104	(23)	共同住宅	ピット、遺物なし		市内 2
10	鶴ヶ舞 1-64-6	(2006.6.5)	96	(20)	個人住宅	壁群、陶		市内 3
11	鶴ヶ舞 1-65-2 ~ 6	(2006.9.21 ~ 10.5)	1,316	(420)	遺物解体	遺構遺物なし		市内 3
12	鶴ヶ舞 1-58-4	(2011.7.19 ~ 21)	97.7	(16)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
13	鶴ヶ舞 1-78-7	(2011.7.21)	115	(5)	個人住宅	遺構なし、土器		市内 14
14	鶴ヶ舞 1-79-7	(2011.9.22)	56.3	(10)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
15	両台 798-33	(2011.11.22)	100.3	(6)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
16	鶴ヶ舞 1-73-10	(2012.9.7)	63		分譲住宅	遺構遺物なし		市内 15
17	鶴ヶ舞 1-58-2	(2012.11.16) 2012.11.16	324.2	(44) 33	個人住宅	渠、遺物なし		市内 15
18	福岡武蔵野 1408-4 (9-6)	(2013.1.21)	61	(4)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 15
19	鶴ヶ舞 1-79-25	(2013.4.10)	94.6	(31.3)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 18
20	鶴ヶ舞 1-69-70	(2013.5.13)	68.55	(18)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 18
21	鶴ヶ舞 1-73-27 ~ 51 + 52 ~ 54	(2013.10.23)	135.55	(29.5)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 18
22	鶴ヶ舞 1-69-35 ~ 56	(2014.12.4)	171	(38.2)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 20
23	鶴ヶ舞 1-73-19	(2015.6.29)	72	(10)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 22
24	鶴ヶ舞 1-67-3 ~ 4 の 一部	(2015.8.31)	499	(25.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 22
25	福岡武蔵野 1406-7 8 ~ 10 ~ 11	(2013.5.2)	1,124.99	(35.6)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 18
26	鶴ヶ舞 1-99-10 ~ 12	(2016.12.5)	252	(15.75)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 24
27	鶴ヶ舞 1-58-8	(2017.4.13)	54	(3.2)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 24
28	鶴ヶ舞 1-85-3 ~ 4 + 19 ~ 22	(2017.11.16 ~ 17)	497.81	(25.65)	分譲住宅	炉穴、土坑、ピット、縄文土器		市内 24
29	鶴ヶ舞 1-69-103	(2017.11.17)	106	(8)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 24
30	福岡武蔵野 1398-1	(2018.8.28)	265.92	(28.11)	空地造成	遺構遺物なし		市内 25
31	鶴ヶ舞 1-69-94	(2018.9.10)	297	(30.45)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
32	両台 2-793-2 の 一部、793-17	(2019.3.25)	99	(20.88)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
33	両台 2-1746-1	(2019.7.11)	112.19	(8)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
34	鶴ヶ舞 1-69-52	(2019.7.24)	88.59	(6.71)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
35	鶴ヶ舞 1-106-4	(2019.8.5)	117.99	(37.1)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
36	鶴ヶ舞 1-62-3 の一部	(2020.3.19)	130	(10.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
37	鶴ヶ舞 1-106-5	(2020.3.19)	125.56	(12.75)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
38	鶴ヶ舞 1-69-75	(2020.7.13)	130.14	(27.9)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 26
39	鶴ヶ舞 1-59-1 ~ 4 + 9	(2020.9.25)	733	(13.7)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 26
40	鶴ヶ舞 1-106-2	(2020.10.5)	114.8	(17.24)	分譲住宅	ピット、遺物なし		市内 26
41	鶴ヶ舞 1-49-36 の一部	(2020.10.19)	81.34	(13.5)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 26
42	鶴ヶ舞 1-79-27	(2020.11.12)	94.23	(9)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 26
43	鶴ヶ舞 1-79-11	(2021.5.20)	71.41	(5)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 27



第17図 鶴ヶ舞遺跡第43地点調査区域図(1/300)、土層(1/60)

第7章 松山遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

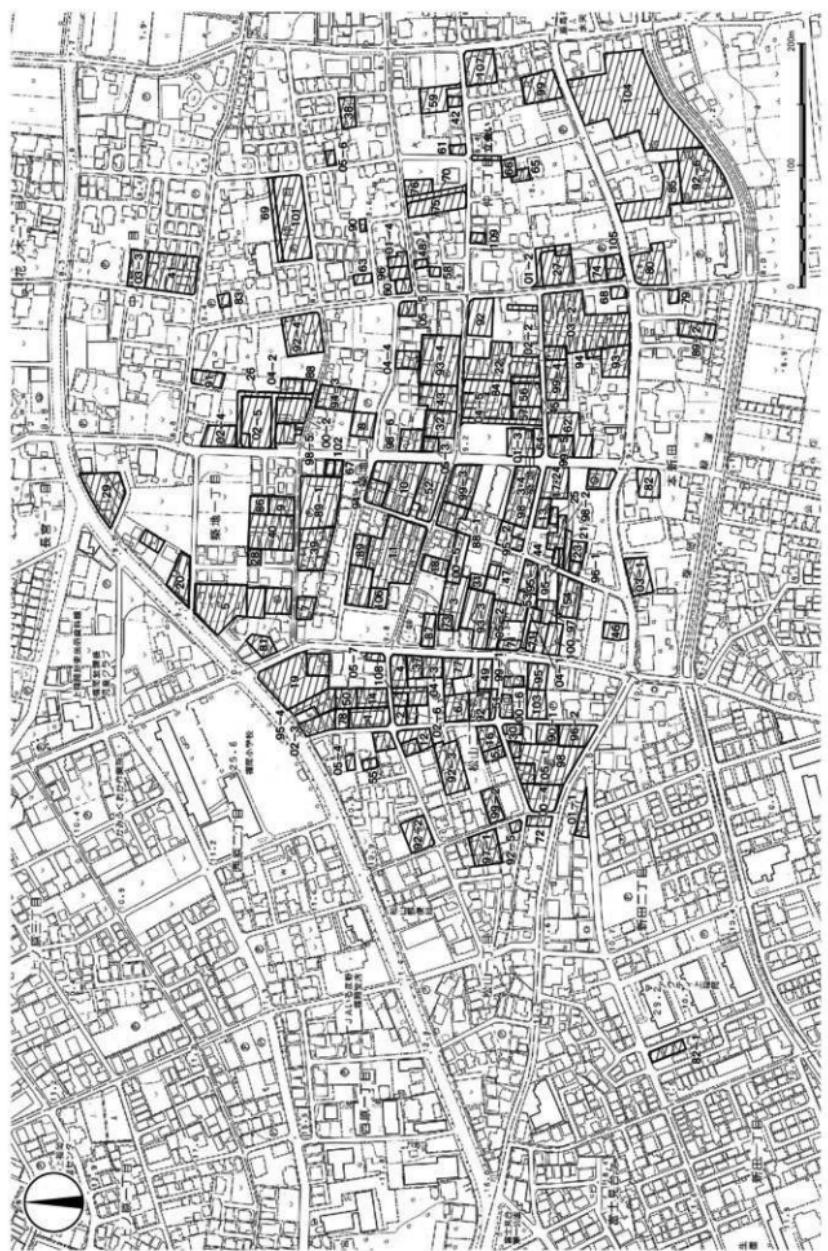
松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の左岸、武藏野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高9~10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北500m、東西600m以上である。宅地開発されるが部分的に畠が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期~後期、飛鳥時代および中世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の250m南東側には、縄文時代前期集落の鷺森遺跡がある。また、西方約350mの比高差9mを持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

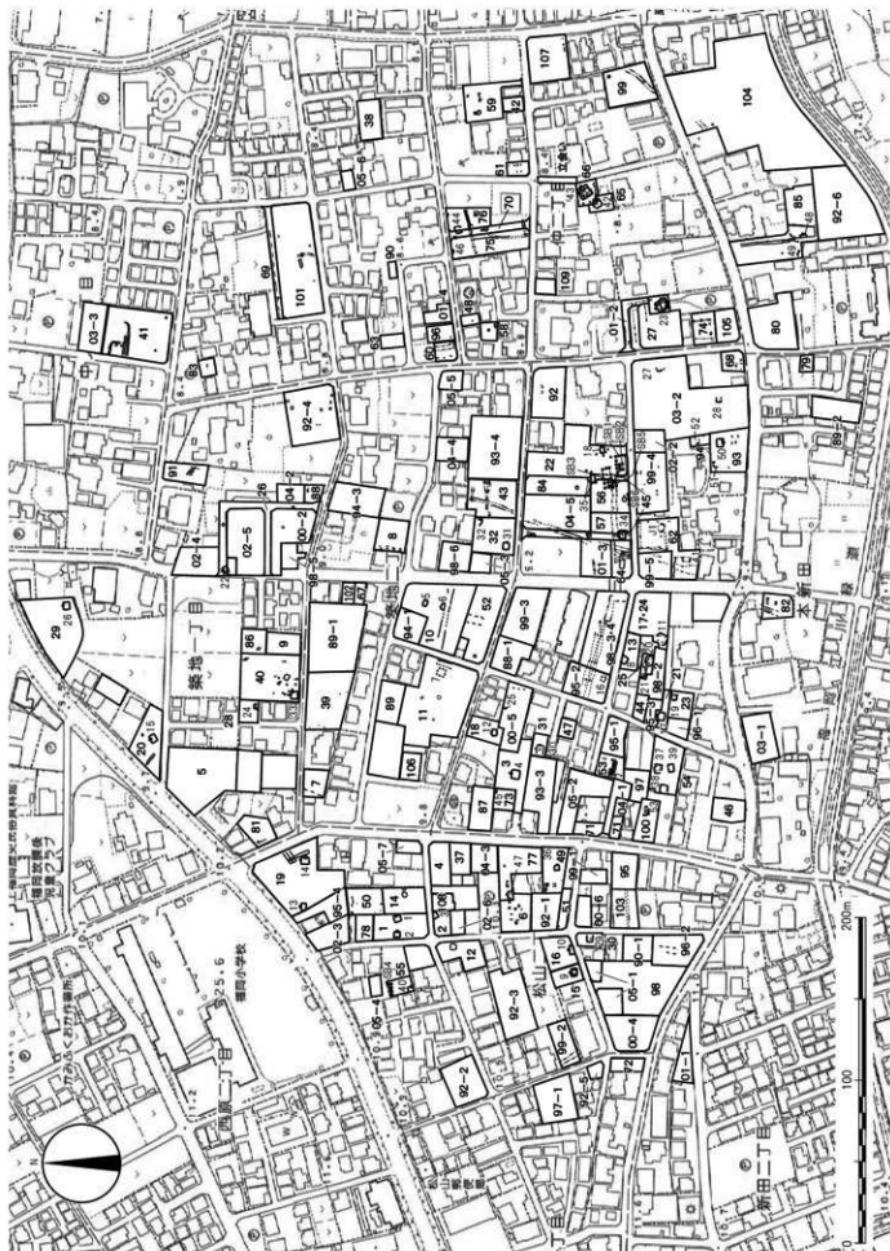
1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより2022年4月現在約164地点で試掘および調査が行われている。主たる時代と遺構は、長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西240m、南北210m程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中世以降の溝・井戸跡などである。特に溝・井戸等の中世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行った。

第11表 松山遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
77	松山 2-6-2・3-12 の各一部	(2014.3.3 ~ 11) 2014.3.13 ~ 26	493 22.8	(95) (36)	個人住宅 巷等	古代住居跡1、土坑、埴生土器、土師 器等		市内 18
78	松山 2-5-5	(2014.5.22)	242	(35.3)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 20
79	本新田 395-1 の一部	(2014.8.5)	153	(36)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 20
80	池上 372	(2015.3.12)	1,183.4	(90)	個人住宅	遺構なし、泊池等		市内 20
81	篠地 1-1-12	(2015.3.23)	247.49	(74.3)	分譲住宅	遺構、遺物なし		市内 20
82	本新田 411 の一部	(2015.7.30・31)	194	(35)	個人住宅	宿跡、埴生土器		市内 22
83	仲 1-2-22	(2015.8.31)	98	(6)	分譲住宅	遺構なし、埴生土器		市内 22
84	篠地 3-4-13	(2015.9.15~16)	455	(190)	宅地造成	古代住居跡1、井戸、埴生土器等		市内 22
85	池上 362-1 の一部、365~366 の一部	(2015.10.1 ~ 19) 2015.10.20 ~ 26	1,244.47 93	(485.6) (35)	分譲住宅	古代住居跡2、土坑、溝、須恵器等		市内 19
86	篠地 1-1-4	(2016.7.5~7)	294	(37.9)	分譲住宅	溝、陶磁器		市内 24
87	篠地 3-1-21~22 の一部、39~40・41~84	(2016.9.14)	427	(29.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 24
88	篠地 1-3-36	(2016.10.13)	120	(18.8)	個人住宅	土坑、ピット、溝、遺物なし		市内 24
89	篠地 2-1-11・16	(2017.3.3 ~ 6)	287.04	(89.3)	分譲住宅	遺構なし、須恵器		市内 24
90	仲 1-1-37 の一部	(2017.10.12)	120	(12)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 24
91	篠地 1-3-8 の一部	(2017.10.24)	416	(51.75)	個人住宅	溝、陶器等		市内 24
92	篠地 3-4-3	(2017.10.30~31)	621	(177.75)	分譲住宅	土坑、ピット、埴生土器		市内 24
93	篠地 3-5-72	(2017.11.27~28)	571.97	(114.35)	共同住宅	古代住居跡2、土坑、宿跡、溝、埴生土器、 土師器等		市内 24
94	篠地 3-5-4	(2018.3.23)	1,508	(17.25)	作業場	古代住居跡1、ピット、土師器等		市内 24
95	松山 2-1-12	(2018.8.1~2、9.13)	353	(38.96)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
96	仲 1-1-34	(2018.8.20)	165.43	(31.95)	分譲住宅	宿跡、遺物なし		市内 25
97	篠地 3-1-5~7 の各一部	(2018.10.30)	253	(61.93)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
98	松山 2-2-4	(2018.11.1)	1,291.34	(54.46)	店舗	遺構なし、須恵器		市内 25
99	仲 2-4-2	(2019.1.11 ~ 15) 2019.1.21~22	673.35	(201.25)	分譲住宅	宿跡、遺構、陶磁器等		市内 23
100	篠地 3-1-5 の一部	(2019.8.8) 2019.8.9~23	327 45	(21) (5)	個人住宅	古代住居跡1、土師器等		市内 25
101	仲 1-2-52・54	(2019.10.30~11.1)	1,219	(222)	分譲住宅	土坑、溝、遺物なし		市内 25
102	篠地 2-3-14~15	(2020.3.17)	91	(5)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
103	松山 2-3-4 の一部	(2020.6.10~12)	462	(137)	共同住宅	溝、土師器等		市内 26
104	池上 356-1、357、 360 の各一部	(2020.9.28~29)	1,586.87	(64.75)	宅地造成	土坑、溝、須恵器等		市内 26
105	仲 2-1-8	(2020.10.22~12.25)	257.87	(77.65)	共同住宅	遺構なし、陶磁器		市内 26
106	篠地 2-1-8	(2021.6.1)	198	(57)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 27
107	仲 2-4-10	(2021.6.2)	422.94	(10.5)	分譲住宅	ピット、溝、遺物なし		市内 27
108	松山 2-6-8	(2022.2.16)	145.8	(11)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 27
109	仲 2-1-16	(2022.3.7)	99.17	(23.25)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 27



第18図 松山遺跡の地形と調査区(1/4,000)



II 松山遺跡第106地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2021年4月20日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部やや西寄りに位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2021年6月1日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレーナー3本を設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約14cmである。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

III 松山遺跡第107地点

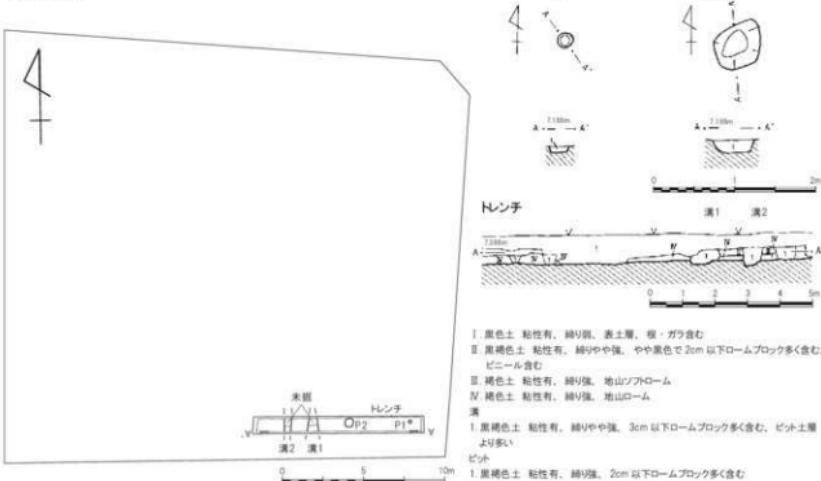
(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2021年3月29日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の

第106地点



第107地点



第20図 松山遺跡第106地点調査区域図・第107地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、ピット(1/60)

存在を確認するため 2021 年 6 月 2 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1m のトレーナー 1 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 50 cm である。

調査の結果、時期不明のピット 2 基、溝 2 条を検出したが、遺物は確認されなかった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

①ピット

【ピット 1】ピット 1 は調査区南東部で検出した。平面形態は円形で、遺構の規模は確認面の規模は 20 × 18 cm、底部 19 × 13 cm、深さは 11.2 cm であった。

【ピット 2】ピット 2 はピット 1 の約 3 m 西側で検出した。平面形態は台形。確認面の規模は 60 × 51 cm、底部 36 × 24 cm、深さは 31.3 cm である。

ピット 1・2 ともに遺物は出土しておらず、また土層観察からも時期の推定はできなかった。

②溝

【溝 1】調査区南東部で検出した。断面形態は逆台形を呈し、上幅 50 ~ 72 cm、深さは 14.2 cm である。

【溝 2】溝 1 の西側に並行して検出した。断面形態は逆台形を呈し、上幅 38 ~ 45 cm、深さは 15 cm である。いずれの溝も試掘のため底面までは確認していない。

IV 松山遺跡第 108 地点

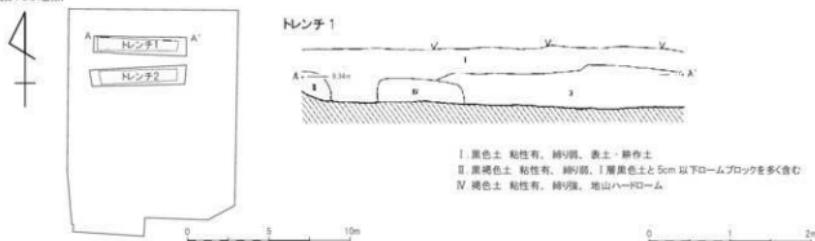
(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2022 年 2 月 8 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2022 年 2 月 16 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.1m のトレーナー 2 本を設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 30 ~ 40 cm である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

第108地点



第 21 図 松山遺跡第 108 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/60)

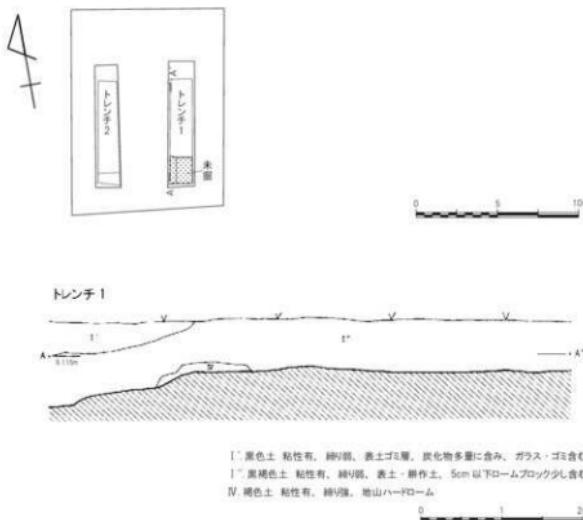
V 松山遺跡第 109 地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2022 年 2 月 9 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部やや東寄りに位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2022 年 3 月 7 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレント 2 本を設定し、重機による表土除去後人力による表土除去及び表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 50 cm である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 22 図 松山遺跡第 109 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/60)

第8章 江川東遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

江川東遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約700～1,000m程下った右岸に位置している。標高15～19mで現谷底との比高差は3mを測る。福岡江川の左岸は急傾斜をなし、右岸は緩やかな斜面を形成している。遺跡周辺は、急激な市街化によって商店や住宅が建ち僅かに畠地が残っている。

周辺の遺跡は谷頭部付近に龜居遺跡、対岸台地上に鶴ヶ舞遺跡、南側に東久保遺跡がある。

本遺跡は旧大井町の地域で最も早く市街化された区域内にあり、現在は表面採取がほとんど不可能であるが、一部残された畠地には須恵器が散布する。第2地点の調査では、近世の土坑・ピットを検出している。2022年4月現在29地点で試掘及び発掘調査を行っている。

II 江川東遺跡第28地点

(1) 調査の概要

調査は建売住宅建設に伴うもので、原団者より2021年2月25日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2021年5月6日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.2mのトレント2本を設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約80cmである。

調査の結果、溝2条を検出したが保護層の確保が可能なため工事立会の措置とした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

①溝

【溝1】断面形態はU字形を呈し、上幅41cm、下幅13cm、深さ32.8cmを測る。出土遺物はない。

溝は調査区の中央部で検出した。南北方向に走行し、トレント1では溝2と合流する。土層の観察から、



第23図 江川東遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第12表 江川東遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1 東久保 1-145-14		(1994.3.24 - 25)	52		個人住宅	溝、縄文土器等		町内Ⅲ
2 大字東久保 1-162-34		1995.1.20 ~ 2.6	191		個人住宅	土坑、ビット、フレーク等		町内Ⅳ
欠番								
4 東久保 138-4他		(1996.1.24 ~ 29)	246		個人住宅	溝、ビット、遺物なし		町内Ⅴ
5 東久保 1-155-6		(1998.6.1 ~ 9)	164		土地分譲	ビット、遺物なし		町内Ⅵ
6 東久保 1-168-7		(2001.7.17)	71	(15)	個人住宅	遺構遺物なし		町内X
7 東久保 1-160-47		(2003.4.7)	88		個人住宅	遺構遺物なし		町内XII
8 東久保 1-150他		(2004.3.25 ~ 4.7)	6137		共同住宅	土坑、溝、遺物なし		町内XII
9 東久保 1-6-19		(2004.4.9 ~ 5.10) 2004.5.11 ~ 19	464		保育園	ビット、溝、縄文土器等		町内XII、大圖14
10 東久保 1-174-1-36		(2005.10.13 ~ 24)	881	(267)	分譲住宅	土坑、ビット、遺物なし		市内 2
11 東久保 1-162-1-14		(2006.11.9 ~ 17)	674	(200)	分譲住宅	土坑、ビット、遺物なし		市内 3
12 東久保 1-27-3		(2006.11.10)	72	(6)	宅地造成	遺構遺物なし		市内 3
13 東久保 1-155-4		(2006.8.11)	114	(24)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 3
14 東久保 1-174-38		(2007.5.25 ~ 29)	67	(30)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 4
15 東久保 1-136-5		(2007.9.11 ~ 13)	344	(91)	公民間分譲	遺構なし、須恵器		市内 4
16 東久保 1-176-13 ~ 16		(2009.9.14 ~ 15) 2009.9.16 ~ 18	148.5	(63)	個人住宅	集石土坑、縄文土器		市内 8
17 東久保 1-177-1		(2009.12.10 ~ 18)	556	(156)	地下埋没物調査	遺構遺物なし		市内 8
18 東久保 1-176-9		(2011.11.28)	72	(21)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
19 東久保 1-146-6		(2012.7.24)	74.2	(13)	個人住宅	ビット、遺物なし		市内 15
20 東久保 1-160-29		(2013.7.30)	71.94	(11)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 18
21 東久保 1-180-1		(2013.11.21 ~ 22)	570	(30.5)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 18
22 東久保 1-160-30		(2014.9.30 ~ 10.1)	72.44	(11)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 20
23 東久保 1-180-11		(2014.10.10)	180	(29.4)	個人住宅	遺構なし、土器		市内 20
24 東久保 1-32-12		(2015.11.27)	91.92	(6)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 22
25 東久保 1-16-21		(2019.3.12)	63.4	(9.4)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
26 東久保 1-176-7		(2019.11.7)	72	(13.2)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
27 東久保 1-169-3		(2020.12.10)	63.14	(7.4)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 26
28 東久保 1-146-5		(2021.5.6)	105.99	(9.8)	分譲住宅	溝、遺物なし		市内 27
29 東久保 1-162-22		(2021.5.20)	113.79	(18.3)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 27

溝1→溝2の順に掘削されたと考えられる。いずれの溝からも出土遺物は検出されなかったため、時期は不明。

【溝2】溝2は、溝1の西側に隣接する。断面形態はU字形を呈し、上幅128cm、下幅17cm、深さ28.5cmを測る。出土遺物はない。

III 江川東遺跡第29地点

(1) 調査の概要

調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より2021年5月7日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2021年5月20日に試掘調査を実施した。

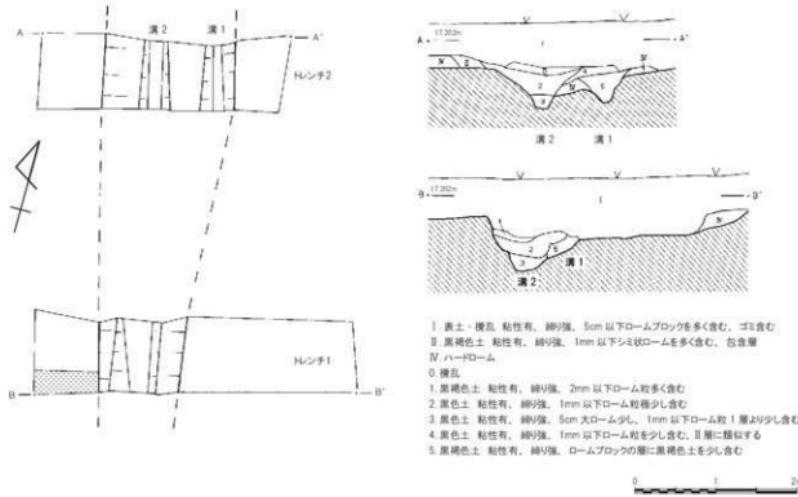
試掘調査は幅約1.2mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約70cmである。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

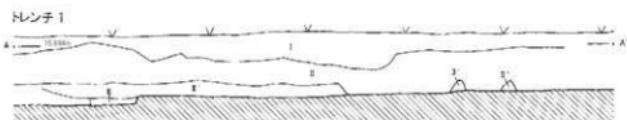
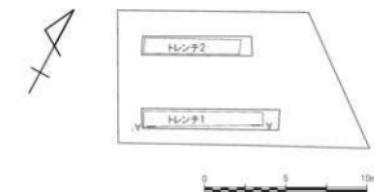
第28地点



溝1・2



第29地点



- I. 黑褐色土・粘性有、緻り弱、埋戻し土、ローム・ゴミ多く含む
- II. 黑褐色土・粘性有、緻り強、1mm以下ローム粒少く含む
- III. 黑褐色土・粘性有、緻り強、1mm以下ローム粒や多く含む所もある、江川東遺跡で見られる包含層
- IV. 黑褐色土・粘性有、緻り強、山地のソフトロームに相当



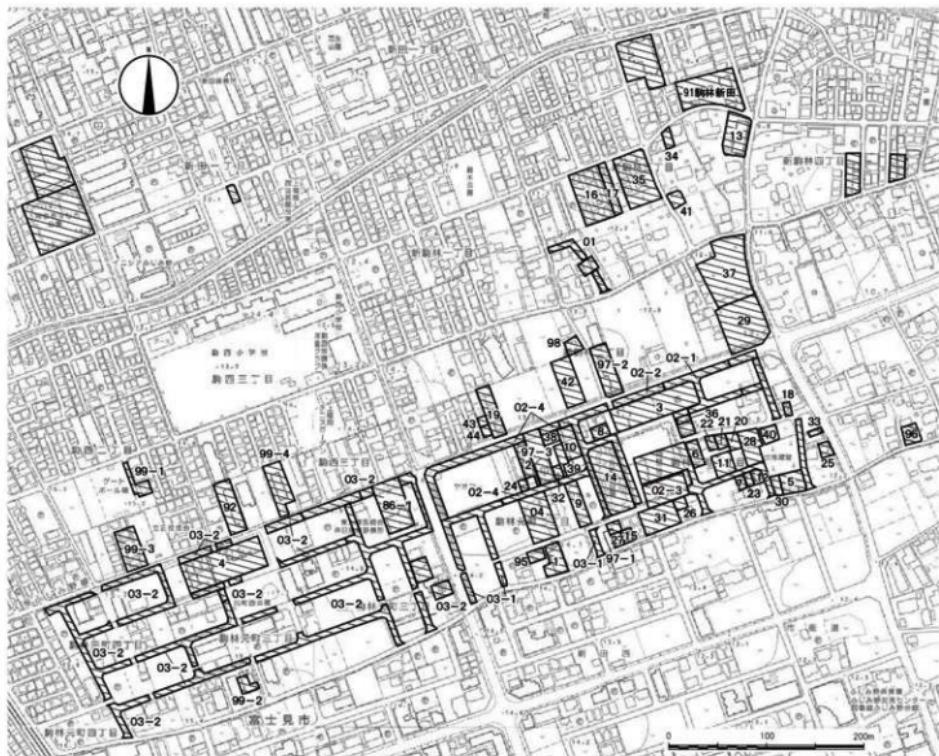
第24図 江川東遺跡第28地点遺構配置図・第29地点調査区域図(1/300)、第28地点溝・第29地点土層(1/60)

第9章 駒林遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

駒林遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地し、標高12~15m前後の平坦地を形成する。もともと遺跡の範囲は南北300m、東西800mの範囲であったが、2002年~2004年に実施された駒林土地区画整理事業に伴う試掘調査の結果、大溝を検出した南北160m、東西80mの範囲に遺跡を縮小し、さらに地下式坑を検出した周辺を駒林新田前遺跡として独立させ、新たな包囲地として2004年3月に追加した。しかし、第3地点で検出した溝と過去の試掘調査で検出した溝の配置を再検討した結果、一辺140~160mの台形区画に溝が巡る事が明らかとなり、2008年2月に再び遺跡範囲の変更増補を行い、北側の葺石と板碑を検出した駒林中世墳墓と東側の地下式坑を検出した駒林新田前遺跡を統合した。区画整理後は開発が進み、宅地と商業地に変貌を遂げ、部分的に畠が残っている。

周辺の遺跡は500m下流に福岡新田遺跡、南側にも地下式坑を検出した富士見市の稻荷久保北遺跡がある。2002年以降の試掘調査の結果、幅5m、深さ2mの大溝や茶毬跡、縄文時代の集石土坑等を検出する。

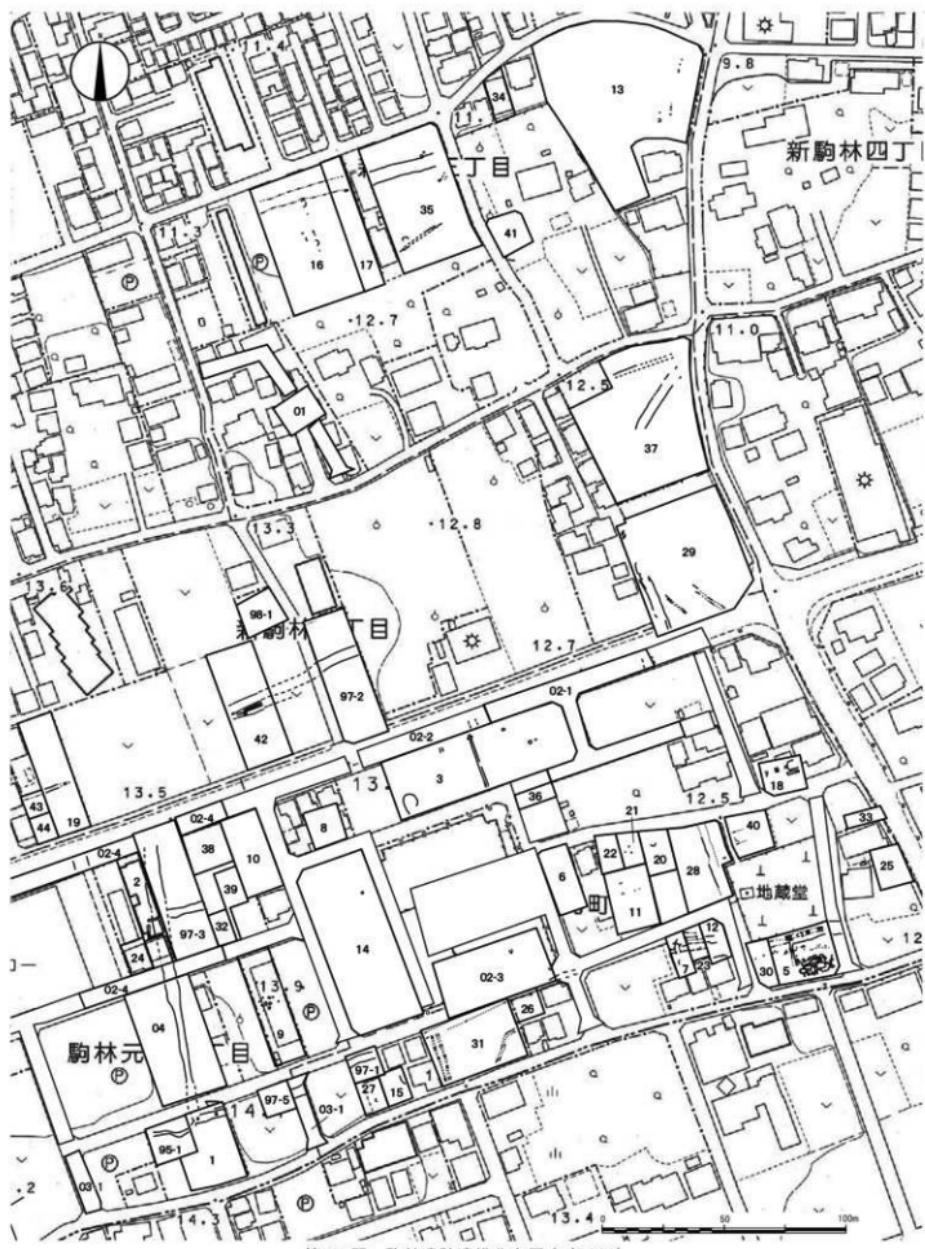


第25図 駒林遺跡の地形と調査区(1/5,000)

第13表 駒林遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
86-1	駒林字南原 353・354	1986.8.13～25	1,536		範囲確認	溝、土器類		上埋 IX
91 駒林新田	駒林新田 727-1-3	(1991.8.3)	2,186		共同住宅	遺構遺物なし	91駒林新田遺跡 試掘調査	上堆 14
92	駒林字南原 341	(1992.9.16～18)	987.6		共同住宅	遺構遺物なし		上埋 15
95	駒林字新田前 271-2	(1995.11.8～24)	231		個人住宅	溝、遺物なし		上堆 18
96	駒林本町 153-3・4	(1996.6.10～13)	231		個人住宅	遺構遺物なし		上堆 19
97-1	駒林字新田前 266-2	(1997.5.8～12)	132		個人住宅	溝、遺物なし		上堆 20
97-2	駒林字新田前 223	(1997.5.9～15)	991.55		共同住宅	溝、ビット、漆器		上埋 20
97-3	駒林字新田前 291-1・2	(1997.10.6～17)	991		診療所	溝、便器等		上堆 20
98	駒林字新田前 312	(1998.8.10)	234		個人住宅	遺構なし、陶磁器		上堆 21
99-1	駒林字南原 424-2・20 の一部、23	(1999.4.9)	330.38		個人住宅	遺構遺物なし		上堆 22
99-2	駒林字南原 394-2	(1999.5.25)	125.91		個人住宅	遺構なし、陶磁器		上堆 22
99-3	駒林字南原 420-1	(1999.7.1)	1,322		礼拝堂	溝、遺物なし		上堆 22
99-4	駒林字南原 344-2	(2000.1.18～20)	785.79		共同住宅	溝、遺物なし		上堆 22
01	駒林 702・717 の一部	(2001.8.27～9.5)	300		宅地造成	遺構なし、板碑		上堆 24
02-1	駒林字新田前 238、240 ～242-1 の一部	(2002.6.3～21)	650		区画整理 予定地	溝、遺物なし		上堆 25
02-2	駒林字新田前 243～245	(2002.8.9～30)	275		区画整理 予定地	溝、遺物なし		上堆 25
02-3	駒林字新田前 262-1、 263、264 の一部	(2002.8.30～9.19)	1,120		区画整理 予定地	土坑、遺物なし		上堆 25
02-4	駒林字新田前 280～ 282-2、290、292-1～ 298 の一部	(2002.11.11～27)	1,150		区画整理 予定地	溝、遺物なし		上堆 25
03-1	駒林字新田前 263、273、 275	(2003.5.16～21)	558		土地区画整理	溝、遺物なし		上堆 26
03-2	駒林字南原 364 外 43 里	(2003.4.25～12.22)	7,278.5		土地区画整理	溝、遺物なし		上埋 26
04	駒林字新田前 281	(2005.1.7～24)	1,487		範囲確認	溝、カワラケ等		上堆 27
1	駒林土地区画整理事業 地内 20 街区 4・8・9	(2006.7.13～8.2)	646	(146)	共同住宅	溝、茶器跡、遺物なし		市内 3
2	内 17 街区 7・8 の一部	(2006.11.21～29)	421	(80)	個人住宅	溝、土坑、遺物なし		市内 3
3	駒林土地区画整理事業 地内 21 街区 3・4 面地	(2006.11.30～12.18)	1,916	(333)	店舗	土坑、溝、井戸、陶磁器		市内 3
4	駒林 B 地区 7 街区 3・4	(2007.6.11～13)	1,866	(72)	共同住宅	土坑		市内 4
5	大学駒林字新田前 256(30 街区 2)	(2008.4.9～16) 2008.5.30～6.28	509	(509)	分譲住宅	堅穴土坑、集石土坑、ビット、溝、 地下式坑、柵判、繩文土器		市内 5・6
6	大学駒林字新田前 248-2 (1 街区 27 号引 1)	(2008.8.27)	257	(40)	個人住宅	遺構なし、泥面子		市内 6
7	駒林土地区画整理事業 地内 28 街区 5 面地	(2009.2.3) 2009.2.4・5	152	(54)	個人住宅	溝、土器類等		市内 6
8	駒林字新田前 245-5 (21 街区 7・8 面地)	(2009.6.8)	132	(42)	個人住宅	遺構なし、縄文土器		市内 78
9	駒林字新田前 284 (19 街区 9 面地)	(2009.7.22～30) 2009.7.30～8.5	627	(246.2) 100	共同住宅	集石土坑、土坑、ビット、溝		市内 7・8
10	駒林字新田前 288-1 の 一部(17 街区 11 面地)	(2010.2.17～18)	400	(66)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 8
11	駒林区画整理事業 27 街 区 2、10 面地、11 面地 の一部	(2010.4.12～21)	689.45	(73)	個人住宅	ビット、遺物なし		市内 10
12	駒林字新田前 258-2 (28 街区 12 面地)	(2010.7.14)	115	(30)	個人住宅	溝		市内 10
13	新駒林 3-722-1・3・4	(2010.7.27～29)	927	(96)	共同住宅	土坑、ビット、丸瓦等		市内 10
14	駒林字新田前 285～287、 288-2・3(22 街区内)	(2010.9.1～8)	2,000	(348)	公園工事	土坑、遺物なし		市内 10
15	大学駒林字新田前 266-3 (24 街区 12 号引)	(2011.2.16～17) 2011.2.17	115	(10)	個人住宅	土坑、遺物なし		市内 10
16	新駒林 3-706 (2011.5.25～6.1)	1,454	(738)	分譲住宅	土坑、ビット、基壇、溝、井戸、 土製品等		市内 14	
17	新駒林 3-707 (2011.5.16～19)	495	(95.5)	分譲住宅				
18	駒林 234-2、238-2(後 換地)、31-4・5	(2011.4.26～5.2) 2011.8.25～31	238	(64) 36	個人住宅	土坑、陶磁器等		市内 14
19	新駒林 2-305-1	(2011.11.28～12.5) 2011.12.12	671	(68) 15	分譲住宅	溝、繩文土器		市内 14

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
20	鶴林元町 1-3-13	(2012.3.5 ~ 8)	178.8	(42)	共同住宅	溝、縄文土器		市内 14
21	鶴林元町 1-3-13 の一部	(2012.3.5 ~ 8)	110	(39)	個人住宅	ピット		市内 14
22	鶴林元町 1-3-20	(2012.3.5 ~ 8)	118	(31)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
23	鶴林元町 1-4-12	(2012.4.10 ~ 16)	127	(45)	個人住宅	ピット、溝、遺物なし		市内 15
24	鶴林元町 2-1-7	(2012.5.16)	127	(1)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 15
25	鶴林元町 1-2-8	(2012.6.4)	212	(8)	個人住宅	遺構なし、土器		市内 15
26	鶴林元町 1-5-16	(2012.8.29 ~ 30)	136	(37)	個人住宅	溝、ピット、遺物なし		市内 15
27	鶴林元町 1-5-9・10	(2012.12.21)	133	(10)	個人住宅	土坑、遺物なし		市内 15
28	鶴林元町 1-3-8・14 ~ 16	(2013.2.21 ~ 25) 2013.5.21 ~ 27	1,208	(61.6) 99	宅地造成	塙跡、溝、須恵器 等		市内 14
29	新鶴林 2-231-1	(2013.6.3 ~ 17)	2,000	(992.2)	店舗	土坑、溝、石器 等		市内 18
30	鶴林元町 1-3-7	(2013.6.19 ~ 20)	68.16	(28)	個人住宅	ピット、遺物なし		市内 18
31	鶴林元町 1-5-5・6	(2013.9.17 ~ 27)	925	(298)	宅地造成	溝、遺物なし		市内 18
32	鶴林元町 2-1-16	(2014.2.10)	132	(21)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 18
33	鶴林元町 1-2-2	(2016.4.11)	129.6	(27.9)	個人住宅	遺構なし、須恵器 等		市内 24
34	新鶴林 3-725-3	(2016.10.14)	163	(27.5)	共同住宅	遺構なし、泥面子 等		市内 24
35	新鶴林 3-709-1 ~ 4, 710-1・2	(2017.7.27 ~ 28, 8.21・22) 2017.8.23 ~ 9.4	1,815	(470.5) 195	分譲住宅	土坑、塙跡、溝、塙跡内ピット、 石器 等		市内 23
36	鶴林元町 1-7-4	(2017.9.19)	160.45	(41.25)	消防団車庫	遺構遺物なし		市内 24
37	新鶴林 2-216-1, 217-1	(2018.3.5 ~ 7) 2018.3.12 ~ 16	2,515.35	(381.45) 189	店舗	ピット、塙跡、溝、陶磁器 等		市内 23
38	鶴林元町 2-1-3	(2018.5.8)	396.05	(79.8)	店舗兼住宅	遺構遺物なし		市内 25
39	鶴林元町 3-1-19	(2019.6.3)	200	(22.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
40	鶴林元町 1-3-17・18	(2019.8.26)	285.81	(41.2)	分譲住宅	塙跡、陶磁器 等		市内 25
41	新鶴林 3-723-2	(2020.3.23・24)	226	(30.75)	個人住宅	遺構なし、陶磁器 等		市内 25
42	新鶴林 2-310-1	(2021.2.16 ~ 17) 2021.4.12 ~ 21	899	(149.29) 122.85	共同住宅	ピット、塙跡、溝、中世土器片 等		市内 26
43	新鶴林 2-304-6・8	(2021.5.28)	89.4	(19)	貯蔵	塙跡、遺物なし		市内 27
44	新鶴林 2-304-2・3	(2021.11.4)	100.02	(3)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 27



第26図 駒林遺跡遺構分布図(1/2,000)

II 駒林遺跡第43地点

(1) 調査の概要

調査は住宅建設に伴うもので、原因者より2021年4月12日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2021年5月28日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。

調査の結果、堀跡1本を検出した。現地表面から地山ローム層までの深さは約70~80cmあり、保護層の確保が可能なため工事立会の措置とした。

(2) 遺構・遺物

① 堀跡

調査区北端部で堀跡1本を検出した。トレンチ1・2の北端部を繋ぐように東西方向に調査区外へ向かって延伸する。試掘調査のため一部のみ調査したところ、断面形態は逆台形と思われる。規模は上幅約120cm、下幅約87cm、深さは45.2cmである。

III 駒林遺跡第44地点

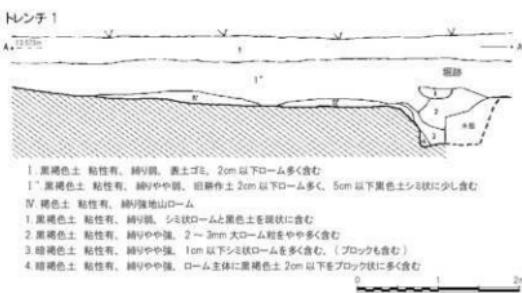
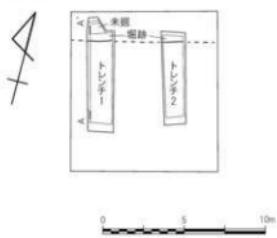
(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2021年10月12日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2021年11月4日に試掘調査を実施した。

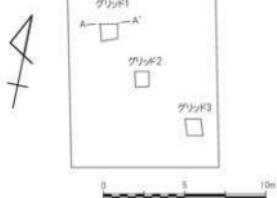
試掘調査は幅約1m四方のグリッドを3ヶ所設定し、人力による表土除去及び表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約50cmである。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

第43地点



第44地点



第27図 駒林遺跡第43地点遺構配置図・第44地点調査区域図(1/300)、土層(1/60)

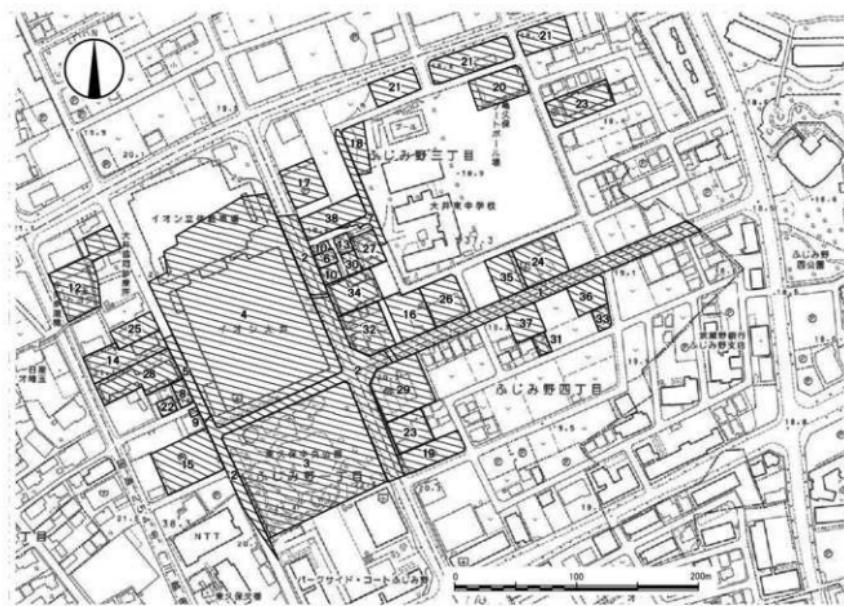
第10章 東中学校西遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

東中学校西遺跡は入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川とさかい川の間の標高は 20.0 ~ 21.0m の低位台地に位置する。現在は平坦であるが、区画整理事業以前は遺跡の北側に、西から北東側にかけて埋没河川（現在用水路）が流れ、東側には僅かな窪地もみられた。

遺跡は埋没河川と窪地の縁に位置するが、遺構は埋没河川からやや離れた遺跡の中央部から西部にかけて分布する。周辺の遺跡は、前述した埋没河川を隔てた北側約 50m に東久保西遺跡、南東に東久保南遺跡が隣接する。

遺跡の時期は縄文時代では早期の炉穴群、縄文時代中期前葉の屋外埋甕、落とし穴や集石土坑などを検出している。中・近世では墓壙・溝・柵列などが確認されている。本遺跡の調査は 1995 年以来 2022 年 4 月現在 37ヶ所で試掘調査および発掘調査が行われている。



第28図 東中学校西遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第14表 東中学校西遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1 東久保 5611, 526, 531 他		1994.10.6 ~ 11.9	3,168		区画整理 道路	土坑、ビット、遺物なし		大調 14
2 東久保 466-1 他	<A 区>1996.10.7 ~ 11.15 <B 区>1996.12.12 ~ 17 <C 区>1997.3.5 ~ 19 <D 区>1997.6.12 ~ 19 <E 区>1997.7.8 ~ 8.8 <F 区>1996.11.8 ~ 31 <G 区>1996.1.25		3,308		区画整理道路	炉穴群、黒石土坑、落とし穴、土坑、 ビット、溝、縄文土器 他	大調 14	
			1,168					
			880					
3 東久保 465, 500 他	(1996.8.29 ~ 9.13) 1996.10.7 ~ 21	10,200			区画整理公園	落とし穴、土坑、ビット、溝、縄 文土器 他		町内 VI、 大調 14
4 東久保 326 他	(1997.2.6 ~ 10.29) 1997.6.12 ~ 8.8	24,581			店舗	落とし穴、集石土坑、土坑墓、ビット、 溝、屋外堆積、廻転、縄文土器 他		町内 VI ~ VIII、 大調 14
5 東久保 487-1- 474-4 他	1997.6.12 ~ 7.24	668			区画整理道路	炉穴、落とし穴、ビット、溝、砾		大調 14
6 東久保 325-1・7・8・9	(1997.6.26 ~ 27)	135.62			事務所	遺構遺物なし		町内 VIII
7 東久保 402-1 他	1997.7.21 ~ 31	636			区画整理道路	ビット、樹列		大調 14
8 東久保 44 街区 13・ 14 画面	1997.8.5 ~ 9	251.94			個人住宅	落とし穴、ビット、溝、遺物なし		町内 VIII
9 東久保 45 街区 2・3 画面	(1997.8.19 ~ 9.1)	324.7			個人住宅	ビット、溝、遺物なし		町内 VIII
10 東久保 42 街区 1 画面	(1997.12.10 ~ 20)	135.19			店舗	遺構遺物なし		町内 VIII
欠番								
12 東久保 44 街区 3・ 23・24 画面	(1998.1.6 ~ 24)	1,879			店舗	遺構遺物なし		町内 VIII
13 東久保 2 街区 12 画面	(1998.6.9 ~ 11)	218			個人住宅	ビット、遺物なし		町内 VIII
14 東久保 44 街区 11・ 29・26 画面	(1998.6.23 ~ 26)	1,231			共同住宅	ビット、遺物なし		町内 VIII
15 東久保 45 街区 1・4・ 6 画面	(1998.8.17 ~ 24)	2,649			店舗専用駐車場	ビット、遺物なし		町内 VIII
16 ふじみ野市 1-5・6・7	(2013.2.18 ~ 22)	1,834	(52)		集合住宅	遺構遺物なし		市内 15
17 東久保 42 街区 6 画面	(1998.8.17 ~ 31)	1,347			店舗専用駐車場	ビット、遺物なし		町内 VIII
18 東久保 38 街区 7・8 画面	(1998.8.19 ~ 24)	1,131			店舗専用駐車場	遺構なし、石窓		町内 VIII
19 東久保 319-1	(1999.2.8 ~ 17)	850			テニスコート	ビット、桜井、遺物なし		町内 VIII
20 東久保 32 街区 8 画面	(1999.3.17)	944			駐車場	遺構なし、雨器		町内 VIII
21 東久保 39 街区 1 画面	(1999.6.16 ~ 7.19)	900	(461)		区画整理整地	ビット、溝、遺物なし		町内 IX
22 東久保 37 街区 1 ~ 3 画面	(1999.11.18 ~ 12.9)	1,311	(733)		店舗	土坑、ビット、溝、縄文土器 他		町内 IX
23 東久保 44 街区 15 画面	(2000.3.7 ~ 9)	150	(56)		個人住宅	ビット、溝、砾石		町内 IX
24 ふじみ野 3-5 画面	(2003.8.5 ~ 13)	1,233	(30)		共同住宅	礫土、ビット、唐物なし		町内 XIII
25 ふじみ野 4-15 一部	(2005.5.24 ~ 30)	926	(288)		店舗	土坑、遺物なし		市内 2
26 ふじみ野 3-9-5	(2005.6.20 ~ 7.7) 2005.7.11 ~ 13	1,425	(194)		店舗	炉穴		市内 2
27 ふじみ野 1-9-10	(2005.6.28 ~ 7.2)	604	(151)		分譲住宅	遺構遺物なし		市内 2
28 ふじみ野 3-10-8 ~ 11	(2006.1.5 ~ 10)	1,050	(147)		店舗	遺構遺物なし		市内 2
29 ふじみ野 3-10-3 の 一部	(2006.1.11)	120	(14)		個人住宅	遺構遺物なし		市内 2
30 ふじみ野 1 丁目 13- 14・15・32・23	(2006.4.24 ~ 5.10)	1,568.15	(680)		共同住宅	遺構遺物なし		市内 3
31 ふじみ野 4-4-1	(2006.5.15 ~ 19, 7.28 ~ 8.1)	2,004	(600)		店舗	土坑、土人形		市内 3
32 ふじみ野 3-10-13	(2006.7.3)	634	(56)		保育所	遺構遺物なし		市内 3
33 ふじみ野 4-3-14	(2008.2.14)	165			個人住宅	遺構遺物なし		市内 4
34 ふじみ野 3-10-12	(2008.6.13 ~ 25)	1,231	(302)		分譲及び店舗	遺構遺物なし		市内 6
35 ふじみ野 4-3-8 の一部	(2008.10.31)	214.92	(37)		個人住宅	遺構遺物なし		市内 6
36 ふじみ野 3-10-6	(2011.2.2 ~ 3)	1,032	(135)		宅地造成	遺構遺物なし		市内 10
37 ふじみ野 3-9-8 地 1 の一部	(2015.3.10)	661.42	(211.5)		病院増築	溝状遺構、遺物なし		市内 20
38 ふじみ野 4-3-6 ~ 7	(2015.8.11)	724	(134)		駐車場	遺構遺物なし		市内 22
39 ふじみ野 4-3-2	(2021.3.22)	624	(127.8)		共同住宅	遺構遺物なし		市内 26
40 ふじみ野 3-1-5	(2021.4.19)	1,000	(248.76)		宅地分譲	遺構遺物なし		市内 27

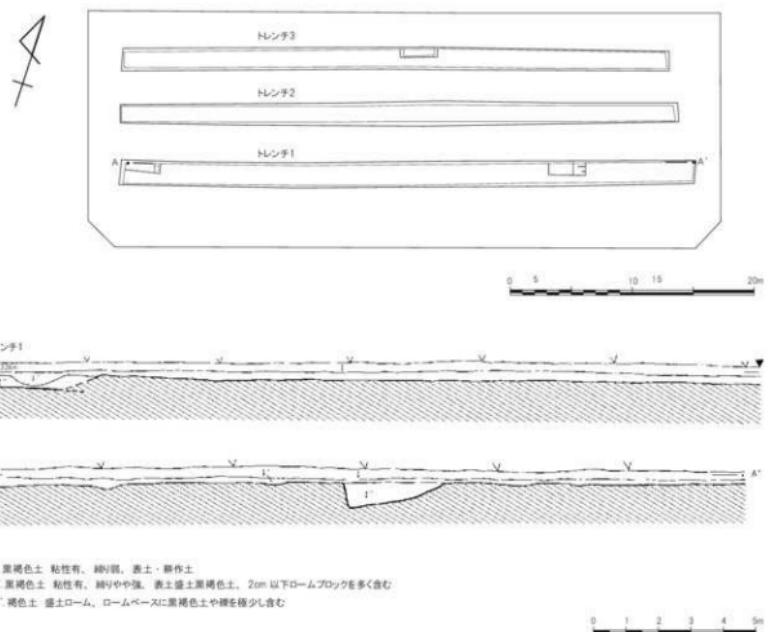
II 東中学校西遺跡第38地点

(1) 調査の概要

調査は宅地分譲に伴うもので、原因者より2021年3月22日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2021年4月19日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約2mのトレンチ3本を設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約80cmである。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第29図 東中学校西遺跡第38地点調査区域図(1/400)、土層(1/150)

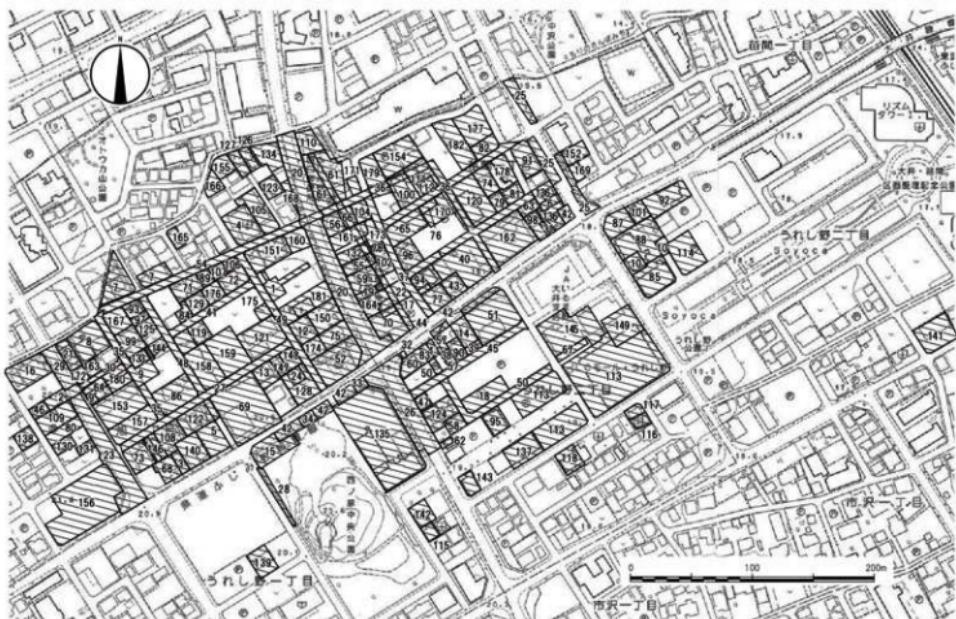
第 11 章 西ノ原遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約 300 m、さかい川の谷頭部から約 500 m 下った右岸、標高 18 ~ 21 m に位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源を持つ伏流水で、東から西へ流れ入間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡とさかい川との高低差は 2 ~ 3 m で、武蔵野台地縁辺で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

周辺の遺跡は、下流に中沢前遺跡が隣接し、さらに下流域には神明後遺跡、苗間東久保遺跡、淨禪寺跡遺跡等縄文時代の集落が存在する。さかい川対岸には東久保南遺跡と富士見市のオトウカ山があり、その下流には縄文時代中期後半集落の中沢遺跡が広がる。

本遺跡は昭和 40 年代頃までは武蔵野の面影を残す農村地帯であったが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の増加に伴い遺跡の破壊が進んでいる。同時に発掘調査も遺跡面積 10ha の約 40% が調査されてきている。1971 年以来 2022 年 4 月現在で 182 地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。特に縄文時代中期には、210 斡を超す住居跡が環状集落として形成され、市内において東台遺跡と共に中期全般を通した良好な大規模集落であったことがわかる。



第 30 図 西ノ原遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

II 西ノ原遺跡第180地点

(1) 調査の概要

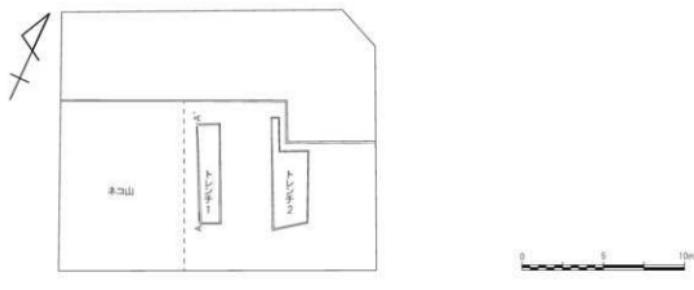
調査は、共同住宅建設に伴うもので、原団地より2021年6月29日付け「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者との協議の結果、遺構の存在を確認するため2021年7月6日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1.3～2.2mのトレンチを設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。隣接する道路面と地山ローム層の高さは、ほぼ同じである。

調査の結果、遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

遺構外から縄文土器1点が出土した。深鉢の胴部片。地文はLR縄文で胎土に白色粒子、雲母を含む。時期は縄文時代中期。



■ 黒色土 粘性有、縄文器、1cm 以下ロームブロックを多く含む新作土、表土



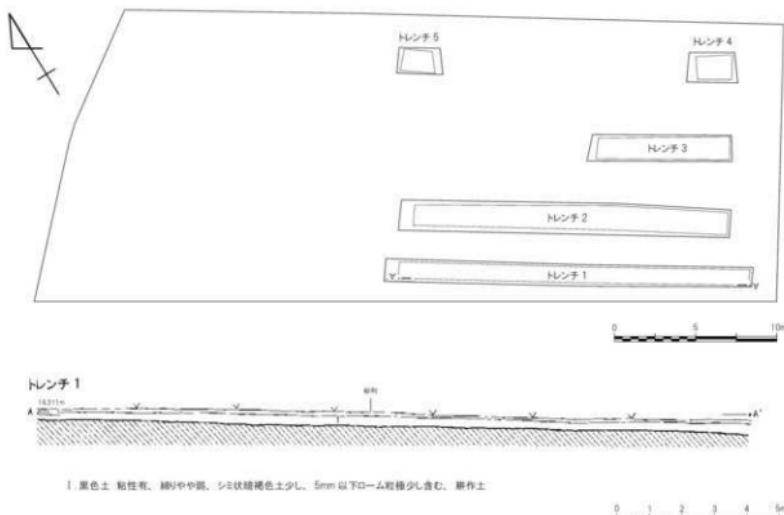
第31図 西ノ原遺跡第180地点調査区域図(1/300)、土層(1/60)、出土遺物(1/4)

III 西ノ原遺跡第182地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2022年1月12日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2022年3月28日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレンチ5ヶ所を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。調査の結果、遺構遺物の検出はなく、現地表面から地山ローム層までの深さは約80cmであった。保護層の確保が可能なため工事立会の措置とした。



第32図 西ノ原遺跡第182地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)

第12章 神明後遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

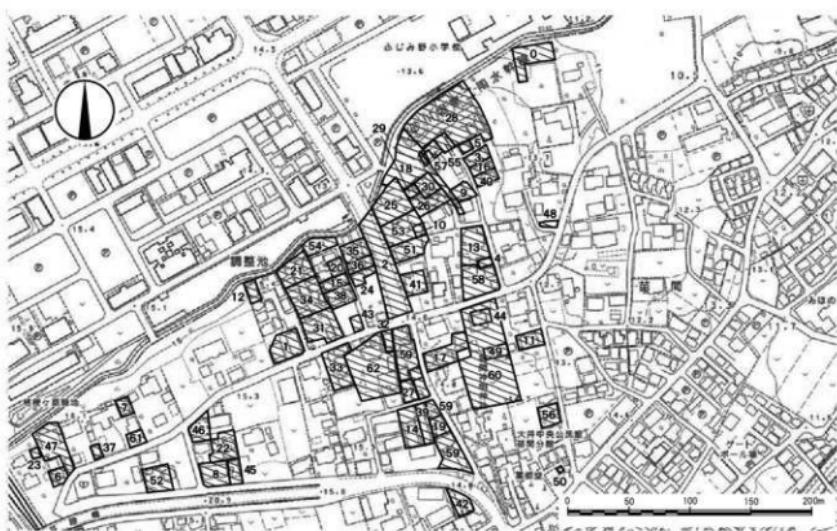
神明後遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約300m、さかい川の谷頭部から約1,500m下った右岸に位置し、標高12～16m、現谷底との比高差は1.5mを測る。さかい川は本遺跡付近から崖を形成し始め、本遺跡をのせる南側台地は急斜面、対岸の北側は緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、上流に中沢前遺跡、下流に淨禪寺跡遺跡、苗間東久保遺跡が隣接し、さかい川の対岸には富士見市の外記塚遺跡がある。

遺跡周辺は古くからの集落があり、現在でも大きな屋敷地が多く大きな開発もなかったが、ふじみ野駅の開設に伴い徐々に再開発が進みつつある。

本遺跡の最初の調査は1987年に大井町史編纂事業の一環として行われた。その後1993年に新駅へ延びる道路をはじめ、2022年4月現在62地点で試掘調査および発掘調査が行われている。

これまでの調査で縄文時代中期後半～後期前半の住居跡、奈良時代から平安時代の住居跡、中世の建物跡などの遺構を検出した。



第33図 神明後遺跡の地形と調査区（1/4,000）

第16表 神明後遺跡調査一覧表

地区地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	苗間 281-1	1993.5.6 ~ 11	615.47		共同住宅	溝、遺土器等		町内Ⅲ
2	苗間 295-2, 299-3	1993.5.12 ~ 20	1,688		道路築造	古代住居跡1、中近世振築柱建物跡 多数、落とし穴、土坑、堀跡、井戸、 地下式坑		町内Ⅲ
3	苗間 309-12	(1995.3.24 ~ 29) 1995.4.3 ~ 5.19	200.03		分譲住宅	縄文時代住居跡1、土坑、ピット、 縄文土器等		町内Ⅵ
4	苗間 302	(1996.6.17 ~ 19)	703.76		物置	遺構なし、縄文土器片		町内Ⅵ
5	苗間神明後 395-5	(1997.3.15)	80.17		個人住宅	土坑、縄文土器等		町内Ⅵ
6	苗間 255, 227-2	(1997.9.29 ~ 30)	150.79		個人住宅	土坑、縄文土器等		町内Ⅷ
7	苗間 260	(1998.6.1 ~ 2)	1,460		個人住宅	地下室、縄文土器等		町内Ⅸ
8	苗間 235-1	(1998.7.21 ~ 24)	458		共同住宅	集石土坑、土坑、溝、堀跡、縄文 土器片		町内Ⅷ
9	苗間 310-1	(1998.9.1 ~ 11) 1998.9.14 ~ 10.15	219		共同住宅	縄文時代住居跡4、集石土坑、落と し穴、土坑、ピット、井戸、地下室、 縄文土器等		町内Ⅷ
10	苗間 298-1	(1999.9.16)	44	(3)	個人住宅	遺構なし、縄文土器片		町内Ⅸ
11	苗間 366	(1999.10.21)	239	(97)	個人住宅	土坑、ピット、縄文土器等		町内Ⅸ
12	苗間 282-2-5	(2000.3.6)	211	(8)	共同住宅	遺構遺物なし		町内Ⅸ
13	苗間 302-1	(2000.4.17 ~ 19)	694	(154)	個人住宅	土坑、ピット、縄文土器等		町内 X
14	苗間 252-2	(2000.8.18 ~ 23)	357	(196)	共同住宅	中近世振築柱建物跡1、土坑、ピッ ト、溝、井戸、堀跡、縄文土器等		町内 X
15	苗間 293-15	(2001.4.11) 2001.4.12 ~ 13	163	50	個人住宅	集石土坑、縄文土器片		町内 XI
16	苗間 309-14	(2001.7.23 ~ 24) 2001.7.25 ~ 9.3	165	189	個人住宅	堅穴状遺構、屋外堆塗、土坑、ピッ ト、溝、地下室、縄文 土器等		町内 XI
17	苗間 369-1	(2002.3.28)	581	(7.5)	個人住宅	溝、砾石		町内 XI
18	苗間 304-1, 303-6	(2002.5.19 ~ 25) 2002.5.27 ~ 6.24	672	(220)	分譲住宅	縄文時代住居跡5、竪穴、土坑、溝、 ピット、窓跡		町内 XII
19	苗間 264-4	(2002.9.18 ~ 20)	216		個人住宅	溝		町内 XII
20	苗間 293-11	(2003.1.14 ~ 15)	143		個人住宅	ピット、溝		町内 XII
21	苗間 283-1	(2003.1.10 ~ 30)	674		土地造成	土坑、ピット、井戸、地下室、段切、 陶磁器		町内 XII
22	苗間 235-2-3	(2003.7.8 ~ 29)	430		分譲住宅	土坑、ピット、溝、井戸、陶磁器		町内 XII
23	苗間 253	(2004.4.9)	62		個人住宅	地下室、残瓦		町内 XII
24	苗間神明後 293-4-10	(2004.9.30 ~ 10.7)	148		個人住宅	遺構遺物なし		町内 XII
25	苗間 295-1	(2004.9.30 ~ 10.7)	660		店舗併用住宅	遺構遺物なし		町内 XII
26	苗間神明後 301, 303-3 ~ 5 ~ 7, 304-1	(2005.6.1 ~ 8) 2005.6.15 ~ 30	689	(160)	分譲住宅	縄文時代住居跡1、土坑、溝、地下 式坑、縄文土器等		大調 18
27	苗間 248-2, 249-1	(2005.7.20 ~ 25) 2005.7.27 ~ 29	385	(80)	共同住宅	縄文時代住居跡1		大調 18
28	苗間神明後 306-1	(2005.6.8 ~ 31) 2006.6.29 ~ 10.5	2,171	(1,200)	宅地造成	縄文時代住居跡11、古代住居跡1、 屋外炉、集石、落とし穴、土坑、ピッ ト、溝、堀跡、縄文土器		市内 3
29	苗間神明後 303-21-24	(2006.5.8 ~ 11) 2006.5.12 ~ 19	135.9	(52)	個人住宅	ピット、溝、縄文土器		市内 3
30	苗間神明後 303-1	(2006.5.8 ~ 19) 2006.12.14 ~ 19	101.13	(60)	個人住宅	ピット、溝、縄文土器		市内 3
31	苗間神明後 284	(2007.8.3 ~ 7)	499	(72)	個人住宅	土坑		市内 4
32	苗間神明後 247-2	(2008.3.13)	136	(31)	個人住宅	遺構なし、瓦面子		市内 4
33a	苗間 240-2	(2008.4.25 ~ 5.16)	298	(209)	個人住宅	落とし穴、土坑、ピット、溝、井戸、 陶磁器等		市内 6
33b			357		分譲住宅			
34	苗間神明後 283-1, 284-1の一部	(2008.4.30 ~ 5.15) 2008.5.16 ~ 28	1,693	(357)	分譲住宅	縄文時代住居跡1、集石、落とし穴、 ピット		市内 5
35	苗間神明後 293-6-20	(2008.8.1)	247	(26)	個人住宅	ピット、遺物なし		市内 6
36	苗間神明後 293-3	(2008.8.2)	165	(37)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 6
37	苗間 258-1の一部	(2009.4.13)	120	(27)	個人住宅	縄文時代住居跡1、縄文土器		市内 8
38	苗間神明後 292-13, 293-1	(2009.4.15 ~ 30)	265.4	30	個人住宅	溝、縄文土器		市内 8
39	苗間神明後 264-1	(2009.8.5 ~ 12) 2009.8.24 ~ 9.1	378	(114)	共同住宅	落とし穴、土坑、ピット、溝、地 下式坑、縄文土器		市内 7

地区地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試底)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
40	苗間 309-1	(2009.11.9 ~ 16) 2009.12.18 ~ 2010.1.15	156	47 (77)	個人住宅	堅穴状遺構。集石土坑、土坑、ピット、溝、井戸、地下水式坑、繩文土器		市内 8
41	苗間字神明後 298-1、299-1 の各一部	(2010.5.25 ~ 6.7) 2010.6.15 ~ 7.21	486.36	400 286	共同住宅	中世孤立柱建物跡 1、堅穴状遺構、石器集中、集石土坑、土坑、ピット、溝、木炭窓、石器等		市内 9
42	苗間字神明前 380-3	(2010.6.1 ~ 2)	312	44 (44)	宅地造成	遺構遺物なし		市内 10
43	苗間 292-14	(2010.10.20 ~ 22)	107	10	個人住宅	ピット、繩文土器等		市内 10
44	苗間字神明後 367-1、368-1 の一部	(2011.7.8) 2011.7.11 ~ 13	1,535.9	63 21	個人住宅	落とし穴、遺物なし		市内 14
45	苗間字神明後 235-9	(2011.12.5)	200	61 (61)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
46	苗間字神明後 235-6	(2012.4.9 ~ 10)	233	52 (52)	個人住宅	土坑、繩文土器片		市内 15
47	苗間字神明後 227-2	(2012.4.24)	340	55 27.5	個人住宅	集石、ピット、繩文土器片		市内 15
48	苗間字神明後 315-1 の一部	(2012.5.7)	171	44 26	個人住宅	土坑、ピット、溝、井戸、繩文土器等		市内 15
49	苗間字神明後 367-1,368-6	(2013.1.30)	1,411.3	8 (8)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 15
50	苗間 375	(2013.12.11)	531.8	31.7 (31.7)	美術館	土坑、磁器等		市内 18
51	神明後 295-1、297-1・2 の一部、298-1、299-1	(2014.11.5 ~ 13) 2014.11.20 ~ 25	487.33	116 42.5	共同住宅	土坑、溝、繩文土器		市内 16
52	苗間字神明後 231-1	(2015.1.28)	379	44.4 (44.4)	個人住宅	ピット、繩文土器片		市内 20
53	苗間字神明後 298-1	(2015.3.19)	495	14.5 (14.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 20
54	苗間字神明後 293-7・9	(2015.12.3)	342	6 (6)	共同住宅	遺構遺物なし		市内 22
55	苗間字神明後 310-1 の一部	(2017.5.8) 2017.5.9 ~ 12	180	28 27.44	個人住宅	繩文時代住居跡 2、土坑、ピット、埋土器等		市内 24
56	苗間字神明後 374-34	(2019.11.11)	255.58	30.3 (30.3)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
57	苗間字神明後 310-9	(2020.1.21)	146	15.46 (15.46)	個人住宅	遺構なし、繩文土器		市内 25
58	苗間字神明後 301-1	(2020.6.26 ~ 29)	732.41	35.7 (35.7)	個人住宅	坂跡、繩文土器等		市内 26
59	苗間字神明後 248-2, 249-1	(2021.9.6)	836.67	62.75 (62.75)	建物解体			
	苗間字神明後 248-1, 264-2, 264-4, 250-5, 251-9	(2021.7.7 ~ 7.12 ~ 21) 2021.7.26	1,013	414.5 62	道路整備	ピット、落とし穴、土坑、坂跡、溝、井戸、繩文土器、陶磁器、古瓶		市内 27
	苗間字神明後 248-6, 249-4	(2021.9.17) 2021.9.21	456.59					
	苗間字神明後 250-2	(2021.12.15 ~ 16)	128					
60	苗間 367-1, 368-1-4・5・6	(2021.9.7 ~ 14) 2022.1.15 ~ 14 2022.1.17 ~ 21	2,909	909.4 60	分譲住宅	大型土坑、井戸、ピット、溝、人形面(天神様)かわらけ、陶磁器、繩文土器等		市内 27
61	苗間字神明後 260 の一部	(2021.9.22)	255	43.74 (43.74)	個人住宅	土坑、ピット、溝、繩文土器等		市内 27
62	苗間字神明後 246-2, 247-3	(2021.11.4 ~ 5)	133.32	52.8 (52.8)	付属倉庫	遺構遺物なし		市内 27

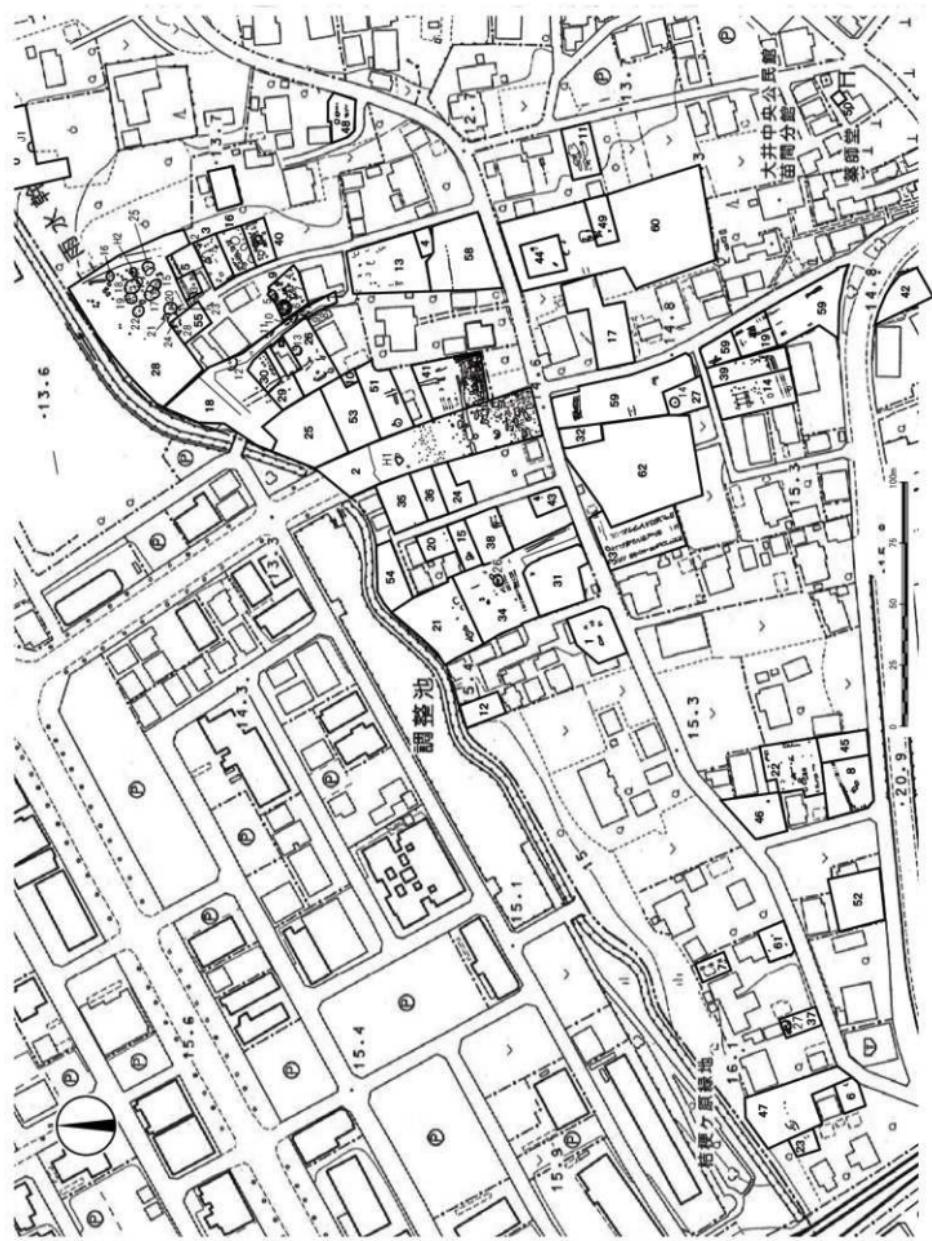
II 神明後遺跡第 61 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2021 年 8 月 24 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2021 年 9 月 22 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレシチ 4 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 60 ~ 90 cm である。

調査の結果、土坑 2 基とピット 2 基、根切り溝を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第34図 神明後遺跡遺構分布図(1/2000)

(2) 遺構と遺物

①土坑

【土坑1】土坑1は調査区南西部で検出した。一部しか確認できていないため平面形態は不明。確認面の規模は $83 \times (45)$ cm、底部は $64 \times (36)$ cmで、深さは12cmを測る。

【土坑2】土坑2は調査区中央部で検出した。一部はトレンチ範囲外で確認できていない。確認面の規模は $(55) \times 46$ cm、底部は 27×21 cm、深さは40.1cmを測る。平面形態は円形である。

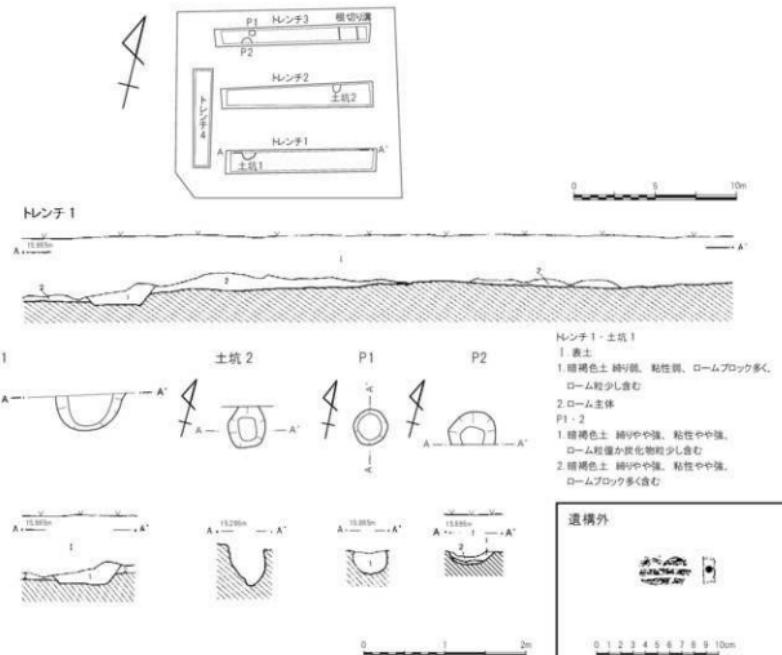
②ピット

【ピット1】ピット1は調査区北側で検出した。平面形態は円形。遺構の規模は確認面 45×42 cm、底部は 34×30 cm、深さは29.1cmを測る。堆積土には炭化物が含まれていた。

【ピット2】ピット2はピット1の南側で検出した。南半分がトレンチ範囲外のため確定はできないが、残存形態より円形と思われる。遺構の規模は確認面 $59 \times (59)$ cm、底部は 30×26 cm、深さは16.1cmを測る。

③出土遺物

遺構外から縄文土器片が出土した。横位の沈線が二本引かれており、胎土には雲母がみられる。縄文時代中期。



第35図 神明後遺跡第61地点遺構配置図(1/300)、土層・土坑・ピット(1/60)、出土遺物(1/4)

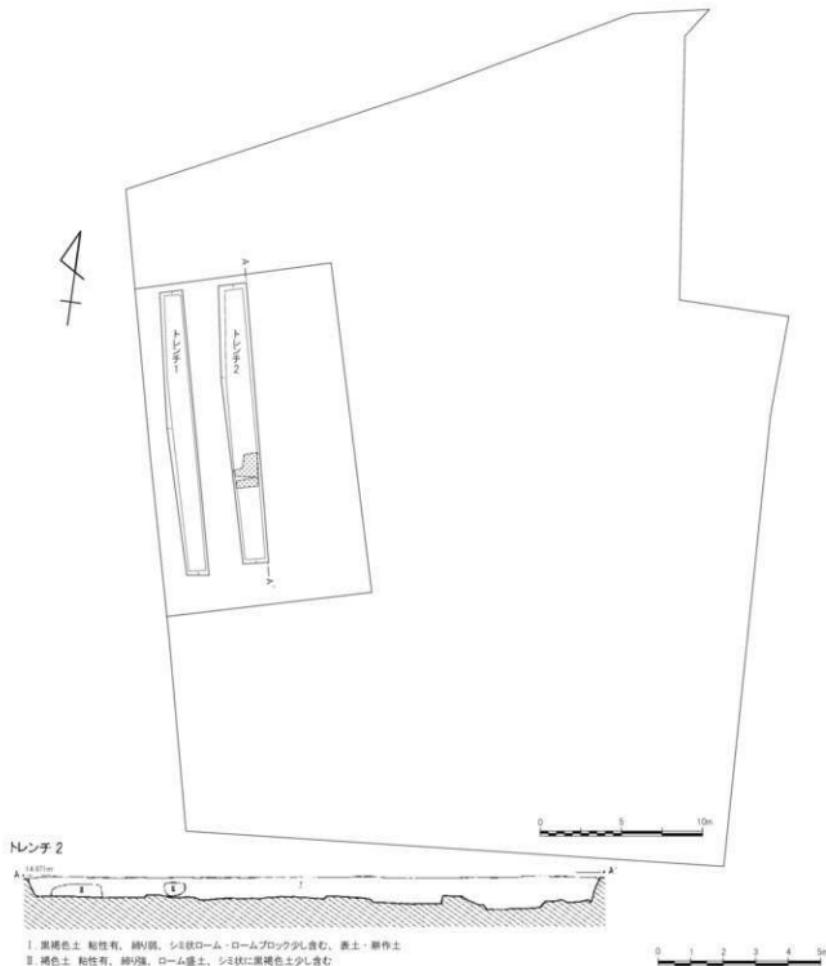
III 神明後遺跡第62地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅付属の倉庫建設に伴うもので、原因者より2021年10月14日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2021年11月4・5日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約50cmである。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第36図 神明後遺跡第62地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)

第13章 苗間東久保遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

苗間東久保遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約 600 m、さかい川の谷頭部から約 1,800 m 下った右岸、さかい川と浄禪寺川にはさまれた台地の縁辺に位置し、標高 10 ~ 11 m、現谷底との比高差は 1 ~ 1.5 m を測る。さかい川と本遺跡をのせる南側台地の間に緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、さかい川上流に富士見市中沢遺跡、下流に富士見市外記塚遺跡、浄禪寺川対岸には浄禪寺跡遺跡がある。遺跡周辺は畠が多く見られたが、ふじみ野駅の開設に伴い、個人住宅などの小規模な開発が進みつつある。

本遺跡の最初の調査は 1979 年に開発に伴う緊急調査として行われた。2022 年 4 月現在 33ヶ所で試掘調査及び発掘調査が行われている。

これまでの調査で縄文時代早期の落とし穴や炉穴、中期後半～後期中葉の住居跡、落とし穴、土坑、集石土坑、ピット等が多数確認検出されている。

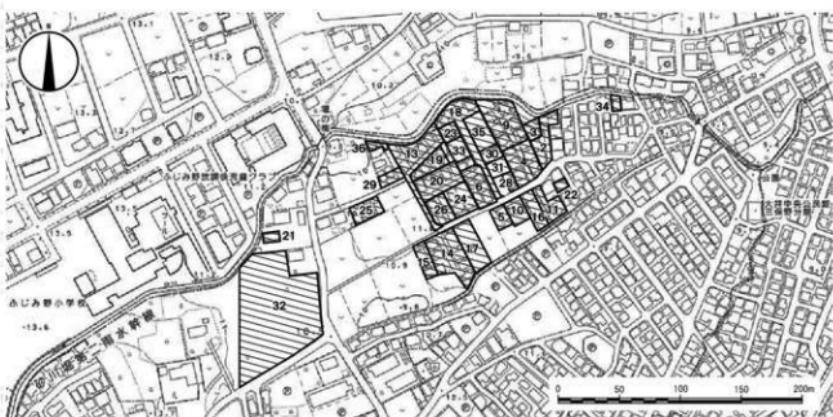
II 苗間東久保遺跡第 36 地点

(1) 調査の概要

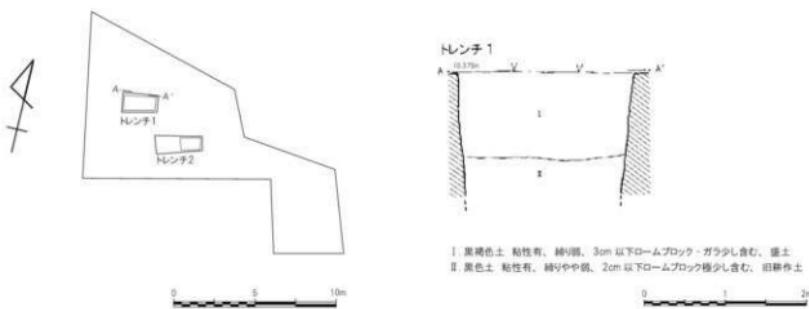
調査は建売住宅建設に伴うもので、原請者より 2021 年 5 月 24 日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2021 年 6 月 17 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1m のトレーナー 2 本を設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。現地表面から 1.3 m 挖削しても地山ローム層は確認できなかった。申請者と再協議の結果、工事立会の措置とした。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第37図 苗間東久保遺跡の地形と調査区(1/4,000)



第17表 苗間東久保遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	苗間字東久保 579-2 ~ 8	(1979.4.3 ~ 21)	605		共同住宅	伊穴、土坑、縄文土器等	旧淨禪寺跡遺跡1	東部I、町史貢I
2	苗間字東久保 646-6 ~ 10	(1979.9.4 ~ 10) 1979.10.30 ~ 11.8	530		共同住宅	縄文時代住居跡1。縄文土器等		東部I
3	苗間字東久保 642-11 ~ 12	(1980.4.7)	200		共同住宅	遺構なし。縄文土器		東部II
4	苗間字東久保 642	(1980.4.16 ~ 5.10)	750		共同住宅	遺構なし。縄文土器		東部II
5	苗間字東久保 636-3	(1980.9.8 ~ 24)	106		共同住宅	伊穴、重石、土坑、ビット、縄文土器等		東部II
6	苗間字東久保 639	(1980.11.27 ~ 12.26)	577		共同住宅	縄文時代住居跡2。炉窓、土坑、柱穴群、縄文土器		東部II、町史貢I
7	苗間字東久保 573-3	(1982.4.1 ~ 3)	396		共同住宅	遺構なし。縄文土器	旧淨禪寺跡遺跡2	東部III
欠番	苗間字神明前 568-7 ~ 9	(1981.4.2 ~ 9)	360		共同住宅	遺構遺物なし	淨禪寺跡遺跡 62-1 ~変更	東部IV
9	苗間字東久保 642-1	(1983.11.8 ~ 12.5)	660		共同住宅	遺構遺物なし。土坑、縄文土器等		東部V
10		1984	340			土坑、ビット、縄文土器	未報告	
11		1984	560			遺構なし。縄文土器等	未報告	
欠番	苗間東久保 581	1984.7.20 ~ 21	320		共同住宅	遺構なし	淨禪寺跡遺跡3 地点 ~変更	未報告
13		1984	906			縄文時代住居跡2。土坑、ビット、縄文土器		町史貢I
14	苗間字東久保 635	(1987.4.1)	923			土坑、ビット、縄文土器		東部IX
15	苗間字東久保 635	(1988.12.8 ~ 14)	447		個人住宅	土坑、ビット、縄文土器		東部IX
16	苗間 645-1	(1990.8.21 ~ 24) 1989.8.24	390	117	共同住宅	縄文時代住居跡1。土坑、縄文土器等		東部X
17	苗間 636-4	(1991.3.12 ~ 15)	583		駐車場	土坑、縄文土器		町内I
18	苗間字東久保 646、639 他	(1992.6.2 ~ 9) 1992.9.7 ~ 10.22	906		分譲住宅	縄文時代住居跡3。落とし穴、土坑、ビット、溝状遺構、縄文土器		大調5
19	苗間 637-14 ~ 16	(1994.2.8 ~ 16) 1994.2.16 ~ 3.25	350		宅地開発	縄文時代住居跡1。落とし穴、土坑、ビット、縄文土器等		大調12
20	苗間 637-18 ~ 19	(1998.3.18 ~ 24) 1998.6.15 ~ 8.13	664		分譲住宅	集石土坑、土坑、ビット、縄文土器等		大調12
21	苗間字神明後 333-1	(1999.8.3 ~ 6)	350	(95)	個人住宅	土坑、縄文土器等		町内IX
22	苗間 645-11	(2001.10.25)	99	(6)	個人住宅	遺構なし。縄文土器		町内XI
23	苗間字東久保 640-9	(2004.9.1)	104		個人住宅	遺構遺物なし		町内XII
24	苗間東久保 637-1 ~ 28	(2005.3.7 ~ 3.20) 2006.4.10 ~ 28	561	515	分譲住宅	土坑、ビット、縄文土器等		市内2
25	苗間字東久保 631-3	(2007.7.11 ~ 23)	414	(176)	分譲住宅	ビット、縄文土器		市内4
26	苗間字東久保 637-3 ~ 34	(2010.6.1 ~ 11) 2010.7.2 ~ 23	429	429	分譲住宅	縄文時代住居跡1。土坑、ビット、縄文土器等		市内12
欠番	苗間字東久保 644-1	(2011.7.21 ~ 22)	112	(6)	個人住宅	ビット		市内14
29	苗間字東久保 630-1 ~ 3	(2011.7.28 ~ 8.1)	216	(68)	個人住宅	土坑、ビット、溝、縄文土器等		市内14
30	苗間字東久保 641-3、 644-4	(2011.8.22 ~ 24)	238	(48)	個人住宅	遺構なし。縄文土器		市内14
31	苗間字東久保 644-6 ~ 7	(2014.1.20 ~ 28)	220	(14)	個人住宅	土坑		市内18
32	苗間字神明前 334-1、 335-1、336-1、337-1	(2014.3.6 ~ 27) 2014.4.8 ~ 5.19	2989	(1018.5)	共同住宅	伊穴、落とし穴、土坑、ビット、溝、縄文土器等		市内16
33	苗間字東久保 640-1 ~ 10・11	(2016.7.14 ~ 25) 2016.7.28 ~ 8.1	313	(96.42)	分譲住宅	落とし穴、ビット、縄文土器等		市内19
34	苗間字東久保 649-20	(2018.5.16)	123.86	(24.3)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内25
35	苗間字東久保 641-1	(2021.1.12)	581	(31.9)	分譲住宅	遺構なし。縄文土器		市内26
36	苗間 630-11	(2021.6.17)	105.64	(4.7)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内27

第14章 清禅寺跡遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

清禅寺跡遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、清禅寺川の湧水地南側から右岸の台地上に位置する。標高12～14mで現谷底との比高差は2mを測る。清禅寺川はさかい川と砂川堀の間を東流し、さかい川に合流する。さかい川はやがて砂川堀に合流して新河岸川へと注ぐ。

周辺の遺跡は北西に神明後遺跡、北側に苗間東久保遺跡が隣接する。本遺跡は1989年に苗間東久保遺跡の一部を、清禅寺川を境に分割して登録した。

遺跡周辺は市街化が進み、残された畠地も周辺の区画整理の影響で開発が増加している。

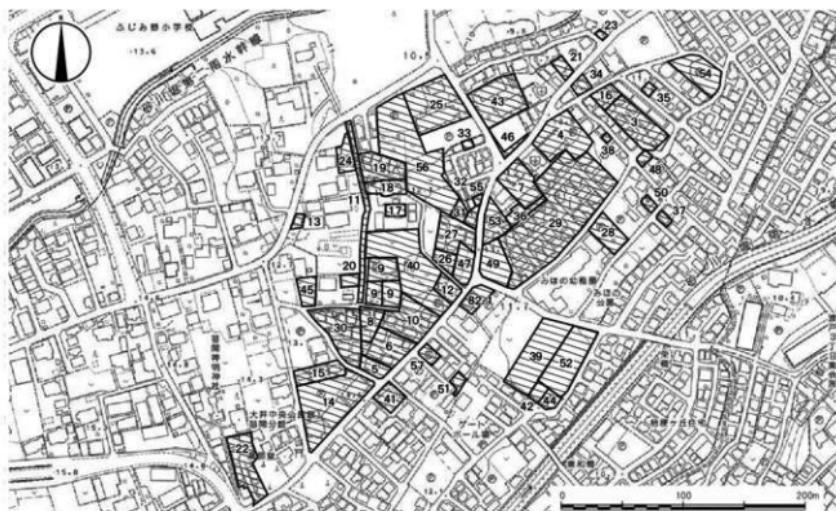
2022年4月現在、57地点で試掘調査及び発掘調査を行い、縄文時代早期の炉穴多数、前期住居跡1軒、中期住居跡4軒、中・近世の墓研状の堀や遺跡名の由来である清禅寺墓域から土壙墓157基、一字一石約76,000点（市指定文化財）が出土している。清禅寺は江戸時代に建立されたが、幕末に焼失して以来再建されていない。

II 清禅寺跡遺跡第9地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2021年11月30日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部やや西寄りに位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2021年12月7日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約2mのトレンチ1ヶ所を設定し、人力による表土除去及び表面精査を行った。現地表面から約1m掘削しても地山ローム層は確認できなかった。保護層の確保が可能なことから、工事立会の措置とした。



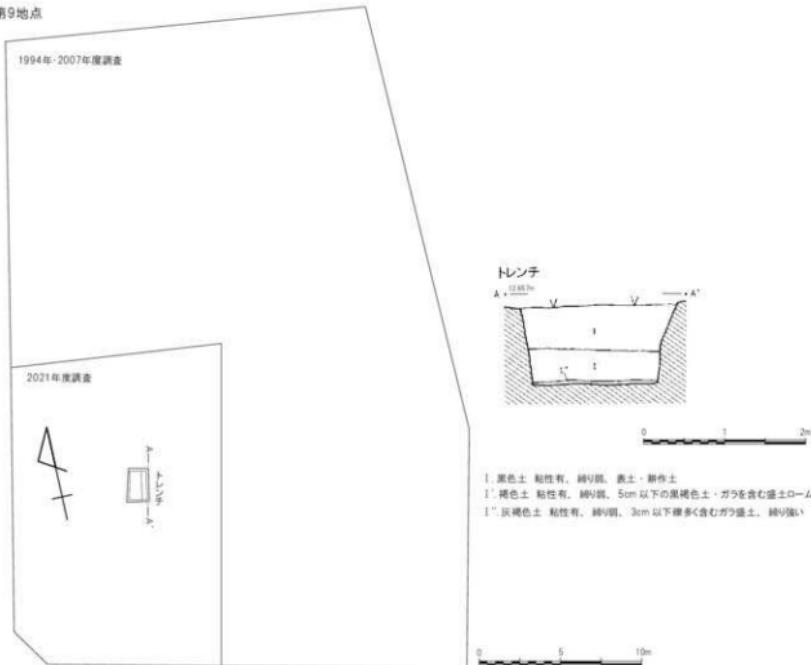
第39図 清禅寺跡遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第18表 清淨寺跡遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
欠番	苗間字東久保 579-2 ～ 8	(1979.4.3～21)	605		共同住宅	炉穴、土坑、縄文土器等	苗間東久保1地点へ変更	東部I
欠番	苗間字東久保 573-3	(1982.4.1～3)	396		共同住宅	遺構なし、縄文土器	苗間東久保7地点へ変更	東部III
82-1	苗間字神明前 568-7～9	(1982.4.2～9)	360		共同住宅	遺構遺物なし	旧苗間東久保8地点	東部IV
3	苗間字東久保 581	1984.7.20～21	320		共同住宅	遺構なし、縄文土器	旧苗間東久保12地点	未報告
4	苗間字神明後 346-1	1989.11.15～25	150		開発予定地	炉穴、土坑、ビット、縄文土器		東部X
5	苗間 374-9	1991.8.28～9.3	100		個人住宅	根切り溝、縄文土器	町内I	
6	苗間 358-1	1991.9.21～24	826		個人住宅	遺構なし、縄文土器	町内I	
7	苗間字東久保 573-4	1992.10.28～11.24	831		共同住宅	炉穴、ビット、堀跡、井戸、縄文土器	大洞5、町内II	
8	苗間 357-1	(1994.9.20～27)	615		宅地分譲	落とし穴、溝、縄文土器等	町内IV	
9	苗間 353	(1994.10.18) 2007.5.22～24	1,266	70	農地改良 (個人住宅)	焼土、土坑、溝、縄文土器等	町内IV、市内4	
	苗間字神明後 353-5・6	(2021.12.7)	245	(2)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内27
10	苗間 356-1	1994.10.31～11.2	999		宅地分譲	土坑墓、溝、一字石経等		大洞12
11	苗間 352-1 他	(1995.1.9～2.3)	572		道路	湧水口、焼土、陶磁器等	町内IV	
12	苗間 35-95	1995.9.25～10.21	140		個人住宅	屋外炉、遺構外土器集中、ビット、溝、縄文土器等	町内V	
13	苗間 314-2	(1996.1.8～29)	101		個人住宅	土坑、ビット、溝、井戸、縄文土器等	町内V	
14	苗間 360-1、362-2	(1996.6.3～12) 1996.6.18～7.11	2,178		個人住宅	窓群、落とし穴、ビット、溝、縄文土器等	町内VI	
15	苗間 362-4・5	(1996.6.3～12)	494		分譲住宅	炉穴、土器		町内VI
16	苗間 579-1	1997.11.10～12.19	291		個人住宅	縄文時代住跡1、炉穴、土坑、ビット、溝、窓、縄文土器等	町内VII	
17	苗間 345-2・10	(1998.8.29～10.2)	877		個人住宅	遺構なし、縄文土器		町内III
18	苗間 345-3・4	(1999.5.26～6.24)	599	303	個人住宅	炉穴、集石土坑、土坑、ビット、溝、縄文土器等		町内IX
19	苗間字神明後 345-15・16	(1999.8.18～27)	703	703	分譲住宅	立派柱建物跡6、炉穴、焼土、集石土坑、土坑、窓、井戸、縄文土器等	大洞15、町内IX	
20	苗間字神明後 351-1	(2001.10.26～29)	223	(17.6)	倉庫	遺構なし、陶磁器	町内XI	
21	苗間字東久保 591-3、592-7	(2001.11.19～20)	182	(12)	個人住宅	溝、遺物なし		町内XI
22	苗間 373-5・8、377-5・3・4	(2002.4.23～5.14)	935		分譲住宅	土坑、ビット、溝、遺物なし		町内XII
23	苗間 592-1	(2003.4.28)	100		個人住宅	ビット、溝、遺物なし		町内XII
24	苗間字神明後 346-1・2の一部	(2004.8.30～31)	391		個人住宅	遺構遺物なし		町内XII
25	苗間字神明後 339-1・2の各一部	(2004.9.22～10.12)	721		共同住宅	ビット、遺物なし		町内XII
	苗間字神明後 338-8、339-2	(2012.6.27)	844.8	(15)	個人住宅	遺構遺物なし		市内14
26	苗間字神明後 354-2の一部 354-23・24	(2005.3.3～8) 2007.4.17～28、6.7 ～15	226	(216)	分譲住宅	炉穴、土坑、ビット、溝、縄文土器		町内XII、市内3
27	苗間字神明後 354-2	(2005.12.1～2006.1.22) 2006.1.23～2.22	696	224	道路及び 分譲住宅	縄文時代住跡2、炉穴、屋外堆塚、土坑、ビット、溝、縄文土器等		市内2
28	苗間字東久保 719-7、720-1	(2007.1.23)	2,478	(22)	園芸商業	溝、遺物なし		市内3
29	苗間 570-1・2、571-1・2、575	(2007.8.7～9.21) 2007.9.25～11.6	4,920	(1,251) 818	分譲住宅	中世柱立柱建物跡3、土坑、ビット、堀跡、溝、井戸、地下式坑、縄文土器等		市内4
30	苗間 359-1	(2007.9.14～10.9) 2007.10.9～11.2	1,298	(414) 100	分譲住宅	茅葺跡、木皮廻、落とし穴、土坑、ビット、溝、陶磁器等		市内4
31	苗間字神明後 342-14の一部	(2008.2.19) 2008.2.19～3.5	171	(109) 109	個人住宅	縄文時代住跡1、炉穴、土坑、ビット、溝、縄文土器等		市内4
32	苗間字神明後 340-17、342-10・15	(2007.2.25～3.4)	188	(40)	個人住宅	堀跡、ビット、縄文土器		市内4
33	苗間字神明後 340-21	(2010.8.6) 2010.10.22	76	(1.2)	個人住宅	土坑、縄文土器		市内10
34	苗間字東久保 586-7、587-2の一部	(2012.8.24)	160	(48)	個人住宅	遺構遺物なし		市内14
35	苗間字東久保 582-8	(2012.4.4)	80	(16)	個人住宅	ビット、縄文土器		市内15
36	苗間字東久保 573-5の一部	(2012.8.6～9)	400	(90)	宅地造成	土坑、ビット、堀跡、溝、縄文土器		市内15
37	苗間字東久保 727-17	(2012.11.21)	100.52	(9)	個人住宅	遺構遺物なし		市内15

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試底)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
38	苗間東久保 578-11	(2013.5.13 ~ 14)	53.42	(15.9)	個人住宅	遺構遺物なし。		市内 18
39	苗間字神明前 565-1	(2013.6.25 ~ 7.3)	1,709	(564)	分譲住宅	遺構、遺物なし		市内 18
40	苗間字神明後 355-1・2・12	(2015.8.19 ~ 9.30) 2015.10.1 ~ 11.9	2,308.06	(619) 456	分譲住宅	縄文時代住居跡 1、集石土坑、土坑、ピット、溝、井戸、地下水坑、繩文土器		市内 19・22
41	苗間字神明前 509-1・5	(2015.12.21)	349.73	(85.4)	分譲住宅	土坑、ピット、縄文土器		市内 22
42	苗間字神明前 564-3 の一部	(2016.4.8)	132.35	(38.55)	分譲住宅	土坑、遺物なし		市内 24
43	苗間 589-1	(2016.6.20 ~ 24)	1,402	(195.67)	公園	遺構なし。土器		市内 24
44	苗間字神明前 564-5	(2016.7.1 ~ 4)	124.05	(30.64)	分譲住宅	遺構、遺物なし		市内 24
45	苗間字神明後 349-3, 350-4	(2016.8.18 ~ 19)	310	(19.44)	個人住宅	ピット、縄文土器等		市内 24
46	苗間 588-10	(2017.2.6)	108	(70)	道路拡幅	遺構なし。縄文土器		市内 24
47	苗間字神明後 354-1	(2017.4.21 ~ 24) 2017.4.25 ~ 5.2	401	(115.05)	個人住宅	炉穴、土坑、ピット、縄文土器		市内 24
48	苗間字東久保 717-3	(2017.5.15)	103	(7)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 24
49	苗間字東久保 569-1	(2017.5.22 ~ 23)	798	(252.8)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 24
50	苗間字東久保 717-12	(2017.7.10)	132	(23.55)	個人住宅	遺構なし。陶器		市内 24
51	苗間字神明前 510-12・13	(2018.4.26)	112.58	(5.1)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
52	苗間字神明前 564-1	(2019.2.12 ~ 13)	1,186	(233.61)	老人ホーム・ デイサービス	ピット、遺物なし		市内 25
53	苗間字東久保 572-2	(2019.7.30 ~ 31)	515	(28.71)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
54	苗間 584	(2019.10.16 ~ 21)	800.09	(140.13)	分譲住宅	土坑、遺物なし		市内 25
55	苗間字神明後 340-15	(2021.5.7)	57.92	(7.5)	施工作事	遺構遺物なし		市内 27
56	苗間 338-5 外 14 筆 2022.1.20 ~ 31	(2021.11.5 ~ 16・12.3 ~ 7) 2022.1.13 ~ 31	2,919.84	(693.1)	宅地造成	炉穴、土坑、ピット、溝、井戸		市内 26
57	苗間字神明後 510-7・11	(2022.1.13)	164	(47)	分譲住宅	遺構なし。縄文土器		市内 27

第9地点



第40図 清淨寺跡遺跡第9地点調査区域図(1/300)、土層(1/60)

III 清淨寺跡遺跡第55地点

(1) 調査の概要

調査は解体工事に伴うもので、原因者より2021年4月9日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2021年5月7日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約20~30cmである。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

IV 清淨寺跡遺跡第57地点

(1) 調査の概要

調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より2021年11月30日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2022年1月13日に試掘調査を実施した。

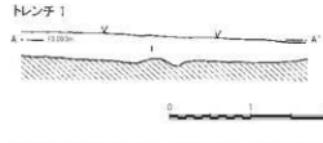
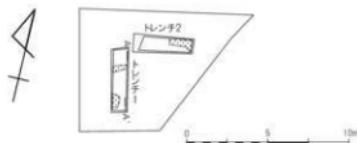
試掘調査は幅約2mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約40cmである。

調査の結果、遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

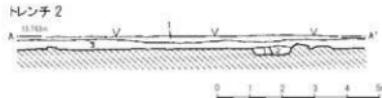
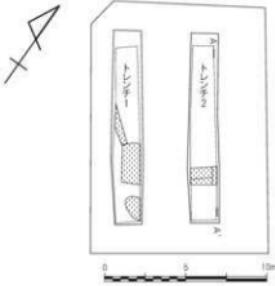
(2) 遺構と遺物

遺構外から縄文土器片が出土した。深鉢の底部で、胎土には白色粒子、金雲母を含む。縄文時代中期。

第55地点



第57地点



- I. 灰褐色土 粘性無。練り固。駐車場砂利層
- II. 黒褐色土 粘性有。練り固。5mm以下ローム多く含む。遺土・耕作土
- III. 黑褐色土 粘性有。練り固。2cm以下ロームやや多く含む。イモ穴?
- 2. 黑褐色土 粘性有。練り固。5cm以下ローム多く含む。イモ穴?

遺構外



第41図 清淨寺跡遺跡第55・57地点調査区域図(1/300)、第55地点土層(1/60)、第57地点土層(1/150)、出土遺物(1/4)

第 15 章 小田久保遺跡の調査

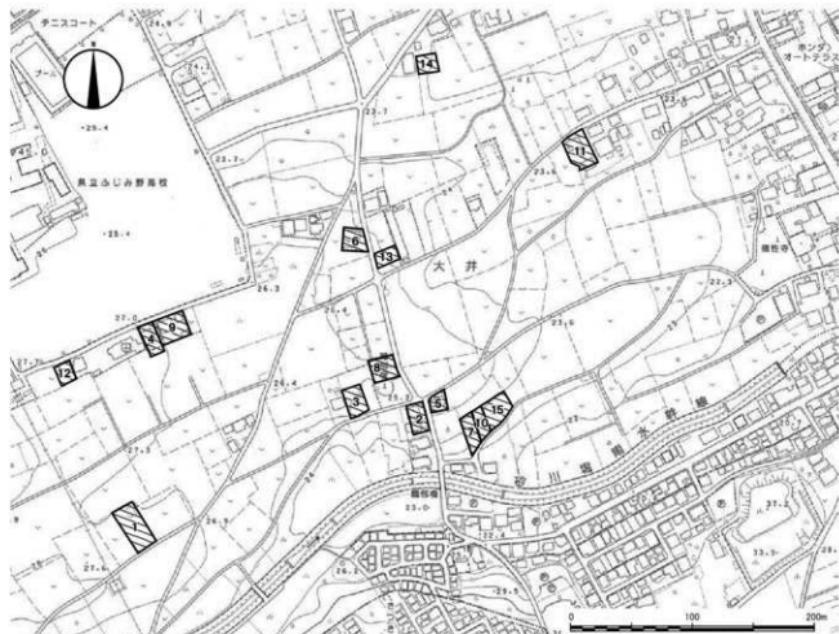
I 遺跡の立地と環境

小田久保遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約 1.3 km、砂川堀の左岸、標高 23 ~ 28m に位置する。本遺跡をのせる台地は緩やかな斜面を形成するが、対岸の南側台地は急傾斜をなす。

周辺の遺跡は、砂川堀を挟んだ南側台地上に旧石器時代の石器・礫群を検出した西台遺跡が、本遺跡の東側、微高地の突端には縄文時代前期住居を検出した大井氏館跡遺跡がある。

本遺跡は市街化調整区域のため比較的武藏野の面影を残す農村地帯だが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の波が押し寄せつつある。

1990 年に最初の試掘調査が行われて以来、過去の調査では数点の縄文土器片を確認しているだけであったが、2003 年と 2004 年の調査において本遺跡では初の住居跡を検出したことにより、本遺跡が縄文時代中期の集落である事が明らかとなりつつある。今後は集落の分布や範囲の解明が待たれる。分布調査や発掘調査から遺跡の時期は旧石器時代、縄文時代早期から中期、中近世である。2022 年 4 月現在 15ヶ所で調査を行っている。



第 42 図 小田久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第19表 小田久保遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	大井 1223-3	(1990.10.12 ~ 18)	694		資材置場	遺構なし、縄文土器		東XI
2	大井 1249-1	(1993.9.21 ~ 10.1)	498		個人住宅	遺構なし、縄文土器等		町内Ⅲ
3	大井 1214-3	(1994.6.7)	330		個人住宅	遺構なし、縄文土器等		町内IV
4	大井 1185-5	(1997.6.24 ~ 26)	271		個人住宅	土坑		町内Ⅴ
5	大井 1023 (2003.8.18 ~ 19) 2003.8.20 ~ 9.2		165		個人住宅	縄文時代住居跡1、ピット、溝、縄文土器等		町内XII
6	大井字小田久保 (2004.10.26 ~ 27) 1207-15 2004.10.29 ~ 11.3		306		個人住宅	縄文時代住居跡1、集石土坑、土坑、ピット、縄文土器等		町内XIII
7	大井字西原 1023-9・8 (2008.5.19 ~ 21)		333	(108)	個人住宅	遺構遺物なし		市内6
8	大井字小田久保 1211-1 (2010.3.3 ~ 9)		421	(174.7)	個人住宅	土坑、ピット、溝、縄文土器等		市内8
9	大井字小田久保 1185-1 (2010.3.8)		536	(91.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内10
10	大井字西原 1023-3 (2014.10.7)		317	(94.4)	個人住宅	土坑、縄文土器		市内20
11	大井字西原 985-4 (2015.5.14)		330.16	(30)	個人住宅	遺構遺物なし		市内22
12	小田久保 1190-1・2・ 4、1196-1・2 (2015.8.18)		279	(24)	個人住宅	遺構遺物なし		市内22
13	大井字西原 1032-27 (2018.10.9)		203.12	(49.2)	個人住宅	遺構遺物なし		市内25
14	大井字西原 1040-1 (2019.4.16)		321	(14.8)	個人住宅	遺構遺物なし		市内25
15	大井字西原 1023- 10・11 (2021.4.8)		336	(90.5)	個人住宅	遺構なし、縄文土器		市内27

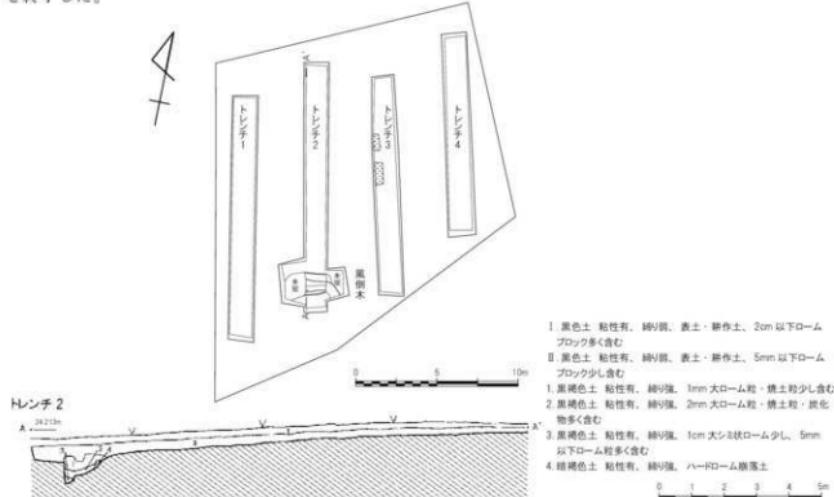
II 小田久保遺跡第15地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2021年3月12日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2021年4月8日に試掘調査を実施した。

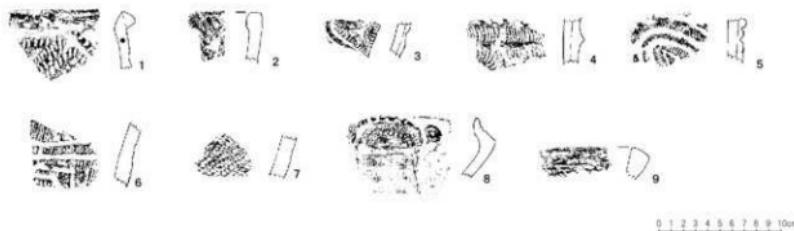
試掘調査は幅約1.5mのトレンチ4本を設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約20~65cmである。

調査の結果、縄文土器が少量出土した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第43図 小田久保遺跡第15地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)

遺構外



第 44 図 小田久保遺跡第 15 地点出土遺物 (1/4)

第 20 表 小田久保遺跡第 15 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・備考	時期・型式
1	遺構外	縄文式土器・深鉢	—	—	—	口縁部片、キザミのある隆帯に沿って連続刺突文が入る。	縄文時代中期
2			—	—	—	口縁部片、地文は多条の RL。	縄文時代中期
3			—	—	—	胸部片、半截竹管文と連続刺突文、三叉文。	縄文時代中期
4			—	—	—	胸部片、断面三角形の隆帯に沿った幅広の連続刺突文。	縄文時代中期
5			—	—	—	胸部片、キザミの入る 2 本一組の隆帯に沿って連続刺突文。	縄文時代中期
6		縄文式土器・浅鉢	—	—	—	胸部片、地文燃系しに幅広の沈線で文様を構成。	縄文時代中期
7			—	—	—	胸部片、地文鋸歯 RL。	縄文時代中期
8			—	—	—	口縁部片、幅広な逆 L 字条のキザミの入る隆帯に沿って半截竹管による連続刺突文に円環の粘貼文。	縄文時代中期
9			—	—	—	口縁部片、赤彩の痕跡がみられる。	縄文時代中期

第16章 本村遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

本村遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約800m、砂川堀の左岸で標高15～20mに位置する。遺跡内には旧砂川の流路であった埋没河川が幾筋も認められ、それに取り残されるように微高地が存在する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。

砂川堀の流域には多くの遺跡で、旧石器時代からの人々の活動の跡をみることが出来る。現在においても砂川の果たす役割は当時にも増して大きいものであるが、残念ながらその役割は大きく異なり、用水機能としての砂川から排水機能の砂川堀と言うのが現在の状況である。市内を流れる砂川堀も河川改修により、その姿を都市下水路に変え、往時を忍ばせる面影は残されていない。

周辺の遺跡では、砂川堀を挟んで縄文時代中期の大集落と奈良平安時代の製鉄関連遺跡である東台遺跡、旧石器時代の大井戸上遺跡と西台遺跡が位置する。左岸には旧石器時代～縄文時代の小田久保遺跡、旧石器時代～近世の大井氏館跡遺跡が位置する。本遺跡が中世から近世にかけての中心的な集落とするならば、大井氏館跡遺跡は近世川越街道整備以後の中心的な宿場及び、集落とみることができる。いずれにしても、町内における砂川堀流域の本村遺跡周辺は、旧石器時代より良好な生活・住環境であったことがわかる。

2022年4月現在、140地点で調査を行い、旧石器時代の礫群・石器集中、縄文時代の落とし穴・炉穴、中世～近世の掘立柱建物跡・方形竪穴状遺構・井戸・溝・柵列・地下式壙・茶毬跡などを多数検出している。

II 本村遺跡第138地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2021年3月24日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2021年4月5日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。現地表面から60cm掘削したが、地山ローム層は確認できなかった。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

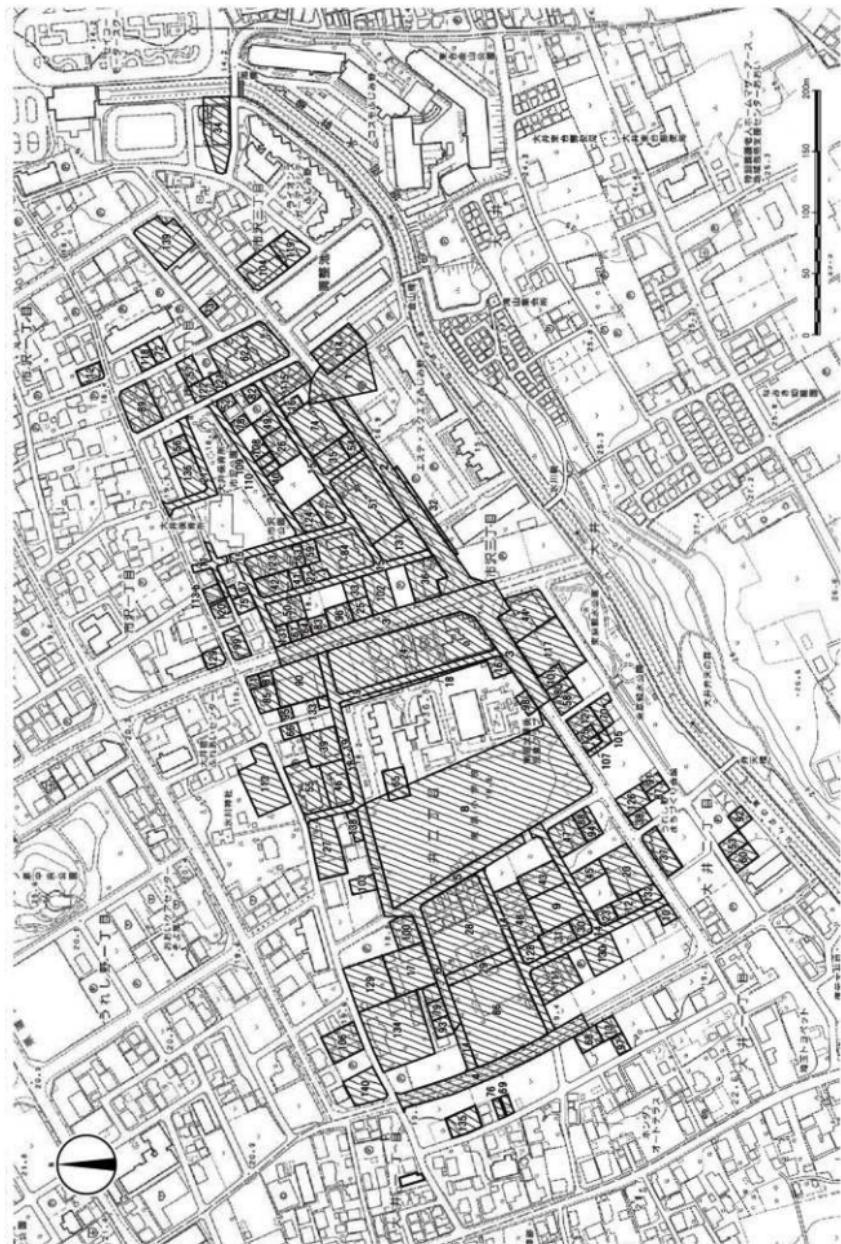
III 本村遺跡第139地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2021年3月10日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2021年4月20日、5月10日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレンチ3本を設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約40～50cmである。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

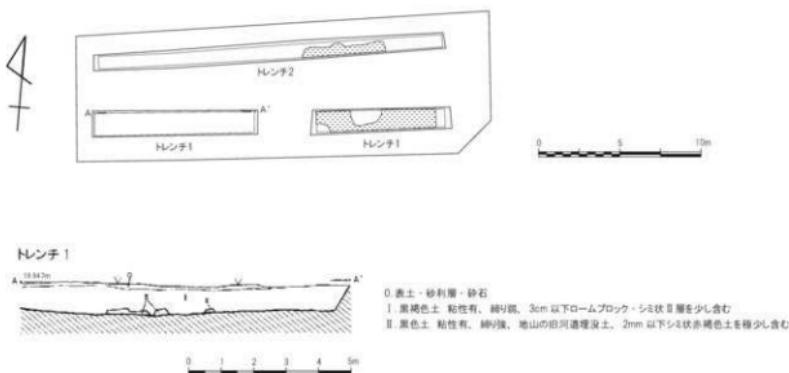


第45図 本村遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

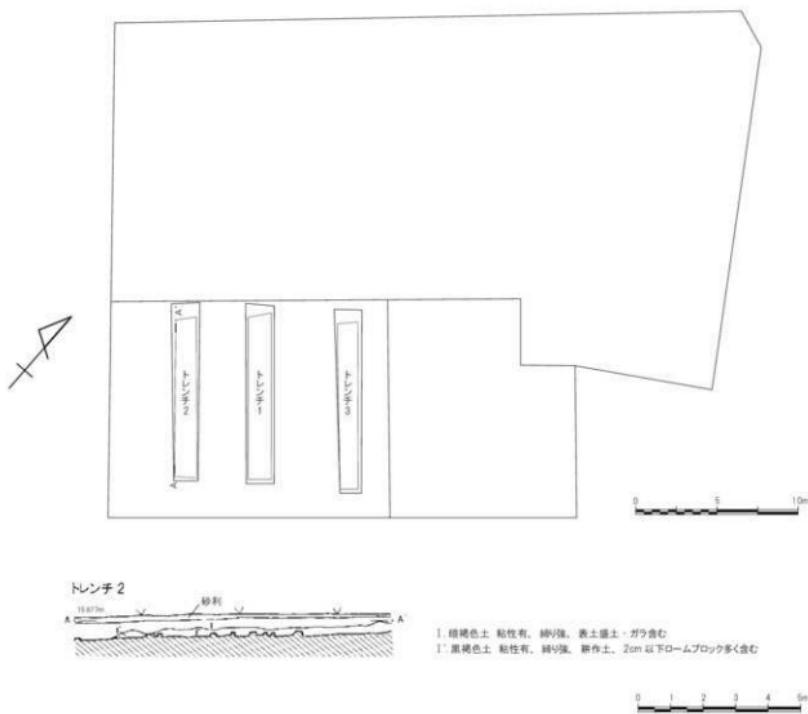
第21表 本村遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
96	市沢 2-8-5	(2001.7.10 ~ 13)	301	(99)	個人住宅	遺構なし、板磚片		町内X
97	大井 1-7-11	(2001.7.11 ~ 12)	132.0	(40.5)	個人住宅	遺構遺物なし		町内X
98	大井 2-9-3	(2001.12.17 ~ 19)	144	(17)	字屋保育	溝、遺物なし		町内X
99	市沢 2-1-1	(2002.6.19 ~ 21) 2002.7.1 ~ 31	446	300	共同住宅	旧石器標群、石器集中、土坑、ピット、櫛状、旧石器等		大調 15、町内XII
100	大井 2-20-7	(2002.8.20 ~ 26)	463		分譲住宅	遺構遺物なし		町内XII
101	大井 2-11-3	(2002.9.30 ~ 10.4)	217		店舗併用住宅	溝、磁器片		町内XII
		(2002.11.11 ~ 15)						
102	市沢 2-8-8	2002.12.11 ~ 2003.2.10	1,264		共同住宅	落とし穴、土坑、ピット、溝、井戸、柱穴跡、道路状遺構、陶磁器片等		大調 15、町内XII
103	大井 143	(2003.2.13 ~ 15)	237		個人住宅	土坑、ピット		町内XII
104	市沢 3-4-1	(2003.5.14 ~ 30)	804		共同住宅	炉穴、土坑、ピット、溝、地下式坑、段切		町内XII
105	大井 2-12-4	(2003.6.4 ~ 6)	131		個人住宅	土坑		町内XII
106	大井 2-1-11	(2003.7.2 ~ 8)	135		分譲住宅	遺構遺物なし		町内XII
107	大井 2-12-4	(2003.7.3 ~ 5)	130		個人住宅	土坑、ピット、溝		町内XII
108	市沢 2-6-25	(2003.7.17 ~ 23)	109		個人住宅	ピット		町内XII
109	市沢 2-6-26	(2003.7.17 ~ 23)	114		個人住宅	遺構遺物なし		町内XII
110	市沢 2-6-27	(2003.10.16 ~ 18)	101		個人住宅	遺構遺物なし		町内XII
111	大井 2-16-2	(2003.11.4 ~ 20) 2003.11.21 ~ 12.11	1,033	740	分譲住宅	炉穴、土坑、ピット、溝、地下式坑、木炭灰、遺構、陶磁器等		大調 21
112	市沢 1-17-16	(2004.7.27)	289		共同住宅	遺構遺物なし		町内XII
113	大井 2-4-8	2002.8.22	1,051		駐車場	遺構遺物なし		町内XII
113-b	市沢 2-2-3	(2005.5.9 ~ 10)	162	(27)	個人住宅	ピット、櫛列		市内 2
114	市沢 3-2-1 ~ 12	(2005.10.21 ~ 28)	887	(129)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 2
115	市沢 2-10-6	(2005.11.21 ~ 29)	573	(170)	分譲住宅	中世後半建物跡4、土坑、ピット、溝、井戸、中世陶磁器等		市内 2
116	市沢 2-10-4 の一部	(2006.1.17)	168	(9)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 2
117	大井 2-11-4 ~ 6	(2006.3.22 ~ 4.14)	1,582	(1,487)	店舗	土坑、溝、ピット、櫛列、近世陶磁器		市内 2・3
118	市沢 2-12-13	(2006.5.24 ~ 25)	257	(80)	個人住宅	落とし穴、遺物なし		市内 3
119	市沢 3-4-24	(2006.5.25)	559	(245)	共同住宅	土坑、ピット、地下式坑、カワラケ等		市内 5・6
120	市沢 2-2-2	(2008.12.18)	141	(15)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 6
121	市沢 2-11-9	(2009.4.22)	150	(15)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 8
122	市沢 2-11-26 ~ 27	(2009.5.25 ~ 6.3)	301	(121)	宅地造成	地下式坑、カワラケ等		市内 8
123	市沢 2-7-2	(2010.7.5 ~ 9)	619.57	(218)	宅地造成	遺構遺物なし		市内 10
124	市沢 2-6-1	(2010.7.8 ~ 12)	428	(80)	宅地造成	土坑		市内 10
125	大井 2-12-17	(2010.9.6)	143	(40)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 10
126	大井 2-12-2	(2010.10.4 ~ 6)	611	(126)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 10
127	大井 2-12-5 ~ 16 ~ 18	(2010.11.4 ~ 8)	417	(112)	分譲住宅	臼洗跡、遺構遺物なし		市内 10
128	大井 2-18-1	(2014.11.17 ~ 27)	327	(103.5)	分譲住宅	ピット、溝、井戸、遺物なし		市内 29
129	市沢 1-1-8	(2012.8.28)	262		個人住宅	遺構遺物なし		市内 15
129	大井 2-20-4	(2015.11.5 ~ 13)	1,253.9	(397.3)	宅地造成	ピット、陶磁器		市内 22
130	大井 2-16-17	(2015.11.16 ~ 20)	776	(263.3)	分譲住宅	土坑、ピット、土器		市内 22
131	市沢 2-8-2	(2016.3.4 ~ 8)	135.18	(22.18)	共同住宅	遺構遺物なし		市内 22
132	大井 2-17-9	(2016.8.4 ~ 5)	212	(63.2)	分譲住宅	溝、陶磁器		市内 24
133	大井 2-7-6	(2016.10.11)	107.54	(18.75)	個人住宅	ピット、遺物なし		市内 24
134	大井 2-20-2・3・9	(2017.6.5 ~ 16)	2,670.6	(655.4)	宅地造成	ピット、溝、磁器		市内 24
135	大井 1-4-9・10 の一部	(2018.9.19)	698	(52.52)	分譲住宅	遺構なし、陶磁器		市内 25
136	市沢 2-4-7	(2018.10.17 ~ 19)	651	(140.7)	駐車場	旧石器標群、落とし穴、土坑、ピット、溝、地下式坑、段切、石器		市内 24
137	市沢 2-9-1 ~ 8・9	(2019.4.8 ~ 9)	843	181.99	個人住宅	ピット、遺物なし		市内 25
138	大井 2-3-7・8	(2021.4.5)	205	(49.2)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 27
139	市沢 2-14-4 ~ 5・6・7	(2021.4.20, 5.10)	776.64	(52)	共同住宅	遺構遺物なし		市内 27
140	大井 2-1・8	(2022.2.27 ~ 24)	692	(182.85)	分譲住宅	溝、遺物なし		市内 27

第138地点



第139地点



第46図 本村遺跡第138・139地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)

IV 本村遺跡第140地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原請者より2022年1月21日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2022年2月22・24日に試掘調査を実施した。

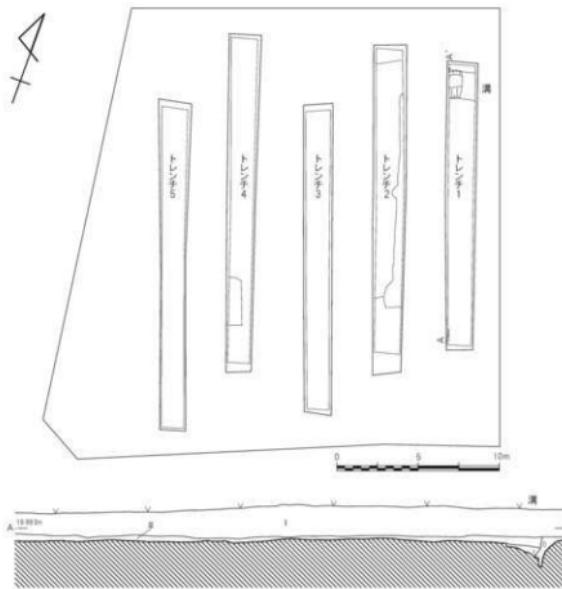
試掘調査は幅約1.7～2mのトレンチ5本を設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約110cmである。

調査の結果、溝1条を確認した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

①溝

溝は調査区北側で検出した。東西方向に伸長すると思われる。断面形態は不明。遺構の規模は上幅173cm、下幅63～73cm、深さ48.5cmを測る。出土遺物はなく時期は不明である。



I 盆土の耕作土 黒色土、粘性有、緻密弱、表土耕作土、区画整理で盛った黒土。上層柔らかく下層硬い

II 耕作土 黒褐色土、粘性有、緻密強、黒褐色土とロームを斑状に含む

0 黑色土、粘性有、緻密弱、2cm以下ロームを少し含む、现代耕作痕

1 黑色土、粘性有、緻密弱、黑色土主体に3cm以下ロームを少しあむ、溝の土層



第47図 本村遺跡第140地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)

I 遺跡の立地と環境

東台遺跡は東武東上線ふじみ野駅の南約1km、砂川堀右岸の台地上に位置する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武藏野台地上を南西から北東に流れ新河岸川に合流する。標高は24～26mで砂川堀との比高差は約5mで急崖を成し、左岸が緩やかな傾斜を成すのとは対照的である。

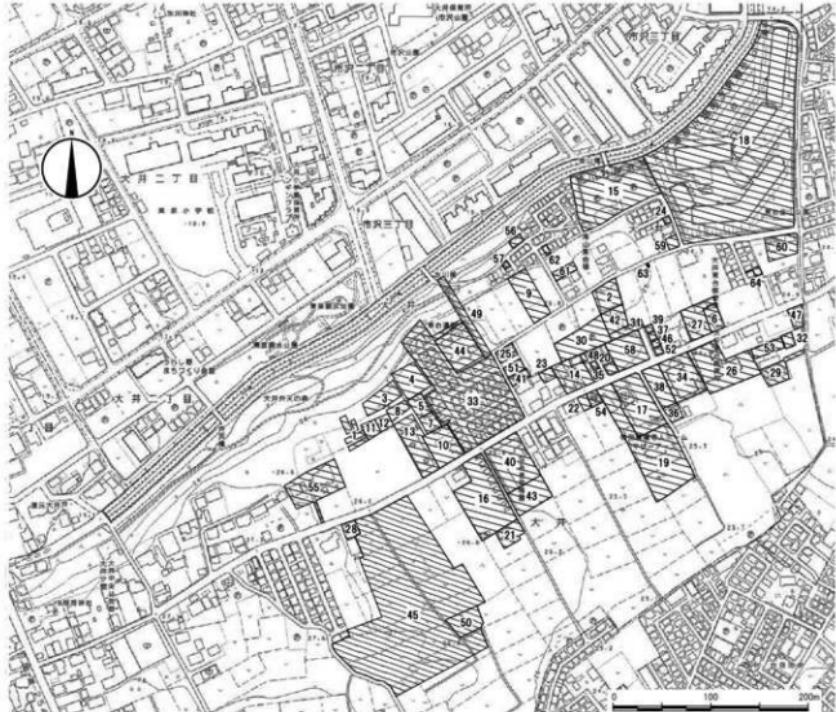
遺跡内には砂川堀に向かって小さな埋没谷が数本確認されている。遺跡の範囲は東西700m、南北250m、遺跡面積約170,000m²、市内で最大規模の遺跡であり、約17%の30,000m²を調査している。

2022年4月現在、64地点で調査を行っている。旧石器時代の調査では、第18地点の調査で埋没谷に沿った崖沿いにVI・VII層～IV層下部のナイフ型石器を伴う砾群等が分布する。

縄文時代の調査では、住居跡等多数の遺構と遺物が確認されている。特に中期の住居跡は双環状に配置しており武藏野台地縁辺部における拠点集落の一つである。

奈良・平安時代には遺跡の北東部の第15・18地点で8世紀後半の製鉄炉や木炭窯など、県内でも有数の規模と古さを誇る製鉄関連遺跡を検出している。

周辺の遺跡は、砂川堀右岸の西約50mに大井戸上遺跡、西約300mに旧石器時代の西台遺跡が位置する。また、砂川堀を挟んだ左岸に旧石器時代～近世の本村遺跡と大井氏館跡遺跡が位置する。今後、旧石器時代では西台遺跡・本村遺跡との関係が、奈良・平安時代から中世にかけては本村遺跡・大井氏館跡遺跡との関係が注目される。



第48図 東台遺跡の地形と調査区（1/5,000）

第22表 東台遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は試底調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試底)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1 大井東台		1981			町史編纂	遺構なし、縄文時代土器	
2 大井東台 640-4		1983.12.14 ～ 1982.2.13	667		宅地造成	縄文時代住居跡 12、石器	東部Ⅲ
3 大井東台 672		1982.5.19～6.15	666		宅地造成	炉穴、土坑、柱穴跡	東部Ⅳ
4 大井東台 671		1982.6.17～11.18	587		農地転用	縄文時代住居跡 4、集石、土坑、溝	東部Ⅳ
5 大井東台		1983.7.25～8.9	195		町史編纂	縄文時代住居跡 2、土坑	東部Ⅰ
6 大井東台		1984.1.9～1.12			宅地造成	縄文時代住居跡 1	
7 大井東台 670-2		1984.5.15～6.13	345		共同住宅	縄文時代住居跡 6	市史書!
8 大井東台 672		1984.8.18～9.21	345		町史編纂	縄文時代住居跡 3、炉穴、土坑	東部Ⅱ
9 大井東台		1984.10.25 ～ 1985.2.15	1,000		駐車場	縄文時代住居跡 22、石器礫群、炉穴、ビット群	町史書!
10 大井東台 670-1		1985.10.1～11.25	896		住宅	縄文時代住居跡 5、土坑	東部Ⅵ
11 大井東台 673		1986.1.14～3.20	660		宅地造成	縄文時代住居跡 2、集石、土坑、ビット	東部Ⅵ
12 大井東台 673		1987.5.6～6.26	330		転地造成	縄文時代住居跡 1、古代住居跡 2、土坑、溝	東部Ⅶ
13 大井東台 670-6		1988.1.14～2.27	971		倉庫	縄文時代住居跡 8、集石、土坑、ビット	東部Ⅷ
14 大井東台 649-16他		1988.1.27～2.24	735		住宅	縄文時代住居跡 12、集石土坑、土坑、ビット	東部Ⅸ
		(1989.10.17～11.10)					
15 大井市沢 577-1他		1989.11.17 ～ 1990.8.1	700		住宅	落とし穴、木炭灰、粘土探査机、土器	東部Ⅹ
16 大井 713-4・5		(1990.8.1～4)	3,048		資材置場	縄文住居跡 1か、土坑、縄文土器	東部XI
17 大井 621-1		(1990.9.5～12)	1,470		診療所	縄文時代住居跡 8、土坑、ビット、種列、縄文土器	東部XI
18 大井 529-1、588		(1991.3.1～5.20) 1992.2.24～1994.7.5	20,000		共同住宅	旧石器礫群、石器集中、落とし穴、整形軋壓坑、木炭灰、探査坑、土坑、溝、種列、道路跡、土器	東部製鉄
19 大井 621		(1992.5.31～6.7)	4,489		特養新設	縄文時代住居跡 8	町内 I
20 大井 649-27		1992.1.30	5		個人住宅	縄文時代住居跡 1か、縄文土器	町内Ⅸ
21 大井 713-11・12		1992.3.7～11	299.94		個人住宅	遺構なし、縄文土器	町内Ⅸ
22 大井 651-6		(1994.5.10～11) 1994.5.30～7.30	146		店舗	縄文時代住居跡 6、土坑	大井 13
23 大井 649-12・13		(1995.6.23～27)	285.71		個人住宅	縄文時代住居跡 2、縄文土器	町内IV
24 大井 634-20		(1995.7.6)	58.49		個人住宅	集石、土坑	町内IV
25 大井 648-13・14		1995.10.31～17.16	296.04		個人住宅	縄文時代住居跡 6、土坑、ビット	町内IV
26 大井東台 601-1・4・5		(1996.11.6～18) 1997.1.14～3.18	2,248.14		共同住宅	縄文時代住居跡 1、土坑、落とし穴、ビット	大井 13
27 大井 600-1		(1997.2.19)	965.41		個人住宅	縄文時代住居跡 1、土坑、土坑、落とし穴、ビット	町内VI
28 大井東台 710-4		1997.2.19～3.14	231		個人住宅	遺構なし、縄文土器片	町内VI
29 大井東台 606-3		(1998.2.27～3.31) 1998.3.4～5	500.27		個人住宅	炉穴、ビット	町内VI
30 大井 640-1		(1998.11.4～12)	1,330		駐車場	縄文時代住居跡 1、屋外炉、ビット	町内Ⅸ
31 大井 630-3、640-8		(1999.5.7～21)	186	(76)	道路接道	縄文時代住居跡 2(プランのみ)	町内IX
32 大井 603-1		(2000.8.4～9)	92	(50)	副生工場	ビット	町内X
33 大井 662-1		(2000.8.4～8) 2000.8.10	7,076	411	分譲住宅	縄文時代住居跡 34、園立建物跡 1、石器群、礫群、炉穴、集石土坑 等	町内 X
34 大井東台 624-2		(2002.3.12～25) 2002.3.26～5.8	1,414	608	共同住宅	縄文時代住居跡 5、土坑、ビット	町内XI
35 大井東台 649-31		(2001.9.6～8)	48	(75)	個人住宅	縄文時代住居跡 1	町内XI
36 大井東台 614		(2001.10.15～11.2)	272	(136)	倉庫	ビット、石器群	町内XI
37 大井東台 626-12		2001.10.12～11.5	100	101	個人住宅	縄文時代住居跡 2、ビット	町内XI
38 大井東台 614-3		(2002.1.28～2.15)	787	(400)	駐車場	縄文時代住居跡 1、集石土坑、土坑、ビット	町内XI
39 大井 626-8		(2002.6.3～20)	100		個人住宅	ビット、縄文土器片	町内XI
40 大井 661		(2003.10.5～11.4)	1,875		幼稚園	机机、ビット、種列	町内XI
41 大井東台 648-4		(2004.5.11～14)	182		個人住宅	縄文時代住居跡 3、集石、土坑、ビット	町内XI
42 大井 640-7		(2004.9.7～17)	515		教会	縄文時代住居跡 2、落とし穴、土坑、ビット	町内XI
43 大井東台 661-6		(2005.1.13)	964		駐車場	ビット	町内 XI
44 大井東台 664-15		2005.12.8～28	200	109	個人住宅	縄文時代住居跡 3、土坑、ビット	町内 2
45 大井東台 710-1、 711-1, 717-1・2		(2006.5.31～9.1) 2006.9.8～2007.3.7	17,391	7,971	東台小学校	縄文時代住居跡 4、土坑、ビット	町内 3
46 大井東台 717-3		(2007.5.22～6.19)	573	(573)	小学校設		
47 大井東台 626-11		(2006.9.4～6) 2006.9.15～28	100.02	80	個人住宅	縄文時代住居跡 2、集石、土坑	町内 3
48 大井東台 602-4・5		(2006.9.19～29)	320	(80)	個人住宅	遺構遺物なし	町内 3
49 大井東台 649-21		(2007.1.16～26)	60	(25)	個人住宅	縄文時代住居跡 3	町内 3
50 大井東台 716-1 の 一部		(2008.1.28～30) 2008.1.31～2.3	174	(174)	東台小学校 プール建設	縄文時代住居跡 6(内 5軒未検出)、屋外埋甕、粘土探査机、土坑、ビット、溝	町内 4
			30		通学路設置		
			646	208	東台小学校 プール建設	遺構遺物なし	町内 6

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	調査面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
51	大井東台 648-2	(2009.3.10～18) 2009.4.7～5.7	296.6	(114.2)	個人住宅	縄文時代住居跡6、土坑、ピット、縄文土器等	市内 6
52	大井東台 626-8・14	2009.5.12～19	100	36.5	分譲住宅	縄文時代住居跡1、縄文土器	市内 8
53	大井東台 603-1	(2011.8.8～18)	1,251	(130)	工場	井戸、縄文土器	市内 14
54	大井東台 651-6・ 13・14	(2011.9.5～12)	309.3	(25)	店舗	縄文時代住居跡1、縄文土器	市内 14
55	大井東台 694-2・3	(2011.9.20～22)	1,268	(20)	個人住宅	遺構遺物なし	市内 14
56	大井東台字市沢 296- 4	(2012.1.11)	59.6	(5)	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 14
57	大井東台 644-9の一 部	(2013.4.5～11)	31.4	(4)	個人住宅	遺構遺物なし	市内 18
58	大井東台 625-1	(2014.7.1～8.4)	1,175.47	(399)	店舗	縄文時代住居跡15(プランのみ)、土坑、縄文土器等	市内 20
59	大井東台 633-6	(2014.7.15)	145.91	(32.5)	個人住宅	遺構なし、縄文土器	市内 20
60	大井 597-2	(2015.7.7)	687.77	(75.5)	個人住宅	遺構遺物なし	市内 22
61	大井東台 639-25	(2017.9.21)	249.00	(53.7)	個人住宅	ピット、縄文土器、石器	市内 24
62	大井東台 638-17	(2017.12.25)	57.96	(7.5)	個人住宅	ピット、遺物なし	市内 24
63	大井東台 630-3	(2022.3.9)	2.25	(2.25)	アンテナ設置 用	遺物なし	市内 27
64	大井東台 596-16	(2022.3.4)	76.42	(3.5)	個人住宅	遺構遺物なし	市内 27

II 東台遺跡第 63 地点

(1) 調査の概要

調査はアンテナ設置に伴うもので、原因者より 2022 年 1 月 21 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部やや東寄りに位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2022 年 2 月 9 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.2m のトレンチ 1 本を設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 60 cm である。

調査の結果、溝 1 条を確認した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

調査区北側から溝を 1 条検出した。断面形態 U 字形で、上幅は 50 cm、下幅は 19 cm、深さは 35 cm を測る。隣接する根切り溝と平行し、南北に伸長する。

III 東台遺跡第 64 地点

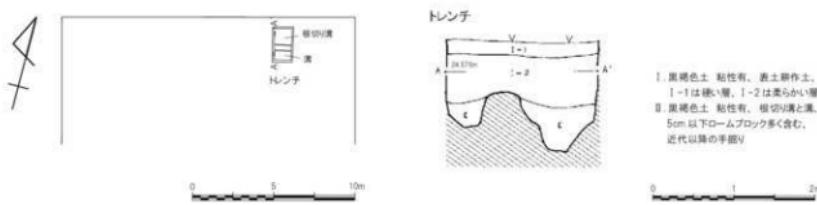
(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2022 年 2 月 28 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2022 年 3 月 4 日に試掘調査を実施した。

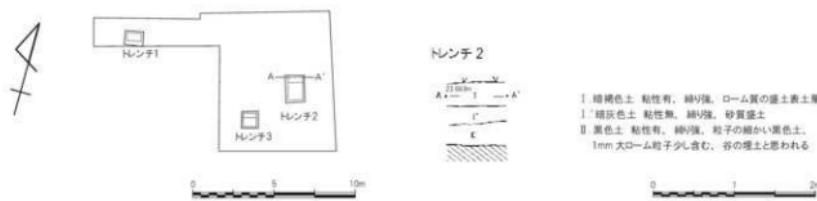
試掘調査は幅約 1m のトレンチ 3 本を設定し、重機による表土除去後に人力による表面精査を行った。現地表面から約 60cm 下までローム質と砂質の盛土がされている。そのため、地山ローム層は確認できなかつた。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

第 63 地点



第 64 地点



第 49 図 東台遺跡第 63 地点遺構配置図・第 64 地点調査区域図 (1/300)、第 63・64 地点土層 (1/60)

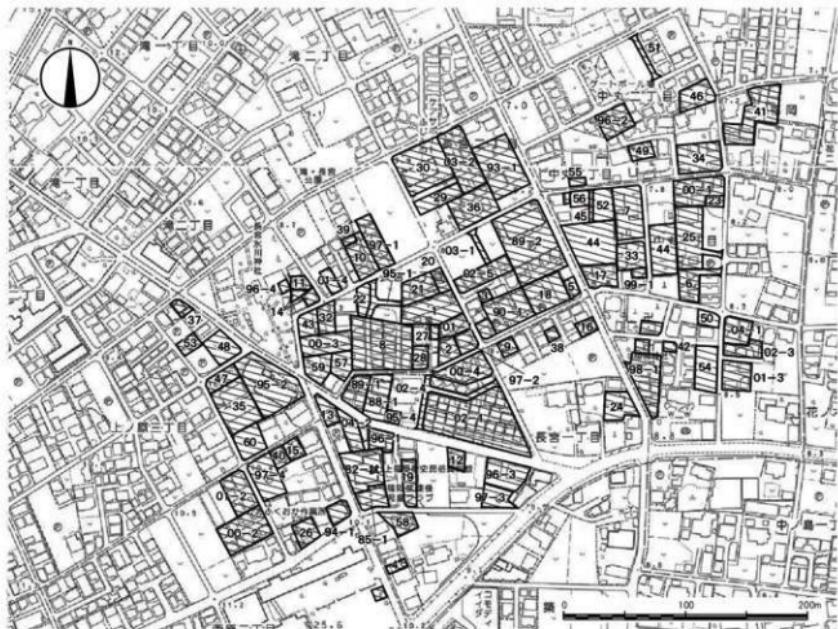
第II部 民間開発に伴う調査の成果

第1章 長宮遺跡第60地点の調査

I 遺跡の立地と環境

長宮遺跡は、武藏野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武藏野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面に立地している。この低位の段丘面には「熊の山」と呼ばれた山林を湧水源とする清水が流れ（現在は排水溝として利用）、幅100mほどの緩い小支谷を形成し、清水の北側左岸に滝遺跡、南側右岸に長宮遺跡が分布する。北東側は荒川低地の沖積地と接し、500m南側には福岡江川が流れ、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北300m、東西500m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畠が残っている。

遺跡の西方には長宮氷川神社があり、この神社の縁起伝承には「長宮千軒町」として繁盛したが、戦国期に壊滅した旨が記されている。周辺の遺跡は、北側に绳文時代早・前期、古墳時代前・後期から奈良・平安時代の遺跡である滝遺跡、南側には飛鳥・奈良・平安時代、中近世の松山遺跡が隣接する。1977年の保育園建設に伴う緊急調査で中世の屋敷地と思われる遺構群を検出したのをはじめ、宅地造成などにより2022年4月現在96ヶ所で調査を行っている。主たる時代と遺構は绳文時代早期後葉から前期・中期・後期前葉までの集落跡、南側の松山の松山遺跡寄りに飛鳥時代の住居跡、中世末から近世初頭の屋敷跡や長宮氷川神社参道に関係のある溝跡などである。



第50図 長宮遺跡の地形と調査区(1/4,000)

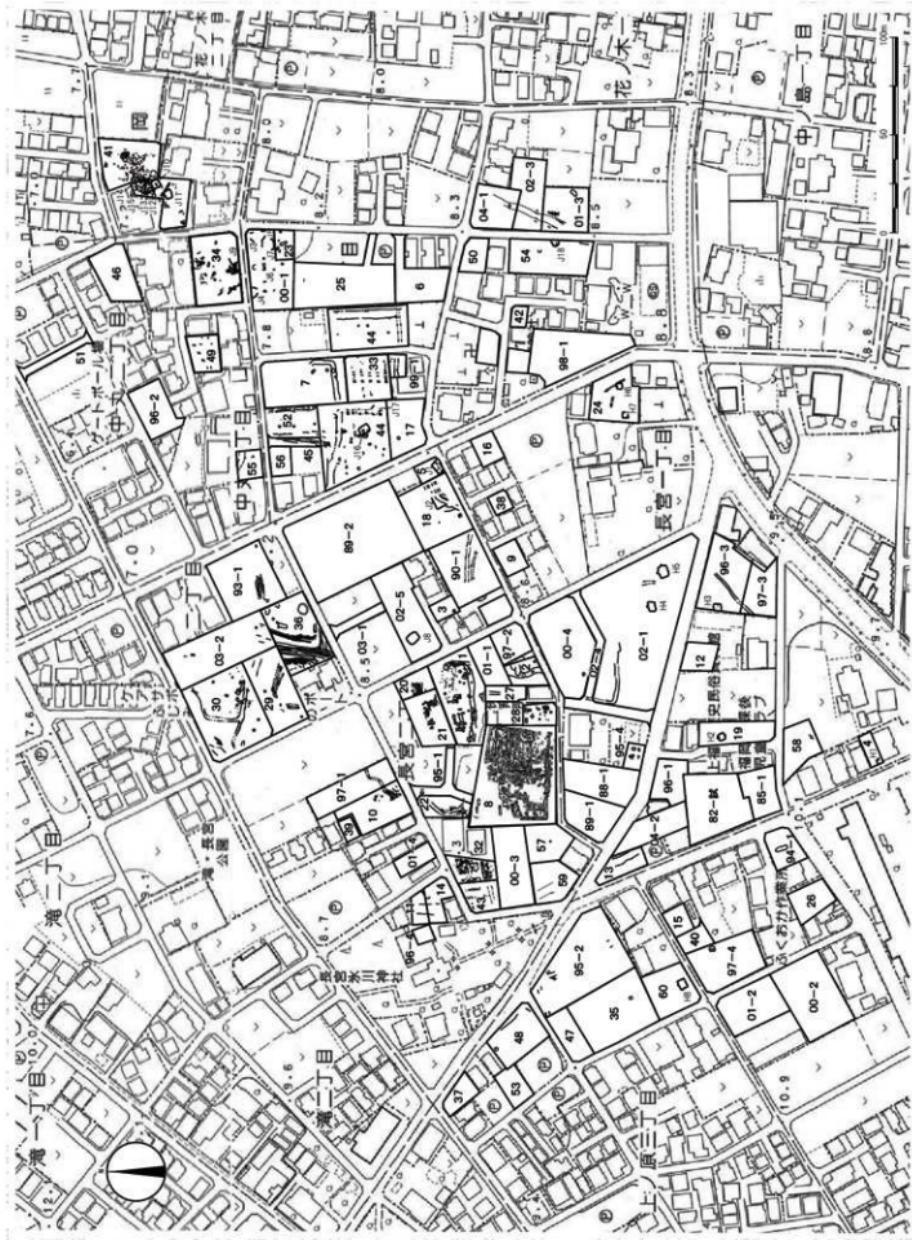
第23表 長宮遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1次	長宮 2-1-23	1977.10.3 ~ 30	1,000		保育園	土坑、柱穴、溝、板磚等		川崎 3次・長宮
2次	長宮 2-1-27	1978.4.25 ~ 5.15	235		住宅建設	土坑、溝、石臼	上層 I	
3次	長宮 2-5-11	1978.7.24 ~ 30	111		住宅建設	土坑、遺物なし	上層 I	
4次	長宮 1-1-14	1978.10.6 ~ 9	37			古代住居跡 1、土師器等	上層 I	
5次	長宮 2-5-2	1979.4.16 ~ 20	110			織文時代住居跡 1、縄文土器	上層 II、IV	
6次	長宮 1-4-13	1980.4.23 ~ 24	515			遺構なし、陶器	上層 III	
7次	中丸 1-3-6	1980.5.13 ~ 31	869			溝、井戸、縄文土器等	上層 III	
8次	長宮 2-1-10 ~ 13	1980.9.8 ~ 10.8	1,900		宅地造成	土坑、溝、井戸、板磚等	上層 I	
9次	長宮 1-4-16	1980.9.21 ~ 30	200			遺構なし、陶器	上層 III	
10次	長宮 2-3-4	1980.12.5 ~ 15	485			土坑、溝、板磚等	上層 III	
11次	長宮 2-2-10	1980.12.16 ~ 18	117			溝、縄文土器等	上層 III	
12次	長宮 1-2-7	1981.5.26 ~ 30	160		駐車場	遺構なし、縄文土器	上層 IV	
13次	長宮 1-2-13	1981.6.3 ~ 11	251		個人住宅	溝、縄文土器	上層 IV	
14次	長宮 1-2-12		1,000			歴史民俗資料館 溝	S57 上社	
15次	西原 2-5-8	1985.9.24 ~ 27	156		個人住宅	溝、大窓	上層 IV	
16次	西原 2-2-1	1985.10.27 ~ 31	119		個人住宅	遺構なし、縄文土器	上層 VI	
B5-1	長宮 1-2-11	(1986.3.6 ~ 15)	400			土蔵保管 溝	S60 上社	
16次	長宮 1-4-7	1986.6.9 ~ 17	173		個人住宅	遺構なし、縄文土器	上層 IX	
17次	中丸 1-3-11	1987.6.19 ~ 30	504		個人住宅	土坑、縄文土器	上層 X	
B8-1	長宮 1-3-8	(1988.9.13 ~ 16)	657		住宅建設	遺構無し物なし	上層 11	
89-1	長宮 1-3-9	(1989.9.20 ~ 30)	448		住宅建設	遺構なし、縄文土器等	上層 12	
B8-2	長宮 2-5-19	(1989.11.14 ~ 24)	1,778		住宅建設	遺構なし、縄文土器	上層 12	
90-1	長宮 2-5-4	(1990.11.27 ~ 30)	919		共同住宅	溝、遺物なし	上層 13	
18次	長宮 2-5-3	1992.10.6 ~ 12.2	915		共同住宅	縄文時代住居跡 1、集石、土坑、溝、縄文土器	上層 15	
19次	長宮 1-2-21 ~ 35	1992.12.17 ~ 1993.1.22	467		駐車場	古墳時代住居跡 1、遺憲器等	上層 15	
B9-1	長宮 2-4-2 の一部	(1994.2.10 ~ 26)	1,501.54		共同住宅	土坑、溝、板磚	H5 上社	
94-1	西原 2-5-1	(1994.7.25 ~ 8.2)	314		心身障害者	溝、遺物なし	上層 17	
20次	長宮 2-1-22 の一部	1995.4.10 ~ 5.9	169.59		個人住宅	溝、陶器等	上層 18	
21次	長宮 2-1-63 ~ 65	(1995.6.19 ~ 8.8)	360.94		個人住宅	土坑、溝、井戸、陶器等	上層 18	
95-1	長宮 2-1-20 外	(1995.8.9 ~ 28)	421		牛道敷設	溝、縄文土器等	上層 18	
95-2	上ノ原 3-1-6 外 4 奥	(1995.10.4 ~ 12)	1,528		共同住宅	縄文土器	上層 18	
22次	長宮 2-1-60	(1995.10.23 ~ 25)	269		駐車場	土坑、ピット、溝、井戸、陶器等	上層 6、上層 18	
95-4	長宮 1-3-13	(1995.12.12 ~ 25)	120		駐車場	土坑、溝、縄文土器等	上層 18	
96-1	長宮 1-2-16	(1996.7.12 ~ 18)	348.52		宅地造成	遺構なし、土師器等	上層 19	
96-2	中丸 2-2-9 他 3 庫	(1996.11.17)	568		宅地造成	遺構無し物なし	上層 19	
96-3	長宮 1-2-4	(1997.1.14 ~ 21)	794.16		共同住宅	古代住居跡 1、浜土遺構、土師器	上層 19	
96-4	長宮 2-2-4	(1997.2.24)	204.78		社務所・施設	遺構無し物なし	H8 上社	
97-1	長宮 2-3-3	(1997.4.8 ~ 9)	611		施設	離島天地返し	上層 20	
97-2	長宮 2-1-2	(1997.4.9 ~ 11)	289		個人住宅	溝、遺物なし	上層 20	
97-3	長宮 1-2-36 ~ 37	(1997.6.4 ~ 5)	423.33		駐車場	溝、土師器等	上層 20	
97-4	西原 2-5-6	(1997.8.15 ~ 21)	753		駐車場	堅穴状遺構、土師器等	上層 20	
98-1	中丸 1-2-4	(1998.11.24 ~ 27)	1,014		宅地造成	遺構なし、縄文土器等	上層 21	
99-1	中丸 1-3-12	(1999.11.16 ~ 16)	98		個人住宅	溝、石器、縄文土器等	上層 22	
00-1	中丸 1-4-7	(2000.7.4 ~ 11)	932		宅地造成	鍍金時代住居跡 5、土坑、縄文土器等	上層 23	
00-2	西原 2-4-8 ~ 10 (2000.7.17 ~ 24)	1,081			宅地造成	遺構無し物なし	上層 23	
00-3	長宮 2-1-17	(2000.8.21 ~ 23)	687		共同住宅	遺構なし、縄文土器	上層 23	
00-4	長宮 1-3-3A ~ 4A	(2001.1.17 ~ 23)	1,118.9		宅地造成	土坑、陶器等	上層 23	
23次	中丸 1-4-7	2001.7.18 ~ 26	137.01		個人住宅	土坑、縄文土器	上層 24	
01-1	長宮 2-1-3	(2001.4.20 ~ 24)	330		個人住宅	遺構なし、縄文土器等	上層 24	
01-2	西原 2-4-7	(2001.5.25)	634		共同住宅	遺構無し物なし	上層 24	
01-3	中丸 1-1-3	(2001.8.7 ~ 24)	513		共同住宅	道路状遺構、土坑、縄文土器等	上層 24	
01-4	長宮 2-8-6	(2001.11.6)	130		個人住宅	遺構無し物なし	H13 上社	
02-1	長宮 1-3-2 ~ 5	(2002.6.5 ~ 11)	3,536		宅地造成	古代住居跡 2、溝、土師器	上層 25、H4 上社	
24次	長宮 1-4-3	(2002.6.20 ~ 7.2) 2003.1.30 ~ 2.14	575	72	個人住宅	古代住居跡 2、溝、土師器	上層 25、H4 上社	
02-3	中丸 1-1-5	(2002.9.3 ~ 11)	622		宅地造成	道路状遺構、陶器等	上層 25	
02-4	長宮 1-3-31	(2002.9.20 ~ 25)	362.19		地区計画道路	溝、遺物なし	上層 25	
02-5	長宮 2-5-6	(2003.3.10 ~ 12)	927		宅地造成	縄文時代住居跡 1	H14 上社	
03-1	長宮 2-5-30 ~ 32 (2003.9.16)	195.64			区域道路	遺構遺構なし	上層 25	
03-2	長宮 2-4-7	(2003.12.16 ~ 18)	1,123		宅地造成	井戸、陶器等	上層 26	
04-1	中丸 1-1-11	(2004.11.26)	488		宅地造成	道路状遺構、陶器等細片	上層 27	
04-2	長宮 2-1-5	(2004.12.7 ~ 9)	466		農地改良	溝、縄文土器	上層 27	
25	中丸 1-4-8	(2007.2.15 ~ 16)	1,161	(20)	個人住宅	ピット、縄文土器等	市内 3	
26	西原 2-5-2 の一部	(2007.3.28)	594	(24)	個人住宅	遺構なし、縄文土器	市内 3	
27	長宮 2-1-4	(2007.5.30 ~ 31)	174.58		個人住宅	溝、遺物なし	市内 4	
28	長宮 2-1-8	(2007.5.31 ~ 6.5) 2007.6.6 ~ 22	188	(135)	個人住宅	土坑、ピット、井戸、陶器等	市内 4	
			135					

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (m ²)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
29	長宮 2-4-6 の一部	(2007.11.20 ~ 12.3) 2007.12.4 ~ 5	618	(145)	共同住宅	土坑、ピット、瓶跡、溝、井戸、繩文土器等		市内 4
30	長宮 2-4-6	(2009.9.28 ~ 11.2) 2009.11.4 ~ 12.8	1,362.1	(542) 445	老人福祉施設	土坑、ピット、溝、井戸、板碑等		市内 7 ~ 8
欠番								
32	長宮 2-1-18	(2010.1.15 ~ 25) 2010.2.4 ~ 26	271	(75)	分譲住宅	土坑、ピット、溝、繩文土器等		市内 7 ~ 8
33	中丸 1-3-2	(2011.5.19 ~ 31)	534	(169)	分譲住宅	集石土坑、土坑、ピット、溝、繩文土器等		市内 14
34	中丸 2-2-2・45	(2011.6.27 ~ 7.16) 2011.11.2 ~ 12.1	914	(229) 276	分譲住宅	縄文時代住居跡 1、落とし穴、土坑、ピット、炉穴、溝、井戸、繩文土器等		市内 11
35	上ノ原 3-1-4	(2011.9.9 ~ 26)	1,157.88	(178) (323.3)	分譲住宅	炉穴、土坑、ピット、溝、井戸、繩文土器等		市内 14
36	長宮 2-4-3	(2011.10.4 ~ 17) 2011.10.21 ~ 11.14	981	656	分譲住宅	炉穴、土坑、ピット、溝、井戸、板碑等		市内 11
37	上ノ原 3-5-6	(2011.11.6)	105	(9)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
38	長宮 1-4-27	(2011.11.24 ~ 25)	101	(17)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 14
39	典宮 2-3-23	(2012.2.1)	130.54	(3)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
40	西原 2-5-7 の一部	(2012.4.16)	201	(43)	個人住宅	遺構なし、頭骨器		市内 15
41	福岡字丸熊 988-1 ~ 3、989-2 ~ 5、990-3	(2012.4.17 ~ 25) 2012.6.11 ~ 7.25	1,152.62	(240) 370	分譲住宅	縄文時代住居跡 1、炉穴、落とし穴、土坑、ピット、溝、井戸、繩文土器等		市内 12
42	中丸 1-2-24	(2012.8.3)	101	(0.8)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 15
43	典宮 2-1-72	(2013.2.27 ~ 3.1)	231	(45)	個人住宅	土坑、ピット、溝、繩文土器等		市内 15
44	中丸 1-3-3、4-5	(2013.5.14 ~ 6.24) 2013.6.25 ~ 7.30	1,329	(513) 165	分譲住宅	縄文時代住居跡 2、炉穴、落とし穴、土坑、溝、ピット、井戸、繩文土器等		市内 13
45	中丸 1-3-17 ~ 18、3-5 の一部	(2013.8.7 ~ 10)	223	(70)	道路	溝、土師器等		市内 18
46	中丸 2-22・13	(2013.9.6 ~ 10)	488	(155)	高齢者 デイサービスセンター	遺構なし、磁器		市内 18
47	上ノ原 3-1-5	(2013.10.10)	330	(74)	共同住宅	遺構遺物なし		市内 18
48	上ノ原 3-6-1	(2014.4.2 ~ 8)	555	(188.4)	分譲住宅	溝、井戸、遺構遺物なし		市内 20
49	中丸 2-2-4	(2014.10.23 ~ 30)	293.09	(61.8)	共同住宅	炉穴、溝、遺構遺物なし		市内 20
50	中丸 1-2-17	(2015.3.16)	228	(26)	分譲住宅	遺構なし、陶器器		市内 20
51	中丸 2-3-45・46	(2012.4.5)	176	(15)	道路	遺構遺物なし		市内 15
52	中丸 1-3-24	(2016.3.11 ~ 17)	484	(110.14)	分譲住宅	土坑、ピット、溝、井戸、繩文土器等		市内 22
53	上ノ原 3-6-3	(2016.7.11)	223	(53.13)	共同住宅	遺構遺物なし		市内 24
54	中丸 1-2-16	(2017.5.16 ~ 23)	800	(21.59)	分譲住宅	縄文時代住居跡 1、土坑、溝、繩文土器等		市内 24
55	中丸 2-2-6 の一部	(2017.6.29)	191	(34.2)	個人住宅	土坑、ピット、溝、石器等		市内 24
56	中丸 1-3-37	(2017.7.5)	123	(22.5)	個人住宅	遺構なし、土製品		市内 24
57	典宮 2-1-16	(2018.2.15)	374.63	(45)	個人住宅	土坑、繩文土器		市内 24
58	典宮 1-1-7	(2018.7.2)	360	(58.7)	寄宿舎	溝、土師器等		市内 25
59	典宮 2-1-15	(2020.11.10)	405.12	(42.1)	共同住宅	溝、陶器器等		市内 26
60	上ノ原 3-1-3	(2021.12.13 ~ 15) 2022.5.17 ~ 6.1	494	(145.5) 36	分譲住宅	古代住居跡 1、頭骨器、土師器		市内 27

第 24 表 長宮遺跡古代住居跡一覧表(単位 cm)

住居 番号	調査 年度	調査名	調査年 ()は確定	平面形 (方型)	規模 K(巻)	戸	塗	周溝	主軸方位	時期	備考	所収報告書
						K(巻)	規格(㎝)					
1	1978	第4地点1号住居	1/4 (方型)		K	東	○					上埋 1
2	1993	第19地点4号住居	実掘	方型	K	北						上埋 15
3	1997	96年試掘(3)										上埋 19
4	2002	D2-1号住居	実掘	台形	470 × 340	K	北	○		7後半 ~ 8C初頭		上埋 25
5	2002	D2-2号住居	実掘	長方形	530 × 450	K	北・東	○	N-15-W	8C初頭		上埋 25
6	2002	D2-3号住居 第24地点	実掘	方型	280 × 280	K	北			7末 ~ 8C 第1四半期		上埋 25
7	2002	D2-4号住居 第24地点	1/2	方形	280 × 280	K	南西	○		7末 ~ 8C 第1四半期		上埋 25
8	2022	H8号住居	実掘	方形	470 × 430	K	北	120 × 70	○	N-8-W 8C中葉		市内 27



第51図 長宮遺跡遺構分布図(1/2,500)

II 本調査に至る経過と概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2021年11月25日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は、遺跡範囲の東部に位置する。申請者との協議の結果、遺構の存在を確認するため2021年12月13～15日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ5本を設定し、重機による表土除去後人力で表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは50～60cmである。

調査の結果、調査区南側で古代住居跡1軒を検出した。遺構への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、本調査を実施した。

本調査は2022年5月17日～6月1日まで、該当部分を重機で表土除去後、人力による調査を行った。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

III 遺構と遺物

① H8号住居跡

【位置】調査区南東部に位置する。

【形状・規模】南北430cm、東西470cmを測り、東西に長い長方形を呈する。

【構造】主軸はN-8°-Wでほぼ南北方向を指向する。住居内に4基のピットを確認したが、いずれも明確に柱穴とは判断できない。

【竈】住居の北側に位置する。天井は崩落しているが、奥壁・燃焼部・両袖部が部分的に残存していた。残存規模は、長軸120cm、短軸70cmで、袖部は白色粘質土がわずかに残存している。

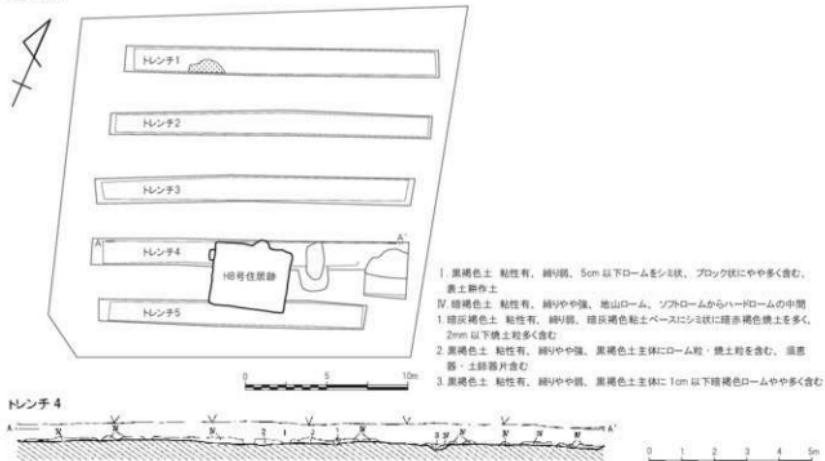
【遺物出土状況】遺物は、住居全体に散逸するが比較的竈周辺に集中する傾向にある。

【時期】出土遺物から、8世紀中葉と考えられる。

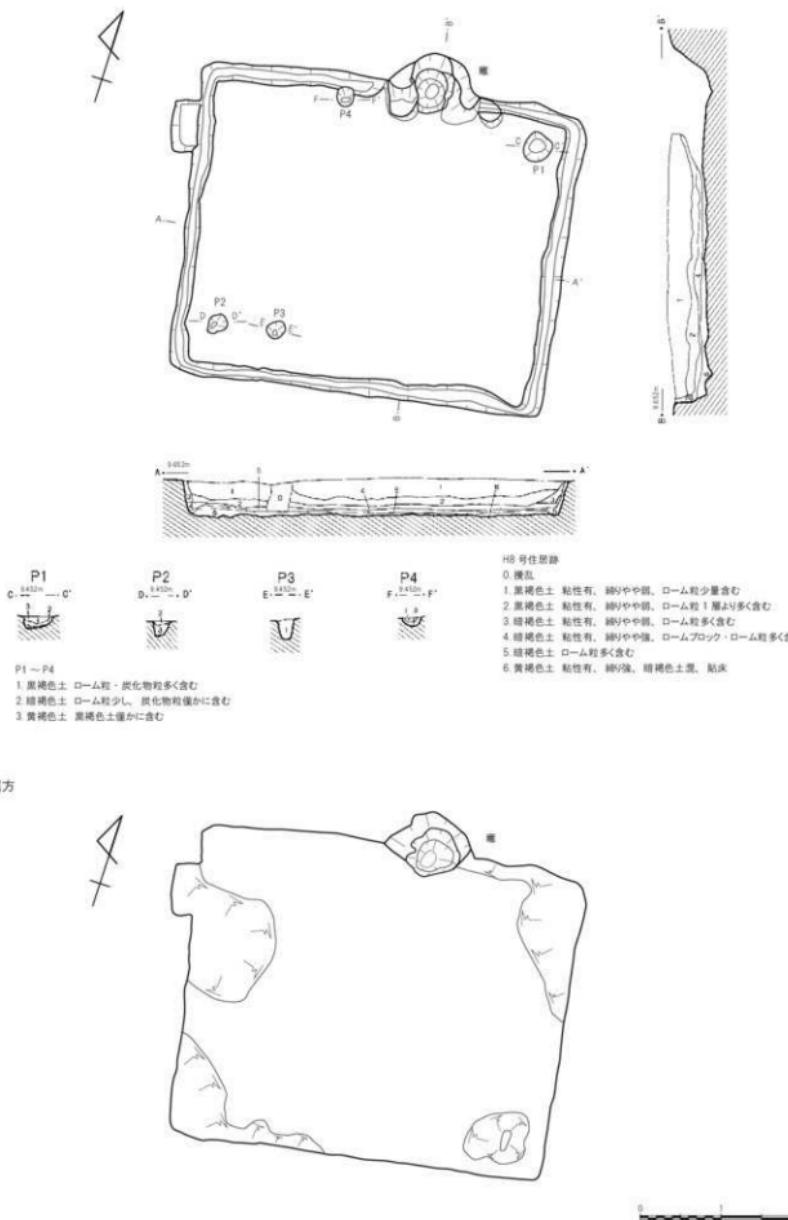
② 出土遺物

H8号住居跡の覆土中から出土した。詳細については第55～57図及び第25表に掲載した。

第60地点

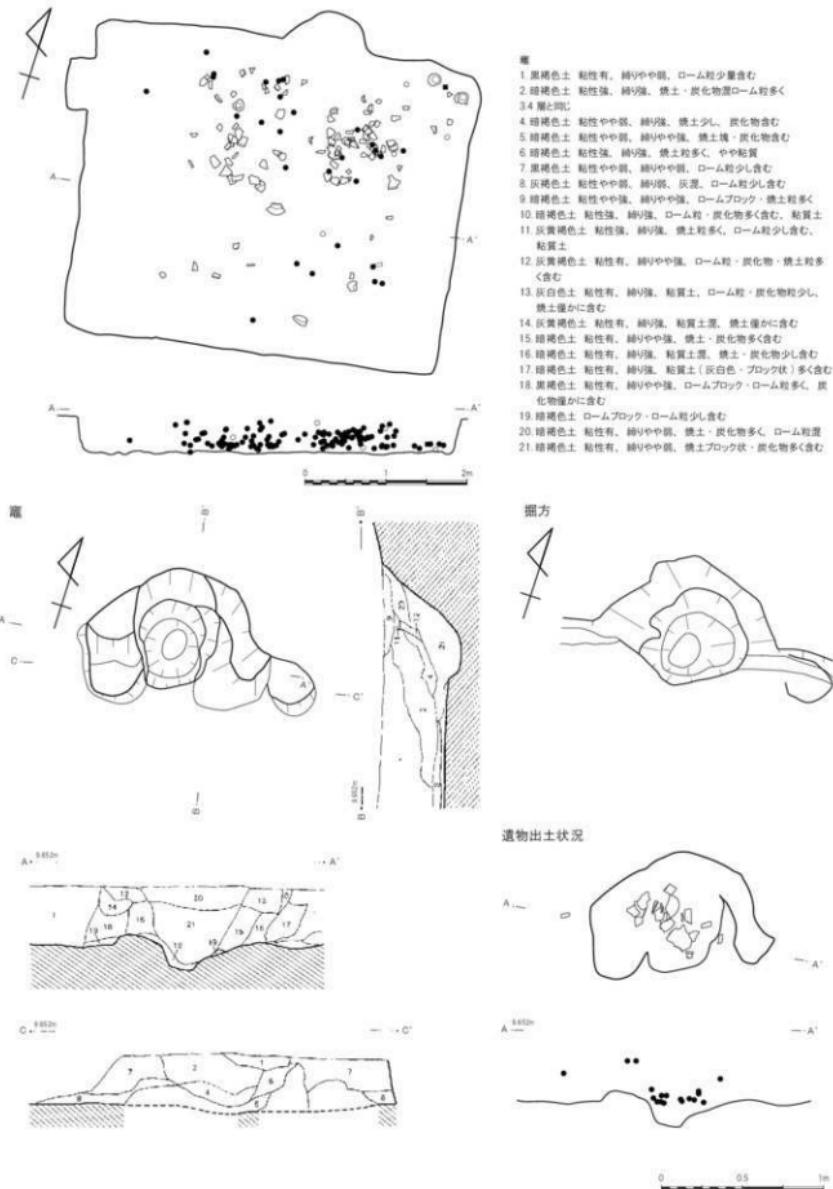


第52図 長宮遺跡第60地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)



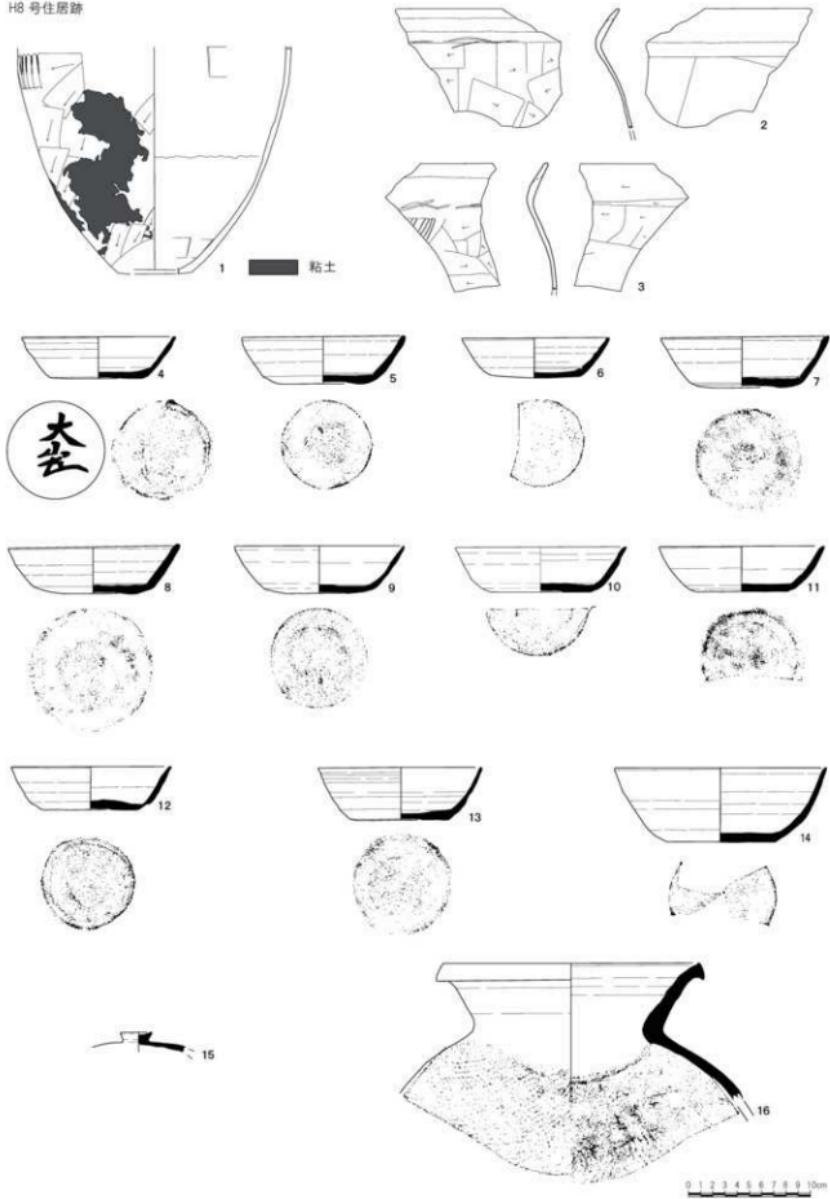
第 53 図 長宮遺跡第 60 地点 H8 号住居跡 (1/60)

遺物出土状況

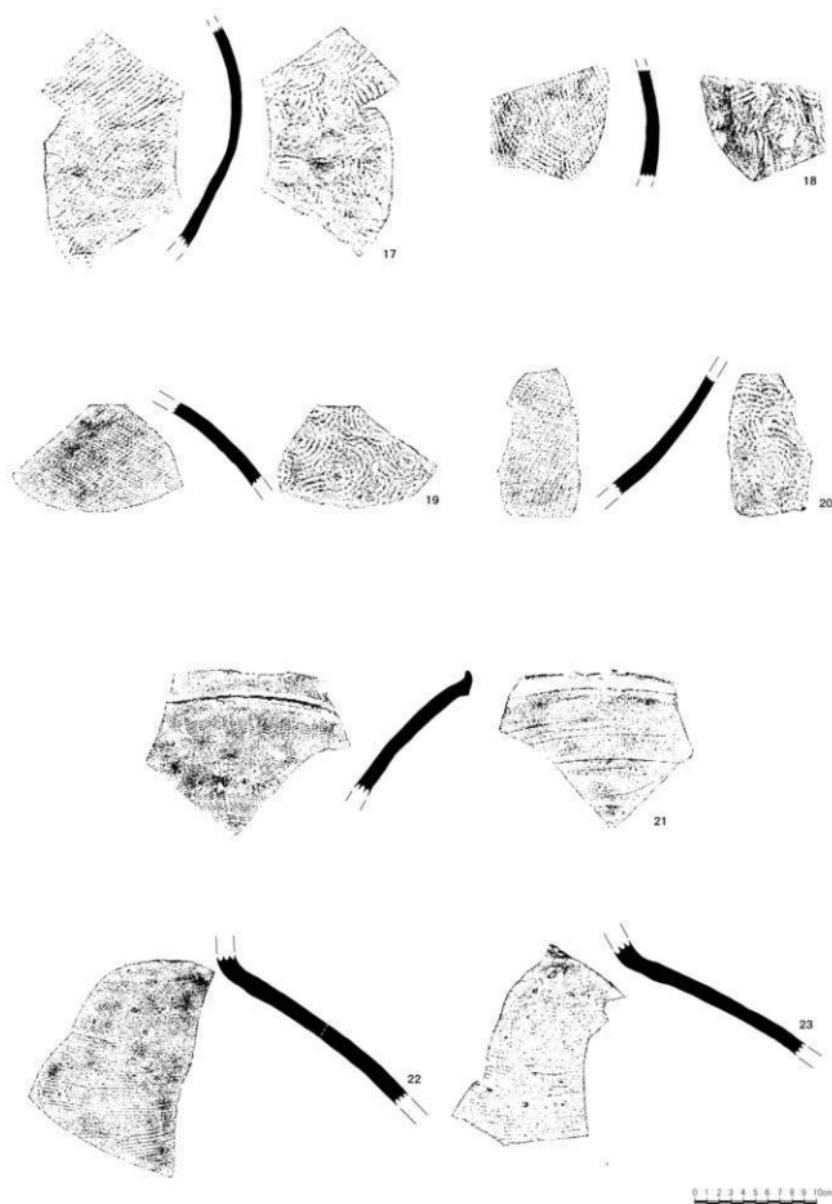


第54図 長宮遺跡第60地点 H8号住居跡竪掘方(1/60・1/30)

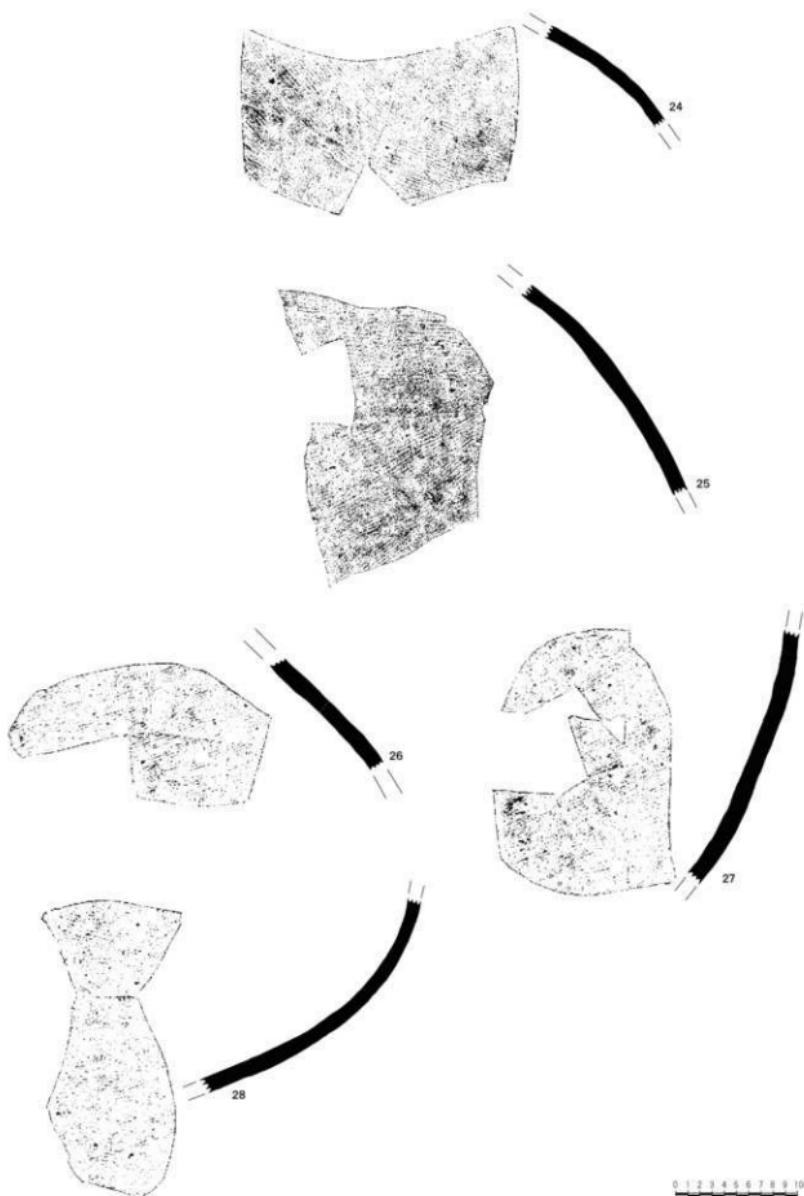
H8 号住居跡



第 55 図 長宮遺跡第 60 地点出土遺物① (1/4)



第56図 長宮遺跡第60地点出土遺物②(1/4)



第 57 図 長宮遺跡第 60 地点出土遺物③(1/4)

第25表 長宮遺跡第60地点出土遺物観察表（単位cm・g）

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・備考	時期・型式	
1	土師器甕		—	6.0 (18.4)	—	網部片、外面部、斜位のヘラケズリ、内面ヘラナデ、残存部中位に粘土接合痕、胎土色調赤朽葉色、外面上に竈の粘土付着	8世紀中葉	
2						口縁部片、口縁部ヨコナデ、外面部横位のヘラケズリ、内面ヘラナデ、胎土色調柑子色	8世紀中葉	
3						口縁部片、口縁部ヨコナデ、外面部横位のヘラケズリ、内面ヘラナデ、胎土色調柑子色	8世紀中葉	
4	H8号住居跡	須恵器甕		12.6	7.4	3.4	輪轆使用、輪轆右回転、底部回転糸切離し後周辺部回転へラケズリ、内底面外縁に爪先技法、胎土色調鳥の子色、東金子窯産、内外面使用による摩耗有り、底部に「大穴」墨書	8世紀中葉
5							輪轆使用、輪轆右回転、底部回転糸切離し後周辺部手持ちヘラケズリ、内底面外縁に爪先技法、胎土色調スカイグレイ、東金子窯産、内外面に使用による摩耗有り	8世紀中葉
6				12.1	7.3	3.3	輪轆使用、輪轆右回転、底部回転糸切離し後周辺部手持ちヘラケズリ、内底面外縁に爪先技法、胎土色調スカイグレイ、東金子窯産、内外面に使用による摩耗有り、底部に煤付着	8世紀中葉
7							輪轆使用、輪轆右回転、底部回転糸切離し後ほぼ全面回転へラケズリ、内底面外縁に爪先技法、胎土色調スカイグレイ、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産、内外面に使用による摩耗有り	8世紀中葉
8				14.1	9.9	3.9	輪轆使用、輪轆右回転、底部回転糸切離し後周辺部手持ちヘラケズリ、内底面外縁に爪先技法、胎土色調鳥の子色、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産、内外面使用による摩耗有り	8世紀中葉
9							輪轆使用、輪轆右回転、底部回転糸切離し後周辺部手持ちヘラケズリ、内底面外縁に爪先技法、胎土色調スカイグレイ、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産、内外面に使用による摩耗有り	8世紀中葉
10				14.0	8.4	3.9	輪轆使用、輪轆右回転、底部回転糸切離し後周辺部手持ちヘラケズリ、内底面外縁に爪先技法、胎土色調スカイグレイ、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産、内外面に使用による摩耗有り	8世紀中葉
11							輪轆使用、輪轆右回転、底部回転糸切離し後周辺部手持ちヘラケズリ、内底面外縁に爪先技法、胎土色調アッシュグレイ、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産、内外面に使用による摩耗有り	8世紀中葉
12				13.1	7.7	3.7	輪轆使用、輪轆右回転、底部回転糸切離し後周辺部手持ちヘラケズリ、内底面外縁に爪先技法、胎土色調鳥の子色、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産、内外面に使用による摩耗有り	8世紀中葉
13							輪轆使用、輪轆右回転、底部回転糸切離し後周辺部手持ちヘラケズリ、内底面外縁に爪先技法、胎土色調スカイグレイ、胎土に海綿骨針を含む、焼成やや不良、南比企窯産、内外面に使用による摩耗有り、内外面に煤付着明皿転用力	8世紀中葉
14			須恵器甕	17.2	8.9	6.1	輪轆使用、輪轆右回転、薄手、口縁部内側に1条の沈線裏る、底部回転糸切離しの後全面回転へラケズリ、焼成やや良好、器面色調鳥の子色、東金子窯産か、口縁部内面使用による摩耗。	8世紀中葉

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・備考	時期・型式
15	H8 号住居跡	須恵器蓋	—	2.1	(1.6)	摘部片、上面開闊へラケズリ、胎土色調、胎土に海緋骨針を含む、南比企窓産	8世紀中葉
16		—	—	—	—	口縁・肩部片、口縁部ヨコナデ、胴部外面格子目状の平行叩き、内面青海波、器面色調モスグレイ、南比企窓産力、17・18と同一個体力	8世紀中葉
17		—	—	—	—	頭部片、外面格子目状の平行叩き、内面青海波、器面色調モスグレイ、南比企窓産力、16・18と同一個体力	8世紀中葉
18		—	—	—	—	頭部片、外面格子目状の平行叩き、内面青海波、器面色調モスグレイ、南比企窓産力、16・17と同一個体力	8世紀中葉
19		—	—	—	—	頭部片、外面格子目状の平行叩き、内面青海波、器面色調モスグレイ、南比企窓産力、20と同一個体力	8世紀中葉
20		—	—	—	—	頭部片、外面格子目状の平行叩き、内面青海波、器面色調モスグレイ、南比企窓産力、19と同一個体力	8世紀中葉
21		—	—	—	—	口縁部片、外面網状工具による10条単位の波状文が3段、器面色調白銀色、東金子窓産力、22～28と同一個体力	8世紀中葉
22		須恵器蓋	—	—	—	頭部片、外面平行叩き、内面当具痕をナデ消し、器面色調白銀色、東金子窓産力、21・23～28は同一個体力	8世紀中葉
23		—	—	—	—	頭部片、外面平行叩き、内面当具痕をナデ消し、器面色調白銀色、東金子窓産力、21・22・24～28は同一個体力	8世紀中葉
24		—	—	—	—	頭部片、外面平行叩き、内面当具痕をナデ消し、器面色調白銀色、東金子窓産力、21～23・25～28は同一個体力	8世紀中葉
25		—	—	—	—	頭部片、外面平行叩き、内面当具痕をナデ消し、器面色調白銀色、東金子窓産力、21～24・26～28は同一個体力	8世紀中葉
26		—	—	—	—	頭部片、外面平行叩き、内面当具痕をナデ消し、器面色調白銀色、東金子窓産力、21～25・27・28は同一個体力	8世紀中葉
27		—	—	—	—	頭部片、外面平行叩き、内面当具痕をナデ消し、器面色調白銀色、東金子窓産力、21～26・28は同一個体力	8世紀中葉
28		—	—	—	—	頭部片、外面平行叩き、内面当具痕をナデ消し、器面色調白銀色、東金子窓産力、21～27は同一個体力	8世紀中葉

第2章 西ノ原遺跡第181地点の調査

I 本調査に至る経過と概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より2021年7月7日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請箇は遺跡の中央部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を行った。

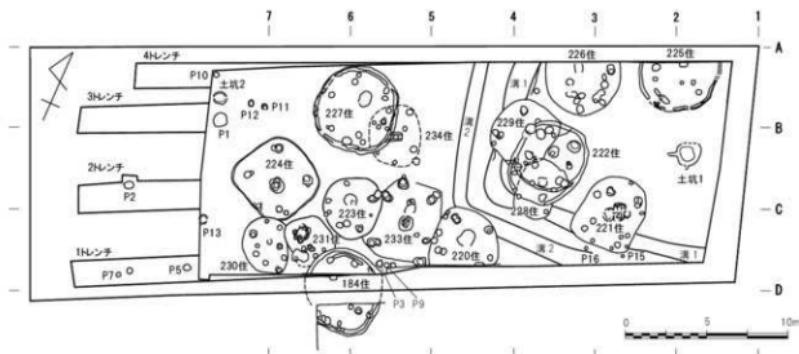
試掘調査は、同年7月26日～8月6日まで行い、幅約1.5mのトレンチ4本を設定し、重機による表土除去後、人力による調査を行った。試掘調査の結果、縄文時代の住居跡などを確認した。地表面から遺構確認面までの深さは約40cmで、遺構への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。

本調査は、2021年9月1日～11月4日まで実施した。遺構の確認された東側の約3/4の範囲について、残土置き場の関係から約1/2ずつ反転して行った。

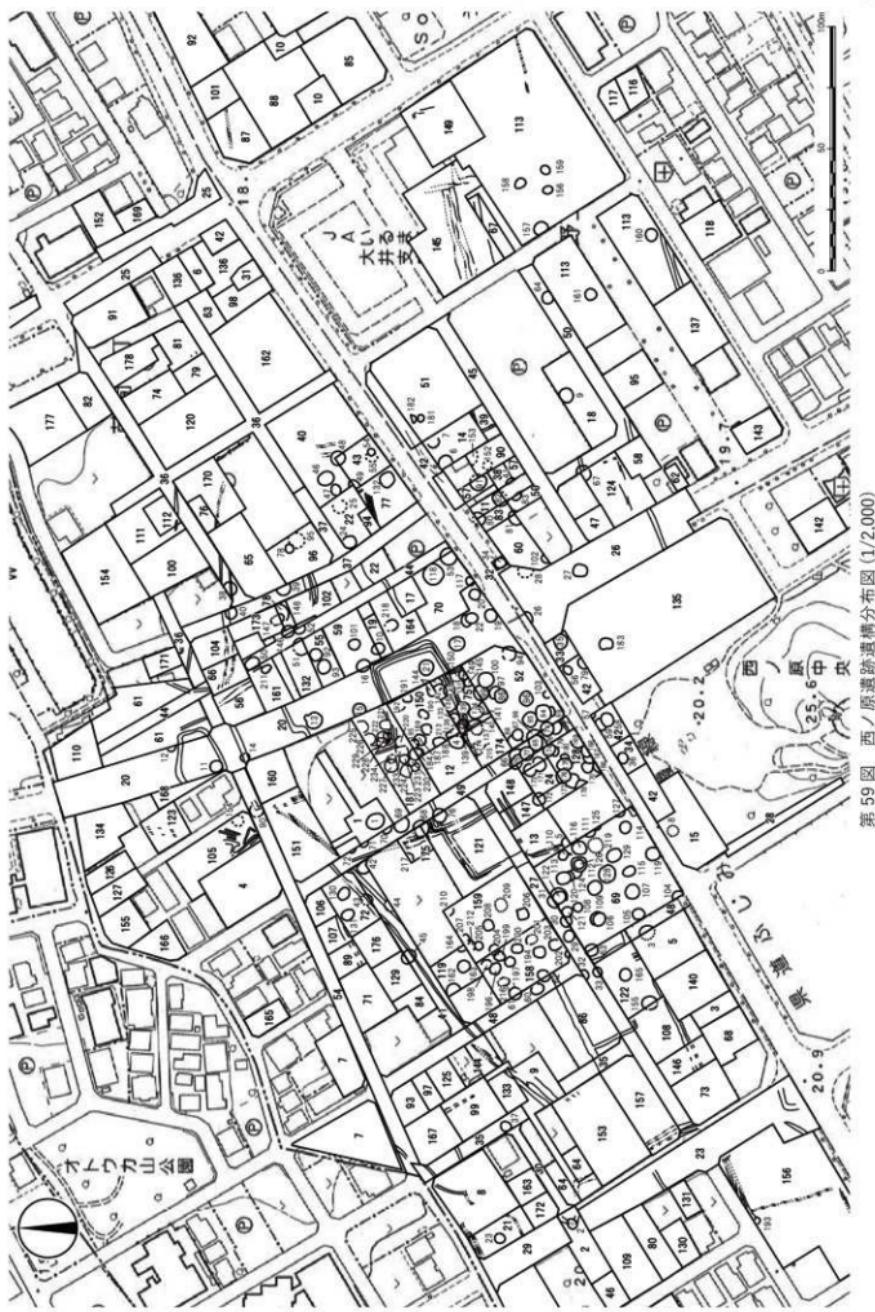
調査区内に5m×5m方眼の区画を設定し、東から西へ1、2、3～の番号を付し、北から南へA、B、C～の番号を付し、A1区、B1区～とし、遺構・遺物の平面実測に用いた。全測図1/100の作成には平板測量を用いた。試掘調査と本調査で確認された遺構は、縄文時代の住居跡15軒、土坑2基、ピット12基、時期不明の溝2条である。遺物は縄文土器と石器などである。

II 遺構と遺物

試掘及び本調査で検出した遺構は、縄文時代中期の住居跡15軒、土坑2基、ピット12基である。住居跡内のピットの規模等については、各住居跡ごとの一覧表のとおりである。



第58図 西ノ原遺跡第181地点遺構配置図(1/300)



第59図 西ノ原遺跡遺構分布図 (1/2,000)

(1) 住居跡

① 184号住居跡

【位置・時期】本住居跡は西ノ原遺跡の縄文時代の二つの環状集落が重なる部分に位置する。調査区の南側に位置し 231号住居跡と隣接し、住居跡北側の一部を検出した。住居跡の南側は調査区外に延び、2012年度に第150地点として一部を調査済みである。文化財調査報告『市内遺跡群15』(2016)を参照されたい。

住居跡の時期は、今回の床面出土土器から加曾利EⅠ期以前とみられる。

【形狀・規模】平面形態は隅丸方形を呈する。ローム層を深く掘り込み床面も硬化している。規模は長軸500cm、短軸(475)cm、深さ8.8～23.1cmである。

【炉】未検出。

【柱穴】今回検出したP1・2は主柱穴とみられる。詳細については第27表のとおりである。

【周溝】今回の調査では2重の周溝が検出され、住居の拡張などが考えられる。内側の周溝は幅15～20cm、床面からの深さは約20cmである。

【遺物出土状況】第61図の1・2は床面直上から、口縁部を下にした状態で出土した。それ以外の遺物は覆土層からの出土である。

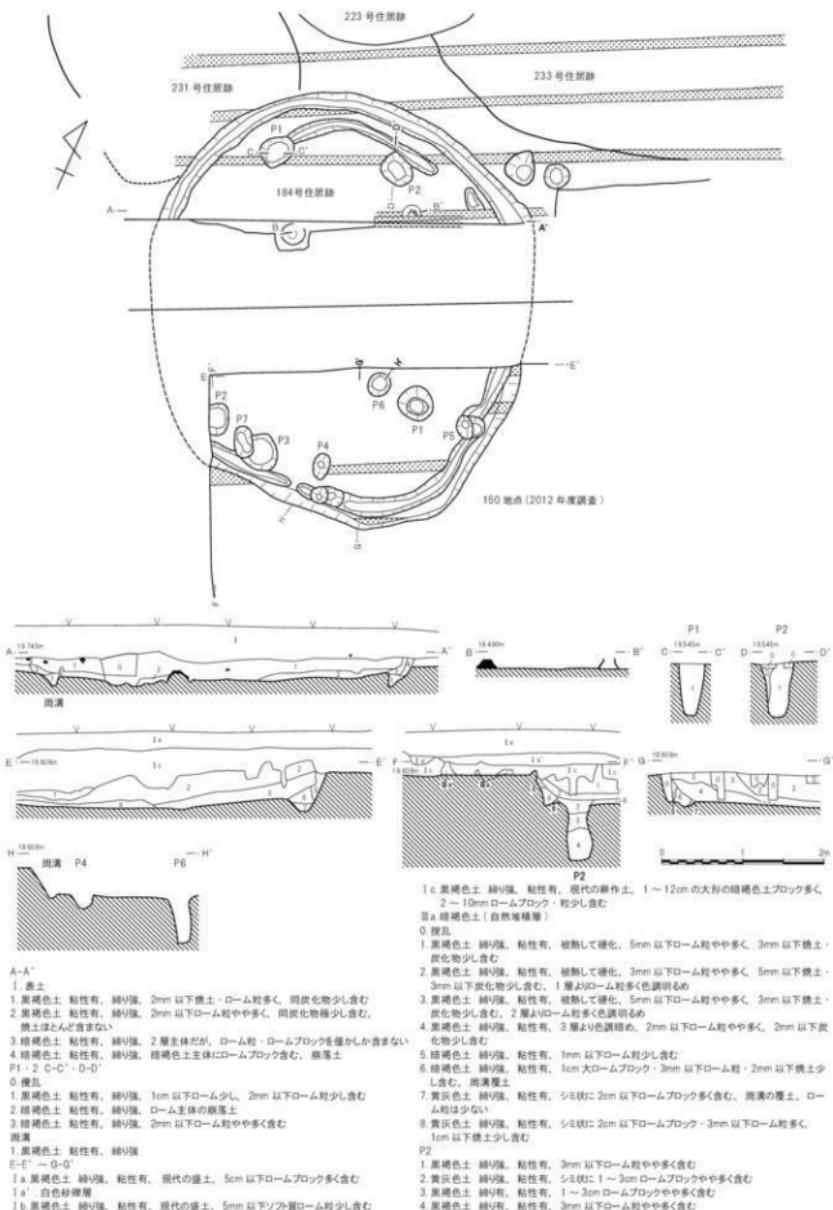
【出土遺物】第61図参照。1は伏甕No.2。浅鉢。口縁部が内屈する。口縁部に1カ所山形に突出があり、その脇が欠落する。意図的な欠失の可能性がある。胴部外面及び内面の一部に赤彩風の粘土が付着する。焼成は不良で、外面に黒班が2カ所みられる。内底面は擂鉢状の使用痕が認められる。

2は伏甕No.1。無文の口縁部がラッパ状に開く深鉢。胴部下半を欠失する。欠失部分は丁寧に調整される。口唇部は断面三角形状に突出。地文の単節RLを縦位に施し、頸部に2条の隆帯を巡らせ、そこから隆帯による2条の直線と蛇行する懸垂文が垂下する。

3は口縁部無文帯を持つ深鉢。2に比べ胴部が張る。地文は単節RLを縦位に施し、頸部に直線の隆帯と伴走す蛇行隆帯を巡らせ、1条の蛇行する懸垂文が垂下する。4は小形土器。地文は燃糸L。口唇部直下に交互刺突による蛇行線を施し、3条一組の沈線による連弧文が廻ると判断される。5は地文Lの燃糸文に3条一組の沈線による連弧文深鉢の胴部片。6は地文Lの燃糸文の小形キャリバー形土器の口縁部片。7は口縁部文様帶に渦巻文による区画を縦位沈線で埋める小形キャリバー形土器。8は地文Lの燃糸文の胴部片。胴部屈折部に2本の断面カマボコ状の隆帯が廻る深鉢形土器。9～11は地文条線。9・10は隆帯の文様のある深鉢形土器片。

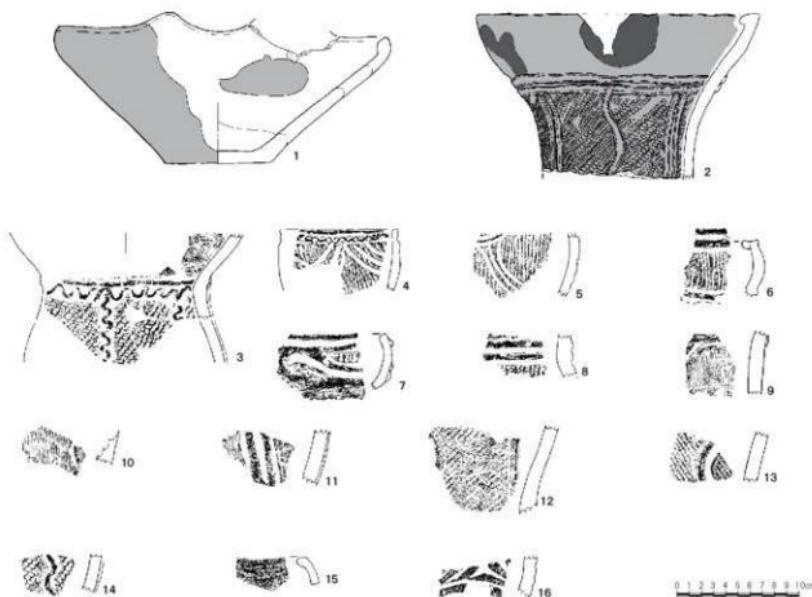
第27表 西ノ原遺跡第181地点184号住居内
ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	(円形)	41×36	31×20	71.2	181地点(2021年度調査)
2	(円形)	41×33	24×15	80.0	181地点(2021年度調査)
3	円形	43×40	17×16	72.4	150地点(2012年度調査)
2	不明	36×25	25×21	73.2	150地点(2012年度調査)
3	(円形)	47×46	32×31	20.2	150地点(2012年度調査)
4	橢円形	32×18	10×7	17.2	150地点(2012年度調査)
5	橢円形	35×28	10×8	21.9	150地点(2012年度調査)
6	円形	29×26	19×16	55.0	150地点(2012年度調査)
7	橢円形	48×22	26×10	20.7	150地点(2012年度調査)



第 60 図 西ノ原遺跡第 181 地点 184 号住居跡 (1/60)

11は2本の隆帯が懸垂する深鉢形土器の胴部片で2本の懸垂文の間はナデられる。12～14は単節縄文を地紋とする深鉢形土器の胴部片。12は地文が単節RLで直線と蛇行する沈線の懸垂文が垂下する。13・14は波状隆線の懸垂文で、13は両脇をナデ、14はナデがない。15は内側に肥厚する無文帶を持つ口縁部片。16は胴部の三叉文。



第61図 西ノ原遺跡第181地点184号住居跡出土遺物(1/4)

② 220 号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の南側に位置し、233号住居跡と重複する。

新旧関係は 220 号住居跡 → 233 号住居跡の順に新しくなる。住居跡の時期は、出土遺物から加曾利 E I 式以降と考えられる。

【形状・規模】掘り込みはほとんどなく、床面の範囲を確認した状況である。平面形態は不明である。床面と考えられる範囲の規模は長軸 (396) cm、短軸 (340) cm、深さ 2.5 ~ 6.1 cm である。

【炉】炉は住居跡の中央部や北側に位置する地床炉である。平面形態は不整円形で長軸 (105) cm、短軸 104 cm、底径 42 × (27) cm、深さ 15.8 cm である。掘方の長軸 104 cm、短軸 (99) cm、底径 (75) × 70 cm、深さ 18.4 cm である。

【柱穴】柱穴は、本検出した。主柱穴は P1・2・6・7 で、基本は 4 本柱とみられる。ピット 2・7 には柱穴を掘り直した痕跡があり、住居の拡幅なども考えられる。P4 は配置から 233 号住居跡のピットの可能性が考えられる。詳細は第 28 表のとおりである。

【周溝】なし。

【遺物出土状況】炉の覆土層及び住居跡の覆土層から繩文土器片と石器がまばらに出土する。

【出土遺物】第 64 図参照。1 は炉体土器とされた深鉢形土器下半部。縦半分を欠失し、上半部割口に摩耗はない。また 2 次的な被熱の痕跡は明瞭でないが、内面にオコゲ状の炭化物の付着が見られる。地文は単節 RL。1 本の横位の隆帯から直線と波状の懸垂文が垂下する。単位は 4 ないし 5 と推定される。

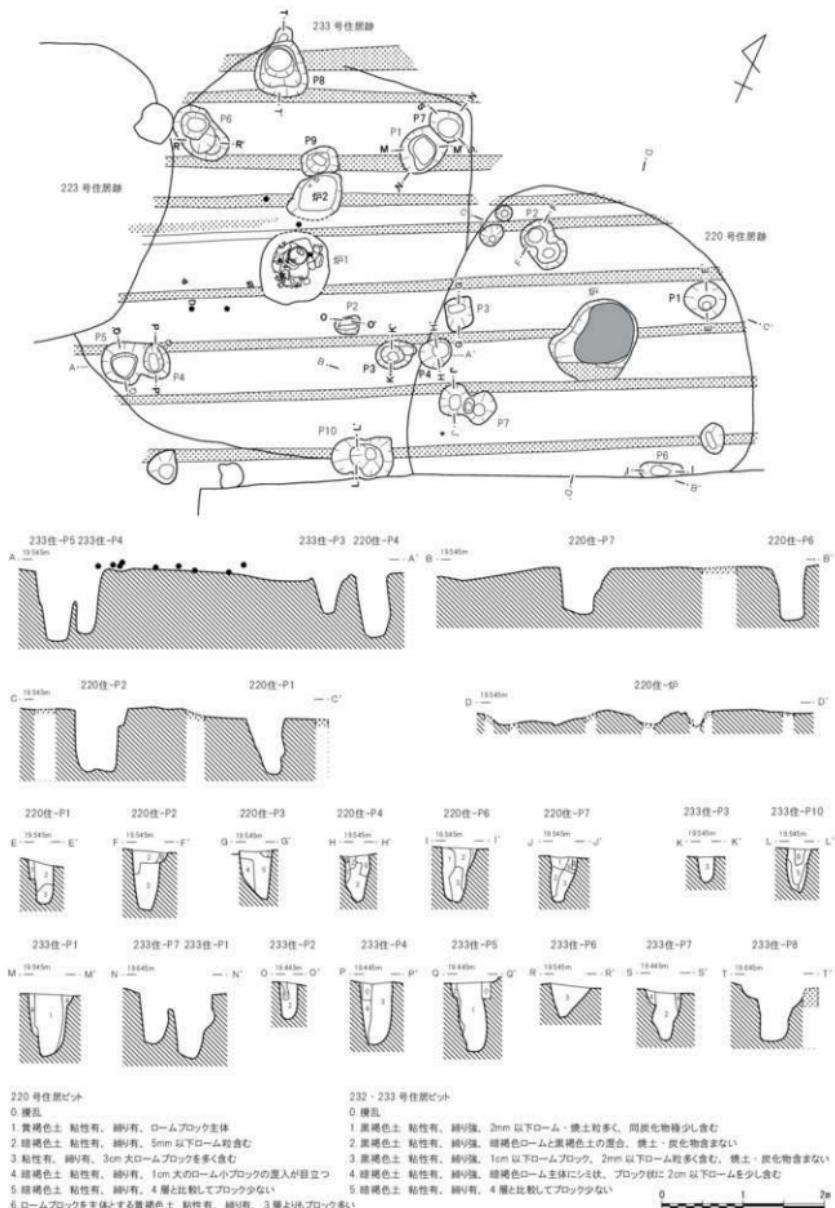
2 ~ 4・6 はキャリバー形土器口縁部片。2 本 1 対の隆線で S 字状文が突起する。地文は 2・6 が縦位の集合沈線、3・4 は地文燃糸 L。5 は 1 本の隆帶で地文燃糸 L。7 ~ 11 はキャリバー形土器の胴部片。7・8 は地文燃糸 L で、7 は隆帶の懸垂文。9・10 は地文単節 RL で、9 は 2 条 1 組の擦消繩文の懸垂文が垂下する。11 は地文無節 L で 1 条の波状懸垂文が垂下する。12 は地文条線で 3 条の懸垂文。13 は口縁部に 3 条の沈線が廻りそれ以下に断面カマボコ状隆帯の文様となる。14 は地文燃糸 L の連弧文土器片。15 は曾利系の樽型土器。隆帶で渦巻文を展開し文様を沈線で埋める。16 は三角押文の結節沈線の胴部片。17・18 は浅鉢形土器で、17 は口縁部片、18 は赤彩が施される胴部片。19 は底部片。

20 は打製石斧で、長さ 9.1 cm、幅 5.9 cm、厚さ 1.3 cm、重さ 84.69 g。完形、フォルンフェルス。

第 28 表 西ノ原遺跡第 181 地点 220・233 号住居内

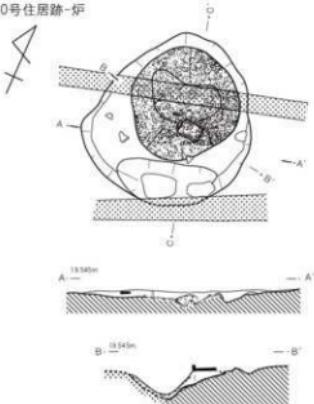
ピット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	51 × 46	11 × 10	71.3	220 住
2	楕円形	63 × 45	15 × 10	79.2	220 住
3	方形	40 × 33	22 × 9	65.8	220 住
4	円形	40 × 35	20 × 18	78.5	220 住
5	不明	52 × (18)	25 × 12	67.2	220 住
7	楕円形	70 × 40	10 × 7	68	220 住
1	不明	(57) × 51	29 × 25	78.8	233 住
2	楕円形	30 × 21	22 × 6	43.6	233 住
3	不明	50 × 33	14 × 12	46.7	233 住
4	不明	41 × (37)	22 × 12	80.1	233 住
5	不明	51 × (48)	28 × 25	91.9	233 住
6	楕円形	78 × 48	22 × 17	76.5	233 住
7	不明	41 × 36	32 × 23	47.3	233 住
8	不明	86 × 60	31 × 25	71.8	233 住
9	円形	44 × 39	15 × 7	30.6	233 住
10	楕円形	76 × (47)	14 × 12	61.9	233 住

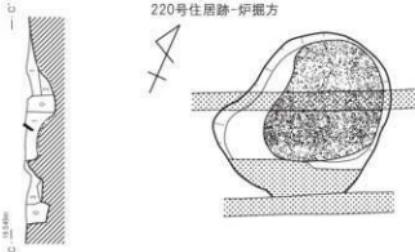


第62図 西ノ原遺跡第181地点 220・233号住居跡 (1/60)

220号住居跡-炉

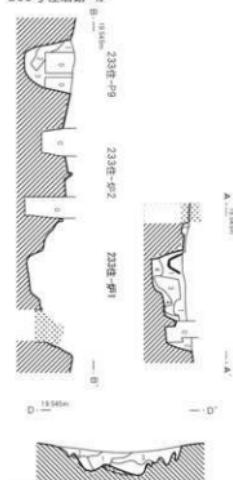


220号住居跡-炉掘方



- 横乱
1. 緑赤褐色土 5mm 大燒土小ブロックが混入する
2. 緑赤褐色土 1層より多く焼土混入する
3. 黒色土 細り弱い

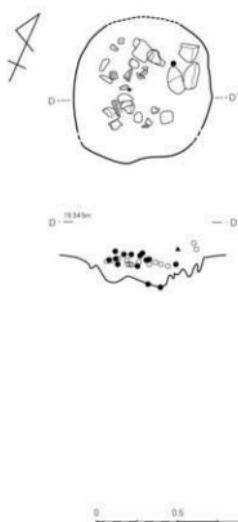
233号住居跡-炉



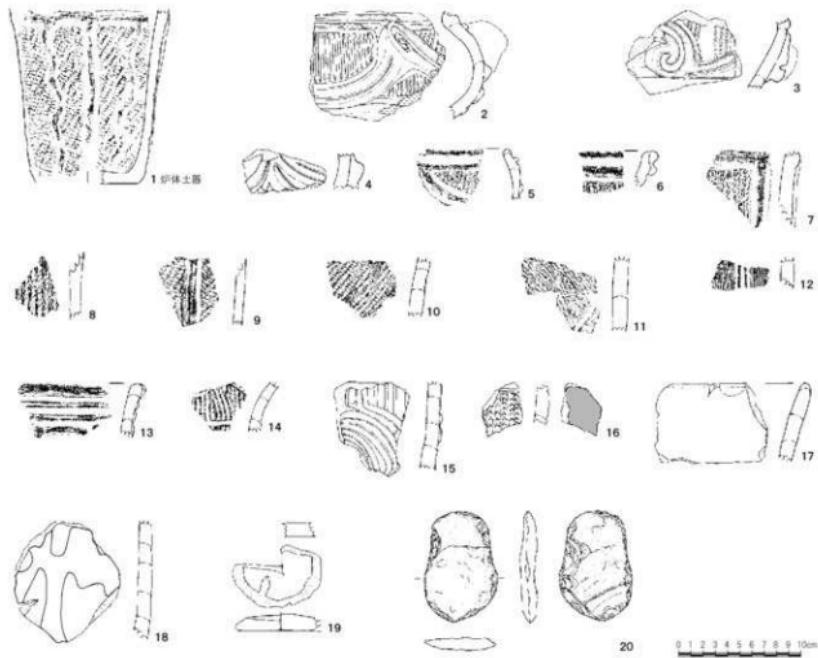
- A-A'-D-D
○ 横乱
1. 緑赤褐色土 粘性有、細り中や弱、5mm 以下焼土粒
多量に炭化物含む
2. 黒褐色土 粘性有、細りやや弱
3. 緑褐色土 粘性有、細りやや弱
4. 黒色土 粘性有、細り弱、焼土粒含まない

B-B'
○ 横乱

1. 緑褐色土 粘性有
2. 黒褐色土 粘性有
3. 茶褐色土 粘性有
E-E'
1. 赤褐色土 粘性有、細り強、3cm 以下焼土ブロックにシミ状に黒褐色土を少し含む
2. 緑褐色土 粘性有、細り強、被熱したロームでD-D'窓になっているローム

233号住居跡-炉1
遺物出土状況

第 63 図 西ノ原遺跡第 181 地点 220・233 号住居跡炉 (1/30)



第64図 西ノ原遺跡第181地点220号住居跡出土遺物(1/4)

③ 233 号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の南側に位置し、220号住居跡、223号住居跡と重複する。新旧関係は223号住居跡→220号住居跡→233号住居跡の順に新しくなる。炉内埋設土器から住居跡の時期は連弧文式（加曾利 E II式）と考えられる。

【形状・規模】掘り込みはほとんどなく、床面の範囲を確認した状況である。平面形態は不明である。床面と考えられる範囲の規模は長軸(482)cm、短軸367cm、深さ7.2~13.2cmである。

【炉】炉1は住居跡の中央部に位置し、炉2は住居跡の北寄りに位置する。炉1が新しく炉2が古い。炉1は石闇埋甕炉とみられる。平面形態は円形で炉内に底部を欠損する深鉢形土器を正位に埋設し、炉の周囲に礫を埋設する。規模は長軸(89)cm、短軸84cm、底径22×19cm、深さ26.9cmである。

炉2は地床炉で平面形態は不整円形である。規模は長軸62cm、短軸(52)cm、底径(43)×42cm、深さ29.4cmである。

【柱穴】柱穴は10本検出した。主柱穴はP1・4・5・6・7・8で、基本は4本柱とみられる。またP3・8を主柱穴とすると変則な6本柱の可能性も考えられる。ピット1・7・4・5・6には柱穴を掘り直した痕跡があり、2基の炉と併せて住居の拡幅が考えられる。詳細は第28表のとおりである。

【周溝】なし

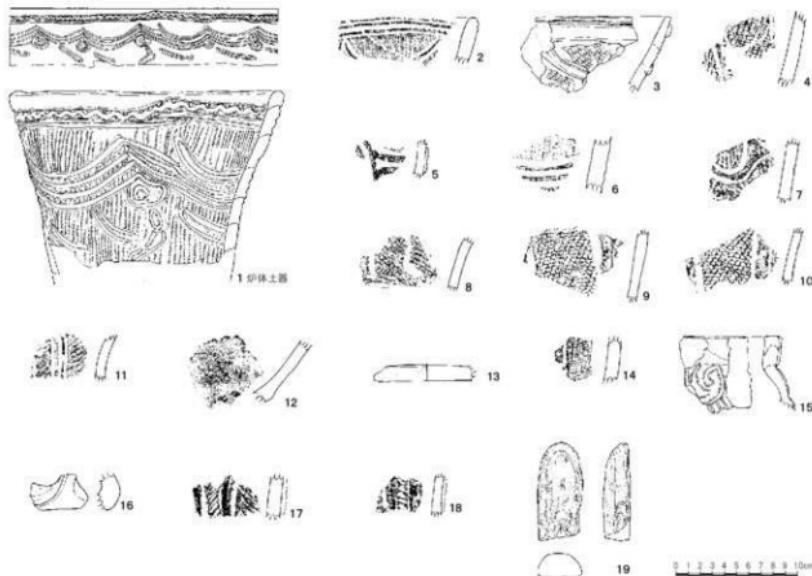
【遺物出土状況】炉の覆土層及び住居跡の覆土層から縄文土器片と石器などが僅かに出土する。

【出土遺物】第65図参照。1は連弧文の炉体土器。口唇部直下に交互刺突の蛇行文を廻らし、その下に連弧文と円文を5単位で配置する。

2は地文条線で口唇部直下に2本一組の新線を廻らその下の沈線(3本か)の連弧文を施す口縁部片。

3・4はキャリバー形土器の同一個体か。地文單節RLで口縁部は隆帶で文様を区画し、胴部は2本一組の沈線で狭い磨り消し縄文の懸垂文を垂下させる。5は隆帶で文様を構成する。6はキャリバー形土器の口縁部片で沈線で隆帶風の区画文を構成し内部を竹管による縦位の集合沈線で埋める。7は沈線で文様を構成する連弧文タイプの胴部片か。地文は縄文で原体不明。8~11は地文單節RLで磨り消し縄文の懸垂文を持つキャリバー形土器の胴部片。8は波状の沈線文を伴う。12は浅鉢形土器の底部付近の破片か。13は底部片。14は押し引きの押圧文が並走する胴部片。15は口縁部に把手を持つが剥落する。16は把手に破片。17・18は両側に沈線を伴う斜位のキザミに入る文様の胴部片。

19は、敲き石・凹石で長さ8.1cm、幅3.7cm、厚さ2.3cm、重さ106.41g。背面及び下部欠損。凝灰岩。



第65図 西ノ原遺跡第181地点233号住居跡出土遺物(1/4)

④ 221号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の南側で東寄りに位置し溝・と重複する。住居跡の時期は炉内埋設土器から加曾利 E I 式期である。

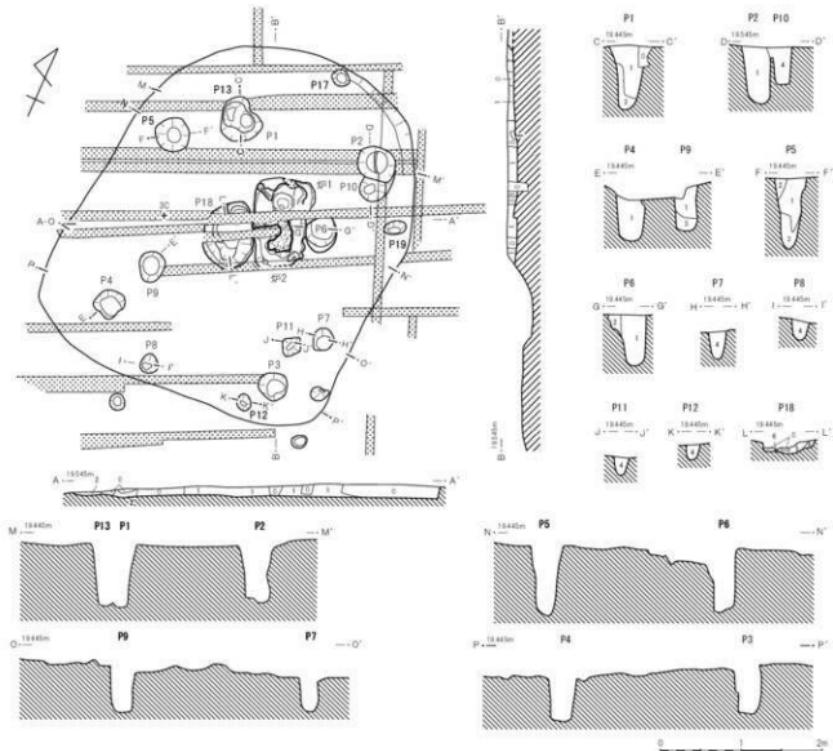
【形状・規模】ローム層を僅かに掘り込み北東壁は確認できる以外は、床面の範囲を確認した状況である。平面形態は隅丸長方形か楕円形である。床面と考えられる範囲の規模は長軸(448)cm、短軸373cm、深さ5~10cmである。

【炉】炉は住居跡の中央部に南北に並んで位置する。北側が炉1で新しく、南側の炉2が古い。

炉1は埋甕炉で平面形態は隅丸方形を呈する。炉内に底部を欠損する深鉢形土器を正位に埋設する。炉の規模は長軸75cm、短軸(40)cm、底径37×(35)cm、深さ12cmである。

炉2は地床炉で平面形態は隅丸方形とみられる。規模は長軸64cm、短軸(54)cm、底径(36)×28cm、深さ7cmである。

【柱穴】柱穴は16本検出した。基本的な主柱穴は4本柱で、P1・7・9・10が古く、P2~4・13が新しい。覆土層の観察からP8・11・12も古い柱とみられる。新旧の柱穴の配置と炉跡から、住居跡の拡張が行わ



1. 黒褐色土 粘性有。練り強。2mm以下ローム粒多く、同焼土粒少し含む
2. 黑褐色土 粘性有。練りや弱。黑褐色土と細褐色土を混合
3. 黑褐色土 粘性有。練り強。1mm大ローム粒・焼土粒多く含む
4. 黑褐色土 粘性有。練り強。1mm大ローム粒を多く、同焼土を1層より多く含む（炉の焼土と思われる）

5. 細褐色土 粘性有。練り強。ローム主体で練り強く、黒褐色土をシミ状に少し含む
6. 細褐色土 粘性有。練り強。ローム主体で黒褐色土混ざらない、古い住居柱で埋設したものと思われる
7. 細褐色土 粘性有。練り強。5mm以下焼土粒多量。2mm以下ローム粒ややや少く、炭化物はほとんどみられない
8. 細褐色土 粘性有。練り強。2mm以下焼土粒多量。ローム粒少し含む

第66図 西ノ原遺跡第181地点221号住居跡(1/60)

れた可能性が考えられる。詳細は第29表のとおりである。

【周溝】なし。

【遺物出土状況】炉の覆土層及び住居跡の中央部床面から覆土層にかけて縄文土器片と石器が僅かに出土する。

【出土遺物】第68図参照。1は炉体土器。キャリバー形土器。胴下半欠失し、割口は摩耗。口縁部は南側が攪乱で北側は使用段階で欠いている。被熱で胎土脆い。地文は口縁部を横位、頸部に無文部を持ち、胴部を縱位に燃系Rを施す。口縁部は上下を1本の隆帶で区画し2本1組のS字状文が横に展開する。

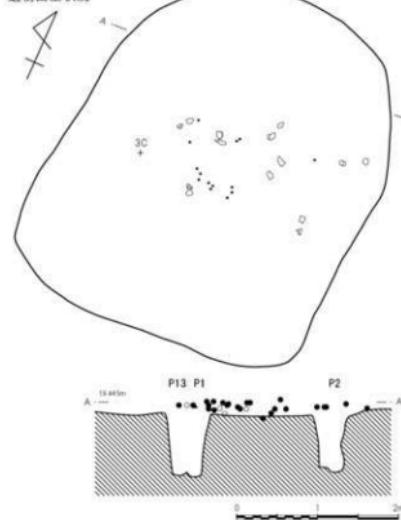
2・3は隆帶の区画文の口縁部片。2はキザミの入る隆帶に区画内に単節繩文。4~12は地文繩文の胴部片。4は燃系Lで2本1組の連弧文。6・7は半截竹管による平行区画文。6は地文単節RL。7は燃系R。8~10は地文燃系Lの胴部片。8は両側をナデする1本の波状隆帶が、9はナデの無い直線の隆帶が垂下する。10は球状の胴部。11・12は地文単節RL。11は沈線の懸垂文。13は地文燃系Rで交互刺突文の蛇行隆線を持つ口縁部片。14は地文単節RLで半截竹管文の胴部片。15は隆帶による口縁部区画

第29表 西ノ原遺跡第181地点221号住居内ピット一覧表(単位cm)

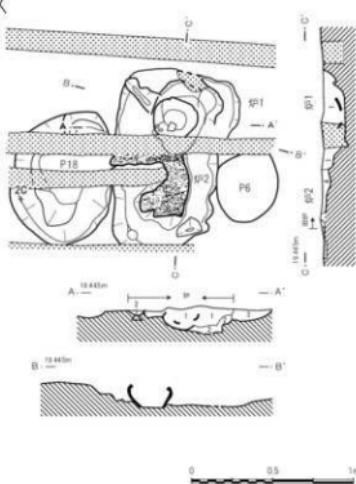
No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	円形	43 × 27	16 × 15	75.9
2	円形	48 × 40	26 × 13	72.4
3	円形	36 × 34	21 × 20	61.0
4	円形	39 × 35	23 × 20	61.3
5	円形	41 × 41	18 × 16	89.9
6	円形	46 × 37	8 × 7	80.3
7	円形	30 × 22	19 × 18	44.6
8	円形	24 × 21	12 × 9	26.7
9	円形	37 × 31	22 × 20	61.0

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
10	円形	40 × 28	14 × 11	68.6
11	方形	21 × 21	15 × 6	33.3
12	円形	20 × 17	8 × 5	20.3
13	円形	52 × 27	16 × 8	74.2
14	欠番			
15	欠番			
16	欠番			
17	円形	23 × 21	12 × 12	18.5
18	楕円形	81 × 64	50 × 44	—
19	楕円形	28 × 17	16 × 8	21.7

遺物出土状況



炉1・2



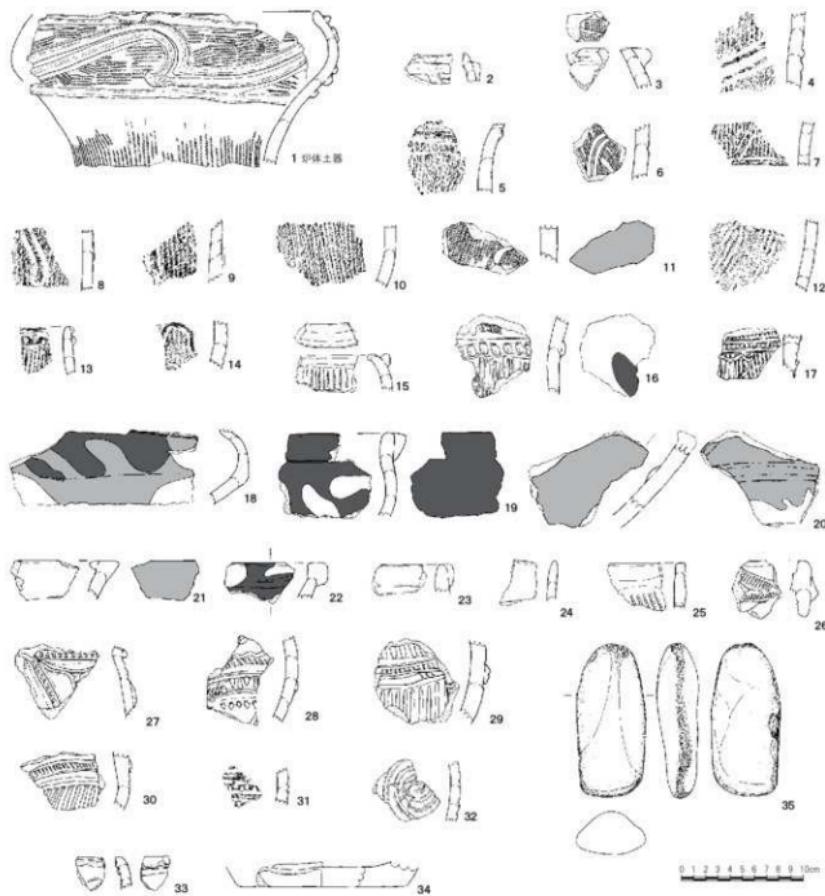
N ハードローム

1. 黒褐色土 粘性有。細り強。5mm以下ローム粒 搾土粒多く含む。炭化物ほとんどみられない
2. 継褐色土 粘性有。細り強。1cm以下シモーブロック多く、2mm以下搾土粒多く含む
3. 継褐色土 粘性有。細り強。1cm以下シモーブルムやや多く、2mm以下シモーブルム粒多く含む。鉢底
4. 継赤褐色土 粘性有。細り強。継赤褐色土ベースに5mm以下搾土ブロック多く、同ロームを少し含む。旧炉の覆土

第67図 西ノ原遺跡第181地点221号住居跡遺物出土状況(1/60)・炉(1/30)

文で縦位沈線が充填される。16・17は曾利系土器。16は地紋条線でくびれ部をキザミの入る隆帯で区画するタイプ。17は重弧系のくびれ部片。地文条線に横位に半截竹管文、蛇行沈線を巡らし垂下させる。18～23は浅鉢形土器。18は算盤玉状に張る胴部で、口縁部は直線的に外傾する。赤彩及び連弧状の黒色があつた可能性ある。19は器面が黒く彩色か。20は内側に隆帯の文様が施され、赤彩が残る。21は口唇部・内面が黒く彩色か。24は無文部の口縁部片。比較的幅狭な口縁部無文帶の小形の深鉢か。25は地文横位の単節R Lで胴部全体を施文か。26～30は細かいキザミに入る隆帯文の胴部片。26・27は区画内に三叉文。28～30は平行沈線、蛇行沈線で充填。31は平行沈線の間に交互刺突を施す。32は渦巻状の沈線文を胴部片。33は外面押圧のある隆帯に内面に細かい刺突文。34は底部片。

35は敲き石で、221号住居跡のピット5より出土した。側面に細かい打痕がみられる。長さ12.5cm、幅5.7cm、厚さ3.3cm、重さ333.84gを測る。砂岩。



第68図 西ノ原遺跡第181地点221号住居跡出土遺物(1/4)

⑤ 222号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の中央部に位置し、228号住居跡、229号住居跡と重複する。新旧関係は222号住居跡→228号住居跡→229号住居跡の順に新しくなる。炉内埋設土器から住居跡の時期は勝坂式期末と考えられる。

【形状・規模】平面形態は隅丸長方形を呈する。柱穴の配置と周溝の状況から、南側に住居の拡張が行われている。規模は長軸510cm、短軸424cm、深さ10~30cmである。

床面はほぼ平坦で硬く締まり、炭化物の層が広がる。

【炉】炉は住居跡の中央部やや北寄りに位置する。炉は埋甕炉で平面形態は不整隅丸方形を呈する。炉内に底部を欠損する深鉢形土器を正位に埋設する。炉の規模は長軸(69)cm、短軸66cm、底径23×22cm、深さ15.6cmである。

【柱穴】柱穴は9本検出した。主柱穴はP1・4・5・6・7・8で、基本は4本ないし6本柱とみられる。ピット1・7・4・5・6には柱穴を掘り直した痕跡があり、2基の炉と併せて住居の拡幅が考えられる。詳細は第30表のとおりである。

【周溝】周溝は住居跡北側では1重に、南側では一部が2重にめぐる。外側の周溝は出入口部分とみられる部分では途切れる。

周溝の規模は上幅20~30cm、下幅10~25cm、深さ20cm~30cmである。

【遺物出土状況】住居跡の北東隅は他の住居跡と重複しないため、222号住居跡の覆土層が良好に残存しており、炉の周辺を中心に遺物の出土がやや多くみられる。

【出土遺物】第73図参照。1は炉体土器。キャリバー形土器。口縁部の破損は擾乱によるもの。下半部を粗く欠いて埋設される。胴部外面に煤が多く付着、炉体以前の使用によるか。口縁部は推定入り口方向の被熱が強く酸化している。地文は0段多条の単節RLを縦位に全面に施し、口縁部を1本の隆帯で区画。その間を1本の隆帯で波瀬文を推定単位施す。但し1カ所隆帯はつながらない箇所があり、その反対方向の下側の区画隆帯に3つのキザミが見られる。

2・3は旧炉体土器で同一個体。頸部無文帶を持つキャリバー形土器。口縁部は地文燃系Lを横位に施し2本1組の隆帯でS字状文を連結して展開する。胴部は燃系Lを縦位に施す。残存部では懸垂文を認めない。被熱による劣化は少ない。

4・5はキャリバー形土器の同一個体。地文燃系Lを丁寧に施す体部にS字状等の隆帯が貼り付く印象が強い土器。胎土に雲母を多く含む。口唇部から内面にかけて被熱によるものか、黒色化した劣化が見られる。6~18は地文燃系のキャリバー形土器。6は地文Lで2本1組の隆帯でS字状文を施す。7は地文Lが口縁部から胴部に連続し2本1組の隆帯が区画。8~9は地文燃系Lを横位に施し隆帯のS字状文

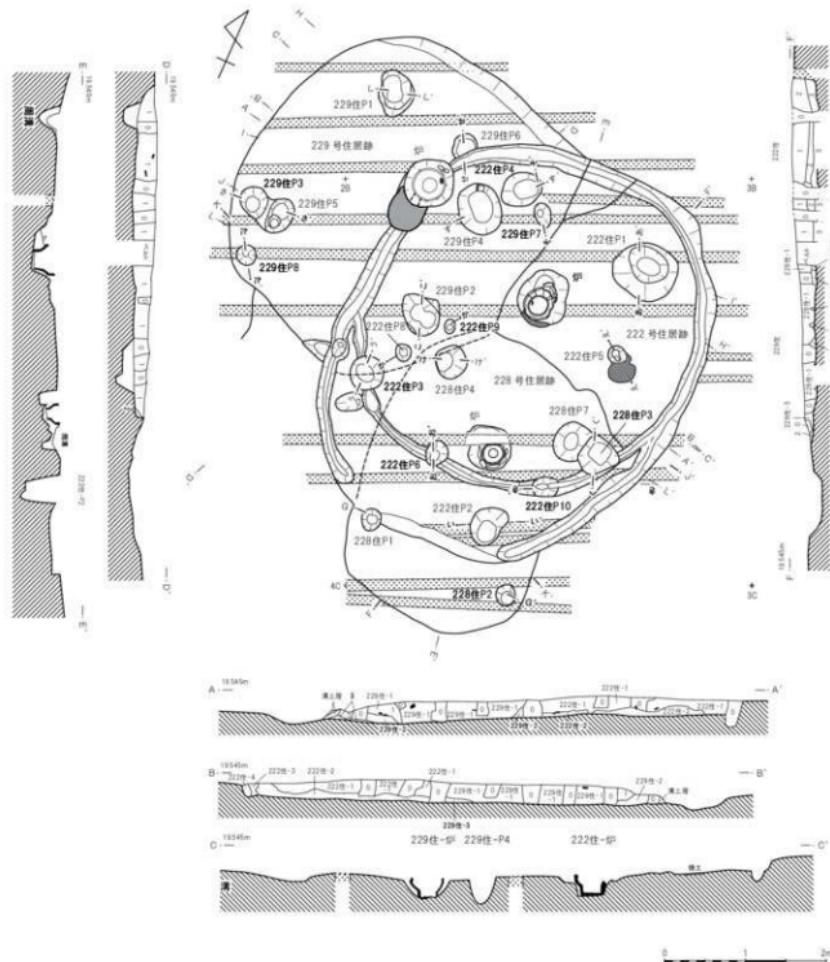
第30表 西ノ原遺跡第181地点 222・228・229号住居内ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	82×71	30×20	89.1	222住
2	不整形	49×38	27×22	51.3	222住
3	円形	42×40	25×19	54.4	222住
4	楕円形	52×42	30×23	64.4	222住
5	不整形	47×33	7×4	21.0	222住
6	円形	31×28	14×10	23.8	222住
7	欠番				
8	円形	22×20	11×9	37.1	222住
9	楕円形	18×13	7×7	15.3	222住
10	円形	(33)×(24)	16×7	22.6	222住
1	円形	27×23	14×13	51.9	228住
2	円形	27×25	16×15	45.0	228住
3	円形	44×(40)	25×24	82.1	228住

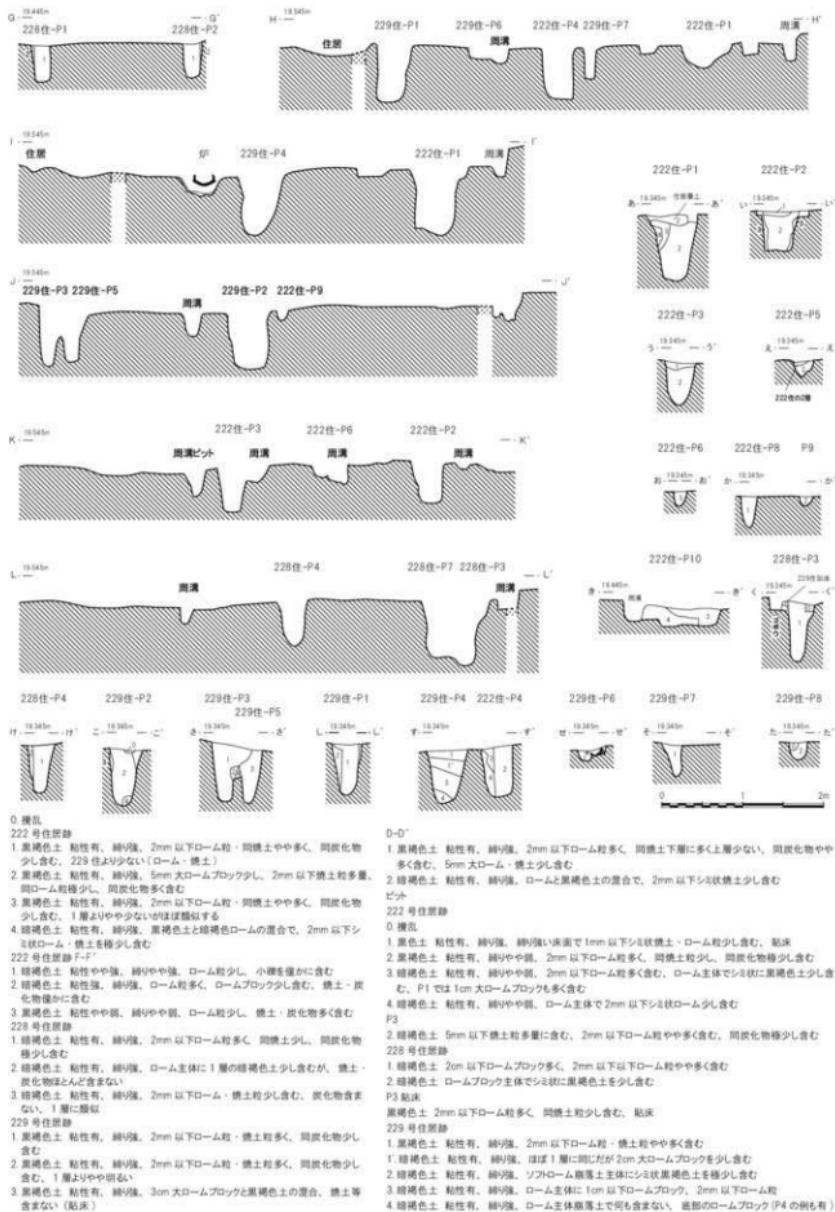
No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
4	円形	38×36	23×19	65.2	228住
5	欠番				
6	欠番				
7	円形	48×36	23×16	70.7	228住
1	不整形	56×45	34×18	77.6	229住
2	楕円形	57×48	33×16	71.9	229住
3	円形	39×34	18×17	78.1	229住
4	楕円形	64×51	39×27	74.2	229住
5	楕円形	45×35	12×12	70.4	229住
6	円形	31×24	24×18	11.5	229住
7	楕円形	31×21	10×8	40.8	229住
8	円形	25×23	8×7	24.2	229住

を施す口縁部片で同一個体か。10は波状口縁で縦位に地文燃系Lを施し断面三角の隆帶で区画する。11は地文Rを縦位に施し2本1組の隆帶の懸垂文が垂下する胴部片。12は地文燃系に隆帶で渦巻文等を施す胴部片。13～15は地文燃系だけの胴部片。16・17は地文Lで隆帶の垂下する懸垂文深鉢形土器の底部片。18は地文Rの底部片。19は地文条線の球胴形の土器胴部片。20は地文燃系Rで細かい爪型文を施した隆帶の胴部片。21は地文燃系に沈線文の胴部片。22は地文条線の底部片。23・24は浅鉢形土器の口縁部片。

25～27は打製石斧。25は、長さ10.6cm、幅4.2cm、厚さ1.9cm、重さ100.03g。完形、凝灰岩。26は、長さ9.7cm、幅4cm、厚さ2.4cm、重さ130.70g。下部欠損、安山岩。27は、長さ8.2cm、幅6.5cm、厚さ2cm、重さ87.43g。下部欠損、ホルンフェルス。



第69図 西ノ原遺跡第181地点 222・228・229号住居跡、土層(1/60)



第70図 西ノ原遺跡第181地点 222・228・229号住跡土層・ピット(1/60)

⑥ 228 号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の中央部に位置し、222号住居跡、229号住居跡と重複し溝・の削平を受ける。新旧関係は 222 号住居跡 → 228 号住居跡 → 229 号住居跡の順に新しい。炉内埋設土器から住居跡の時期は加曾利 E I 古式期と考えられる。

【形状・規模】平面形態は隅丸長方形を呈する。規模は長軸 (359) cm、短軸 (293) cm、深さ 3 ~ 19cm である。床面はほぼ平坦で硬く締まる。222 号住居跡の床面との高低差はほとんどみられない。

【炉】炉は住居跡の中央部やや北寄りに位置する。炉は石囲埋甕炉で平面形態は不整隅丸方形を呈する。炉内に底部を欠損する深鉢形土器を正位に埋設する。炉の規模は長軸 52cm、短軸 (52)cm、底径 18 × 17cm、深さ 20.4cm である。

【柱穴】柱穴は 5 本検出した。主柱穴は 4 本柱で P1・2・3・4 である。詳細は第 30 表のとおりである。

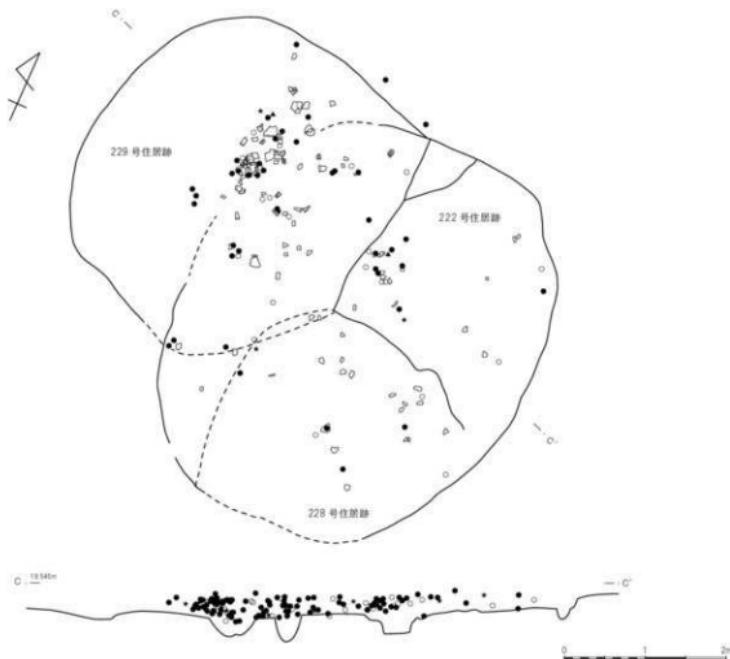
【周溝】なし。

【遺物出土状況】住居跡北側部の床面から覆土層にかけて僅かに遺物の出土がみられる。

【出土遺物】第 74 図参照。1 は炉体土器のキャリバー形土器。搅乱により 1/4 を欠損。胴部下半は埋設前に欠失。割口は摩耗がない。器面の被熱による劣化は少ない。土器は波状口縁で、地文燃系 L を口縁部に横位に、頸部から胴部に縱位に施し、口縁部と頸部に隆帶で文様帯を構成する。隆帶の粘貼の順位は口縁部直下 → S 字が最初で左方向に逆 J → 口縁部文様帯下端区画となる。

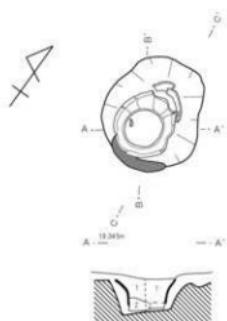
2 ~ 6 は地文燃系 L のキャリバー形土器。2 が口縁部片、3 ~ 5 は頸部片、6 は胴部片。2 は地文燃系

遺物出土状況

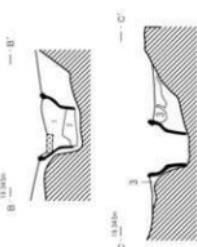


第 71 図 西ノ原遺跡第 181 地点 222・228・229 号住居跡遺物出土状況 (1/60)

222住 炉



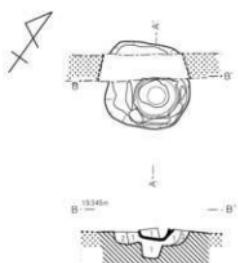
222住 挹方



○ 横乱

1. 黒色土 粘性有、練り強。2mm 以下ローム・焼土粒多く含む
2. 黒褐色土 粘性有、練り強。全体的にローム主体で5mm 以下ローム・焼土粒や砂多く含む
3. 黑褐色土 粘性有、練り強。5mm 大ロームブロック少し。2mm 以下焼土粒多量。同ローム粒多し。同炭化物多く含む

228住 炉



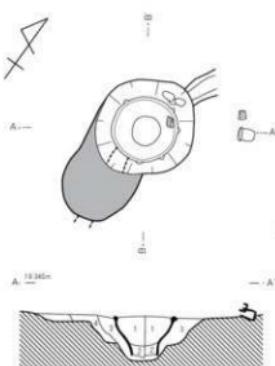
228住 挹方



○ 横乱

1. 結褐色土 粘性有、練り強。2mm 以下シロ状ローム・焼土少し含む
2. 結褐色土 粘性有、練り強。2mm 以下シロ状ローム少し含む(焼土はなし)
3. 結褐色土 粘性有、練り強
4. 結褐色土 粘性有、練り強。撫方と土器のすき間の暗褐色土

229住 炉



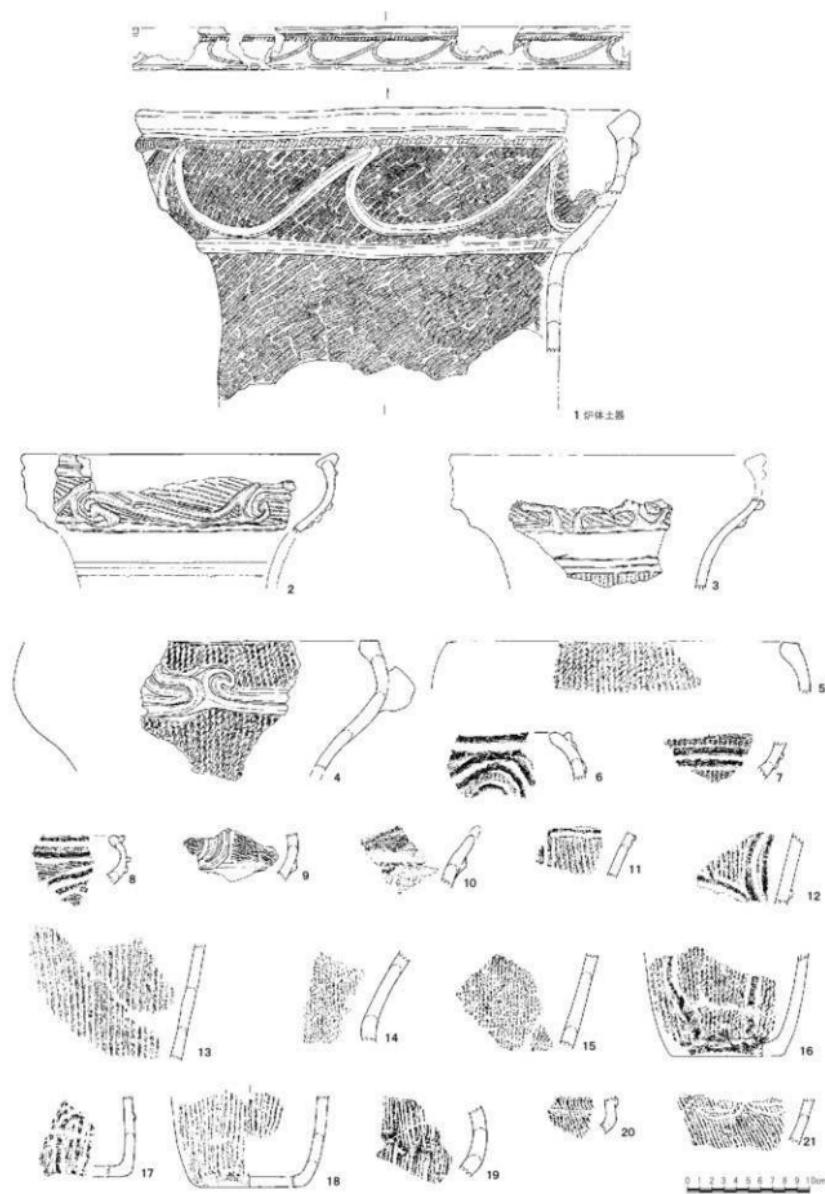
229住 挹方



1. 黒褐色土 粘性有、練り強。2mm 以下焼土粒多く、同炭化物・ローム粒少しある
2. 黒赤褐色土 粘性有、練り弱。5mm 以下焼土粒多く、ローム・炭化物ほとんどられない
3. 黑褐色土 粘性有、練り強。3mm 以下焼土粒多く、2mm 以下炭化物少しある
4. 黑褐色土 粘性有、練り弱。3層より少し弱く、2mm 以下焼土粒多く含む、炭化物ほとんどない

0 0.5 1m

第72図 西ノ原遺跡第181地点 222・228・229号住居跡炉 (1/30)



第73図 西ノ原遺跡第181地点222号住居跡出土遺物①(1/4)

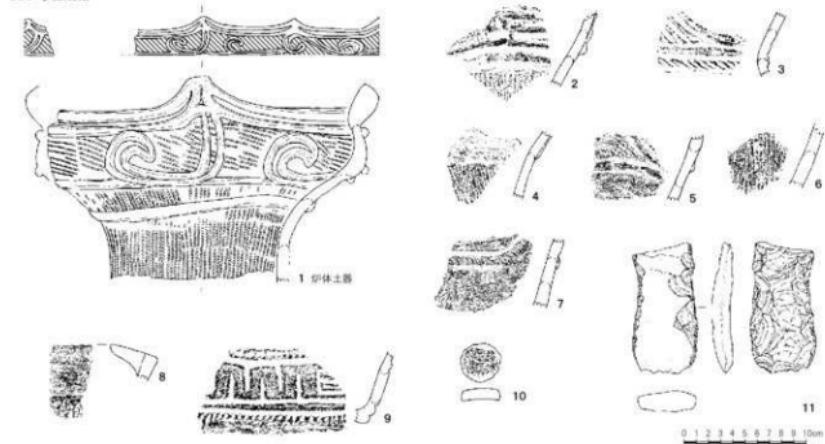
で隆線で S 字状文を連結する口縁部片。3 は口縁部を沈線文で構成し下段の隆線に繩文が押圧された頸部片。4・5 は無文の頸部文様帶を持つキャリバー形土器で地文は撚糸 L。6 は地文に細かな撚糸しが施された胴部片。7 は細かなキザミが入る隆帯で文様を構成し胎土に雲母片を少量含む胴部片。8・9 は浅鉢形土器。8 は口縁部が強く内屈し、外面に胴部に単節 RL を施す。9 は胴部が算盤玉状に張るタイプか。胴部文様帶は沈線によって表出された大きな蛇行文で構成。10 は単節繩文土器片を転用した土製円盤。

11 は打製石斧で、長さ 10.8 cm、幅 5.2 cm、厚さ 1.5 cm、重さ 137.68g。基部欠損、砂岩。

222 号住居跡



228 号住居跡



第 74 図 西ノ原遺跡第 181 地点 222 ②・228 号住居跡出土遺物 (1/4)

⑦ 229 号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の中央部に位置し、222号住居跡、228号住居跡と重複した溝・の削平を受ける。新旧関係は222号住居跡→228号住居跡→229号住居跡の順に新しい。炉内埋設土器から住居跡の時期は加曾利E I新式期と考えられる。

【形状・規模】平面形態は隅丸方形を呈し、ローム層掘り込む。床面は住居跡中央部の炉周辺がやや低くなるが、ほぼ平坦で硬く縮まる。222号住居跡の床面との高低差は、229号住居跡が僅かに低い。

規模は長軸(397)cm、短軸(355)cm、深さ11~25cmである。

【炉】炉は住居跡の中央部や北寄りに位置する埋甕炉で、平面形態はほぼ円形を呈する。炉内に底部を欠損する深鉢形土器を正位に埋設する。炉の規模は長軸61cm、短軸57cm、底径18×18cm、深さ24cmである。炉の東側より、ミニチュア土器が2点出土した。(第72図、第75図2・3)

【柱穴】柱穴は8本検出した。主柱穴は4本柱でP1・2・3・4である。詳細は第30表のとおりである。

【周溝】なし。

【遺物出土状況】住居跡中央部から東側の床面から覆土層にかけて遺物が多数出土する。第74図1は床面からの出土である。

【出土遺物】第75図参照。1は炉体土器。胴下半を丁寧に打ち欠いて正位に埋設。被熱による劣化は全体的に少ないが埋設時南東側に位置した口縁部の隆帯文は剥落し、その面が被熱による劣化が見られる。埋設後火を受けていたと考えられる。実はその対角方向の床面で出土したのが2・3の小型土器で相互の関係が推定できる。土器は地文燃系Lで、口縁部文様は8個の渦巻文・S字の突起が付く。頸部無文帶以下の胴部は2本一組の隆帯で区画され、同じく2本一組と1本の隆帯の懸垂文が垂下する。

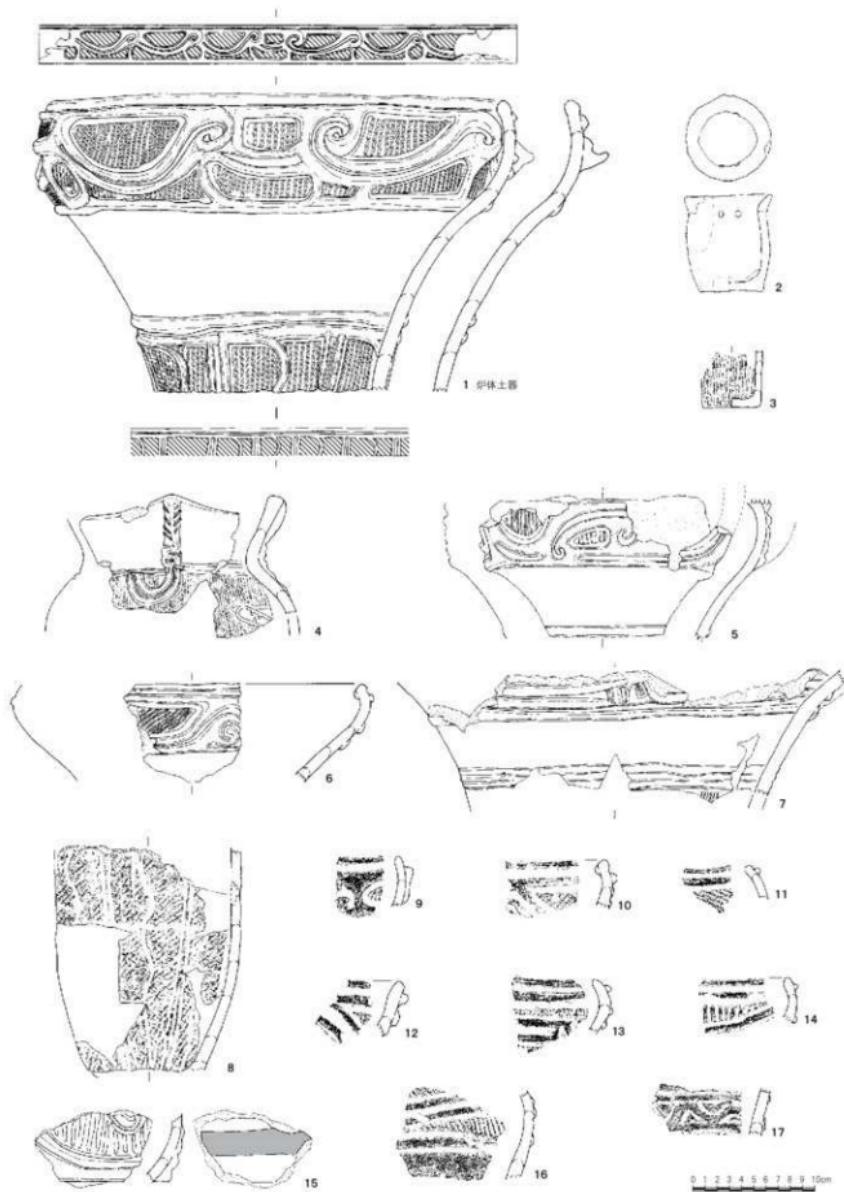
2は、炉体土器北東方向約35cmの床面に半分ほど食い込んで炉方向に口を向け置かれた小型土器。外表面は底部を除き煤が付着する。器面は簡単なナデ調整。頸部に2穴が向かい合うように穿孔される。それと直行するように口縁部のごく一部が片口状に割れている。穴の壁に棒状のものを差し込んだような削痕はない。3は2のすぐ北側で同じように炉体土器方向に口縁部を向けて出土。但し上半部を欠損する。外表面に煤の付着が見られる。土器は地文細かい燃系文で燃りの方向は判読できない。

4は波状口縁で口縁部無文帶、胴部が球状を呈する曾利系の深鉢形土器。胴部の地文は縦位の燃系L。波状口縁の波頂部から矢羽根状のキザミに入る隆線が垂下し、胴部で2本1組の隆帯となってJ字状に展開する。頸部には2本一組の沈線が廻り、一部に交互刺突の波状文を表す。またその頸部からL字状に沈施文が伸びる。胴中央部の割口には内側からのカーボンの侵入が見られる。

5~7は頸部無文帶を持つキャリバー形土器の口縁部・頸部片。5は把手状の突起が付く。太い沈線で構成された渦巻文・梢円文の間を縦位の沈線が埋める。胴部と頸部の区画は両脇に沈線を持つ低いカマボコ状の隆帯。6は口縁部文様をS字の隆線で施し区画内を横位に単節LRで充填する。7は頸部無文帶周辺の破片。胴部地文は繩文だが原体は不明。

8~21はキャリバー形土器。8~10は地文RL単節を縦位に施し隆線で梢円区画と渦巻を配する。12は地文不明。13~15は隆線で間延びしたS字状文を施し区画内を縦位沈線で埋めるタイプ。16は地文LR単節。15・16は頸部無文帶を持つ。17は低く緩やかな蛇行隆帯を頸部に巡らす。17~21は胴部片。18は交点に渦巻が突出する2本1組の隆線Y字状の懸垂文で区画内を縦位条線が埋める。19は地文条線、20が燃系LRの胴部片。21は燃系文だが原体が不明。

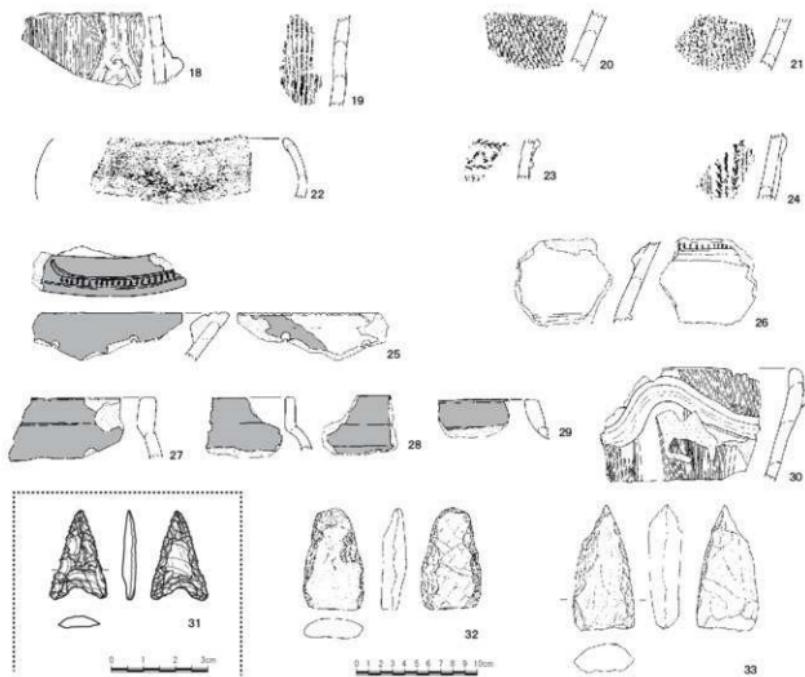
22は内湾しながら外傾する無文口縁部を持つ深鉢。23・24は22のタイプの頸部から胴部文様か、地紋条線に矢羽根状のキザミが入る隆帯が頸部をめぐり垂下する。25~28は浅鉢形土器。25・26は外傾する口縁部の内側に文様を施す。内面には赤彩お痕跡がある。同一個体か。25には補修穴が2カ所ある。26は外縁部に隆帯の区画が入る。27~29は無文で外面ミガキが施される。いずれも若干の赤彩の痕



第75図 西ノ原遺跡第181地点229号住居跡出土遺物①(1/4)

跡がある。30 は、キャリバー形土器の口縁部片。口唇部直下に太い隆帯を波状に廻らし、区画内を条線で埋める。隆帯から下は沈線で条線充填と幅広の無文の懸垂文を垂下する。

31 は石鎌。長さ 27.98mm、幅 17.42mm、厚さ 4.23mm、重さ 1.49g。完形、チャート。32 は打製石斧で、長さ 8.4cm、幅 5cm、厚さ 2cm、重さ 119.86g。下部欠損、ホルンフェルス。33 は打製石斧で、長さ 10.3cm、幅 5.2cm、厚さ 2.7cm、重さ 141.96g。下部欠損、ホルンフェルス。



第 76 図 西ノ原遺跡第 181 地点 229 号住居跡出土遺物②(1/4 · 2/3)

⑧ 223号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の南側に位置し、233号住居跡と重複する。新旧関係は223号住居跡が古く、233号住居跡が新しい。床面付近出土土器から住居跡の時期は勝坂式期と考えられる。

【形態・規模】平面形態は円形を呈し、断面はローム層をわずかに掘り込む浅い皿状で、床面はそれほど硬化していない。規模は長軸383cm、短軸344cm、深さ5~20cmである。

【炉】炉は地床炉で、住居跡の中央部や北寄りに位置する。平面形態は円形で底部の東側が僅かに窪む。炉の規模は長軸79cm、短軸(65)cm、底径(27)×19cm、深さ18.5cmである。

【柱穴】柱穴は9本検出した。主柱穴はP1・2・3・4・6・8の、4~5本柱とみられる。P8は規模が他の柱穴と異なるため、本住居に伴わない可能性がある。詳細は第31表のとおりである。

【周溝】なし

【遺物出土状況】炉周辺の床面から覆土にかけて繩文土器片と石器などが僅かに出土する。

【出土遺物】第78図参照。1は赤彩・黒彩のある無文の浅鉢形土器。底部を欠失し床面の浅い掘り込みに正位で埋置されていた可能性がある。

2は頸部も文帯を持つキャリバー形土器。繩文が施される隆帯で区画文と半截竹管による平行沈線、波状沈線で文様が構成される。施文の順位は隆帯粘貼→半截竹管の平行沈線→単節RL(区画内及び隆帯上)→波状沈線となる。

3は筒形の深鉢形土器か。斜方向のキザミの入る隆帯で区画された空間を半截竹管の平行沈線と三角押文で充填する。4・5は頸部無文帶片か。5は断面カマボコ状の隆帯。6は胴部片。地文単節RLで沈線の懸垂文が垂下。7は耳形の口縁部装飾文。8は大型の深鉢形土器口縁部片。口縁部は隆帯で区画された間を縦位の平行な集合沈線が充填される。9は斜方向のキザミの入る隆帯と充填された縦位の平行沈線の口縁部片。10は曾利系の重弧文土器の口縁部片。11は口縁部無文帯を持つ深鉢形土器。器面調整丁寧。12は地文条線の口縁部片で外面に煤付着。

13~15は浅鉢形土器で赤彩の痕がある。

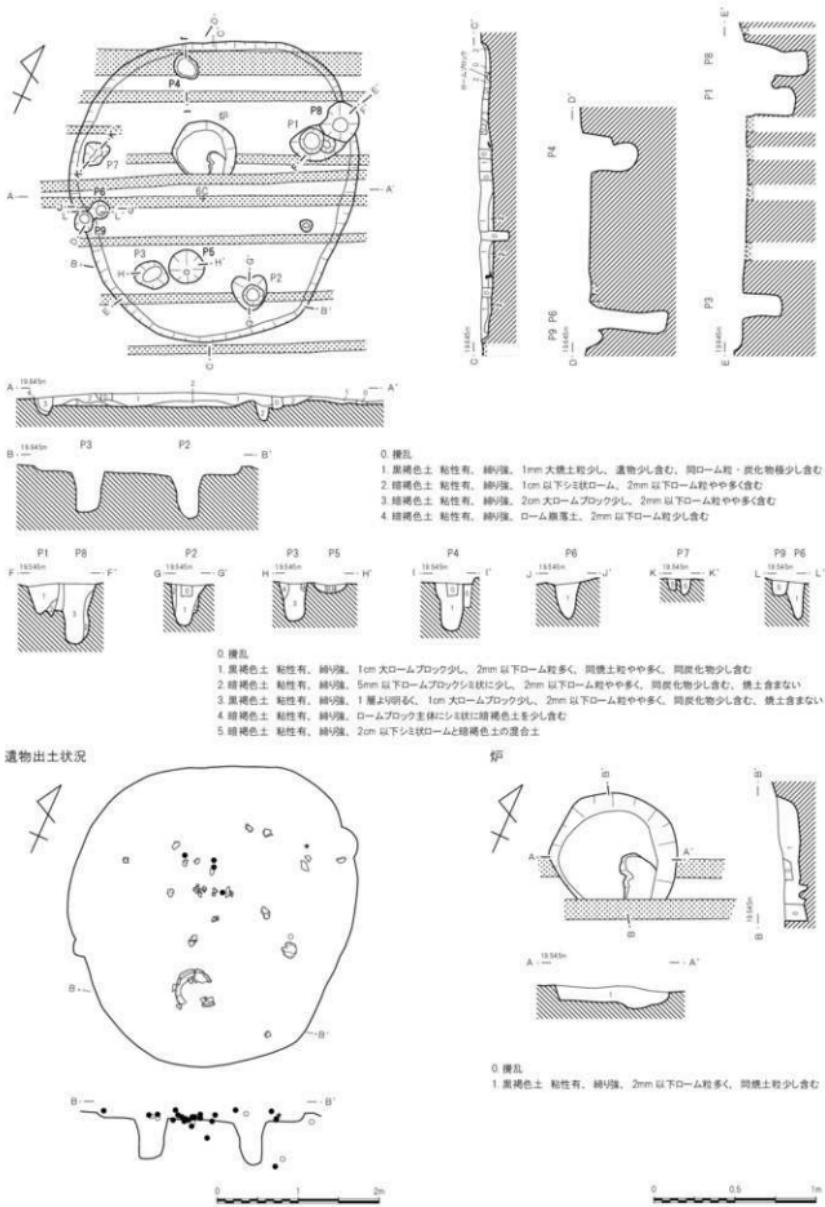
16は地文単節繩文の胴部片。LRを斜方向に施したものか。17は底部片。底部は器面が荒れる。18は高台付の脚部と胴部の接合部。外面地文単節RL。

19は磨製石斧。長さ4.9cm、幅2.2cm、厚さ1.0cm、重さ19.22g。基部と思われる上部は、端部から約7mmの範囲で研磨されている。下部欠損、凝灰岩。

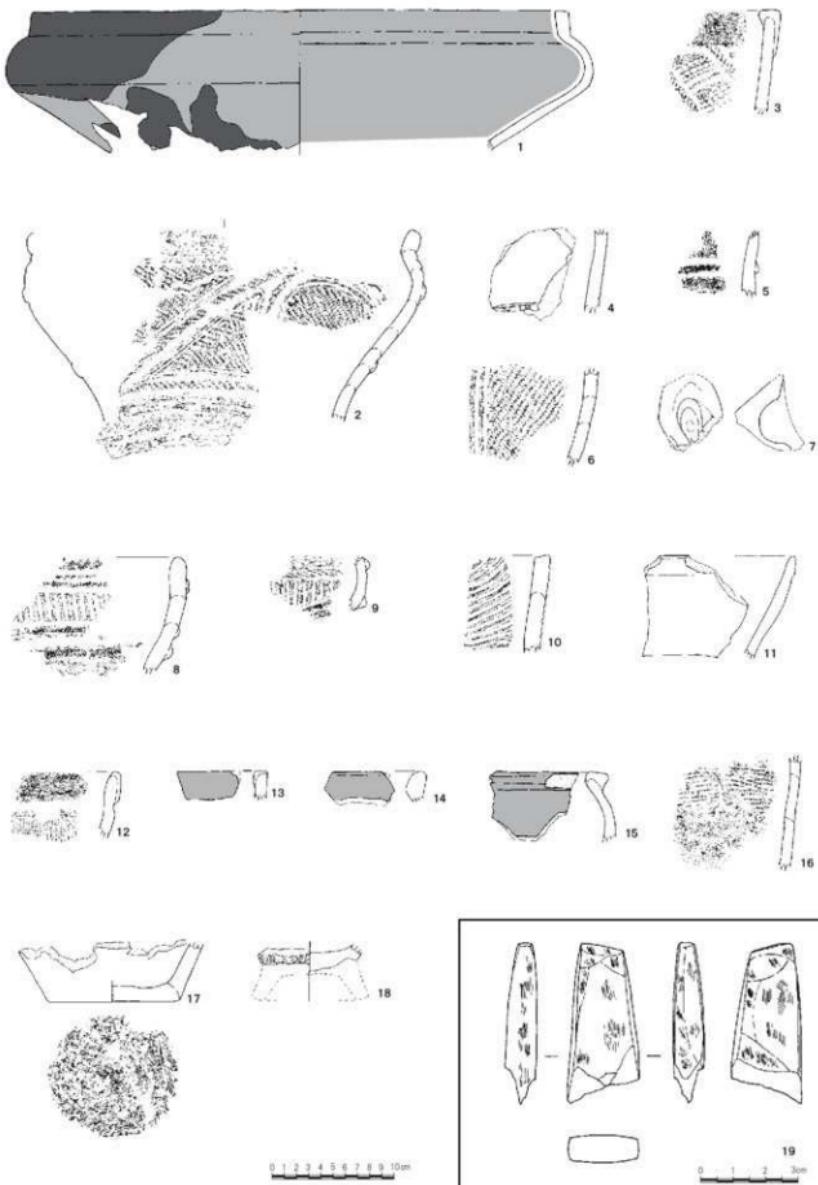
第31表 西ノ原遺跡第181地点223号住居内ピット

一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	不明	46×42	20×18	68.0
2	不整形	45×40	15×15	56.3
3	円形	43×35	25×15	49.3
4	円形	35×27	26×19	60.3
5	円形	44×40	6×5	12.0
6	不明	24×23	13×13	99.8
7	方形	30×28	18×8	26.8
8	不明	47×45	18×18	79.6
9	不明	26×22	12×12	16.8



第 77 図 西ノ原遺跡第 181 地点 223 号住居跡 (1/60)、炉 (1/30)



第78図 西ノ原遺跡第181地点223号住居跡出土遺物(1/4・2/3)

⑨ 224 号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の西側に位置し、230号住居跡と僅かに重複する。新旧関係は223号住居跡が古く、233号住居跡が新しい。炉内埋設土器や埋甕などではなく住居跡の正確な時期は不明である。

【形状・規模】平面形態は隅丸方形を呈し、断面はローム層を掘り込み住居の壁もしっかりしている。床面はほぼ平坦で硬化している。規模は長軸457cm、短軸447cm、深さ5~20cmである。

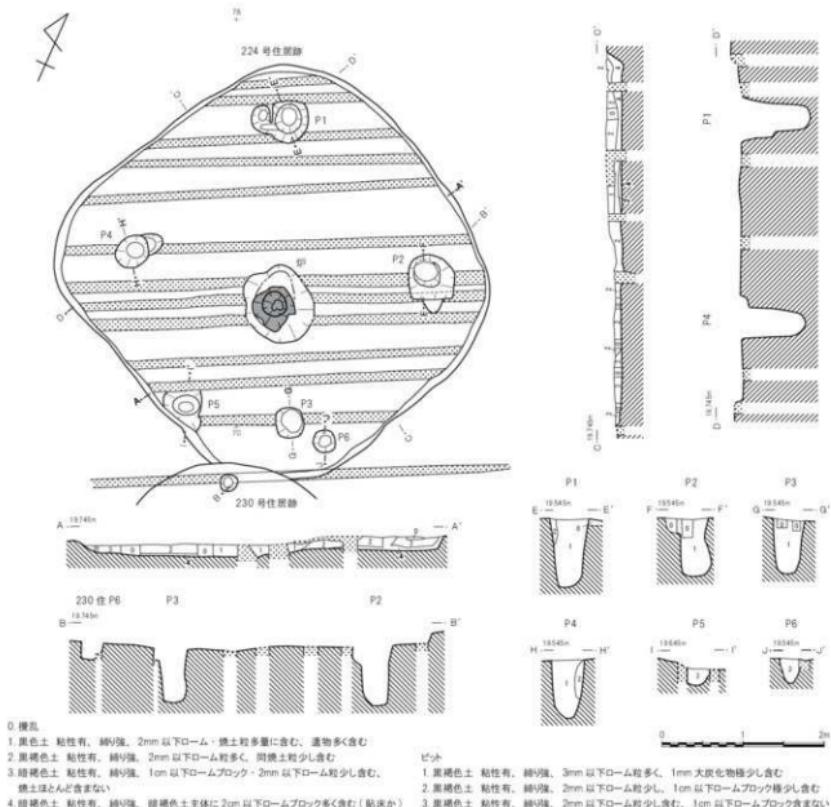
【炉】炉は地床炉で、住居跡の中央部やや南東寄りに位置する。平面形態は梢円形で中央部が深く窪む。炉の規模は長軸(96)cm、短軸84cm、底径15×(11)cm、深さ26.6cmである。

【柱穴】柱穴は6本検出した。主柱穴はP1・2・3・4の4本柱である。詳細は第32表のとおりである。

【周溝】なし。

【遺物出土状況】住居中央部の床面から覆土にかけて縄文土器片と石器などが僅かに出土する。

【出土遺物】1は連弧文土器。1は地文單節RLの脣下部。3本一組の沈線が弧状に廻る。内面下半はオコゲが付着する。2は上半部で脣部中ほどきれいに分離する。地文は櫛齒状の条線で2本一組の沈線が波状に廻り、各波頭部から1本の沈線が垂下する。3は地文が集合沈線。4は地文が単節RLで口唇部直下



第79図 西ノ原遺跡第181地点 224号住居跡(1/60)

に半截竹管による平行線の間を押圧する。5は斜方向に単節RLを施し口唇部直下に沈線と円形押圧が施文される。6は1に近い。7は地文単節で半截竹管の施文の上に棒状粘土の粘貼がある。8は地文単節RLに沈線文が施される。9は地文櫛齒状条線で縦横に沈線文が施され間を磨り消す。10・11は地文櫛齒状沈線の連弧文タイプの胴部片。

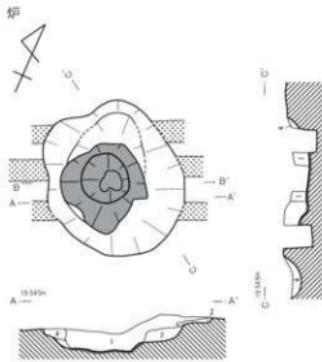
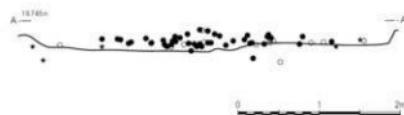
12は重弧文の曾利系土器。13～15は地文単節RLで頸部に蛇行隆線が粘貼される。13は上位に無文帯を持ち、14は隆線が2本、15は隆線が垂下する。16は胴部が球状の深鉢で地文条線に隆線が懸垂で垂下する。

17～21はキャリバー形土器の口縁部片。17は隆帶で渦巻・方形区画を施し沈線で充填する。18は渦巻文が突出する。19は楕円区画内を狭く深い沈線が充填される。20は地文燃系Lで隆帶の渦巻文。21は粗い単節RLを地文とする。22は深鉢形土器の頸部の環状把手。集合沈線で文様を構成する。23は口縁部の橋状把手片か。

25～28は浅鉢形土器。25は地文単節LRを横方向に施す。26～28は無文で、26・28は外側に、27

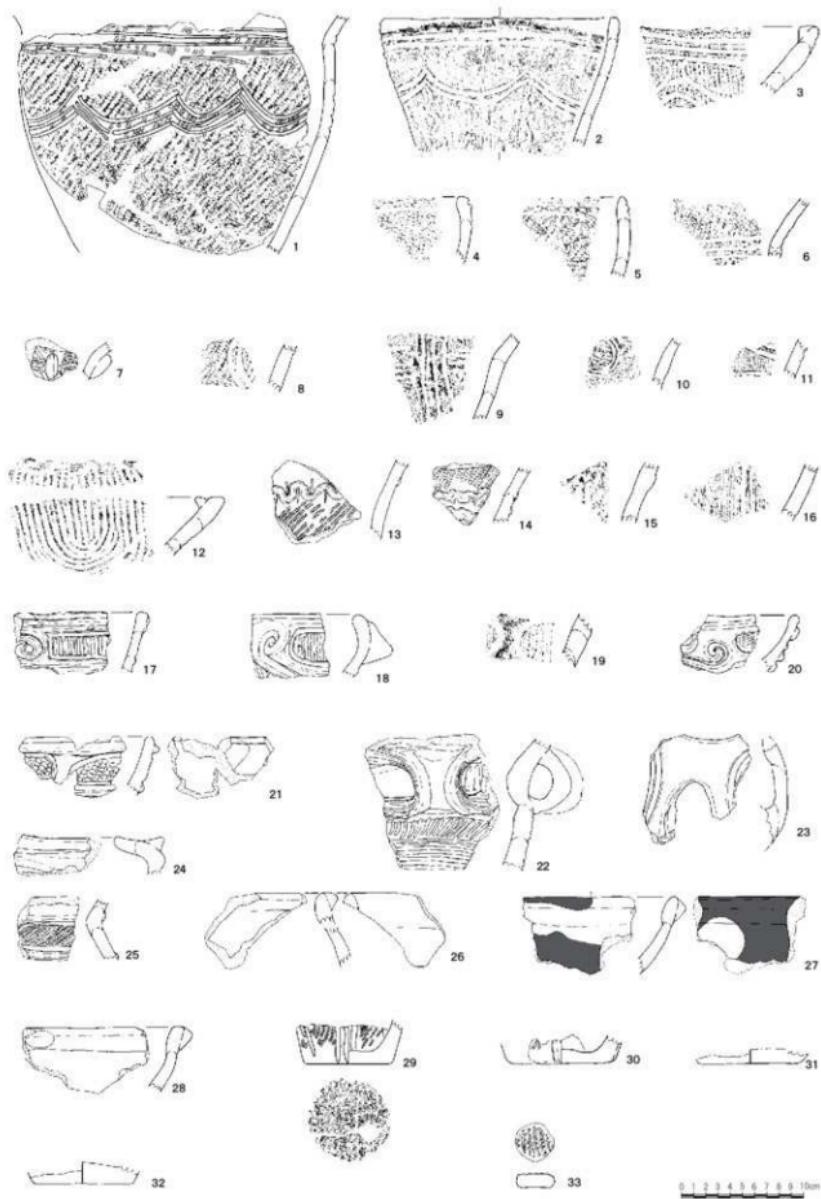
第32表 西ノ原遺跡第181地点224号住居内ピット一覧表
(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	ひょうたん形	70 × 52	23 × 19	86.6
2	円形	70 × 56	31 × 23	73.5
3	円形	36 × 35	28 × 23	70.7
4	ひょうたん形	62 × 38	22 × 18	77.4
5	不明	47 × 44	19 × 12	29.6
6	円形	28 × 27	14 × 14	33.6



- 1 黒赤褐色土 粘性有、練り強、2mm以下鐵土粒多く、同ローム粒少し含む、全体的に鐵土
- 2 粗赤褐色土 粘性有、練り強、1cm以下鐵土ブロック主体に、鐵土粒多く含む
- 3 粗赤褐色土 粘性有、練り強、2cm 大きめブロックと2mm以下鐵土粒多く含む
- 4 粗褐色土 粘性有、練り強、粗赤褐色土主体に2mm以下シミ状鐵土粒少し含む

第80図 西ノ原遺跡第181地点224号住居跡遺物出土状況(1/60)、炉(1/30)



第 81 図 西ノ原遺跡第 181 地点 224 号住居跡出土遺物①(1/4)

は内側に黒彩を残す。

29～32は底部片。29は地文単節RLで磨り消し縄文の3本一組の沈線と蛇行沈線が垂下する。30は地文単節RLで隆帶の懸垂文。31・32は底部の剥落片。

33は地文燃系Lの土器片転用の土製円盤。

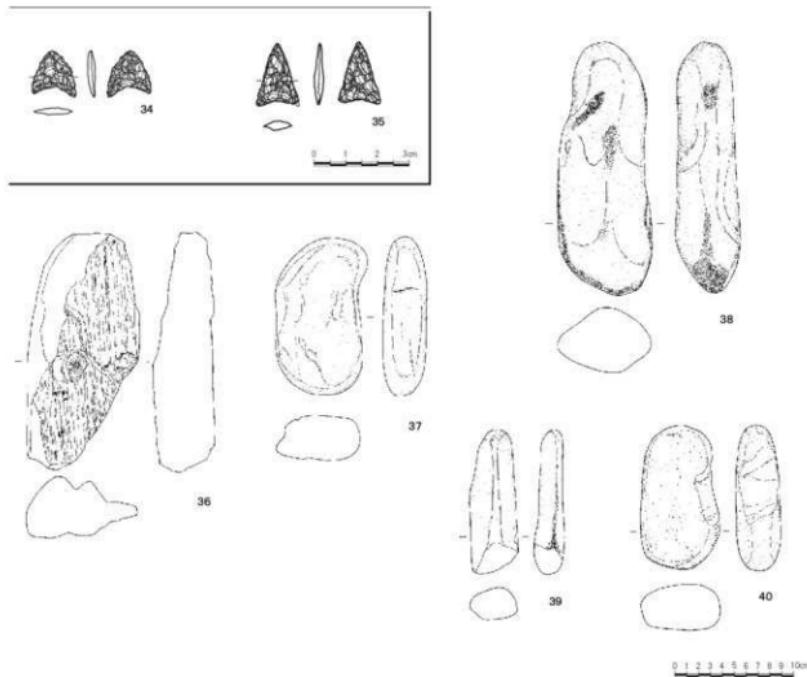
34は、石鐵。長さ19.39mm、幅18.38mm、厚さ3.15mm、重さ0.87g。完形、凹基無茎鐵、側縁は外に膨らむ(鋸齒状)。黒曜石。

35は、ピット3から出土した石鐵。長さ19.88mm、幅13.01mm、厚さ3.07mm、重さ0.50g。右脚部一部欠損、凹基無茎鐵、側縁は直線状(鋸齒状)。黒曜石。

36は凹石、長さ19.9cm、幅9.4cm、厚さ5.1cm、重さ508.12g。緑泥片岩。

37～40は敲き石。37は、長さ13.2cm、幅7.3cm、厚さ3.7cm、重さ508.12g。完形、ホルンフェルス。

38は、長さ21.4cm、幅7.8cm、厚さ5.5cm、重さ1257.93g。完形、砂岩。39は、ピット3から出土。長さ12.2cm、幅4.0cm、厚さ2.6cm、重さ184.89g。下部欠損、砂岩。40は、長さ12.2cm、幅6.7cm、厚さ3.8cm、重さ666.21g。完形、砂岩。



第82図 西ノ原遺跡第181地点224号住居跡出土遺物②(1/4・2/3)

⑩ 225 号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の北側に位置し、約半分は調査区外に延びる。炉内埋設土器や埋甕などはなく住居跡の正確な時期は不明である。

【形状・規模】平面形態は不明である。北側調査区の土層の観察では、約 20cm の住居覆土層を観察できるが、検出部では床面の範囲を確認した状況である。床面と考えられる範囲の規模は長軸 (472) cm、短軸 327cm、深さ約 20cm である。

【炉】炉は未検出である。

【柱穴】柱穴は 8 本検出した。主柱穴は P1・2・3 が考えられる。詳細は第 33 表のとおりである。

【周溝】周溝は 1 重で住居跡南側の一部で途切れる。また P4・5 が周溝となるのかは不明である。周溝の規模は上幅 18 ~ 24cm、下幅 5 ~ 12cm、深さ 20cm ~ 30cm である。

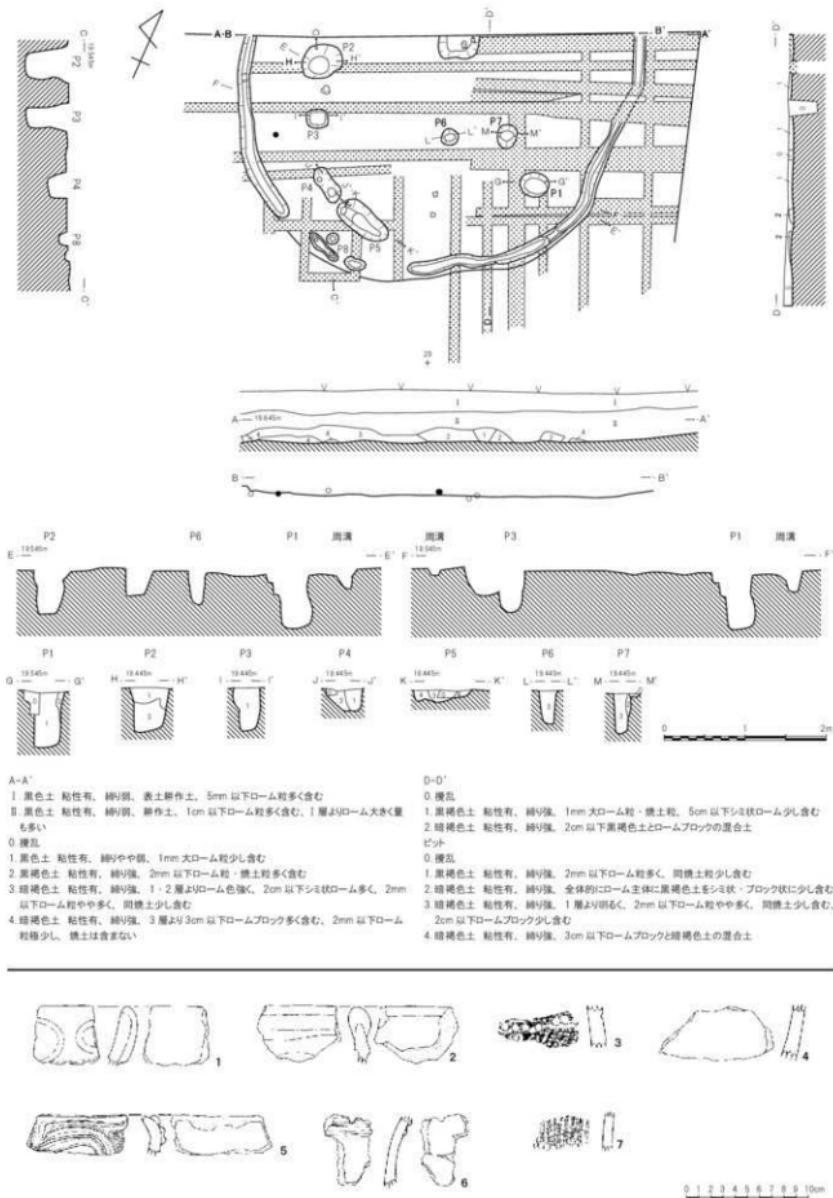
【遺物出土状況】住居中央部の床面付近から縄文土器片が僅かに出土する。

【出土遺物】第 83 図参照。1・2 はキャリバー形土器の口縁部片。1 は地文単節 RL で隆帯の脇をナデる。

3 は地文単節 RL で頸部に円形の連続刺突文。4 は深鉢形土器の無文部の胴部片。5 は地文燃系 L で 2 本一組の隆帯で S 字状文を施すキャリバー形土器口縁部片。6 は深鉢形土器の頸部無文帶片。7 は地文燃系の胴部片。

第 33 表 西ノ原遺跡第 181 地点 225 号住居内ピット
一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	円形	37 × 32	28 × 18	67.2
2	円形	51 × 42	25 × 21	53.3
3	方形	27 × 23	20 × 16	51.8
4	不整形	46 × 19	12 × 9	28.2
5	椭円形	72 × 32	11 × 6	16.7
6	円形	23 × 20	14 × 9	43.4
7	円形	29 × 23	15 × 12	52.8
8	円形	15 × 14	7 × 6	13.2



第 83 図 西ノ原遺跡第 181 地点 225 号住居跡 (1/60)、出土遺物 (1/4)

⑪ 226 号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の北側に位置し、約半分は調査区外に延びる。炉内と住居跡床面出土土器から住居跡の時期は勝坂式期と考えられる。

【形状・規模】平面形態は不明である。北側調査区の土層の観察では、約20cmの住居覆土層を観察できるが、検出部では床面の範囲を確認した状況である。床面と考えられる範囲の規模は長軸(454)cm、短軸(290)cm、深さ約20cmである。

【炉】炉は地床炉で、住居跡の中央部に位置するとみられる。平面形態は不明である。炉内から横倒しの状態で深鉢形土器の胴部が出土した。(第85図3)炉の規模は長軸(50)cm、短軸50cm、底径(50)×38cm、深さ21.8cmである。

【柱穴】柱穴は14本検出した。覆土層の観察から新旧の柱穴があると考えられる。P2・3・6以外は主柱穴の可能性が考えられる。詳細は第34表のとおりである。

【周溝】なし。

【遺物出土状況】炉とP3～5・9・10周辺からまとまとった遺物が出土する。

住居中央部の床面付近から縄文土器片が僅かに出土する。

【出土遺物】第85・86図参照。1は瓢形の口縁部無文帯を持つ深鉢形土器。一ヵ所波状に突出す把手が付く。波頂から矢羽状の刺突が入る隆帯が垂下し両脇に環状文が4ヵ所付く。胴部は真ん中に沈線があり2本に見える隆帶で渦巻文を施す。隆帶には矢羽状、平行の刻みや交互刺突が施される。隆帶文の間は沈線で三角文に囲まれた三叉文で埋める。外器面は煤状の付着物がほぼ全面みられる。

2は小型の深鉢形土器。外傾する口縁部無文帯の下の刻みの入る隆帶で楕円文、渦巻を施し間を沈線で埋める。楕円区画文の中の文様は三口の顔面にも見える。この文様帯は「3」を基調にしている。区画文は楕円1+渦巻2(A+B)、渦巻A+楕円1と渦巻Bは縦の隆帶で区画され2+1となる。間を埋める沈線は3本で、縦位区画文の隆帶上の押圧はいずれも3となる。土器の下半はRL単節。

3は円筒形の深鉢形土器。上半部は2本一組のU字・逆U字の区画の間を渦巻文を配し縦位の太い沈線で埋める。下半は半截竹管による平行沈線を施す。外面上半に煤付着。4～8は口縁部文様帯が隆帶で構成されるタイプ。4は括れ部に2本一組の隆帶を巡らし、口縁部は隆帶の渦巻文を交互刺突みよる蛇行隆帶と連続刺突された隆線が繋ぐ。胴部はRL単節は縦位に施される。5・6は同一個体か。頭部無文帯を持ち、口縁部は連続刺突の隆帶で区画され、間を三叉文、渦巻文等で埋める。器面は黒色の発色がきれいでよく磨かれる。7は5・6の頭部片か。8は口縁部と胴部に括れないタイプ。鎖状と連続刺突の隆

第34表 西ノ原遺跡第181地点 226号住居内ピット
一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面積	底径	深さ
1	円形	46×46	11×9	67.9
2	円形	45×43	25×22	33.6
3	円形	37×40	19×18	25.4
4	円形	53×46	14×11	50.3
5	円形	43×35	17×15	43.8
6	楕円形	43×30	23×20	28.0
7	円形	43×39	24×22	90.2
8	楕円形	48×40	30×18	59.3
9	楕円形	32×30	22×13	63.7
10	円形	37×34	15×9	62.2
11	不明	37×23	31×14	74.2
12	不明	47×36	17×17	64.1
13	不明	43×28	16×14	55.8

帶で区画されあを三叉文、蛇行文が埋める。胴部は横位又は斜位の RL 単節。9 は 8 と同一個体か。

10 は波状口縁の深鉢形土器の口縁部片。弱い刺突が施された隆帯と沈線文で口縁部文様帶を構成するか。

11 はキャリバー形土器の口縁部片か。地文 L 横糸で丸い紐状の隆帯文で構成される。

12 は胴部が丸く張る深鉢形か。地文 RL を横位の施し半截竹管文で文様を構成する。胎土は赤味が強い。

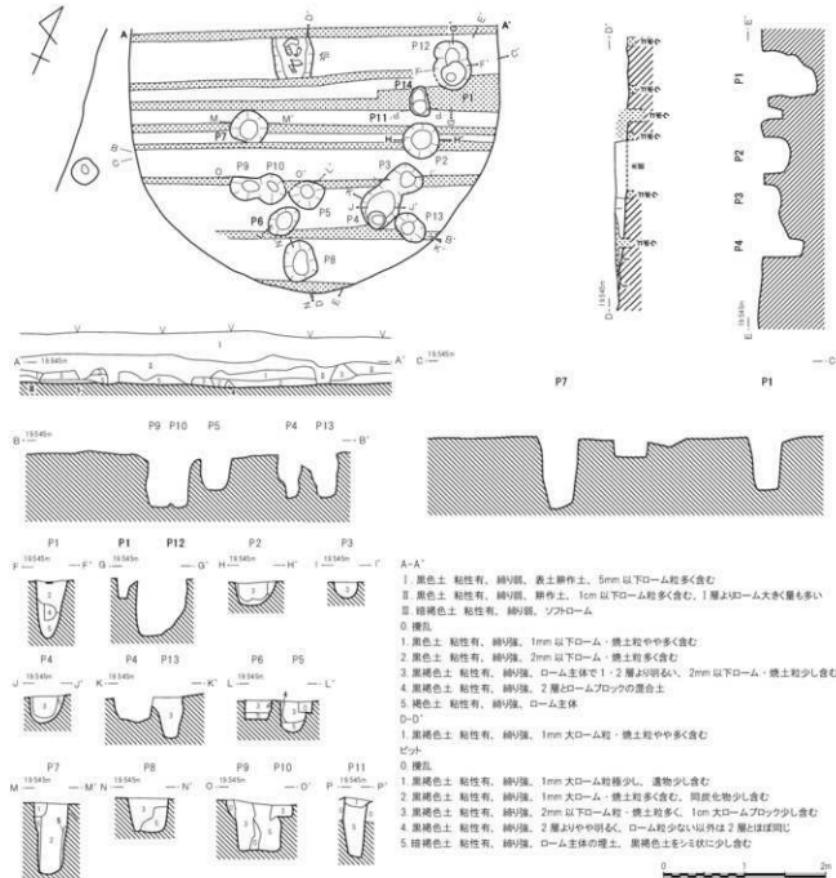
13 は筒形の深鉢形土器の口縁部片か。沈線文が残る。

14 は斜位の連続刺突のある隆帯文の口縁部ないし胴部片。

15~17 は幅広な口縁部無文帯を持つ深鉢形土器。15・16 は同一個体で、把手は剥落している。17 は丸い紐状の隆帯が口縁部を飾る。赤彩のような痕跡を見られる。

18・19 は口縁部無文帯が内湾する深鉢形土器の口縁部片か。19 は黒彩と円形の彩色（赤？）がみられる。

20~24 は浅鉢形土器。20 は口唇部が玉縁状に、21 は断面方形になる。22 は口縁部文様帶と胴部が「く」



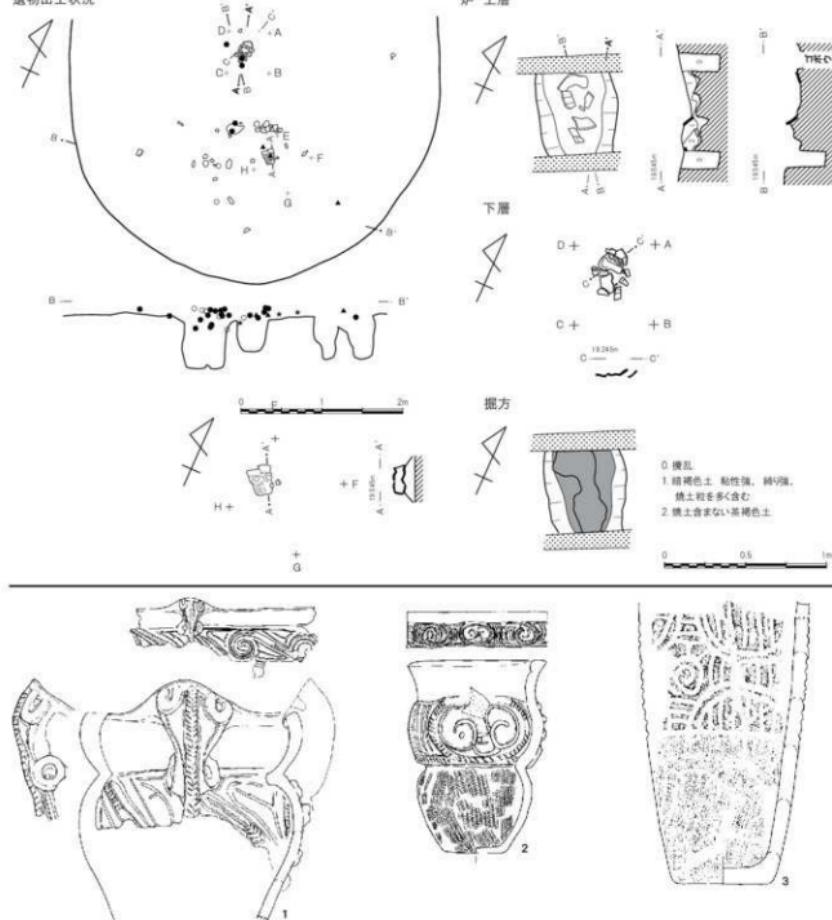
第 84 図 西ノ原遺跡第 181 地点 226 号住居跡 (1/60)

字状に折れキザミの入る隆帯で区画する。口縁部文様帶は沈線で施される。23は「く」字状に折れる口縁部片か。器面の付着物は彩色の可能性もある。

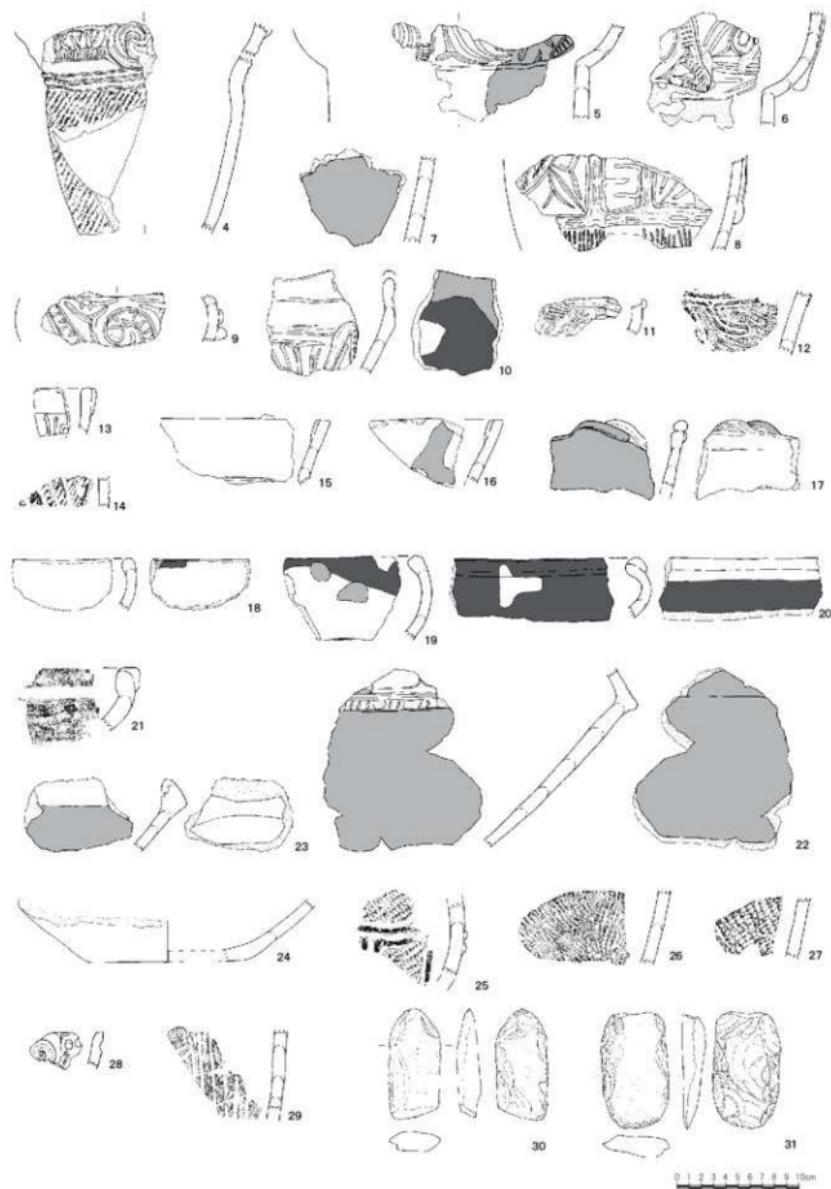
24は炉体土器の浅鉢形土器。胴部下半から底部まで残存。被熱により器面は粗く、摩耗も進む。25は地文単節RLで2本一組の隆帯で文様を構成する土器の胴部片。26・27は地文LR単節の胴部片。28は地文単節で隆帯の渦巻文を持つ胴部片。29はキャリバー形土器の胴部片か。地文単節RLで3本の沈線の懸垂文が垂下する。

30は、打製石斧で長さ9.1cm、幅4.2cm、厚さ1.9cm、重さ103.02g。下部欠損。ホルンフェルス。31は、打製石斧で長さ9.5cm、幅5.6cm、厚さ1.9cm、151.46g。上部欠損。砂岩。

遺物出土状況



第85図 西ノ原遺跡第181地点226号住居跡遺物出土状況(1/60)、炉(1/30)、出土遺物①(1/4)



第86図 西ノ原遺跡第181地点226号住居跡出土遺物②(1/4)

② 227号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の北西に位置し、234号住居跡と重複する。新旧関係は不明である。住居跡覆土層出土土器から住居跡の時期は加曾利E I式期と考えられる。

【形状・規模】平面形態はほぼ円形を呈し、断面はローム層を深く掘り込む。床面はほぼ平坦で硬く締まる。住居跡の規模は長軸526cm、短軸505cm、深さ22~35cmである。

【炉】炉は住居跡の中央部北寄りに位置する。炉は石囲炉で平面形態は梢円形を呈する。炉の規模は長軸(99)cm、短軸69cm、底径32×30cm、深さ20.1cmである。

【柱穴】柱穴は9本検出した。主柱穴はP1・2・4・5・6・7で、P3・9も主柱穴の可能性がある。主柱穴の基本は6本柱とみられる。詳細は第35表のとおりである。

【周溝】周溝は住居跡の壁際をほぼ1重にめぐるが、一部で途切れる。

周溝の規模は上幅10~24cm、下幅2~16cm、深さ3.5cm~25.8cmである。

【遺物出土状況】遺物は住居跡の中央部床面付近から覆土層にかけて、復元可能な縄文土器や石器などが多く出土する。

【出土遺物】1は頸部無文帯を持つキャリバー形土器。地文単節RLで2本一組で廻る隆線から同じく2本一組と1本の隆線お懸垂文が垂下する。

2は炉の南の床面から若干浮いた状態で胴下半を欠失して逆位で出土。口縁部は幅広の無文帯で、胴部は地文撚糸L、胴中位はその上に半截竹管による横方向の平行沈線、頸部から垂下する平行と波状の沈線で構成される。施文順位は地文撚糸→胴部横方向の平行沈線→縱方向の波状・平行沈線→口縁部の地文の磨り消しとなる。口縁部下端に磨り消し残された撚糸文が見られる。

3は沈線の渦巻文を持つ口縁部の突起。4~10はキャリバー形土器の口縁部片。4~6は渦巻文と梢円区画文で区画され、区画内に単節LRを充填する。7は渦巻文部分の破片。8~10は縦位に地文単節RL。

11は頸部無文帯を持つキャリバー形の深鉢形土器か。口縁部は横位に半截竹管で沈線を施し厚みのある細めの隆線で文様を構成。12は頸部無文帯部分の破片。13は頸部無文帯を持たないキャリバー形土器の頸部片。口縁部は隆帶でS字文を、胴部は地文単節RLで2本一組の沈線の懸垂文が垂下する。

15~22は地文単節RLのキャリバー形土器の胴部片。14~17は隆帶で懸垂文が垂下する。18~22は沈線の懸垂文。ただし21は連弧状ないし渦巻状の沈線文が展開する。

23は地文単節RLで2本一組の沈線が括れ部に廻る胴部片。24は地文単節縄文で薄牧条の沈線文が施される胴部片。

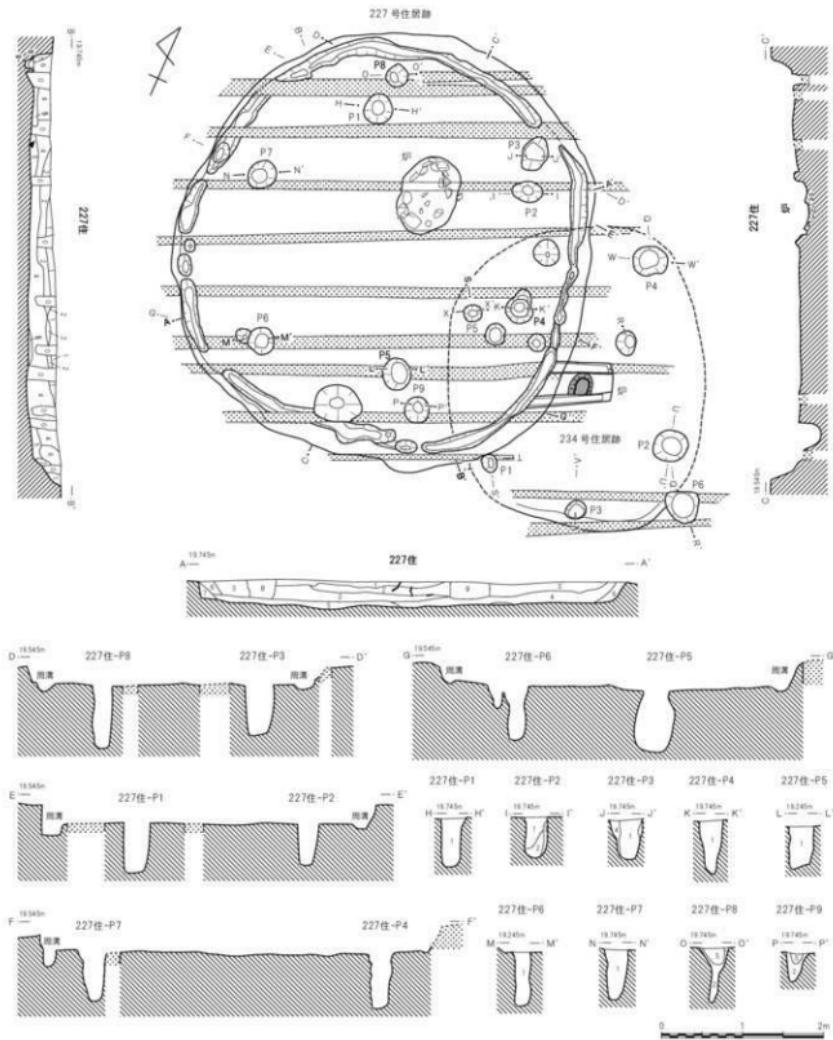
25は粗い地文単節RLに浅い沈線が懸垂文上に雜に垂下する張りのある胴部片。残存部の外器面の上下に煤が付着し、逆に内面では外面に煤のない位置でオコゲが付着する。

26~27は地文撚糸Lで隆帶の懸垂文等が粘貼される胴部片。

28~32は地文集合沈線の胴部・底部片。28は1条の沈線が、29~32は半截竹管の沈線が懸垂文で垂下する。30~31は同一個体で半截竹管と1条の沈線の懸垂文。33~36は地文撚糸で平行沈線で胴部文

第35表 西ノ原遺跡第181地点227・234号住居内ピット一覧表(単位cm)

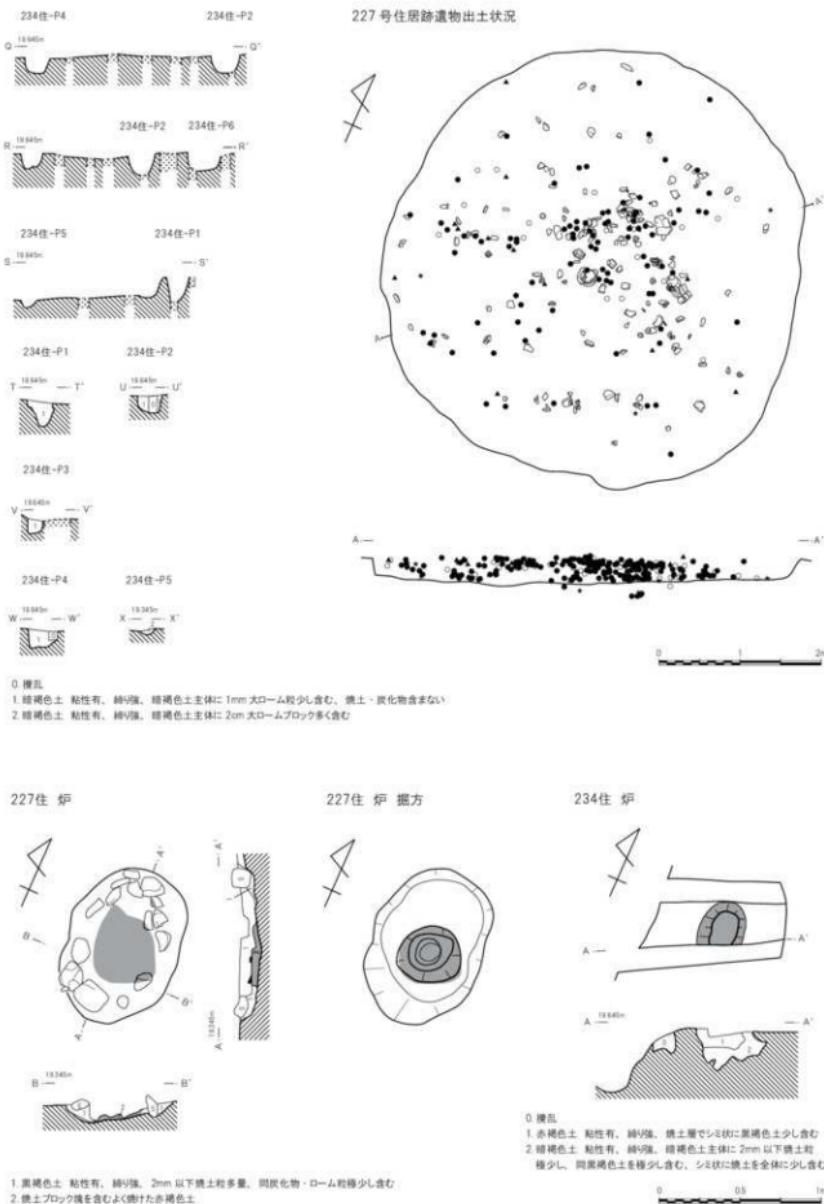
No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考	No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	37×35	18×15	63.0	227住	8	円形	28×26	14×9	76.6	227住
2	梢円形	38×26	13×10	52.6	227住	9	円形	32×29	13×10	38.8	227住
3	梢円形	45×32	24×21	62.1	227住	1	円形	23×18	13×6	33.9	234住
4	円形	42×33	13×11	68.1	227住	2	円形	44×39	25×21	22.0	234住
5	円形	39×35	27×19	79.8	227住	3	円形	26×23	19×17	23.8	234住
6	円形	34×31	17×15	67.2	227住	4	円形	42×38	25×22	24.0	234住
7	円形	37×33	19×18	64.1	227住	5	円形	22×20	12×8	8.0	234住



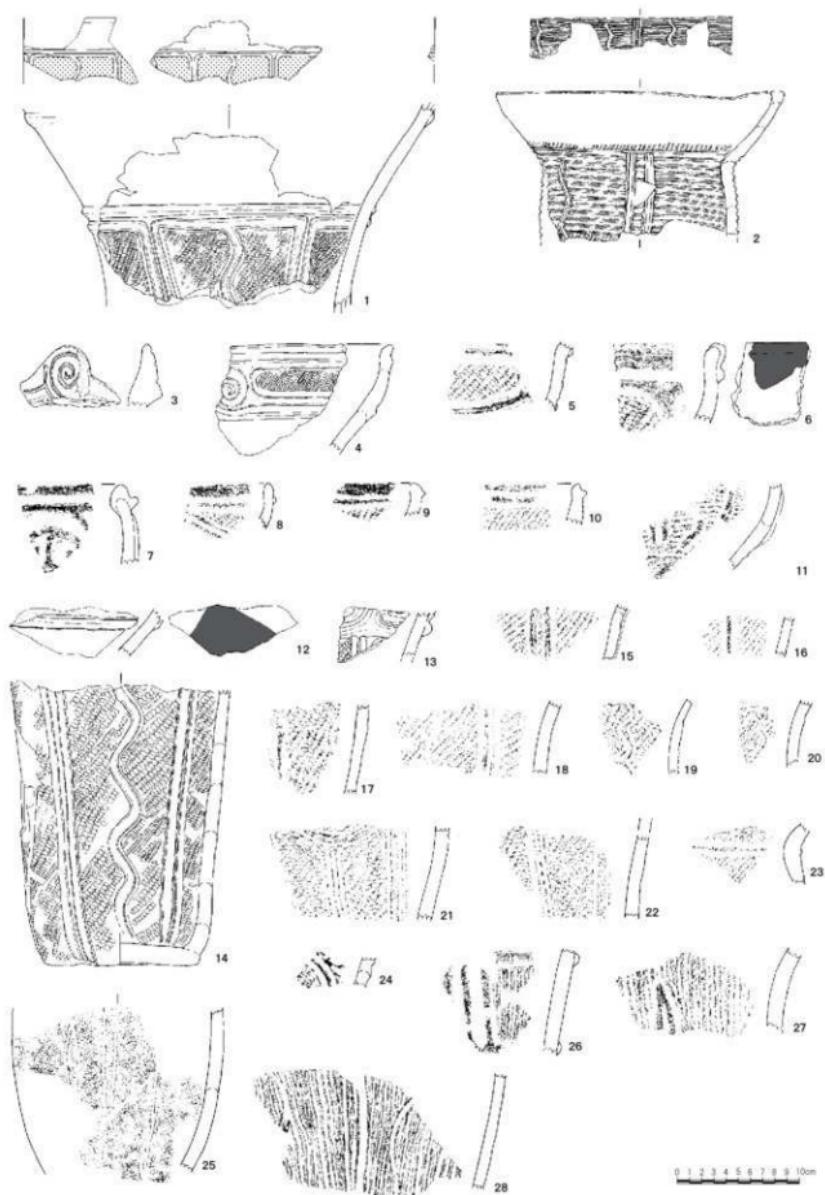
1. 黒褐色土 粘性有、緻密強、2mm以下ローム粒・焼土粒・炭化物粒少し含む
2. 黒褐色土 粘性有、緻密強、2mm以下ローム粒・焼土粒・炭化物粒や少く含む
3. 黒褐色土 粘性有、緻密強、3mm以下ローム粒・焼土粒多く、同炭化物粒少し含む
4. 黒褐色土 粘性有、緻密強、3層より細く、3mm以下ローム粒・焼土粒多量に、2mm以下炭化物粒少し含む
5. 黒褐色土 粘性有、緻密有、4層主張だが1cm以下ロームをシミ状に少し含む以外は同じ
6. 黒褐色土 粘性有、緻密有、2mm以下ローム粒・焼土粒少し含む
7. 黒褐色土 粘性有、緻密強、6層に類似するがやや弱く、2mm以下炭化物粒少し含む
8. 細褐色土 粘性有、緻密強、2mm以下ロームをシミ状にやや少く含む

9. 細褐色土 粘性有、緻密強、ローム主体にシミ状に暗褐色土を少し含む、2mm以下ローム粒少し含む
10. 黒褐色土 粘性有、緻密強、2mm以下ローム粒多め同焼土粒・炭化物粒少し含む
11. 黒褐色土 粘性有、緻密有、2mm以下ローム粒・焼土粒・炭化物粒少し含む
12. 黑褐色土 粘性有、緻密有、ローム主体にシミ状・ブロック状に黒褐色土を少し含む
13. 黑褐色土 粘性有、緻密有、ロームブロック主体にシミ状に黒褐色土を少し含む
14. 黑褐色土 粘性有、緻密強、黒褐色土主体に2mm以下ローム粒少し含む、焼土粒・炭化物粒ほとんど含まない
15. 黑褐色土 粘性有、緻密強、暗褐色ローム主体に1cm以下シミ状・ブロック状にロームを多く含む 1mm大焼土粒少し含む

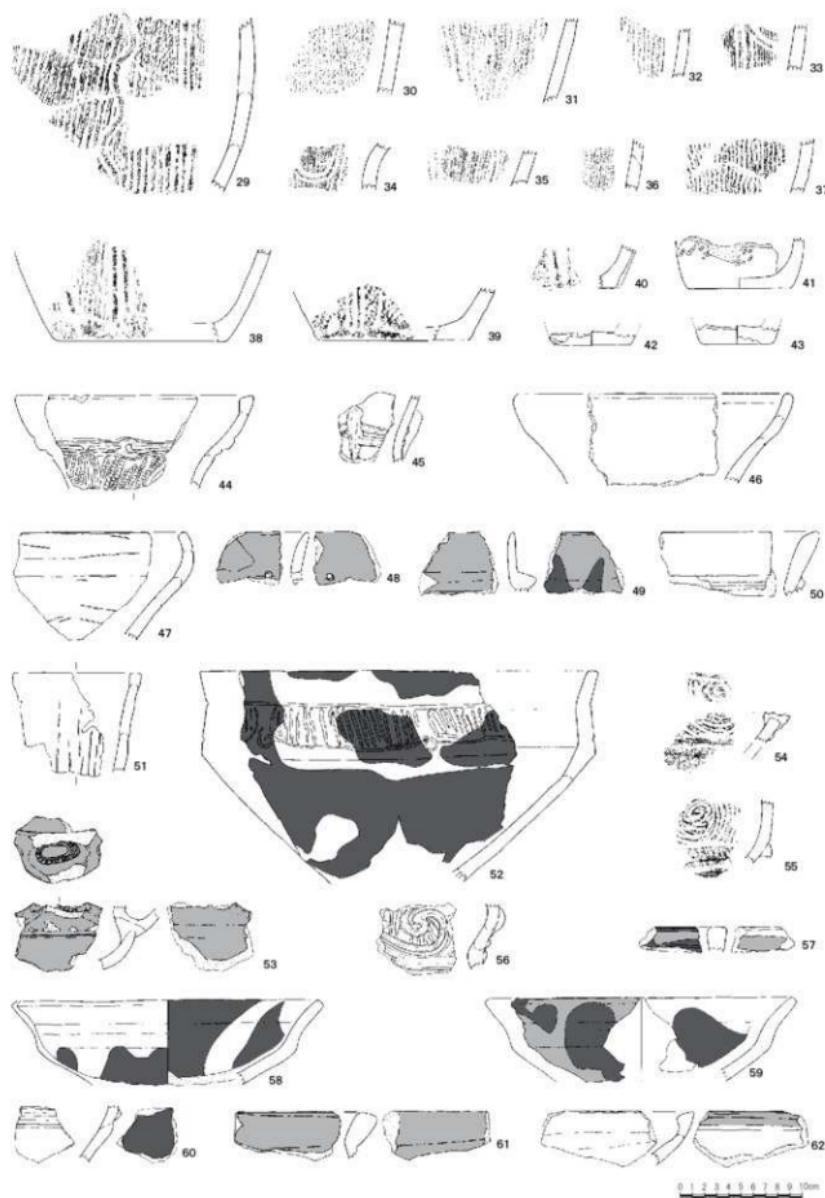
第 87 図 西ノ原遺跡第 181 地点 227・234 号住居跡 (1/60)



第88図 西ノ原遺跡第181地点 227号住居跡遺物出土状況(1/60)、227・234号住居跡炉(1/30)



第89図 西ノ原遺跡第181地点 227号住居跡出土遺物①(1/4)



第90図 西ノ原遺跡第181地点227号住居跡出土遺物②(1/4)

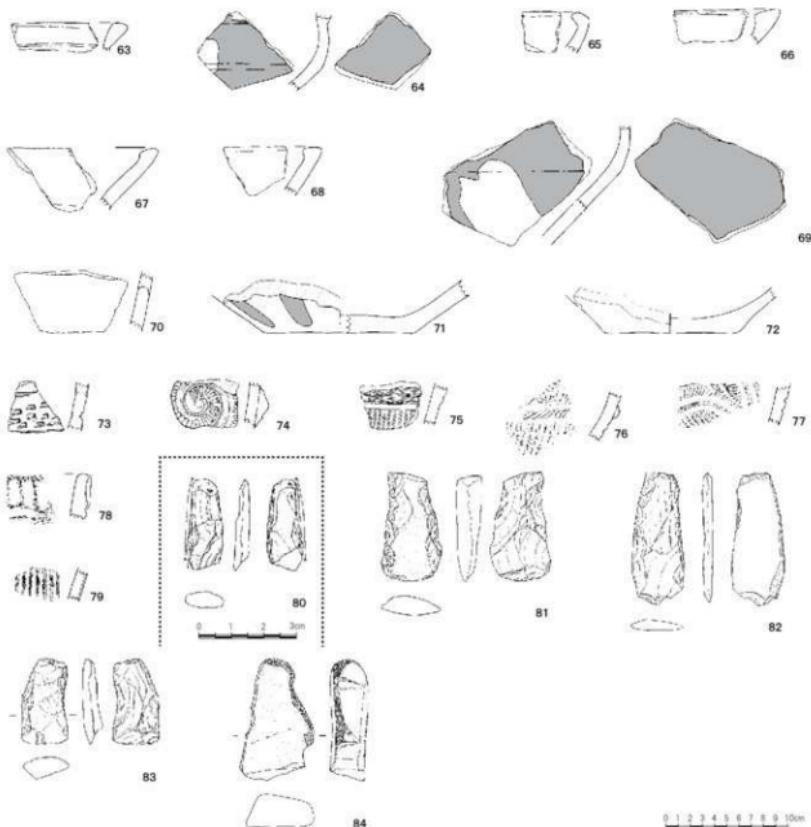
様を構成する。37は地文燃糸の底部付近の破片。38～43はひ深鉢形土器の底部片。38は地文集合沈線で隆帶で懸垂文を垂下させる底部片。39は地文単節RLで沈線で懸垂文を垂下する。40は2本一組の隆帶が垂下する。41は地文単節RLで内側面は荒れ炭素吸着。42は底部と胸部の接合面で剥落し接合面に炭素吸着。43は底部器面が剥落する。

44～47は口縁部無文帯を持つ深鉢形土器。44は地文単節RLで、頸部の両脇をナデる2本一組の隆帶が廻り途中渦巻が付き、3本の沈線の懸垂文が垂下する。45は頸部の2本一組の隆線に縦長の粘貼文が付く。

48・49は有孔鉗付土器。49は外器面に赤彩が見られる。50は幅広の無文帯の下に隆帶が廻る浅鉢か有孔鉗付土器。器面調整は比較的丁寧。

51は器面調整の粗い無文の小形土器か。外器面に煤付着。

52～62は浅鉢形土器。52は外器面に赤彩の痕が見られる。文様は沈線のみで構成。1条の沈線で上を、下を間延びした渦巻で区画された間に縦位に集合沈線が充填される。53・54は口唇部上面の文様帯を持



第91図 西ノ原遺跡第181地点227号住居跡出土遺物③(1/4・2/3)

つタイプ。53は器面調整は丁寧で黒色を呈し赤彩の痕跡もある。54は重弧文が口唇部上面から側面に展開する。55はキザミの入る隆帯で区画された文様帶に重弧状の渦巻文が入る。56は2本一組の隆帯でS字文を構成し隙間を沈線が充填される。57は器面黒色で赤彩の痕跡がある。58~72は無文の浅鉢形土器。器面調整は丁寧で黒班があり赤彩の痕跡が一部見られる。

73は横位の角押文の胴部片。74は中央が突出するキザミが入る渦巻文を持つ胴部片。75は地文燃糸Lで矢羽状刺突が入る隆帯文の胴部片。76は地文単節RLに斜方向のキザミの入る隆帯の両脇に半截竹管の刺突と平行沈線が埋める文様の胴部片。77は地文単節RLと平行沈線の区画文内に連続キザミと三叉文を持つ胴部片。78は断面三角状の隆帯で文様を構成する口縁部片。79は半截竹管の集合沈線の胴部片。

80は小型打製石斧で、長さ5.1cm、幅2.3cm、厚さ0.9cm、重さ19.35g。下部欠損、凝灰岩。81~83は、打製石斧。81は、長さ9cm、幅5cm、厚さ2.1cm、重さ110.16g。上部欠損、ホルンフェルス。82は、長さ10.9cm、幅4.3cm、厚さ0.8cm、重さ110.15g。裏面剥離欠損、緑泥片岩。83は、長さ7cm、幅3.8cm、厚さ1.5cm、重さ54.91g。表面は下部1/3が研磨されている。完形、頁岩。84は、敲き石。長さ10cm、幅5.5cm、厚さ3cm、重さ221.02g。下部欠損、砂岩。

② 234号住居跡

【位置・時期】 本住居跡は調査区の北西に位置し、227号住居跡と重複する。新旧関係、住居跡の時期は不明である。

【形状・規模】 挖り込みはほとんどなく、床面の範囲を確認した状況である。平面形態は不明である。床面と考えられる範囲の規模は長軸(361)cm、短軸305cm、深さ1.3~7.5cmである。

【炉】 炉は住居跡の中央部に位置する。炉は地床炉で平面形態は梢円形を呈するとみられる。炉の規模は長軸(29)cm、短軸28cm、底径(26)×22cm、深さ19cmである。

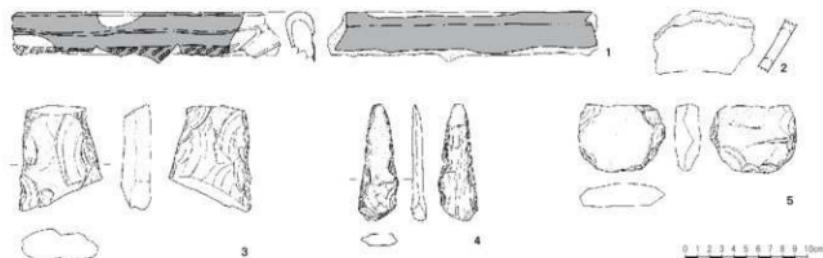
【柱穴】 柱穴は5本検出した。主柱穴はP1・2・4の3本検出したが、本来は4本の可能性があるが、227号住居跡と重複するため不明である。詳細は第35表のとおりである。

【周溝】 なし。

【遺物出土状況】 遺物は住居跡の覆土層から破片が僅かに出土する。

【出土遺物】 第92図参照。1は大型キャリバー形土器の口唇部片。地文単節Lを横方向に施す。2は深鉢形土器の無文部の胴部片。

3~5は、打製石斧。3は、長さ8.7cm、幅6.8cm、厚さ2.4cm、重さ183.91g。中央部のみ残存。ホルンフェルス。4は、長さ9.6cm、幅3.0cm、厚さ1.2cm、重さ35.87g。基部は表面5mm、裏面2cmの範囲で研磨されている。完形、ホルンフェルス。5は、長さ5.6cm、幅7.1cm、厚さ2.1cm、重さ110.79g。下部のみ残存。ホンフェルス。



第92図 西ノ原遺跡第181地点234号住居跡出土遺物(1/4)

⑭ 230号住居跡

【位置・時期】本住居跡は調査区の南西部に位置し、224号住居跡、231号住居跡と重複する。新旧関係は230号住居跡が古く、224・231号住居跡が新しい。炉内埋設土器から住居跡の時期は勝坂式期と考えられる。

【形状・規模】平面形態は梢円形を呈し、ローム層をわずかに掘り込む浅い皿状で、床面はそれほど硬化していない。規模は長軸353cm、短軸(324)cm、深さ4～5cmである。

【炉】炉は住居跡の中央部に位置する埋甕炉で、平面形態はほぼ円形を呈する。炉内に口縁部と底部を欠損する深鉢形土器を正位に埋設する。

規模は長軸(29)cm、短軸28cm、底径(26)×22cm、深さ19cmである。

【柱穴】柱穴は9本検出した。主柱穴は、P1・2・3・4・5・8の6本柱とみられる。詳細は第36表のとおりである。

【周溝】なし

【遺物出土状況】炉及びピット覆土中から僅かに出土した。

【出土遺物】第95図参照。1は炉体土器。口縁部と胴下半を欠いて埋設。北側上半部の破片が南内側に入れ子状に移されていた。土器はキザミのある隆帯で梢円区画文を横位に連続させる。区画内は集合沈線で埋める。梢円区画文は大小あり、大3+小1で構成され、大3の区画内の沈線は8本が2区画、13本が1区画となる。土器下半は地文単節LR。土器内面は被熱により劣化が著しい。

2はキザミの入る隆帯の梢円区画と並走する半截竹管文に横位の集合沈線の胸部片。3は半截竹管の沈線に半截竹管の連続押圧文の胸部片。

第36表 西ノ原遺跡第181地点230・231号住居内ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	方形	30×28	18×13	39.0	230住
2	円形	34×30	16×16	58.9	230住
3	円形	32×30	16×16	45.5	230住
4	円形	44×44	18×16	59.6	230住
5	円形	35×35	15×12	46.5	230住
6	円形	21×20	13×11	25.3	230住
7	円形	38×32	14×9	22.8	230住
8	方形	34×31	13×13	62.6	230住
9	円形	25×23	13×10	13.1	230住

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	方形	25×25	17×9	45.9	231住
2	円形	20×19	13×10	33.5	231住
3	不明	30×27	6×3	46.9	231住
4	不明	31×17	15×8	34.4	231住
5	ひょうたん形	37×17	5×5	12.8	231住
6	円形	30×26	4×2	41.4	231住
7	円形	22×18	12×13	27.7	231住
8	円形	41×30	19×16	37.6	231住

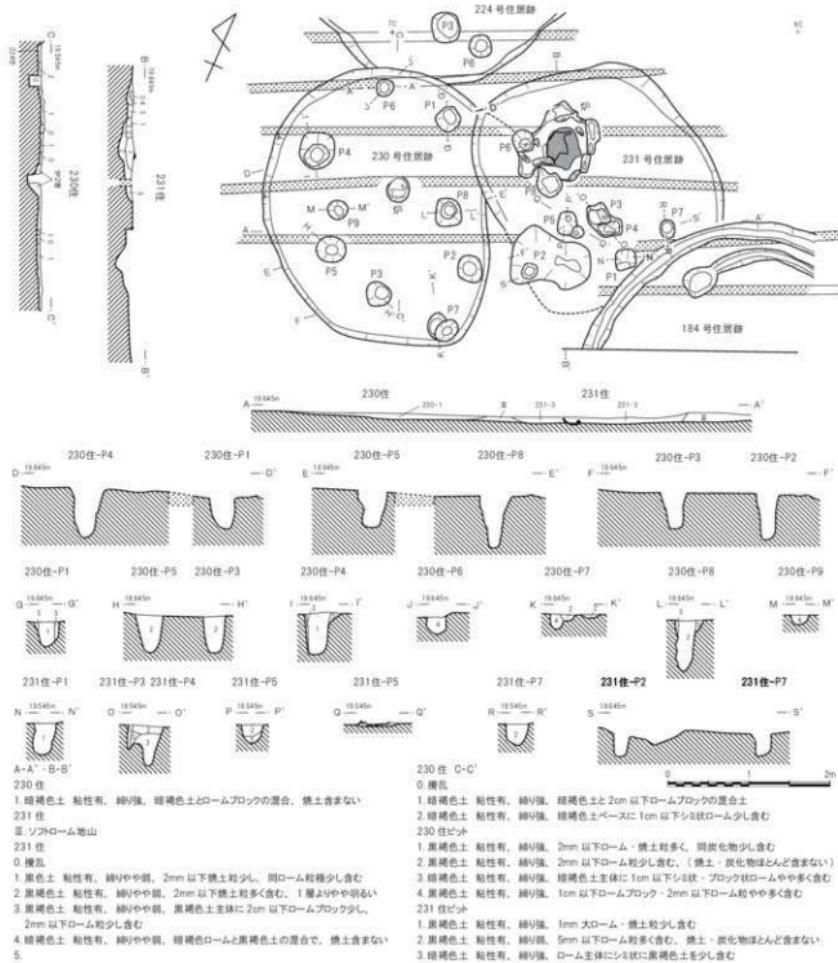
⑮ 231号住居跡

【位置・時期】 本住居跡は調査区の南西部に位置し、184号住居跡、230号住居跡と重複する。新旧関係は230号住居跡が古く、224・231号住居跡が新しい。炉内埋設土器から住居跡の時期は勝坂式期と考えられる。

【形状・規模】 平面形態は不整形を呈し、ローム層をわずかに掘り込む浅い皿状である。床面はそれほど硬化していない。

規模は長軸(278)cm、短軸255cm、深さ4.4～8.1cmである。

【炉】 炉は住居跡の中央部やや北寄りに位置する地床炉で、平面形態は橢円形か開丸長方形を呈する。炉



第93図 西ノ原遺跡第181地点 230・231号住居跡(1/60)

の東側の一部に小穴がみられることから石臼炉の可能性もある。規模は長軸(115)cm、短軸79cm、底径(33)×32cm、深さ15.3cmである。

【柱穴】柱穴は8本検出した。主柱穴は、P1・2・3・7が考えられる。詳細は第36表のとおりである。

【周溝】なし

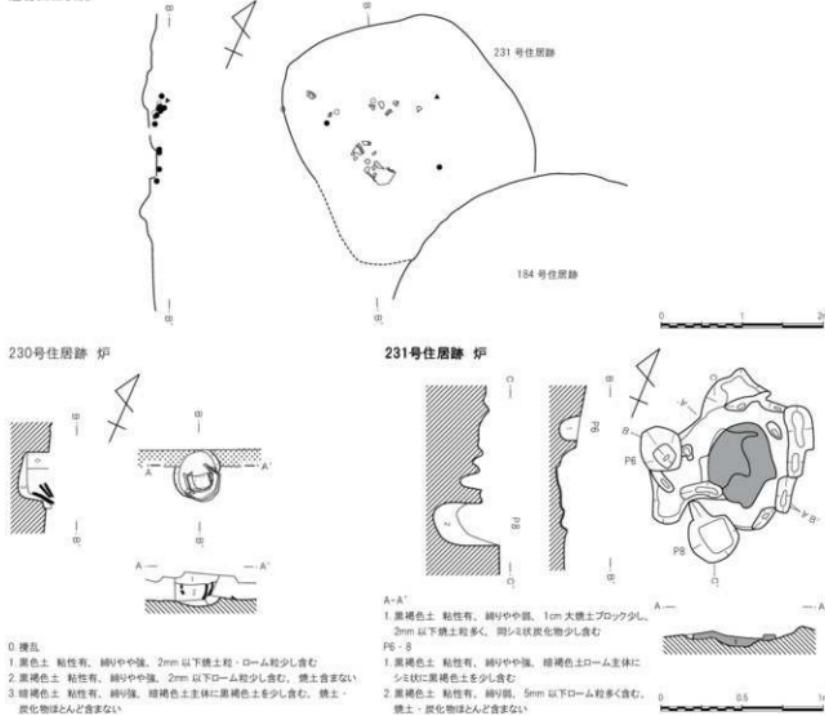
【遺物出土状況】住居跡の中央部炉周辺の床面から覆土層にかけて縄文土器片が僅かに出土する。

【出土遺物】第95図参照。1は口縁部に波状の連弧文風の波状文を配置し脣部に逆U字状に区画された文様を配し、その間に蕨手状と直線の沈線が垂下する。口縁部は横位に单節RL、脣部の逆U字状の区画の上半に縦位に单節RL、下半を条線で埋める。施文順位は、口縁部・脣上半の地文縄文一口縁部脣部の沈線文一脣部下半の条線となる。

2は1に近いタイプで口縁部の内湾がやや強く、地文縄文の施文は丁寧。3～10は地文单節RLの脣部磨り消し縄文の懸垂文が垂下するキャリバー形土器の脣部片。11は浅鉢形土器の口唇部片。12は土器片転用の土製円盤。13は口唇部直下に斜方向のキザミを施した隆線を廻らし、口縁部に沈線で渦巻文を施す。14は斜方向のキザミが入る沈線で区画された空間に牛頭状の沈線文等を配置した小型土器の破片。15は区画沈線と充填された集合沈線を持つ脣部片。

16は石皿の破片。長さ9.8cm、幅6.7cm、厚さ3.8cm、重さ358.45g。表面以外すべて欠損。下部のみ敲き石・磨り石として二次利用されたと思われる。花崗岩。

遺物出土状況

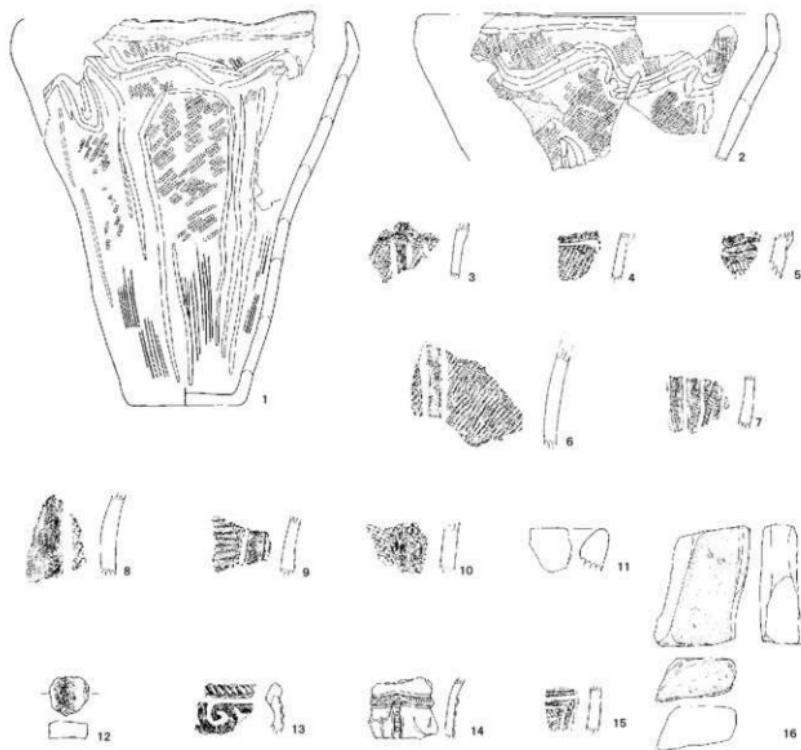


第94図 西ノ原遺跡第181地点 231号住居跡遺物出土状況(1/60)、230・231号住居跡炉(1/30)

230号住居跡



231号住居跡



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

第95図 西ノ原遺跡第181地点 230・231号住居跡出土遺物 (1/4)

(2) 土坑・ピット・溝

試掘調査及び本調査で土坑2基、ピット12基、溝2条を検出した。覆土層の観察から、土坑及びピットについては縄文時代に属する。ピットの詳細は第37表のとおりである。

【土坑1】 調査区東側に位置する。平面形態は円形で、確認面の規模は $163 \times 143\text{cm}$ 、底部 $28 \times 26\text{cm}$ 、深さ 44.4cm を測る。

【土坑2】 調査区北側に位置する。平面形態は円形で、確認面の規模は $82 \times 73\text{cm}$ 、底部 $64 \times 58\text{cm}$ 、深さ 29.4cm を測る。

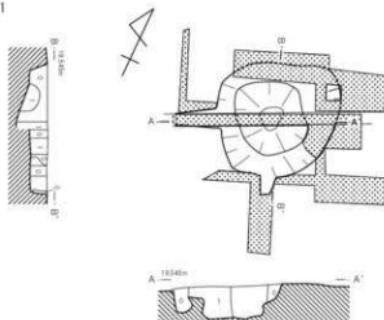
【溝1】 調査区北側から南側にかけて伸び、中央部で約 90° 東側に向かって折れて伸長する。断面形態はU字形。確認面の規模は上幅 $67 \sim 147\text{cm}$ 、下幅 $19 \sim 94\text{cm}$ 、深さ 35.9cm を測る。時期は不明。

【溝2】 溝1と並行して検出した。断面形態はU字形。確認面の規模は上幅 $66 \sim 106\text{cm}$ 、下幅 $25 \sim 65\text{cm}$ 、深さ 24.1cm を測る。時期は不明。

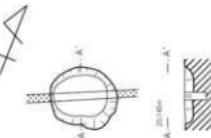
【出土遺物】

1・2は、土坑1から出土した。地文燃糸Lの胸部片。2は地文条線の胸部片。3は、ピット2から出土した。

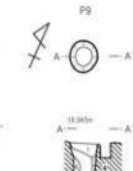
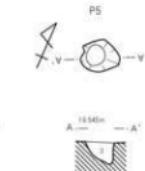
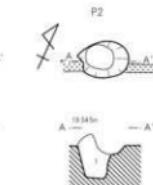
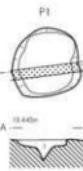
土坑1



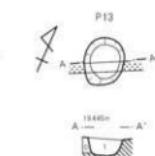
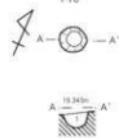
土坑2



P1



P10



表面に土層なし
土層は因崎さんによる

0 横孔

1. 黒褐色土 粘性有、練りや中間、5mm 以下ローム粒や多く含む

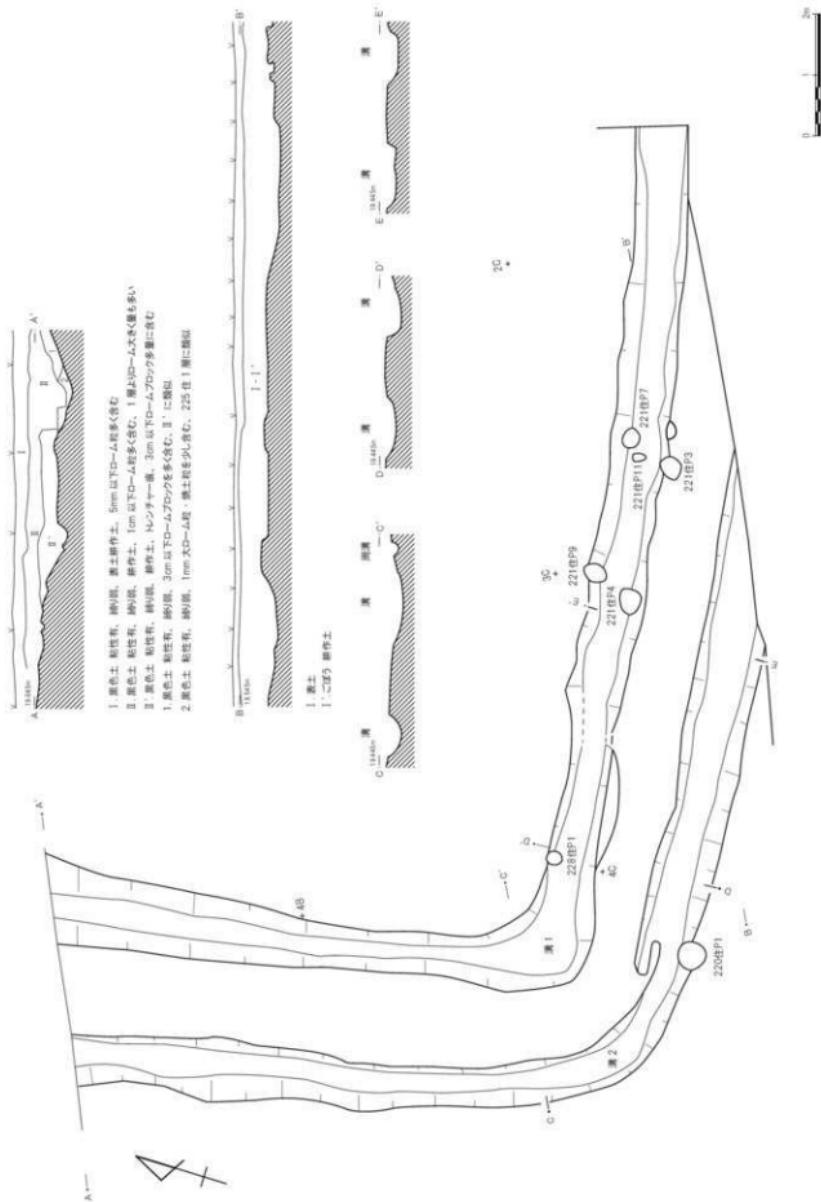
2. 細粒褐色土 粘性有、練り強、2cm 大ロームブロック少し、1mm 大ローム粒多く含む

3. 細粒褐色土 粘性有、練り強、1層より明るく2cm 大ロームブロック少し、1mm 以下ローム粒極少く含む

4. 黑褐色土 粘性有、練り強、細粒褐色土主体に5mm 以下ローム粒少く含む

第96図 西ノ原遺跡第181地点土坑・ピット(1/60)





第 97 図 西ノ原遺跡第 181 地点溝 (1/80)

地文燃糸 L で隆帯が垂下する懸垂文。

4 は、ピット 4 から出土した。断面かまぼこ状の隆帯で曲線区画、区画内を単節 RL で充填する胴部片。大木系か。5 は、ピット 9 から出土した。地文単節 RL で隆帯で区画する頸部片。

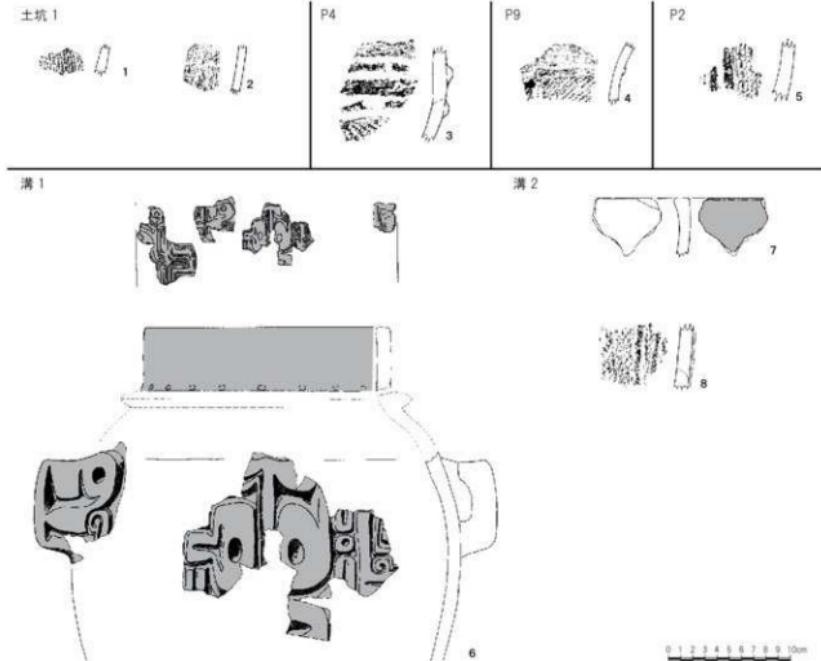
6 は、溝 1 から出土した。破片での出土で推定あるが有孔鍔付土器として復元実測した。器面のミガキは丁寧で赤彩が施される。鍔につく穿孔は残存部では確認できていない。胴部の把手は 4 カ所と判断した。やや強く突出する 2 カ所は上から穿孔があるが貫通しない。他の 2 カ所は貫通しない環状把手風となると推定した。文様は全体的に立体的で複雑。

7 は、溝 2 から出土した。溝 1 の同一個体か。8 は地文燃糸 L で隆線を貼り付けた胴部片。

第37表 西ノ原遺跡第181地点ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	82 × 82	74 × 67	21.4	
2	楕円形	61 × 45	36 × 32	44.6	
3	三角形	40 × 36	18 × 17	26.8	
4	欠番				
5	円形	47 × 38	26 × 23	22.8	
6	欠番				
7	円形	27 × 24	17 × 16	42.2	
8	欠番				

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
9	円形	30 × 30	20 × 15	65.0	
10	円形	34 × 30	18 × 18	19.7	
11	円形	41 × 33	18 × 10	51.4	
12	楕円形	40 × 32	30 × 22	14.6	
13	楕円形	58 × 48	42 × 37	22.8	
14	欠番				
15	楕円形	20 × 17	15 × 11	9.7	
16	円形	20 × 19	11 × 9	13.8	



第98図 西ノ原遺跡第181地点土坑・ピット・溝出土遺物(1/4)

(3) 遺構外

遺構外から出土した遺物については、第99図参照。

1はキャリバー形土器。地文單節RLを施し、隆帶で渦巻と楕円区画文を構成する。施文順位は地文→隆線。頭部無文帯を持つと判断できる。2は地文燃糸LでS字状隆線で文様を構成し頭部無文帯を持つ。3・4は口縁部無文帯を持つ深鉢形土器の破片。5はキザミの入る隆帶の楕円区画文と沈線文で文様を構成する深鉢形土器の口縁部片。6は近世のカワラケ片。ろくろ左回転。7は櫛歯状工具による波状条線を持つ胴部片。8は波状口縁の口縁部片で口唇部に1条の沈線を持つ。9は浅鉢形土器。太い隆線で渦巻状の文様を展開すると思われる。10は地文燃糸でRと判断され、隆帶で渦巻文を構成し口縁部で橋状把手を展開するか。11は波状口縁の破片。外面の赤彩の痕跡を認める。浅鉢形土器か。12は隆帶に爪型の刺突が施される。13は幅広で低めの隆帶に単節RLが施される。14は斜位の集合沈線で口縁部文様帯を構成する。

15はキザミが入る雷文風の沈線文。16は地文繩文で横位に太い沈線で波長の短い蛇行文を施す。17は地文繩文で頂部に沈線の渦巻文を配する波状口縁の破片。18は浅鉢形土器の口縁部片。19は地文燃糸Lで隆帶の懸垂文が垂下する。20は口唇部にキザミが入り把手が付く。

20・21は、打製石斧。20は、長さ8.5cm、幅4.8cm、厚さ1.4cm、重さ87.91g。下部欠損、ホルンフェルス。21は、長さ9cm、幅4.7cm、厚さ2.8cm、重さ117.06g。下部欠損、砂岩。



第99図 西ノ原遺跡第181地点遺構外出土遺物(1/4)

第3章 神明後遺跡第59・60地点の調査

I 神明後遺跡第59地点の本調査に至る経過と概要

調査は道路拡幅工事・道路整備に伴うもので、原因者より2021年1月14日、6月30日及び11月5日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2021年7月7・12～21日、9月6・17日及び12月15・16日に試掘調査を実施した。

試掘調査は、幅約1.5～2mのトレンチ10本を設定し、重機による表土除去後人力で表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約50～80cmである。

調査の結果、落とし穴1基と堀跡1本を検出した。遺構への影響が避けられないことから、本調査を実施した。

本調査は2021年7月26日及び9月21日の3日間で実施した。重機による表土除去後人力で調査を行った。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

II 遺構と遺物

調査区は北側のB区、南側のA・C区とし、各区域にトレンチを設定した（第100図参照）。A区からは溝5条、落とし穴1基、井戸1基を検出した。B区からは堀跡、土坑1基、溝1条、ピットを検出した。C区からは、溝1条を検出した。以下、A～C区に分けて述べる。

①A区

【落とし穴】落とし穴はA区北端に位置する。平面形態は北西から南東へ延びる細長い梢円形で、長さ380cm、幅50cm、深さ120cmを測る。

【溝1】溝1～3は、落とし穴の上層より溝1・2が重なり合うように、また溝3は溝1に並行して検出した。平面図より溝1は、溝2と切り合う。溝1が溝2より新しい。溝3との新旧関係は不明である。上幅40～50cm、下幅40cmで、確認面からの深さは25cmを測る。断面形態は逆台形を呈する。

【溝2】先述したように溝2は溝1よりも古い。上幅50cm、下幅30cmで、確認面からの深さ約6cmを測る。断面形態は逆台形を呈する。

【溝3】溝1・2との新旧関係は不明。上幅45cm、下幅34cmで、確認面からの深さは15cmを測る。断面形態は逆台形を呈する。

【溝4】溝4はA区中央部に位置し、トレンチ1～3から連続して検出した。東西方向に伸長し、最大幅が250cmの大型の溝である。上幅180～250cm、下幅30～40cmで、確認面からの深さ約170cmを測る。断面形態は逆台形を呈する。

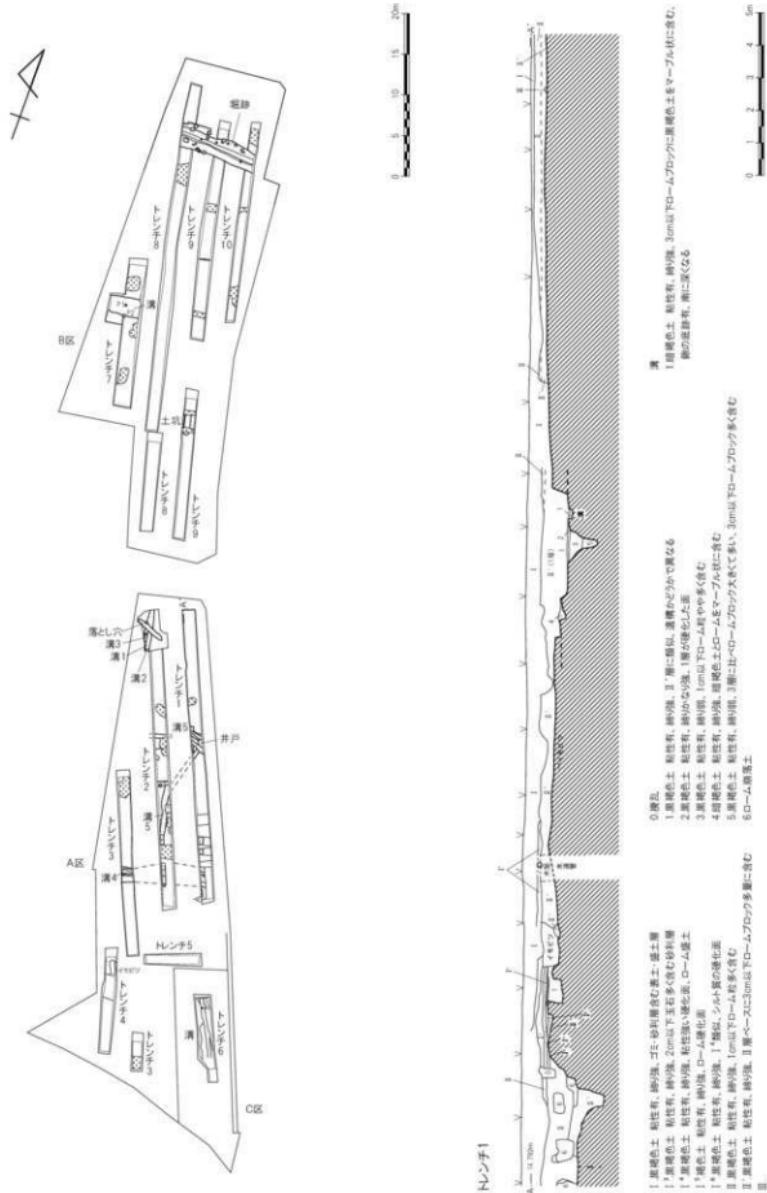
【溝5】溝5はA区中央部に位置し、トレンチ1と2で検出した。南北方向に伸長する。上幅50～80cm、下幅15～40cmで、確認面からの深さは約21cmを測る。断面形態は不明。

【井戸】井戸は、A区中央部やや北寄りに位置する。平面形態は円形。確認面の規模は上面が280cm×(50)cm、下面が38cm×25cm、深さ約225cmを測る。

②B区

【堀跡】堀跡はB区の北端に位置し、東西方向に伸長する。断面形態はU字形を呈する。確認規模は、上幅200～264cm、下幅35～60cm、深さ約36cmを測る。

【溝】溝は、B区中央部西側に位置する。トレンチ7内では東西方向に伸長しているが、他のトレンチでは検出されていない。上幅205～230cm、下幅130～160cmで、確認面からの深さ約40cmを測る。断面形態はU字形を呈する。溝の底部と落込み部分からピット2基を検出したが、用途等は不明である。

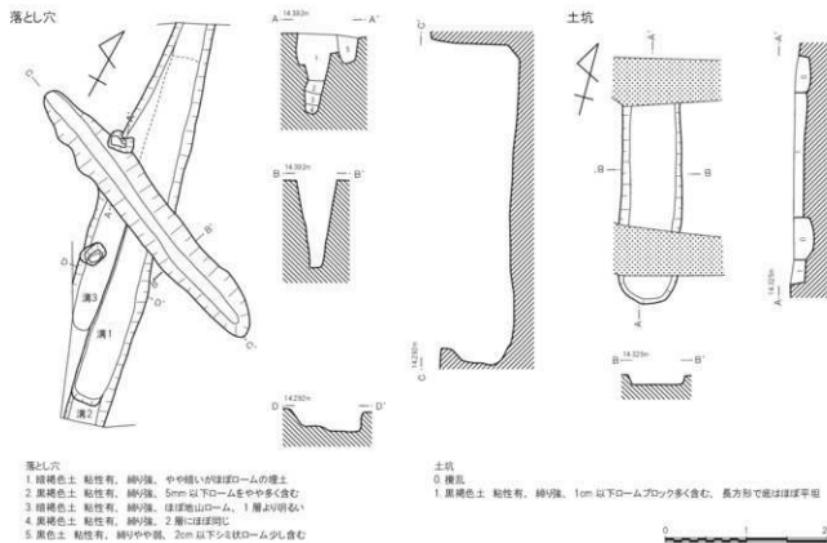


第100図 神明後遺跡第59地点遺構配置図(1/600)、土層(1/150)

【土坑】 土坑はB区トレント9北側より検出した。攪乱により北端部分を削平されているため、正確な規模は不明である。南北に長い楕円形で、確認面での規模は(244)×74cm、底部(235)×55cm、深さ14.9cmを測る。出土遺物はない。時期は不明。

③C区

【溝】 溝は、C区中央部に位置し、南北方向に伸長する。トレント内では、溝の全体は検出できていない。上幅(105)～(140)cm、下幅30～45cmで、確認面からの深さは約110cmを測る。断面形態は逆台形を呈する。溝下部約80cmの範囲は幅約30cmで、狭く掘られている。また、トレント北側からは小型のピットと思われる遺構を検出したが用途等は不明である。

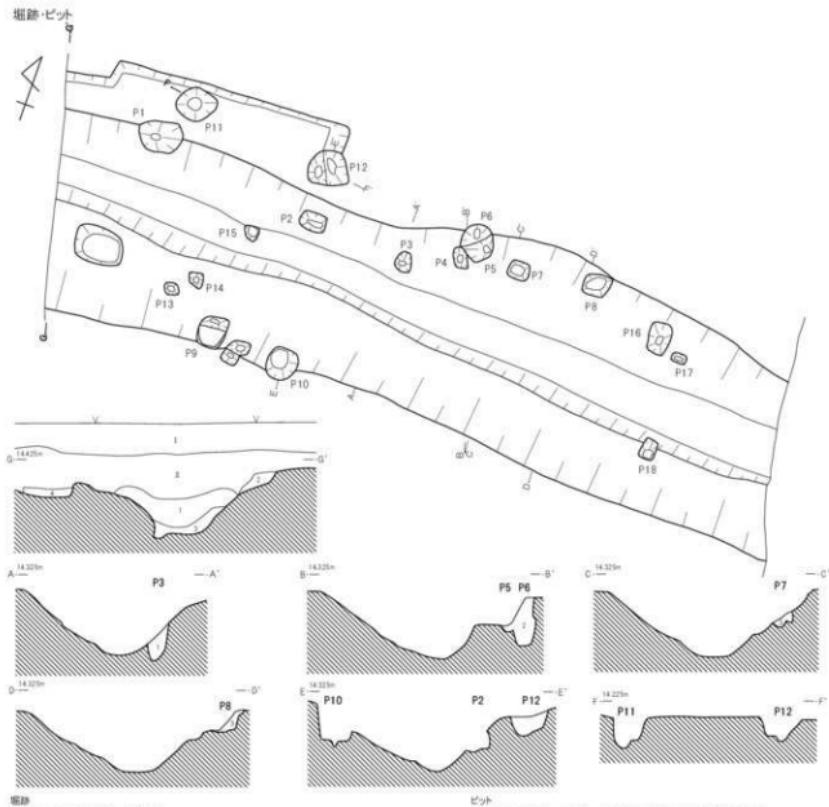


第101図 神明後遺跡第59地点落とし穴・土坑(1/60)

第 38 表 神明後遺跡第 59 地点堀跡内ピット一覧表(単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	円形	54 × 37	12 × 8	35.1
2	方形	33 × 22	20 × 6	24.0
3	円形	25 × 19	9 × 6	45.6
4	方形	26 × 17	9 × 7	12.3
5	不明	(35) × (23)	9 × 7	13.3
6	不明	41 × (21)	13 × 8	65.9
7	方形	27 × 23	16 × 12	25.6
8	方形	33 × 27	19 × 16	25.1
9	円形	36 × 34	13 × 5	61.0
10	円形	40 × 37	23 × 21	47.6

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
11	方形	42 × 41	16 × 16	15.0
12	台形	53 × 42	14 × 9	29.7
13	方形	17 × 15	8 × 6	38.3
14	台形	22 × 17	7 × 6	21.1
15	台形	21 × 16	12 × 11	30.5
16	方形	39 × 28	11 × 7	47.7
17	方形	18 × 11	10 × 4	29.0
18	方形	25 × 18	11 × 11	20.8



I. 黒色土 粘性有、練り固。ほば黒色土でロームブロックを含まない

II. 黒色土 粘性有、練り固。1mm 大ローム粒少く含む

1. 黒色土 粘性有、練りやや強。2mm 以下ローム粒や多く含む

2. 黒褐色土 粘性有、練りやや強。黒色土ベースにシミ状ローム多く含む

3. 黒褐色土 粘性有、練り固。1 層ベースにややロームをシミ状多く含み弱い。2mm 以下ローム

粒や多く含む

4. 黒褐色土 粘性有、練りやや強。3cm 以下ロームブロック多く含む。土坑壁土

ピット

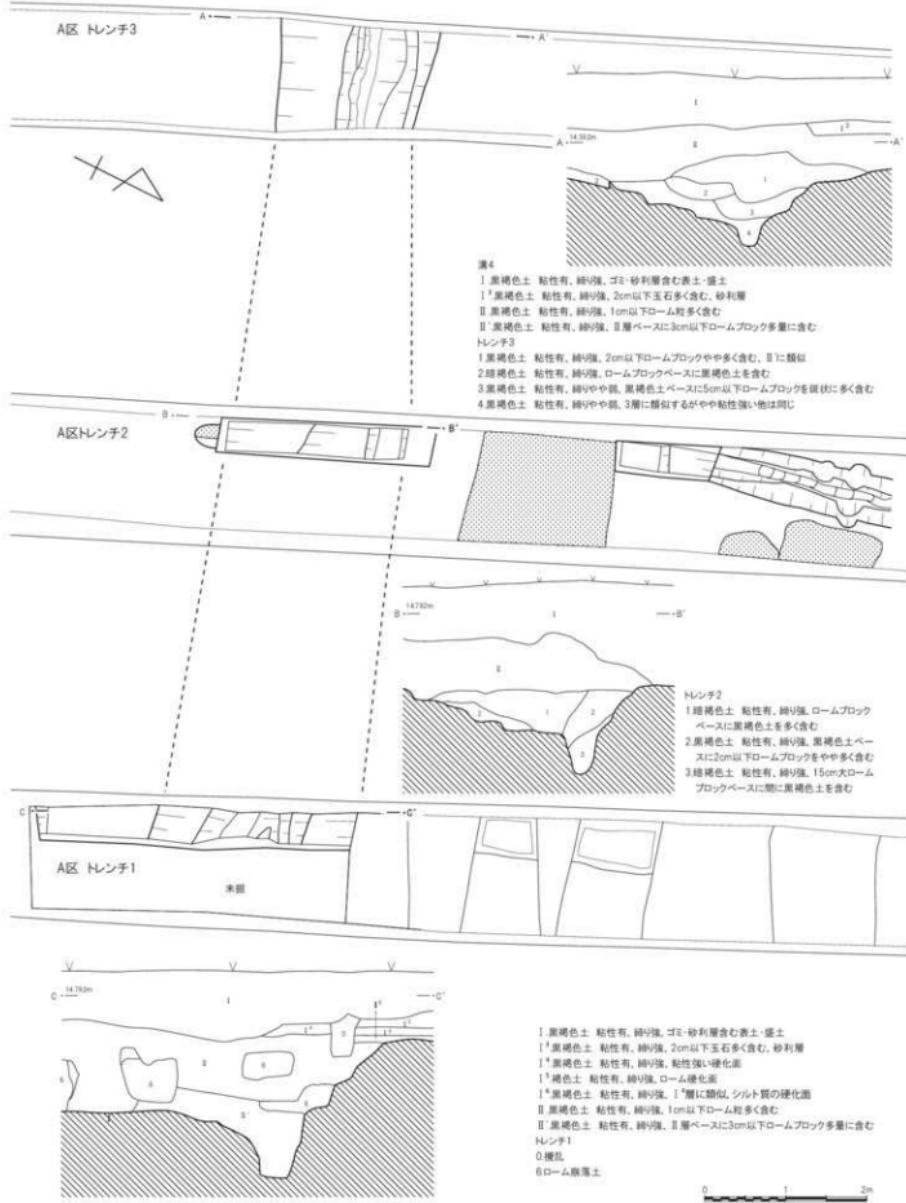
1. 黒色土 粘性有、練り固。ほば黒色土でロームブロックを含まない

2. 黒褐色土 粘性有、練り固。黒褐色土ベースに 2cm 以下ロームブロック多く含む

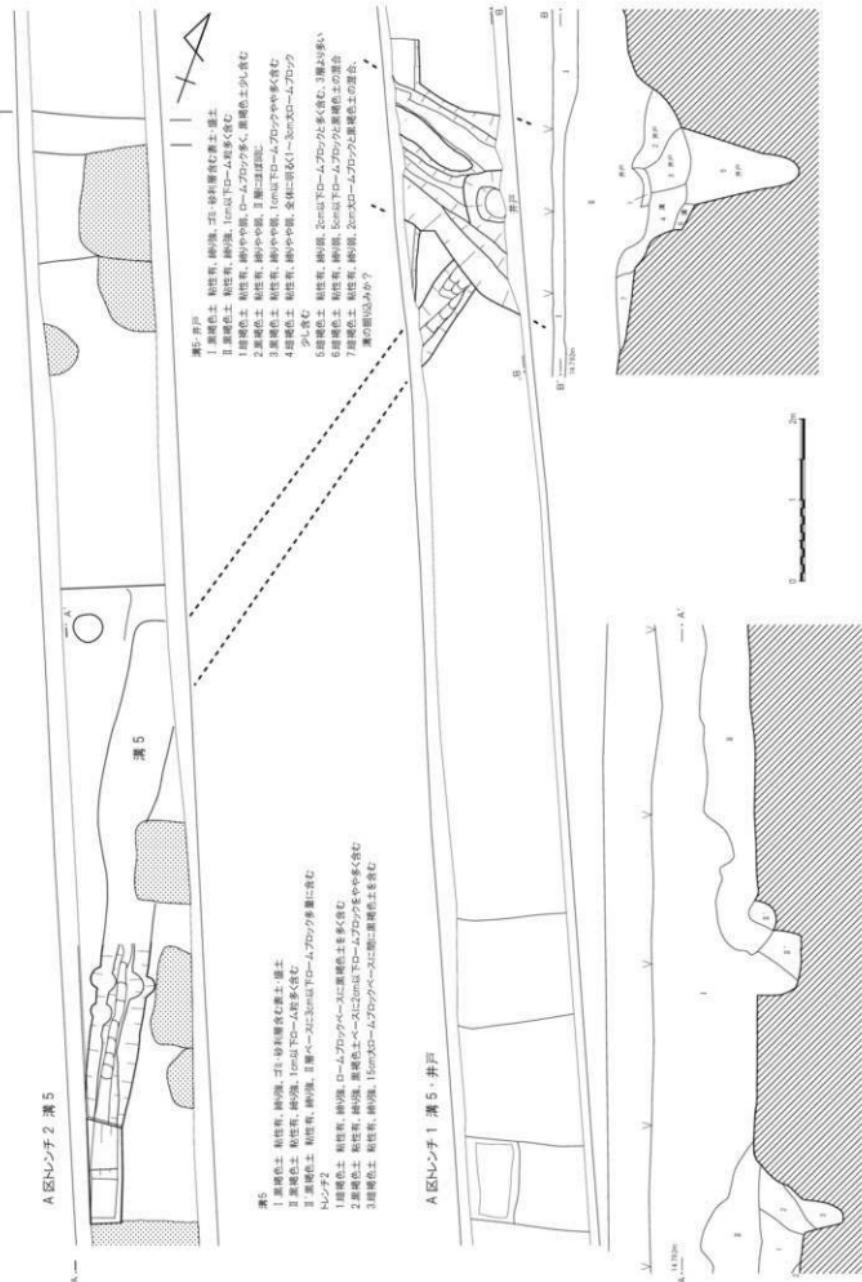
3. 黒褐色土 粘性有、練り固。黒褐色土ベースに 2cm 以下ロームブロック少く含む

0 1 2m

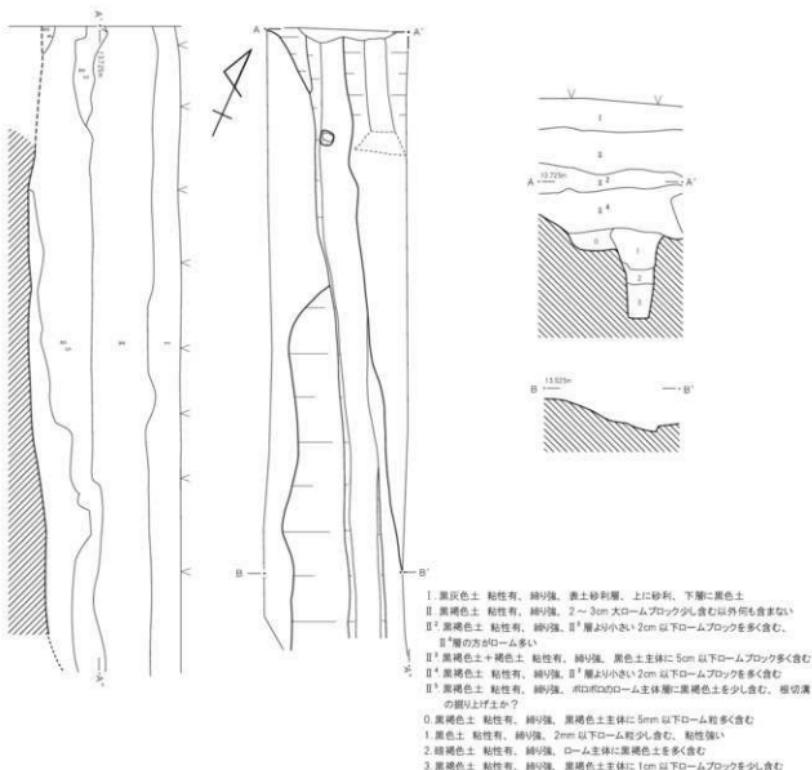
第 102 図 神明後遺跡第 59 地点 B 区堀跡・ピット (1/60)



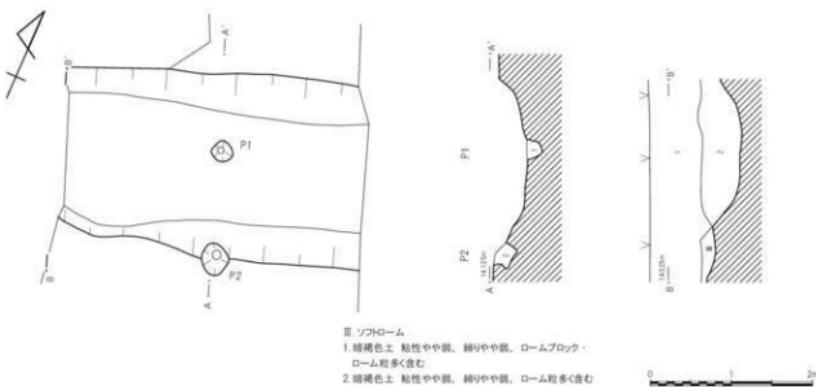
第103図 神明後遺跡第59地点 A区溝4(1/60)



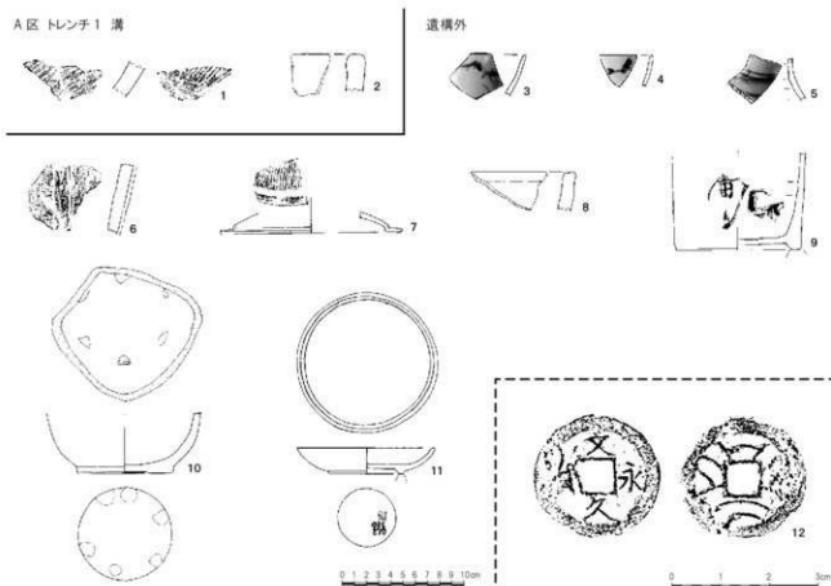
C区 トレンチ6 溝



B区 トレンチ7 ピット・溝



第105図 神明後遺跡第59地点 C区トレンチ6溝・B区トレンチ7ピット・溝(1/60)



第 106 図 神明後遺跡第 59 地点出土遺物 (1/4・1/1)

第 39 表 神明後遺跡第 59 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・備考	時期・型式
1	A区 トレンチ 1溝	陶器・檜鉢	—	—	—	体部片、櫛目、鉄袖、胎土色調灰色	大室期
2		土器・火鉢	—	—	—	土師質、胎土色調茶色	江戸
3	遺構外	染付磁器・碗	—	—	—	口縁部片、輪轔成形、呉須染付、胎土色調白色、肥前系	江戸後期
4		染付磁器・碗	—	—	—	口縁部片、呉須染付、胎土色調白色	江戸中期
5		染付磁器・瓶	—	—	—	頸部片、呉須染付、胎土色調白色	江戸後期
6		繩文式土器・深鉢	—	—	—	断面三角形の陰帯が垂下	繩文中期
7		陶器・行平鍋蓋	—	—	—	断面成形、外面とび鉢、錆袖を丸く施袖、内面鉄袖、器面色調小豆色、胎土色調茶色	江戸後期
8		土器・焙烙	—	—	—	口縁部片、瓦質	江戸後期
9		陶器・徳利	—	10.2 (7.6)	—	輪轔成形、内外面施袖、壺付無袖、外面に呉須で「口屋□番」	明治
10		陶器・壺	—	8.0 (5.0)	—	輪轔成形、平底、内外面灰釉、壺付無袖、底部に团子状の目底6、見込み目底6、釉調、胎土色調	明治以降
11		統制陶器・皿	11.5	5.1	2.0	完形、内面口唇直下に緑色の2条の團線、壺付無袖、統制番号「岐386」(クロム袖印・青)	昭和15~21年頃
12		銅錢・文久永宝	2.7	—	—	一部欠損	初鑄年 1863年

III 神明後遺跡第60地点の本調査に至る経過と概要

調査は分譲受託建設に伴うもので、原因者より2021年8月3日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を行った。

試掘調査は、同年9月7日～14日及び2022年1月5～14日まで行い、幅約1.5～1.7mのトレングチ17本を設定し、重機による表土除去後、人力による調査を行った。試掘調査の結果、古代以降とみられる大型土坑と井戸などを確認した。地表面から遺構確認面までの深さは約30～170cmで、遺構への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。

本調査は、2022年1月17～21日まで、遺構が確認された中央部付近について行った。

遺構・遺物の平面実測は平板測量を用いた。

IV 遺構と遺物

本調査で検出した遺構は、中世期以降の大型土坑1基、近世期以降とみられる井戸1基、中世以降のピット28基、近世以降とみられるピット3基である。ピットの規模等については、第40表のとおりである。遺物は縄文時代から近世期に属するものである。

(1) 大型土坑

【位置・時期】調査区のほぼ中央部に位置する。北西約6mに井戸が位置する。

遺構の時期は、覆土層からは14世紀代の遺物が多く出土するが不明である。

【形状・規模】平面形態は不整の梢円形に近い。南側は床面の緩く傾斜する。半地下式の遺構で床面から地表面への出入口とも考えられる。床面はローム層を掘り込み硬化しており、小ピットと土坑状の掘り込みもみられる。半地下式の遺構なのか土坑状なのかは不明である。

確認面の規模は長軸76.5cm、短軸44.4cm、底面の規模は長軸(72)cm、短軸32cm、深さ83.8cmである。大型土坑内の土坑状掘り込みとピットの詳細については第40表のとおりである。

(2) 井戸

【位置・時期】調査区中央部や北寄り、大型土坑の北西約6mに位置する。

遺構の時期は、覆土層の観察から近世期以降と考えられる。

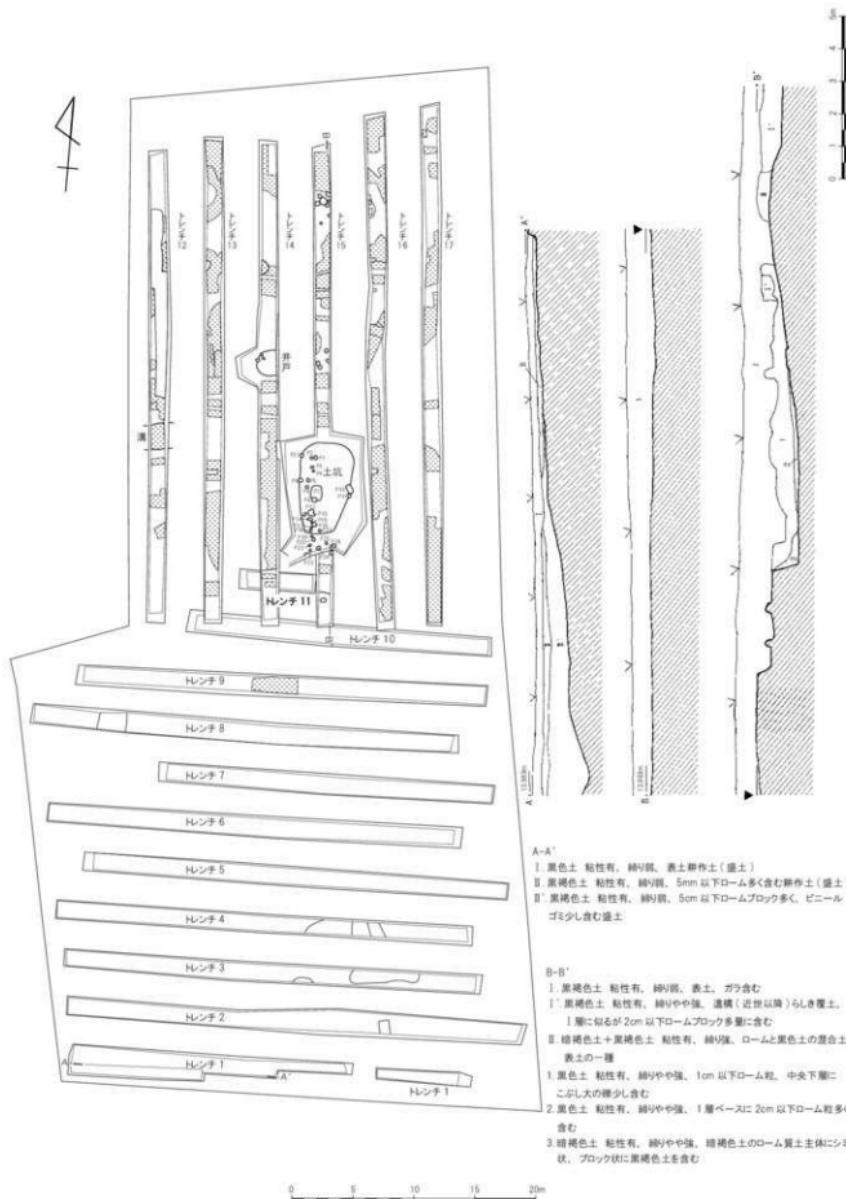
【形状・規模】平面形態は梢円形に近いが中段から底部にかけては隅丸方形を呈する。ローム層を深く掘り込んでおり、底部は未確認である。壁の上部はロート状に開き中央部から底部にかけては垂直に近くなる上部に小ピット3基がみられる。小ピットの詳細は以下のとおりである。P1は円形を呈し確認面の規模は27×24cm、底径7×6cm、深さ26.8cm。P2は円形を呈し確認面の規模は20×15cm、底径5×4cm、深さ20.1cm。P3は方形を呈し確認面の規模は21×20cm、底径6×5cm、深さ48.6cm。

(3) ピット

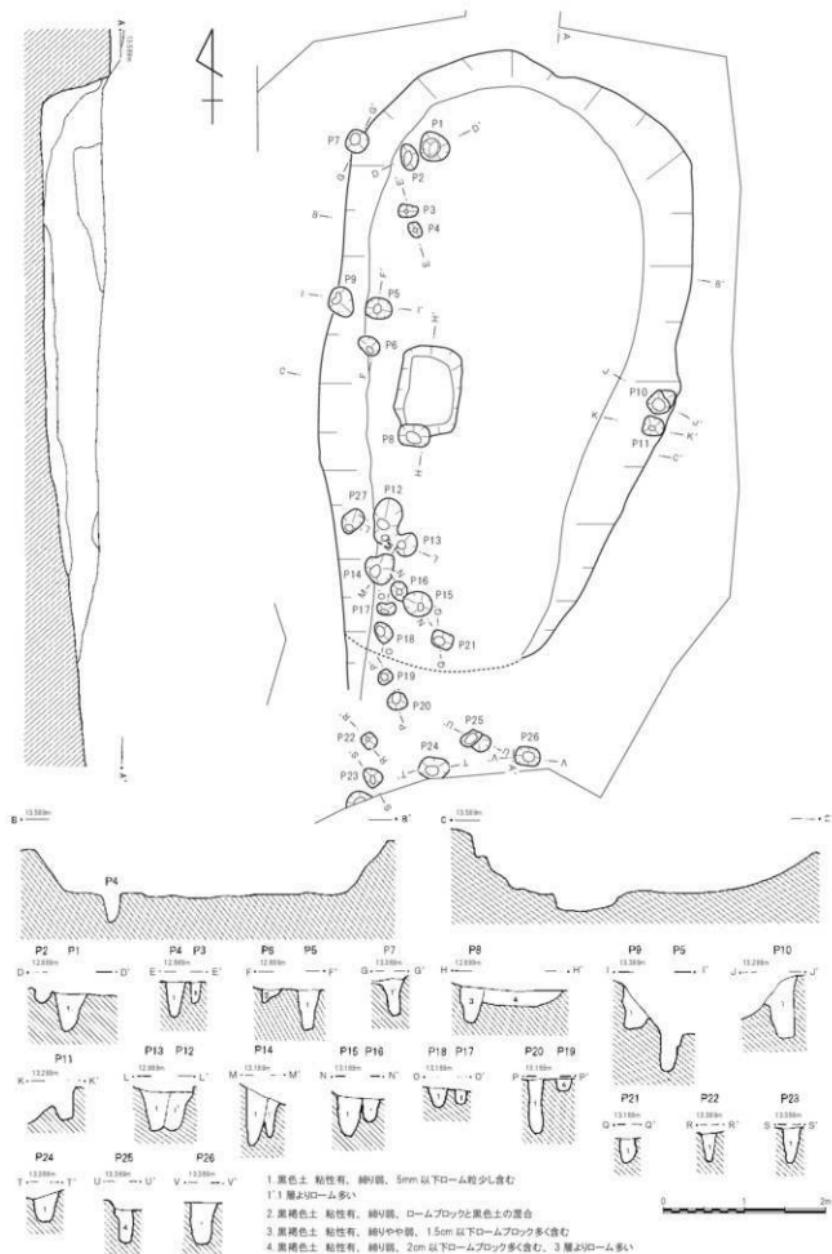
ピットは、大型土坑の西から南側に集中して検出した。約20～30cmの大きさのピットが多く、用途等は不明である。

【遺物出土状況】第110図の1・2は床面直上から、口縁部を下にした状態で出土した。それ以外の遺物は覆土層からの出土である。

【出土遺物】出土遺物の詳細については、第110・111図及び第41表を参照。



第 107 図 神明後遺跡第 60 地点遺構配置図 (1/400)、土層 (1/150)

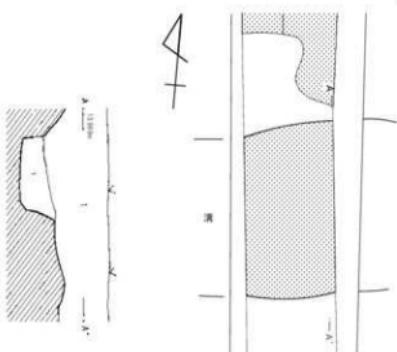


第108図 神明後遺跡第60地点大型土坑・ピット(1/60)

第40表 神明後遺跡第60地点ピット一覧表(単位cm)

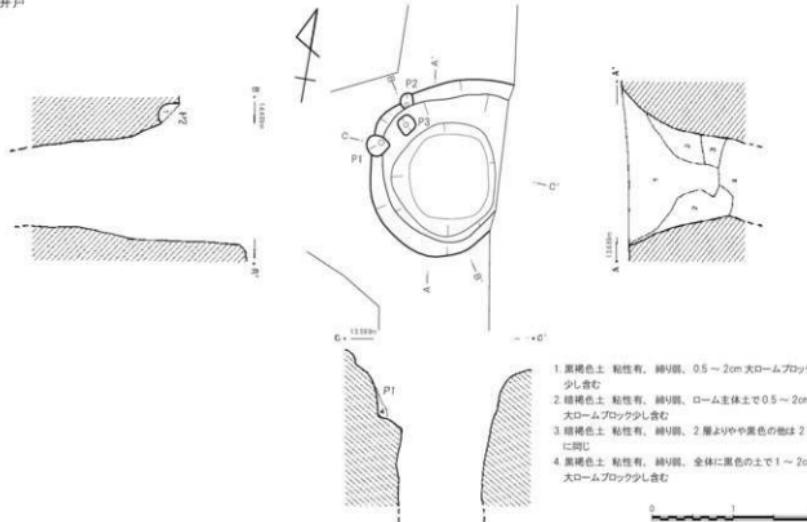
No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	円形	39 × 36	18 × 10	49.8	16	円形	26 × 20	9 × 7	38.4
2	橢円形	33 × 20	19 × 9	15.6	17	不整形	22 × 12	10 × 5	35.6
3	橢円形	25 × 14	4 × 4	17.9	18	円形	25 × 18	14 × 10	45.5
4	橢円形	19 × 15	7 × 5	35.4	19	円形	19 × 16	12 × 7	19.9
5	隅丸方形	32 × 26	12 × 9	51.7	20	円形	24 × 23	14 × 9	76.7
6	橢円形	29 × 18	9 × 7	32.9	21	隅丸方形	26 × 20	14 × 10	34.0
7	隅丸方形	111 × 77	84 × 57	25.3	22	隅丸方形	19 × 18	6 × 4	37.8
8	隅丸方形	40 × 26	20 × 14	55.9	23	隅丸方形	24 × 20	11 × 6	48.6
9	円形	37 × 29	15 × 6	60.9	24	隅丸方形	40 × 27	16 × 12	37.4
10	円形	27 × 22	17 × 13	77.2	25	隅丸方形	41 × 22	16 × 9	61.5
11	隅丸方形	26 × 22	9 × 6	39.0	26	隅丸方形	30 × 22	14 × 11	56.4
12	円形	56 × 38	16 × 11	60.2	27	円形	27 × 27	15 × 11	64.7
13	円形	30 × 26	11 × 10	58.3	28	不明	34 × (15)	15 × (6)	34.8
14	円形	39 × 33	15 × 11	98.4					
15	橢円形	36 × 30	10 × 5	54.7					

溝



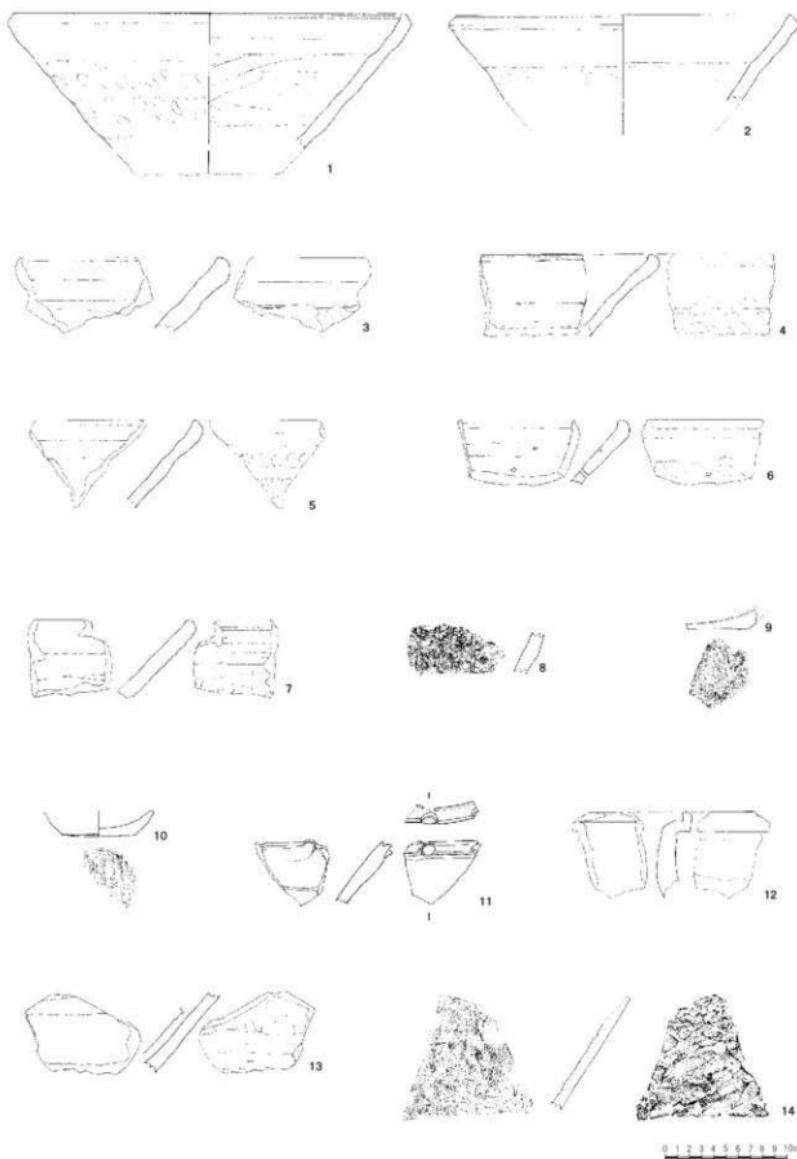
1. 黒色土 粘性有、練り固。ガラス含む灰土・耕作土
2. 黒色土 粘性有、練りやや固。1cm以下ロームブロックや多く含む。瓦・近代磁器
含むので新しい構造である。底は平らで壁は垂直に立ち上がる。手掘り。

井戸



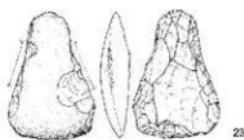
第109図 神明後遺跡第60地点溝・井戸(1/60)

土坑



第110図 神明後遺跡第60地点出土遺物①(1/4)

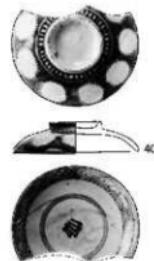
土坑



0 1 2 3 cm

P4	P15	P10	P24

溝	井戸	遺構外



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

第 111 図 神明後遺跡第 60 地点出土遺物② (1/4・1/1)

第41表 神明後遺跡第60地点出土遺物観察表(単位cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・備考	時期・型式
1	在地盤・瓦質こね鉢	土坑	33.0	-	(11.2)	体部外面指頭圧痕、体部内面ナゲ調整、口縁部横ナゲ調整。口唇部は玉縁状に肥厚しながら上方にやや尖る。胎土軟質、胎土色調灰白色、器面部暗緑灰色。胎土に白色粘物を含む。体部上位に内面口縁部付近と口唇部上方間に使用による摩耗。器唇が削られるように割れる。	14世紀後半
2			28.7	-	(7.1)	体部外面指頭圧痕、体部内面ナゲ調整、口縁部横ナゲ調整。口唇部は若干内側に尖り気味の難形。胎土・器面部暗緑灰色で一部に暗い肌色。胎土に白色粘物を含む。口縁部外面から口唇部にかけて保付縫。	14世紀後半
3			-	-	-	体部外面指頭圧痕、体部内面ナゲ調整、口縁部横ナゲ調整 (外側はナゲが強く断を持つ)。口唇部は玉縁状に肥厚しながら上方にやや尖る (1に近いがより厚手)。胎土軟質、胎土色調灰白色。器面部暗緑灰色。胎土に白色粘物を含む。口唇部上位に使用による僅かな摩耗。	14世紀後半
4		土坑	-	-	-	体部外面指頭圧痕、体部内面ナゲ調整、口縁部横ナゲ調整。口唇部はやや深部を内側に丸く收める。胎土軟質、胎土・器面部調灰白色。胎土に白色粘物を含む。口唇部底に使用による摩耗。	14世紀後半
5			-	-	-	体部外面指頭圧痕、体部内面ナゲ調整、口縁部横ナゲ調整。口唇部は玉縁状に肥厚しながら上方にやや尖る。胎土軟質、胎土色調灰白色、器面部暗緑灰色。胎土に白色粘物を含む。口縁部底部が使用による摩耗。1と同一個体的可能性あり。	14世紀後半
6			-	-	-	体部外面指頭圧痕、体部内面ナゲ調整、口縁部横ナゲ調整。口唇部は玉縁状に肥厚しながら内側に丸く收める。胎土軟質、胎土色調灰白色、器面部暗緑灰色。胎土に白色粘物を含む。口縁部底部が使用による摩耗、残存部下部に貫通した補修穴の1ヶ所と朱漆通が1ヶ所あり。	14世紀後半
7			-	-	-	体部外面指頭圧痕、体部内面ナゲ調整、口縁部横ナゲ調整。口唇部は玉縁状に肥厚せず面部に内側にやや突出。胎土軟質、胎土色調肌色、外器面部調黄褐色。	14世紀後半
8			-	-	-	瓶部片、外表面指頭圧痕と瓶底のヘラケズリ、内面使用による摩耗。胎土色調灰褐色。一部破損による赤色化、外器縁部付着。	14世紀後半
9			-	-	-	底部片、1-5の底部片か、底盤静止水切り壁に力。内面は使用により著しく摩耗。	14世紀後半
10	かわらけ	-	6.1	(2.1)	-	底部片、織縫使用。底部糸切縫後内面ナゲ底部板状压痕。胎土軟質。胎土色調肌色。前部に棕色粒子と海綿骨針を含む。	14世紀後半
11	常滑産・ 片口鉢	-	-	-	-	口縁部片、口縁部は輪形でやや外に張出す、片口部の成形は直線的。使用による摩耗はほぼない。常滑8型式。	14世紀後半
12	常滑産・重	-	-	-	-	口縁部片、常滑5-6型式。	13世紀中頃
13	山茶系糸口鉢	-	-	-	-	男部片、腰部横縫のヘラケズリ、内面使用による摩耗。	13-14世紀頃
14	常滑産・變	-	-	-	-	腰部、内面やや摩耗。	13-14世紀頃
15	織文式土器	-	-	-	-	陶縫筋にタチャビタガラス。	縫文式
16		-	-	-	-	口縁部無紋帶下に三角形に近い隣縫。	加賀村 E IV
17		-	-	-	-	地紋 LR 文様を沈線で区画	加賀村 E IV
18		-	-	-	-	地紋 LR 文様を沈線で区画	加賀村 E IV
19		-	-	-	-	断面三角形の隣縫。	縫文中期
20		-	-	-	-	小臺力、薄手、器面部黑色處理。断面三角形の隣縫。器面ミガキ。	加賀村 E IV
21		-	-	-	-	底部片	縫文中期
22		-	-	-	-	脚部片	加賀村 E
23		打製石斧	10.5	7.2	2.4	石材ホルンフェルス	縫文中期
24	肥前産・ 小庄裏碗	-	-	-	-	舟須染付、外側梵文のくずし文字。	18世紀末
25	瀬戸美濃産・ 灰釉徳利	-	-	-	-	腰部片	江戸後期
26	瀬戸美濃産・ 灰釉片口	-	-	-	-	腰部片	江戸後期
27	江戸在地産・ かわらけ	-	-	5.8	(1.1)	糠穀成形、底部糸切縫を残す	江戸時代
28	江戸在地産・ 土人形	-	-	-	-	天神堆、型作り、土師質。焼成良好。器面上墨(キラ)が若干残る。裏面に指頭痕及び二本の縄で斜めに差し込んだ跡がある	幕末
29	ピット4	縫文式土器	-	-	-	地紋縫文 LR、口縁部無紋帶の下に横縫に側隙起線、沈線で区画された無紋帶が垂下	加賀村 E IV
30	ピット15	常滑産・變	-	-	-	赤縫。	江戸時代
31	ピット10	縫文式土器	-	-	-	隣縫は微細起線に近い	加賀村 E III
32	ピット24	縫文式土器	-	-	-	口縁部無紋帶付、腰縫は断面カマボコ状。	縫文中期
33	溝	縫縫	-	-	-	外側ミガキ	縫文中期
34	遺構外	在地盤・瓦質	-	-	-	紺は綠色粘物。	明治後期以降
35		瀬戸美濃産	-	-	-	底部片、外表面指痕・擦ナゲ、胎土に白色粘物含む。	13-14世紀頃
36		井戸	-	-	-	鏡軸、すり目	15世紀末~16世紀前半
37		縫文式土器	-	-	-	底部片	縫文中期
38		瀬戸美濃産・ 天目茶碗	-	-	-	大窓期、熱釉	15世紀後半
39		瀬戸美濃産・ 灯明皿	-	-	-	鉄軸、内面目楕	幕末
40		肥前産・ 磁器碗蓋	-	-	-	舟須染付、外表面輪文、内面源氏文書、四方柳文	幕末

第4章 浄禪寺跡遺跡第56地点の調査

I 遺跡の立地と環境

浄禪寺跡遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、浄禪寺川の湧水地南側から右岸の台地上に位置する。標高12～14mで現谷底との比高差は2mを測る。浄禪寺川はさかい川と砂川堀の間を東流し、さかい川に合流する。さかい川はやがて砂川堀に合流して新河岸川へと注ぐ。

周辺の遺跡は北西に神明後遺跡、北側に苗間東久保遺跡が隣接する。本遺跡は1989年に苗間東久保遺跡の一部を、浄禪寺川を境に分割して登録した。

遺跡周辺は市街化が進み、残された畠地も周辺の区画整理の影響で開発が増加している。

2022年4月現在、57地点で試掘調査及び発掘調査を行い、縄文時代早期の炉穴多数、前期住居跡1軒、中期住居跡4軒、中・近世の薬研状の堀や遺跡名の由来である浄禪寺墓域から土壙墓157基、一字一石経約76,000点が出土している。浄禪寺は江戸時代に建立されたが、幕末に焼失して以来再建されていない。

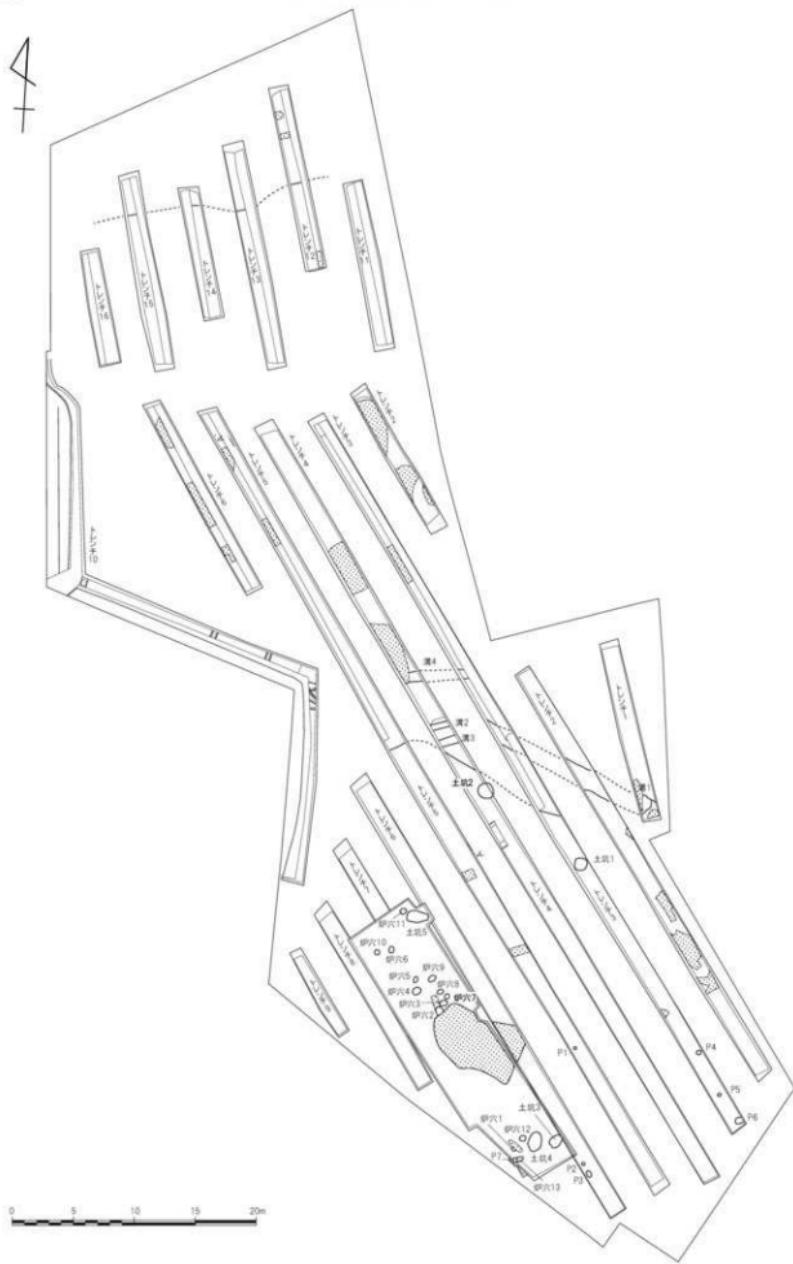
II 浄禪寺跡遺跡第56地点

(1) 調査の概要

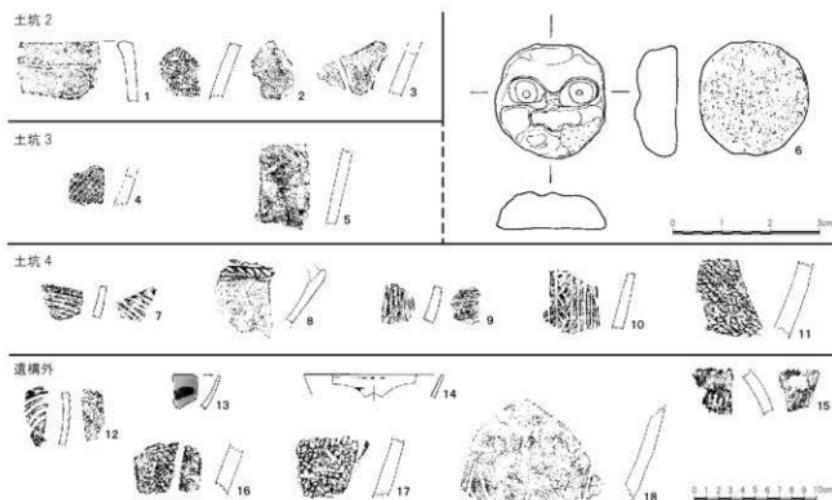
調査は宅地造成に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2021年10月18日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。試掘調査は2021年11月5～16日及び12月3～7日を行った。調査は幅約1.5mのトレンチ16本を設定し、重機で表土除去後人力で表面精査を行った。確認面までの深さは0.2～2.0mである。調査の結果、縄文時代の土坑5基、炉穴13基、時期不明の溝4条を検出した。遺構の保存が困難なため、原因者と再協議の結果2022年1月20～31日まで本調査を実施した。なお、旧石器時代の調査は実施していない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

遺構の詳細については、2021年度刊行の『市内遺跡群26』にて報告済みである。出土遺物については第113図及び第42表に掲載した。



第 112 図 淨禪寺跡遺跡第 56 地点遺構配置図 (1/400)



第 113 図 淨禪寺跡遺跡第 56 地点出土遺物 (1/4・1/1)
第 42 表 淨禪寺跡遺跡第 56 地点出土遺物観察表 (単位cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・備考	時期・型式
1	土坑 2	縄文式土器・深鉢	-	-	-	口縁部片、縁い沈線による区画文。口唇部は内側に肥厚	昭和内式期
2		縄文式土器・深鉢	-	-	-	胸部片、地紋は LR を縱位方向に施文	加賀利 E 式期
3		縄文式土器・深鉢	-	-	-	胸部片、辺縁で区画された懸垂文と曲線の文様	加賀利 E 式期
4	土坑 3	縄文式土器・深鉢	-	-	-	胸部片、地紋 RL、沈線で区画された懸垂文の一部	加賀利 E 式期
5		縄文式土器・深鉢	-	-	-	胸部片、無文部分	加賀利 E 式期
6		丸皿子	2.3	2.2	0.8	芥子面、ひょとこ、曲稜	幕末～明治
7	土坑 4	縄文式土器・深鉢	-	-	-	口縁部片、波状口縁。内外面直板条痕文	縄文早期末
8		縄文式土器・深鉢	-	-	-	胸部片、算盤形、端部に斜方向のキザミ	縄文後期
9		縄文式土器・深鉢	-	-	-	胸部片、内外面貝殻条痕文	縄文早期末
10		縄文式土器・深鉢	-	-	-	胸部片、竹貫文による垂下する集合条痕の間にジグザク文を配する	五領ヶ台式期
11		縄文式土器・深鉢	-	-	-	胸部片、地紋は擦りの弱い LR	加賀利 E 式期
12	遺構外	縄文式土器・器形不明	-	-	-	垂弧文、薄手	加賀利 B 式期
13		塗付磁器・丸瓶	-	-	-	赤須染付、肥前系	18・19世紀
14		塗付磁器・小広 東碗	-	-	-	赤須染付、肥前系	18・19世紀
15		絵錦陶器・壺	-	-	-	外面平行押印、渥美	12世紀末～13 世紀初頭
16		縄文式土器・深鉢	-	-	-	胸部片、懸垂文、地紋 LR	加賀利 E 3 式期
17		縄文式土器・深鉢	-	-	-	胸部片、懸垂文、地紋 RL	加賀利 E 3 式期
18		縄文式土器・深鉢	-	-	-	胸部片、辺縁で V 字の懸垂文	加賀利 E 4 式期

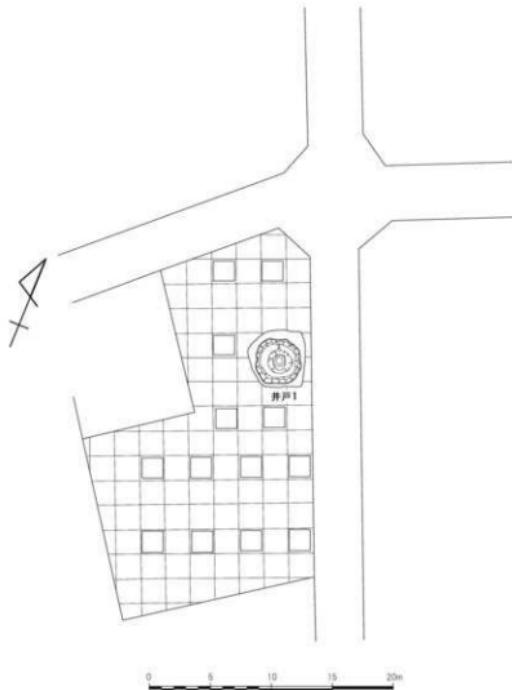
第III部 松山遺跡第12次の調査

I 調査の概要

松山遺跡第12次の調査地点は、遺跡範囲の西部に位置する。本地点の東側には7～8世紀の住居跡が確認されている。また、約50m北西に位置する第55地点では9世紀の住居跡とともに、掘立柱建物跡も検出している。しかしながら、本地点より西側については現時点で同時期の遺構を確認していないことから、古代において集落の縁辺であった可能性も考えられる。

調査は個人住宅建設に伴うもので、平成4年5月12日に旧上福岡市教育委員会で試掘調査を実施した。2m間隔でグリッドを設定し、一区画置きに人力で表土除去及び遺構面精査を行った。その結果、調査区の北東部で井戸1基を検出したため、本調査へと移行した。本調査は5月20日まで行った。

本地点はこれまでに正式に報告書が刊行されておらず、『埋蔵文化財の調査(15)』に概報的に報告されているのみである。近年、松山遺跡では古代集落跡の様相が少しづつ判明してきており、解明を進めいく上で本地点の遺構は重要である。このことから本報告の必要性を感じ、今回の報告に至った。なお、図面等について散逸しているものも多いため、当時の担当者への聞き取りなども踏まえ、現段階で判明したことについての報告している。



第114図 松山遺跡第12次遺構配置図(1/400)

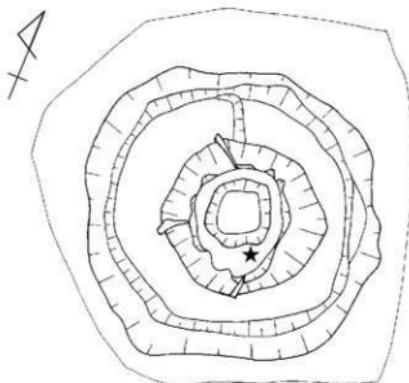
II 遺構と遺物

現状確認できた資料と担当者の聞き取り調査から判明したことは以下のとおりである。

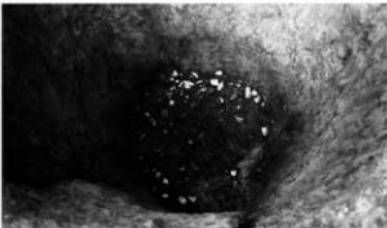
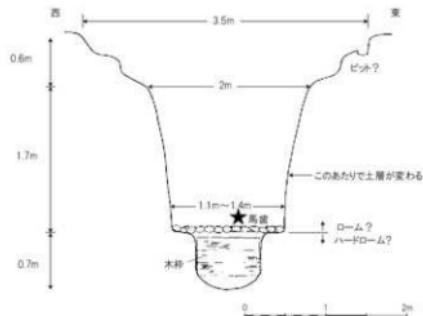
【構造】遺構の規模については『埋蔵文化財の調査(15)』に掲載されているため割愛する。最深部(井筒)は木製の板を横位に組んでいたようである。樹種等の分析結果については附編に掲載した。井戸の中央部に曲げ物等の構造物は確認されていない。土層の堆積状況は底部より①木枠下部にU字状の掘り込み②木枠③礫敷層④須恵器集中⑤埋め土(表土)であったとされる。さらに最深部はハードローム層で、水分を多く含む。

【遺物出土状況】井戸上層に須恵器の集中層が確認された。礫層は、第116図で掲載した写真より厚く堆積していたという。礫層の直上からは須恵器蓋坏(119-64)が正位置で出土した。その近くから馬齒がまとまって確認された。遺存状態が悪く、他の部位については確認されていない。また須恵器碗(120-87)は礫層の下部、木枠の上部より出土した。

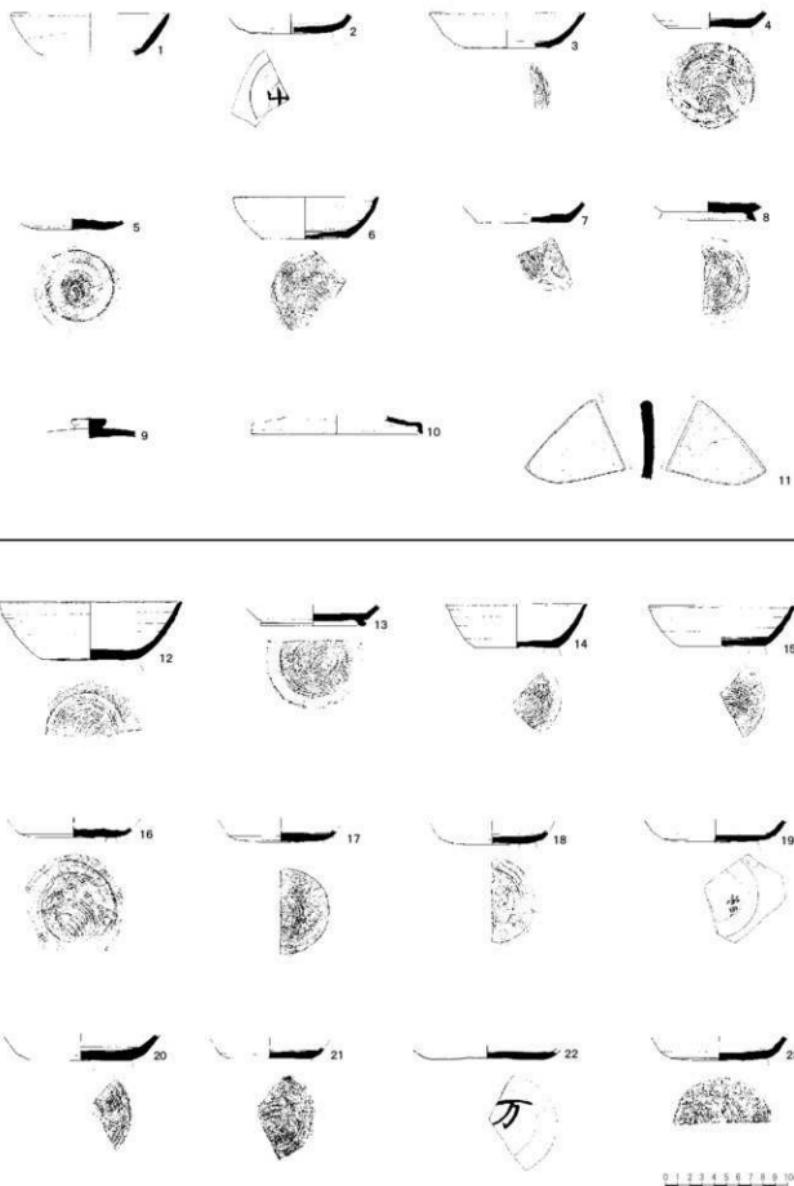
【出土遺物】出土遺物については第117~120図及び第43表に掲載した。



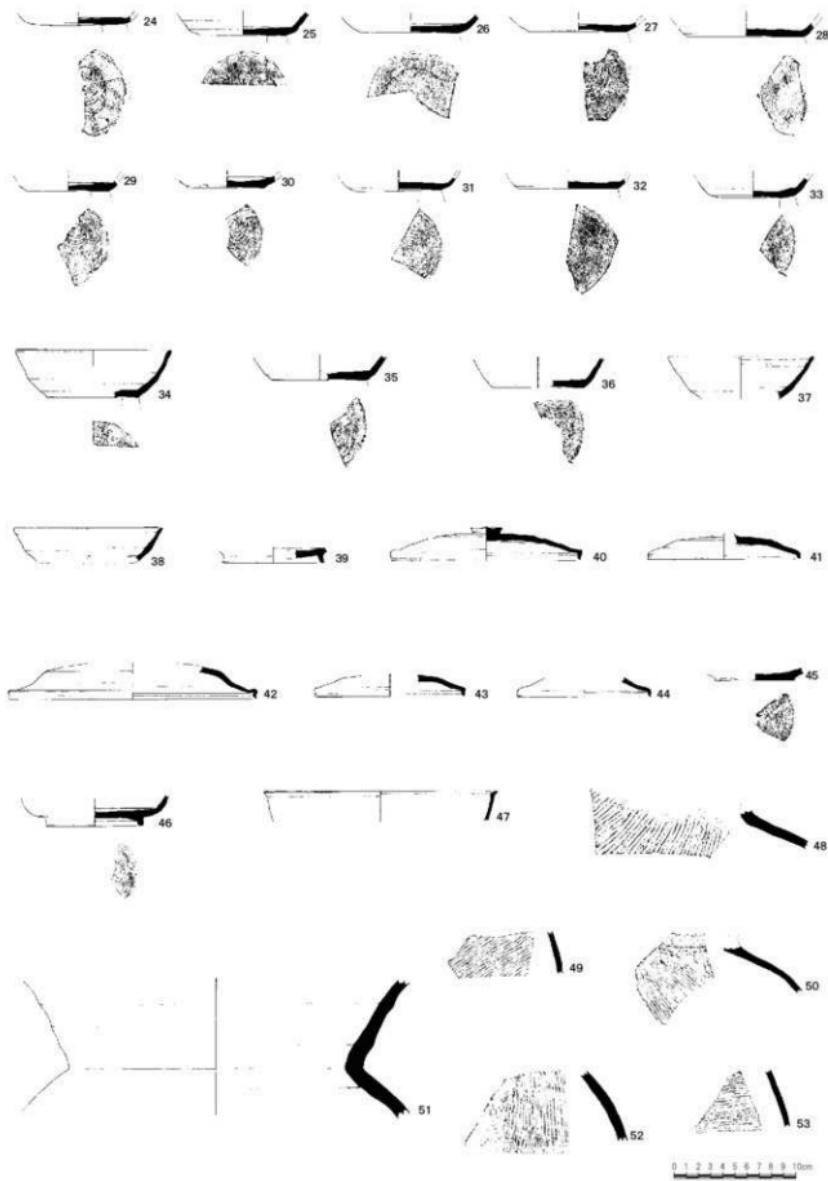
模式図 *1993埋蔵文化財の調査(15)の報告より復元し、模式図を作成



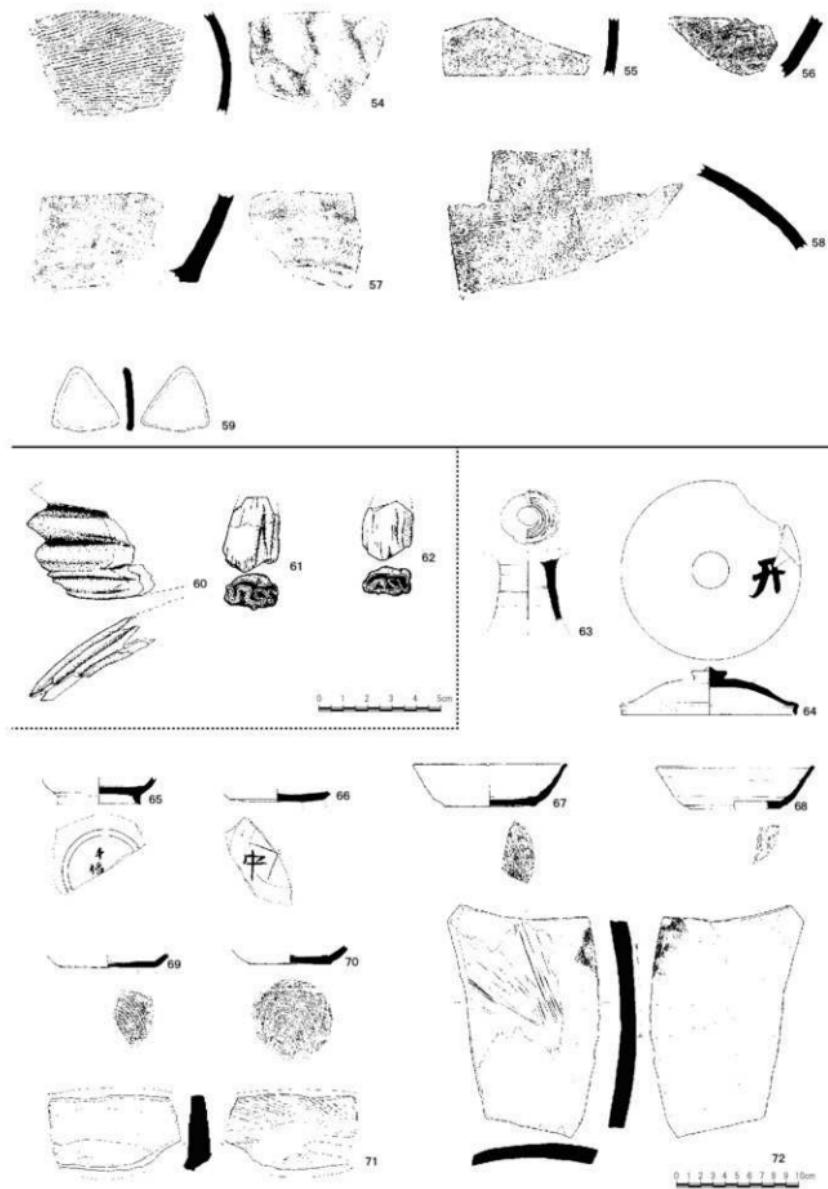
第115図 松山遺跡第12次井戸平面図・断面模式図(1/60)



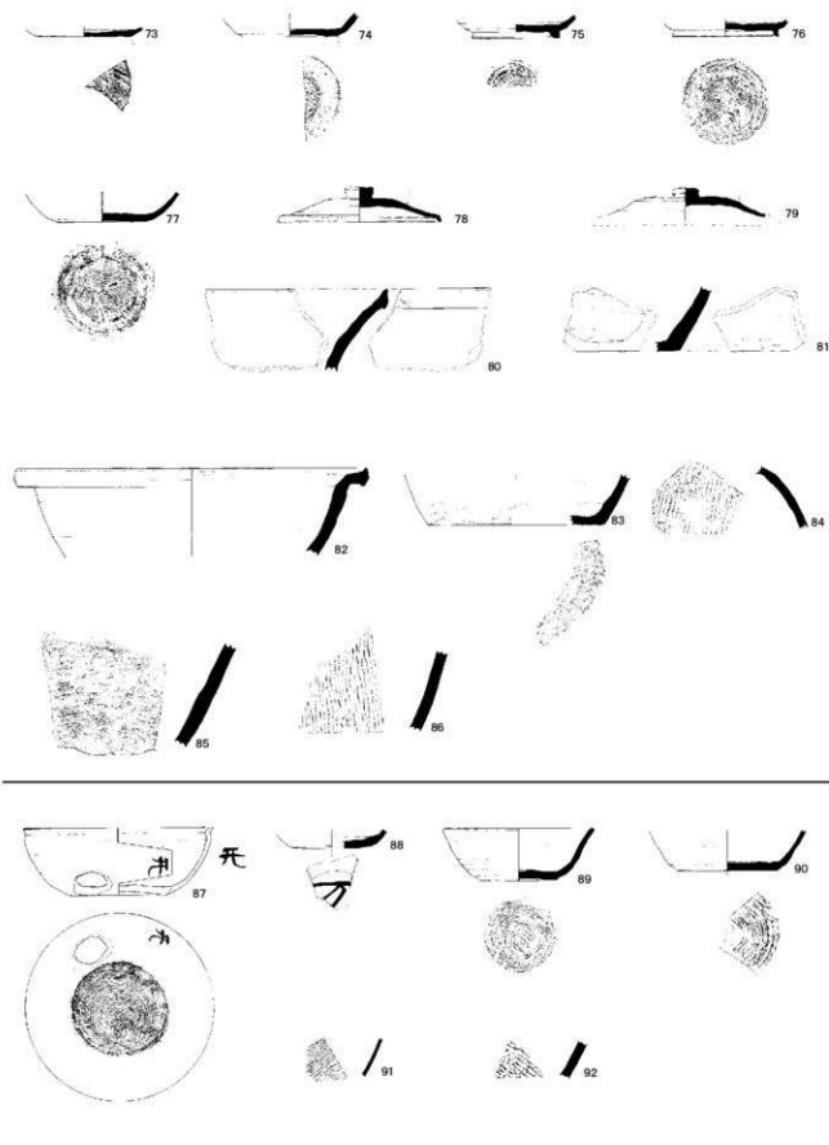
第116図 松山遺跡第12次出土遺物①(1/4)



第117図 松山遺跡第12次出土遺物②(1/4)



第118図 松山遺跡第12次出土遺物③(1/4・1/2)



第119図 松山遺跡第12次出土遺物④(1/4)

第43表 松山遺跡第12次出土遺物観察表(単位cm・g)

図版番号	出土遺構	出土位置	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	捺法・文様・備考	時期・型式
1	覆土		須恵器坏	13.0	—	3.5	体部片、輪縫使用、胎土色調上半青灰色・下半橙色、胎土に海綿骨針含む、南北企業産、内外面使用による摩耗	8世紀後半
2			須恵器坏・墨書	—	6.8	(1.6)	底部片、輪縫使用、右回転、底部回転糸切離し後周辺部回転へラケズリ、底部に「出?」墨書、焼成良好、胎土色調象牙色、東金子窯産	8世紀後半
3			須恵器坏・墨書?	16.8	7.0	2.9	輪縫使用、底部回転糸切離し痕を残す、胎土橙色、東金子窯産、体部外面に墨書「大」カ、口縁部内側使用による摩耗	8世紀後半
4			須恵器坏	—	6.8	(1.4)	底部片、輪縫使用、右回転、底部糸切離しの後周辺部回転へラケズリ、胎土色調灰青色・黄土色、東金子窯産	8世紀後半
5			須恵器坏	—	7.1	(0.9)	底部片、輪縫使用、右回転、底部回転糸切離し後周辺部回転へラケズリ、胎土色調灰青色、東金子窯産	8世紀後半
6			須恵器坏	12.0	7.3	3.4	輪縫使用、右回転、底部回転糸切離し痕を残す、胎土色調灰青色・丁子色、東金子窯産、口縁部一部に煤付着、口縁部内側使用による摩耗	8世紀後半
7			須恵器坏	—	7.2	(1.8)	底部片、輪縫使用、右回転、底部糸切離し痕を残す、焼成良好、胎土色調灰青色、東金子窯産	8世紀後半
8			須恵器高台付坏	—	6.0	(1.5)	底部片、輪縫使用、底部回転糸切離し→周辺部回転へラケズリ→高台貼付	8世紀後半
9			須恵器蓋	—	—	(1.5)	擴頂部片、輪縫使用、胎土色調暗灰色・丁子色、胎土に海綿骨針を含む、南北企業産	8世紀後半
10			須恵器蓋	14.0	—	(1.5)	口縁部片、輪縫使用、焼成良好、胎土色調灰青色、胎土に海綿骨針を含む、南北企業産	8世紀後半
11			須恵器蓋用砾石	7.6	6.4	0.9	外面平行叩き、内面当具痕の壊の頃部片を転用、辺がよく使われている	8世紀後半
12	井戸1		須恵器碗	15.2	8.0	4.9	輪縫使用、底部回転糸切離しの後周辺部回転へラケズリ、器面暗灰色・胎土丁子色、内面使用による摩耗	8世紀後半
13			須恵器坏	—	8.8	(1.8)	底部片、輪縫使用、右回転、底部回転糸切離し→周辺部回転へラケズリ→高台貼付、焼成良好、東金子窯産	8世紀後半
14			須恵器坏	11.6	7.0	4.6	輪縫使用、底部回転糸切離しの後周辺部回転へラケズリ、焼成良好、器面灰青色、東金子窯産、口縁部内面使用による摩耗	8世紀後半
15			須恵器坏	12.0	7.0	3.4	輪縫使用、底部回転糸切離しの後周辺部回転へラケズリ、焼成良好、胎土灰青色、東金子窯産	8世紀後半
16			須恵器坏	—	8.8	(0.8)	底部片、輪縫使用、底部回転糸切離しの後周辺部回転へラケズリ、胎土色調灰色・丁子色、内外縁部使用による摩耗	8世紀後半
17			須恵器坏	—	7.0	(1.0)	底部片、輪縫使用、底部回転糸切離し、爪先技法、焼成良好、胎土色調灰青色、東金子窯産	8世紀後半
18			須恵器坏	—	7.0	(1.1)	底部片、底部回転糸切離しの後周辺部回転へラケズリ、胎土色調灰青色、東金子窯産	8世紀後半
19			須恵器坏・墨書	—	7.2	(1.8)	輪縫使用、底部回転糸切離しの後周辺部回転へラケズリ、焼成良好、底部に「當口」墨書、器面色調灰色・胎土丁子色、東金子窯産	8世紀後半
20			須恵器坏	—	8.3	(2.2)	輪縫使用、底部回転糸切離しの後周辺部回転へラケズリ、爪先技法、胎土色調灰色、胎土に海綿骨針を含む、底面に墨書力	8世紀後半
21			須恵器坏	—	7.0	(0.9)	輪縫使用、右回転、底部回転糸切離し後周辺部回転へラケズリ、底部に「万」墨書、焼成不良、胎土色調、生成色、東金子窯産	8世紀後半
22			須恵器坏・墨書	—	(9.0)	(0.9)	輪縫使用、右回転、底部回転糸切離し後周辺部回転へラケズリ、底部に「万」墨書、焼成	8世紀後半

図版番号	出土遺構	出土位置	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・備考	時期・型式
23	井戸 1	中層	須恵器坏	—	8.0	(2.0)	轆轤使用、底部回転系切離しの後周辺部手持ちへラケズリ、爪先技法、焼成良好、胎土色調灰色、東金子窯産	8世紀後半
24			須恵器坏	—	8.0	(0.7)	轆轤使用、底部回転系切離しの後周辺部回転ヘラケズリ、焼成不良、胎土色調砂色、東金子窯産	8世紀後半
25			須恵器坏	—	7.2	(2.0)	轆轤使用、底部回転系切離しの後周辺部手持ちへラケズリ、爪先技法風、焼成良好、胎土色調灰色、東金子窯産	8世紀後半
26			須恵器坏	—	8.2	(1.6)	轆轤使用、底部回転系切離しの後周辺部回転ヘラケズリ、焼成不良、胎土色調あんず色、東金子窯産	8世紀後半
27			須恵器坏	—	8.0	(0.7)	底部片、底部回転系切離しの後周辺部回転ヘラケズリ、焼成不良、胎土色調明灰色、東金子窯産	8世紀後半
28			須恵器坏	—	9.4	(1.2)	底部片、底部回転系切離しの後周辺部回転ヘラケズリ、胎土色調明灰色、胎土に海綿骨針を含む、南北企窯産	8世紀後半
29			須恵器坏	—	6.8	(0.8)	底部片、底部回転系切離しの後周辺部回転ヘラケズリ、爪先技法、焼成良好、胎土色調丁字色、東金子窯産、器面摩耗	8世紀後半
30			須恵器坏	—	6.4	(1.0)	底部片、轆轤使用、右回転、底部回転系切離し痕を残す、胎土色調明灰色、東金子窯産	8世紀後半
31			須恵器坏	—	7.0	(1.0)	底部片、底部回転系切離しの後全面回転ヘラケズリ、焼成良好、胎土色調明灰色、東金子窯産	8世紀後半
32			須恵器坏	—	7.8	(0.8)	底部片、全面回転ヘラケズリ、胎土色調明灰色、胎土に海綿骨針を含む、南北企窯産	8世紀後半
33			須恵器坏	—	7.0	1.7	底部片、底部回転系切離しの後周辺部回転ヘラケズリ、焼成良好、胎土色調灰色、東金子窯産	8世紀後半
34			須恵器坏	12.8	7.5	3.9	轆轤使用、底部回転ヘラケズリ、胎土色調明灰色、胎土に海綿骨針を含む、南北企窯産	8世紀後半
35			須恵器坏	8.0	—	(2.0)	轆轤使用、底部は全面回転ヘラケズリ、胎土色調明灰色、胎土に海綿骨針を含む、南北企窯産	8世紀後半
36			須恵器坏	—	7.6	(2.6)	轆轤使用、底部回転系切離しの後周辺部手持ちへラケズリ、胎土色調明灰色、胎土に海綿骨針を含む、南北企窯産	8世紀後半
37			須恵器坏	12.0	6.4	(3.5)	轆轤使用、胎土色調灰色、胎土に海綿骨針を含む、南北企窯産	8世紀後半
38			須恵器坏	12.2	—	(2.8)	轆轤使用、胎土色調灰色、胎土に海綿骨針を含む、南北企窯産	8世紀後半
39			須恵器高台付坏	—	8.4	(1.2)	轆轤使用、底部開闊ヘラケズリの後薄い高台貼付、爪先技法、胎土色調砂色、東金子窯産	8世紀後半
40			須恵器蓋	15.6	—	3.8	轆轤使用、外面部中央回転ヘラケズリの後猫み貼付、胎土色調明灰色、胎土に海綿骨針を含む、南北企窯産、内面は使用による摩耗	8世紀後半
41			須恵器蓋	12.0	—	(2.0)	轆轤使用、外面部中央回転ヘラケズリの後猫み貼付、焼成良好、胎土色調灰色、東金子窯産	8世紀後半
42			須恵器 銅塊蓋模倣蓋	20.4	—	(2.6)	轆轤使用、外面部中央回転ヘラケズリ、焼成良好、胎土色調明灰色、胎土に海綿骨針を含む、南北企窯産	8世紀後半
43			須恵器蓋	12.2	—	(1.8)	轆轤使用、外面部中央回転ヘラケズリ、焼成良好、器面色調ブルーフォグ、東金子窯産	8世紀後半
44			須恵器蓋	11.0	—	(1.6)	轆轤使用、焼成不良・土質質、胎土色調柱子色、東金子窯産	8世紀後半
45			須恵器坏又は皿	—	6.6	(1.0)	轆轤使用、焼成不良・土質質、底部回転系切離しの後周辺部回転ヘラケズリ、胎土色調柱子色、東金子窯産	8世紀後半
46			須恵器高台付坏	—	8.0	(2.5)	轆轤使用、爪先技法、付高台、焼成良好、胎土色調ブルーフォグ、見込み・疊付使用による摩耗	8世紀後半

図版番号	出土遺構	出土位置	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・備考	時期・型式
47	中層 井戸 1		須恵器 銅塊模倣焼	19.2	—	(2.5)	輪縫使用、薄作り、口縁部がシャープに「く」の字状に屈折、胎土色調モスグレイ、胎土に海綿骨針を含む、南北企業産	8世紀後半
48			須恵器壺	—	—	—	肩部片、外面平行叩、内面当具痕、焼成良好、外面陥灰、胎土色調パールグレイ、東金子窯産	8世紀後半
49			須恵器壺	—	—	—	肩部片、外面平行叩、内面当具痕、焼成良好、器面色調鉛色、胎土色調丁子色、東金子窯産	8世紀後半
50			須恵器壺	—	—	—	肩部片、外面平行叩、内面当具痕、焼成良好、外面陥灰、器面色調鉛色、胎土色調丁子色、東金子窯産	8世紀後半
51			須恵器壺	—	—	—	頭・肩部片、頭・内面、肩部外面に陥灰、器面色調ブルーフォグ、東金子窯産	8世紀後半
52			須恵器壺	—	—	—	肩部片、外面平行叩、内面当具痕、焼成良好、胎土色調鼠色、胎土に海綿骨針を含む、南北企産	8世紀後半
53			須恵器壺	—	—	—	肩部片、外面平行叩、内面当具痕、焼成良好、器面色調鉛色、胎土色調丁子色、東金子窯産	8世紀後半
54			須恵器壺	—	—	—	肩部片、外面平行叩、内面当具痕、胎土色調	8世紀後半
55			須恵器壺	—	—	—	モスグレイ、末野窯産	
56			須恵器壺	—	—	—	肩部片、叩目ナデ調整、当具痕ナデ消し、器面色調モスグレイ、胎土色調テラコッタ	8世紀後半
57			須恵器壺	—	—	—	頭部片、粘土接合痕残す、焼成良好、胎土色調モスグレイ、東金子窯産	8世紀後半
58			須恵器壺	—	—	—	肩部片、外面平行叩、内面当具痕、胎土色調モスグレイ、胎土に海綿骨針を含む、南北企産	8世紀後半
59			須恵器壺肩部転用砾石	5.5	5.4	0.6	須恵器壺肩部片転用、割口各面磨耗、胎土色調鉛色、胎土に海綿骨針を含む	8世紀後半
60			馬齒	—	—	—	切歎	8世紀後半
61			馬齒	—	—	—	臼歎	8世紀後半
62			馬齒	—	—	—	臼歎	8世紀後半
63			須恵器高坏	—	—	(5.1)	輪縫使用、高坏・盤接合部に条線状のキザミ、胎土色調パールグレイ	8世紀後半
64			須恵器蓋・墨書	14.4	—	(4.0)	輪縫使用、宝珠彌、外面部中央回転ヘラケズリ、外面に「开（ヰ）」墨書、胎土色調砂色、東金子窯産	8世紀後半
65			須恵器高台付坏・墨書	—	6.8	(2.3)	輪縫使用、爪先技法、底部糸切離しの後回転ヘラケズリ付高台、底部に「千福（ヰ）」墨書、胎土色調バトルシップグレイ、胎土に海綿骨針を含む、南北企産	8世紀後半
66			須恵器坏・墨書	—	7.8	(0.9)	輪縫使用、底部片、輪縫使用、底部糸切離しの周縁部回転ヘラケズリ、底部に「×」ヘラガキ、「中」墨書、胎土色調砂色。	8世紀後半
67			須恵器坏	12.8	7.4	3.5	底部片、輪縫使用、右回転、底部糸切離し、爪先技法、底部に墨書あるが判読不能、胎土色調スカイグレイ、東金子窯産	9世紀前半
68			須恵器坏	12.4	6.3	4.3	輪縫使用、底部回転糸切離し後周縁部回転ヘラケズリ、胎土色調パールグレイ、胎土に海綿骨針を含む、南北企産	8世紀後半
69			須恵器坏	—	7.6	(1.3)	輪縫使用、右回転、底部片、爪先技法、糸切離し痕を残す、底部に墨書きあり（解読不能）、東金子窯産、内面使用痕	8世紀後半
70			須恵器坏・墨書	—	6.7	(1.6)	短頭彌力、腰部片、高台欠失、外面部平行叩。外面灰釉、内底面陥灰、胎土均質、胎土色調灰色。	8世紀後半
71			須恵器転用砾石	10.5	7.1	1.8	割口部分の磨耗、残投産	
72			須恵器壺転用砾石	18.0	11.5	1.3	肩部片、外面部平行叩、内面当具痕、外面部明瞭、一部に煤付着、胎土色調砂色、胎土に海綿骨針を含む、南北企産	8世紀後半

図版番号	出土遺構	出土位置	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・備考	時期・型式
73	井戸1	石敷直上	須恵器坏	—	7.6	(0.8)	輪轔使用、底部片、底部回転糸切離しの後全面回転ヘラケズり、胎土色調灰汁色、胎土に海綿骨針を含む、南比企窓産	8世紀後半
74			須恵器坏	—	7.6	(2.0)	輪轔使用、底部片、底部回転糸切離しの後周縁部回転ヘラケズり、胎土色調葉灰赤、胎土に海綿骨針を含む、南比企窓産	8世紀後半
75			須恵器高台付坏	—	7.2	(2.0)	輪轔使用、爪先技法、底部糸切離しの後付高台、胎土色調鼠色、胎土に海綿骨針を含む、南比企窓産	8世紀後半
76			須恵器高台付坏	—	8.8	(1.4)	輪轔使用、右回転、底部糸切離しの後周縁部回転ヘラケズり付高台、胎土色調鉛色、胎土に海綿骨針を含む、南比企窓産	8世紀後半
77			須恵器塊	—	8.5	(2.5)	輪轔使用、右回転、底部糸切離しの後周縁部回転ヘラケズり、底部に「」ヘラガキ、胎土色調銀鼠、見込みやや摩耗、炭付着、転用碗の可能性あり	8世紀後半
78			須恵器蓋	13.4	—	2.9	輪轔使用、外面中央回転ヘラケズり、宝珠彫、胎土色調銀鼠、内面やや摩耗、南比企窓産力	8世紀後半
79			須恵器蓋	—	—	(2.3)	輪轔使用、外面中央回転ヘアケズり、宝珠彫、摘上面・内面中央摩耗、胎土色調砂色、東金子窓産	8世紀後半
80			須恵器甕	—	—	—	口縁部片、胎土色調バトルシップグレイ、胎土に海綿骨針を含む、南比企窓産	8世紀後半
81			須恵器甕	—	—	—	腰部片、胎土色調鼠色、胎土に海綿骨針を含む、南比企窓産	8世紀後半
82			須恵器体	29.2	—	(7.4)	口縁部片、胎土色調スカイグレイ、胎土に海綿骨針を含む、南比企窓産	8世紀後半
83			須恵器鉢?	—	14.8	(4.2)	腰部・底部片、破片から底部が楕円形を呈する可観あり、腹部横位のヘラケズり、胎土色調薄墨色、胎土に海綿骨針を含む、南比企窓産	8世紀後半
84			須恵器甕	—	—	—	肩部片、外面平行叩き、内面ナデ調整、肩部に灰釉、外面部色調鼠色、胎土色調砂色、胎土均質、猪投産力	8世紀後半
85			須恵器甕	—	—	—	胴部片、外面弱い平行叩き、内面ナデ調整、胎土色調ペールグレイ、胎土に海綿骨針を含む、南比企窓産	8世紀後半
86			須恵器甕	—	—	—	肩部片、外面平行叩き、内面ナデ調整、外面部色調鼠色、胎土色調砂色、胎土均質、東金子窓産	8世紀後半
87		石敷直下	須恵器塊・墨書	15.6	7.9	5.5	輪轔使用、口縁部が「く」状に折れ口唇部が尖る、底部糸切離し後周辺部回転ヘラケズり、焼成良好、胎土色調灰色、腰部に丸く意図的に欠損、内面に使用による摩耗。胴部中程に横位に「开(井)」墨書、胎土に海綿骨針を含む、南比企窓産	9世紀前半
88			須恵器坏・墨書	—	6.6	(1.5)	輪轔使用、底部片、残存底部は手持ちヘラケズり、英部に「万」墨書、胎土色調ペールグレイ、胎土に海綿骨針を含む、南比企窓産	8世紀後半
89			須恵器坏	12.4	6.3	4.3	輪轔使用、右回転、底部回転糸切離し、焼成不良、内面火襷、胎土色調ペールグレイ、使用による摩耗、鉢分付着、胎土に海綿骨針を含む、南比企窓産	9世紀前半
90			須恵器坏	—	8.3	(3.4)	輪轔使用、右回転、底部全面回転ヘラケズり、胎土色調ペールグレイ、使用による摩耗、外面部腰部に焦げ茶色の付着物、胎土に海綿骨針を含む、南比企窓産	8世紀後半
91			須恵器甕	—	—	—	肩部片、外面平行叩き、内面ナデ調整、外面部色調モスクグレイ、胎土色調空五倍子色、胎土均質、東金子窓産	8世紀後半
92			須恵器甕	—	—	—	肩部片、外面平行叩き、内面ナデ調整、外面部色調鼠色、胎土色調砂色、胎土均質、東金子窓産	8世紀後半

III 2021年度の調査について

2021年度は試掘調査が45件、うち本調査に至ったものが7件であった。長宮遺跡第60地点の本調査については2022年度の実施となる。また、2021年度実施の民間開発による本調査7件のうち、5件については2021年度刊行の『市内遺跡群27』にて報告した。以下2021年度の調査について時代ごとに概観する。

【縄文時代】

縄文時代の遺構としては、西ノ原遺跡第181地点の調査が挙げられる。今回の調査では計15軒の住居跡を検出した。今回の調査地点は2つの環状集落の接点であるため、狭い範囲に重複して確認された。住居の時期はおよそ勝坂末頃から加曾利EⅠである。今回の調査で西ノ原遺跡の集落の様相がより鮮明になったと言えよう。また小田久保遺跡第15地点では、遺構は確認されていないものの複数の縄文土器片が出土した。小田久保遺跡の縄文集落を考えるうえの一助となり得るであろう。

【古代】

古代に関する遺構は、長宮遺跡第60地点の住居跡が挙げられる。出土遺物から8世紀中葉に帰属するものと考えられる。長宮遺跡で確認されている古代住居跡は現在までに8軒あるが、比較的遺跡範囲の南側に集中している。本遺跡の南側に隣接する松山遺跡は、7世紀後半から9世紀にかけての集落である。長宮遺跡の同時期の住居跡は、松山遺跡から続く集落の北縁である可能性も考えられよう。また、平成4年度調査の松山遺跡第12次の再整理では、出土遺物も含め新たな発見が多くあった。長宮遺跡の調査と併せて、松山遺跡の奈良～平安時代にかけての様相がより明確になってきたと言える。他にも過去の調査で十分に報告されていないものも多くあるため、再整理も踏まえて調査が進むことに期待する。

【中近世・近代】

中近世以降の調査としてはまず西ノ原遺跡第181地点の溝跡が挙げられる。隣接する第20地点及び第75地点でも確認されている。今回の調査では第20地点より続く搭載方向の溝跡が、本地点中央部にて走行方向を北へ変えることが判明した。北側は未調査部分が多いため、調査区外でどのように展開するのか不明ではあるが、調査が進めば溝の性格についても明らかになるであろう。神明後遺跡第60地点では中世以降の大型土坑が確認された。周辺では堀跡や段切り遺構が確認されており、それらとの関連も考えられよう。神明後遺跡第59地点で確認された堀跡についても、第60地点の中近世遺構とともにこの地域での中世集落のあり方を考える一助となり得る。

(岡崎裕子)

附 編

放射性炭素年代測定

バレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・加藤和浩・廣田正史・佐藤正教・山形秀樹・Zaur Lomtavidze・黒沼保子

1.はじめに

ふじみ野市の松山遺跡 12 次で出土した試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と方法

試料は、井戸最奥部で採取された木枠 2 点である。どちらも最終形成年輪は残存しておらず、部位不明であった。

測定試料の情報、調製データは表 1 のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（バレオ・ラボ、コンパクト AMS : NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

表1 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-49241	位置：井戸最奥部 器種：木枠 試料 No. 1	種類：生材（ヒノキ） 試料の性状：最終形成年輪以外、部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-49242	位置：井戸最奥部 器種：木枠 試料 No. 2	種類：生材（ヒノキ） 試料の性状：最終形成年輪以外、部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）

3. 結果

表 2 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従つて年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、図 1 に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 術を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行つために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.27% であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 \pm 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal14.4 (較正曲線データ : IntCal120) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.27% 信頼限界の暦年代範囲であ

り、同様に 2σ 暦年代範囲は95.45%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

表2 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{14}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
PLD-49241 試料No.1	-23.86 \pm 0.16	1459 \pm 22	1460 \pm 20	594-611 cal AD (26.58%) 615-641 cal AD (41.69%)	574-646 cal AD (95.45%)
PLD-49242 試料No.2	-27.31 \pm 0.25	1577 \pm 24	1575 \pm 25	435-465 cal AD (27.26%) 475-500 cal AD (23.24%) 507-516 cal AD (7.04%) 530-542 cal AD (10.74%)	425-552 cal AD (95.45%)

1. 考察

以下、各試料の暦年較正結果のうち、 2σ 暦年代範囲（確率95.45%）に着目して結果を整理する。
試料No.1(PLD-49241)は、574-646 cal AD (95.45%)の暦年代範囲を示した。これは6世紀後半～7世紀中頃で、古墳時代後期～飛鳥時代に相当する。

試料No.2(PLD-49242)は、425-552 cal AD (95.45%)の暦年代範囲を示した。これは5世紀前半～6世紀中頃で、古墳時代中期～後期に相当する。

木材試料は、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。今回の試料はどちらも最終形成年輪が残存しておらず、残存している最外年輪のさらに外側にも年輪が存在していたはずである。したがって、試料の木が実際に枯死もしくは伐採されたのは、測定結果の年代よりもやや新しい時期であったと考えられる。

参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編「日本先史時代の ^{14}C 年代」:3-20, 日本第四紀学会.
- Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62(4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. <https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)

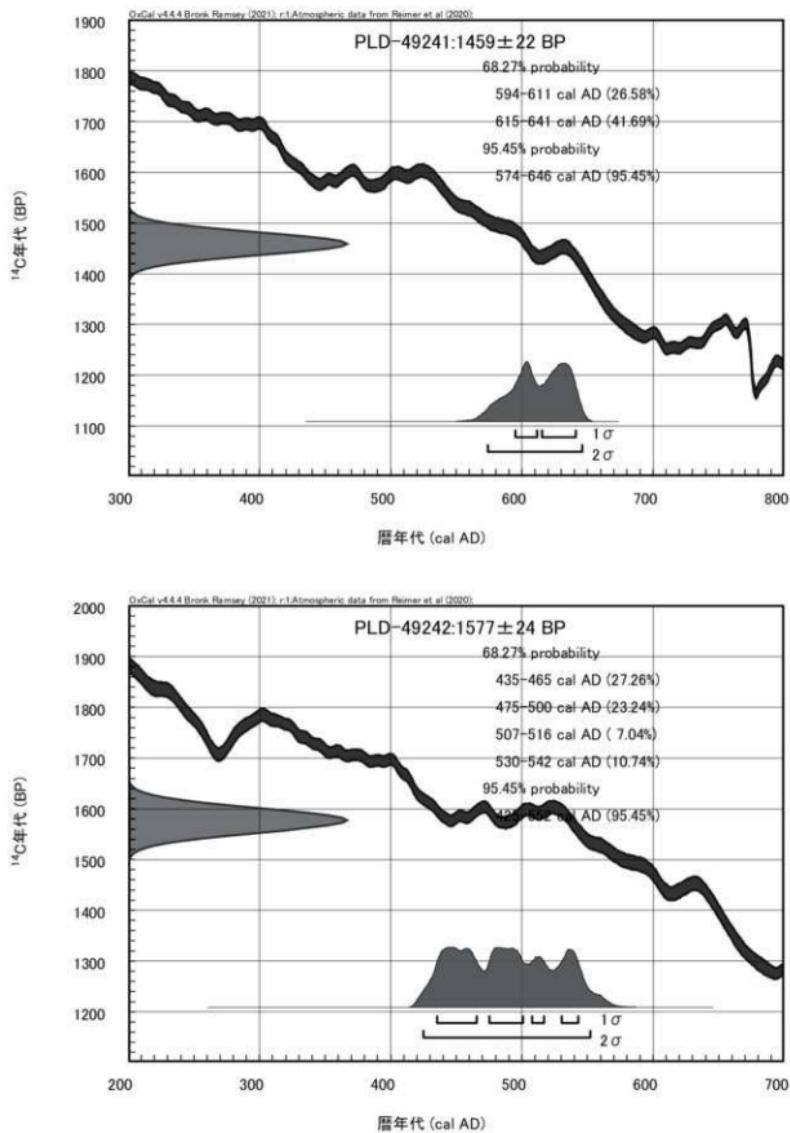


図 1 歷年較正結果

木材の樹種同定

黒沼保子（バレオ・ラボ）

1.はじめに

ふじみ野市の松山遺跡第12次調査で出土した木材2点について樹種同定を行った。なお、同じ試料を用いて放射性炭素年代測定も行われている（放射性炭素年代測定の項参照）。

2. 試料と方法

試料は、井戸最奥部で採取された木枠の破片2点である。

これらの試料から、剃刀を用いて3断面（横断面・接線断面・放射断面）の切片を採取し、ガムクローラーで封入してプレパラートを作製した。これを光学顕微鏡で観察および同定し、写真撮影を行った。

3. 結果

樹種同定の結果、2点とも針葉樹のヒノキであった。結果を表1に示す。

表1 樹種同定結果一覧

分析No.	出土位置	部位	樹種	木取り	年代測定番号
1	井戸最奥部	木枠	ヒノキ	柾目？	PLD-49241
2	井戸最奥部	木枠	ヒノキ	柾目？	PLD-49242

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、光学顕微鏡写真を図版に示す。

- ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 図版1 1a-1c (分析No.1)、2a-2c (分析No.2)

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかである。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1分野に2個存在する。

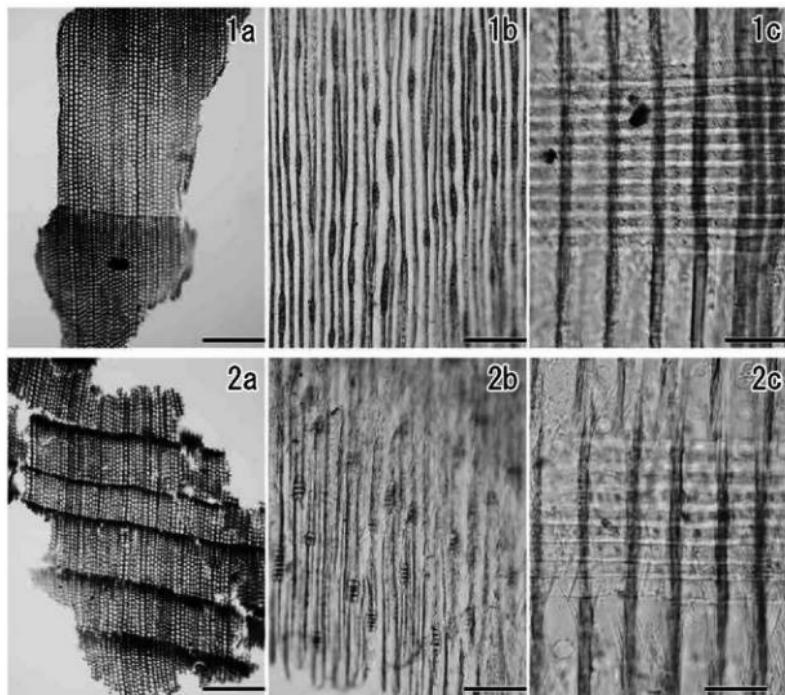
ヒノキは福島県以南の温帯から暖帯に分布する常緑高木である。材は加工容易で割裂性は大きく、耐朽性および耐湿性は著しく高く、狂いが少ない。

4. 考察

井戸最奥部の木枠の破片2点は、どちらもヒノキであった。木取りは柾目状であったが、試料が破片であるため、元の木枠の木取りが柾目であるかは不明である。ヒノキは木理直通で加工性の良い材である（平井, 1996）。また、耐朽性や耐湿性があるため、水場での利用にも適している。

引用・参考文献

- 平井信二 (1996) 木の大百科. 394p, 朝倉書店。
伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂 (2011) 日本有用樹木誌. 238p, 海青社。



図版1 木材の光学顕微鏡写真

1a-1c. ヒノキ (分析No.1)、2a-2c. ヒノキ (分析No.2)

a: 横断面 (スケール=500 μm)、b: 接線断面 (スケール=200 μm)、c: 放射断面 (スケール=50 μm)



北野遺跡第 52 地点トレンチ

遺構外



北野遺跡第 52 地点出土遺物



北野遺跡第 53 地点トレンチ



北野遺跡第 53 地点調査区全景



北野遺跡第 54 地点トレンチ 1



北野遺跡第 54 地点調査区全景



北野遺跡第 55 地点トレンチ



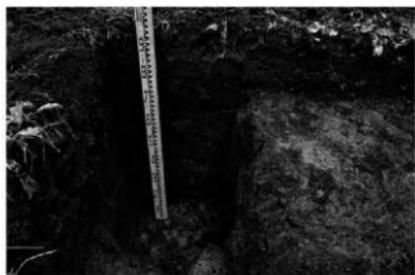
北野遺跡第 55 地点調査風景



北野遺跡第 56 地点調査区全景



ハケ遺跡第 29 地点トレンチ



ハケ遺跡第 30 地点グリッド A 土層



ハケ遺跡第 30 地点グリッド B 土層



ハケ遺跡第 30 地点調査風景



滝遺跡第 38 地点トレンチ 1

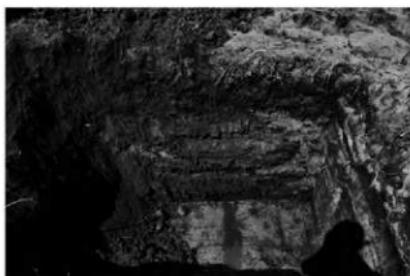


滝遺跡第 38 地点調査風景

遺構外



滝遺跡第 38 地点出土遺物



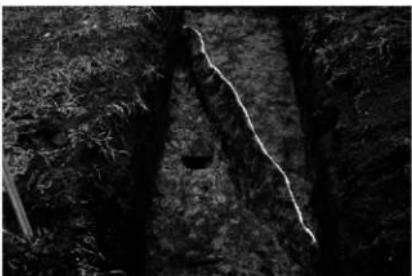
淹遺跡第39地点トレンチ土層



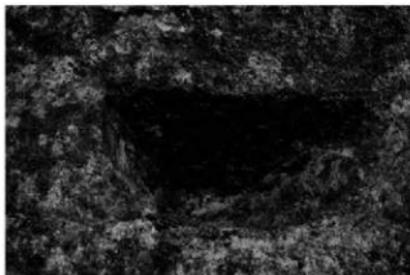
淹遺跡第39地点調査風景



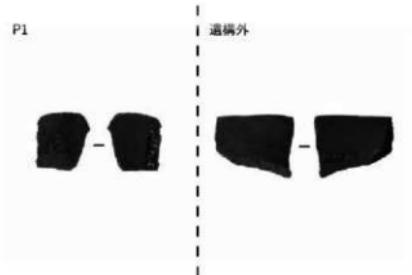
淹遺跡第40地点トレンチ1溝1土層



淹遺跡第40地点トレンチ2ピット



淹遺跡第40地点ピット土層



淹遺跡第40地点出土遺物



淹遺跡第41地点トレンチ1土層



淹遺跡第41地点トレンチ3



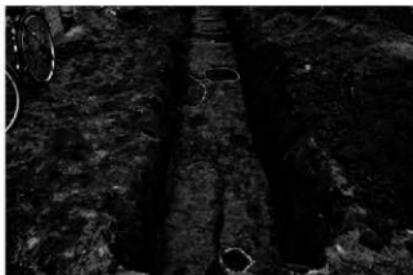
亀居遺跡第 81 地点 トレンチ 1



鶴ヶ舞遺跡第 43 地点 トレンチ



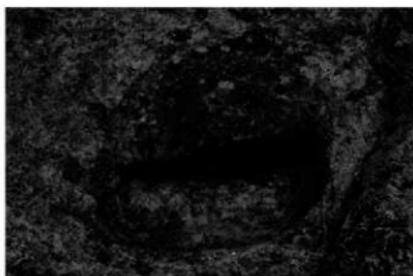
松山遺跡第 106 地点 トレンチ 1



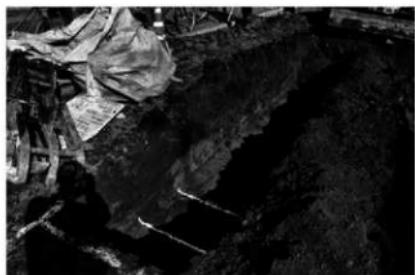
松山遺跡第 107 地点 トレンチピット 1・2



松山遺跡第 107 地点 トレンチ溝 1・2



松山遺跡第 107 地点 ピット 1 土層



松山遺跡第 108 地点 トレンチ 1



松山遺跡第 109 地点 トレンチ 1



江川東遺跡第 28 地点トレンチ 2 溝 1・2



江川東遺跡第 28 地点調査風景



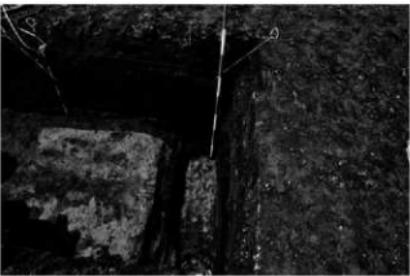
江川東遺跡第 29 地点トレンチ 1



江川東第 29 地点調査風景



駒林遺跡第 43 地点トレンチ 1 堀跡



駒林遺跡第 43 地点トレンチ 2 堀跡



駒林遺跡第 44 地点グリッド 1



駒林遺跡第 44 地点調査風景



東中学校西遺跡第 38 地点トレンチ 1



東中学校西遺跡第 38 地点トレンチ 3



西ノ原遺跡第 180 地点トレンチ 1



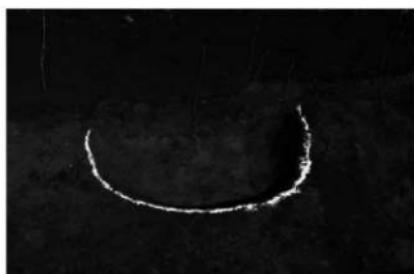
西ノ原遺跡第 180 地点トレンチ 2



西ノ原遺跡第 182 地点トレンチ 1



西ノ原遺跡第 182 地点トレンチ 3



西ノ原遺跡第 180 地点トレンチ

西ノ原遺跡第 180 地点
遺構外



神明後遺跡第 61 地点
遺構外



西ノ原遺跡第 180 地点、神明後遺跡第 61 地点出土遺物



神明後遺跡第61地点トレンチ1土坑1



神明後遺跡第61地点トレンチ3ピット1・2



神明後遺跡第62地点トレンチ2



神明後遺跡第62地点調査風景



苗間東久保遺跡第36地点トレンチ1土層



苗間東久保遺跡第36地点トレンチ2土層



淨禪寺跡遺跡第9地点トレンチ土層



淨禪寺跡遺跡第9地点調査風景



浄禪寺跡遺跡第 55 地点トレンチ 1



浄禪寺跡遺跡第 55 地点トレンチ 2



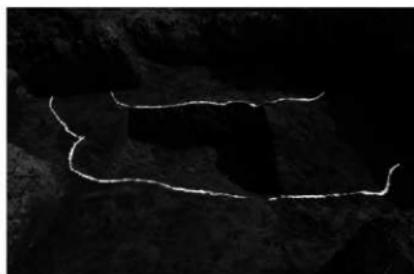
浄禪寺跡遺跡第 57 地点トレンチ 1



浄禪寺跡遺跡第 57 地点トレンチ 2



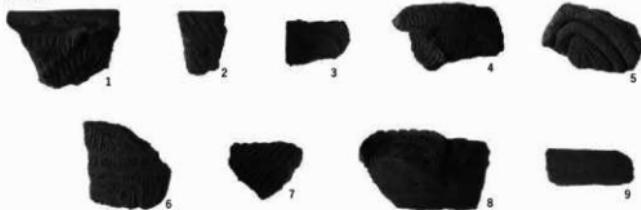
小田久保遺跡第 15 地点トレンチ 1



小田久保遺跡第 15 地点トレンチ 2

浄禪寺跡遺跡第 57 地点
遺構外

小田久保遺跡第 15 地点
遺構外



浄禪寺跡遺跡第 57 地点、小田久保遺跡第 15 地点出土遺物



本村遺跡第138地点トレンチ1土層



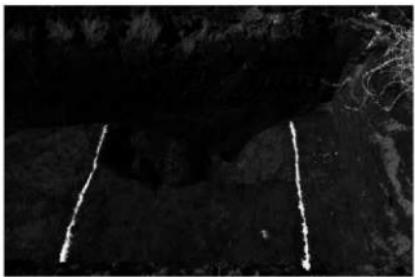
本村遺跡第138地点トレンチ2



本村遺跡第139地点トレンチ2



本村遺跡第139地点調査風景



本村遺跡第140地点トレンチ1溝



本村遺跡第140地点調査風景



東台遺跡第63地点トレンチ



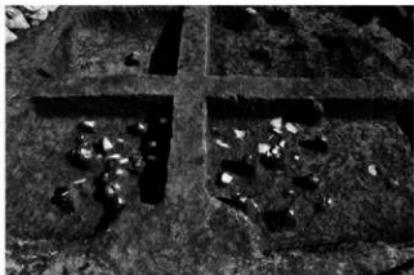
東台遺跡第64地点調査風景



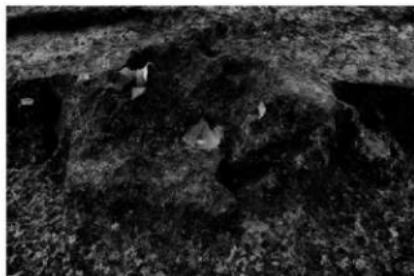
長宮遺跡第 60 地点 H8 号住居跡



長宮遺跡第 60 地点 H8 号住居跡完掘



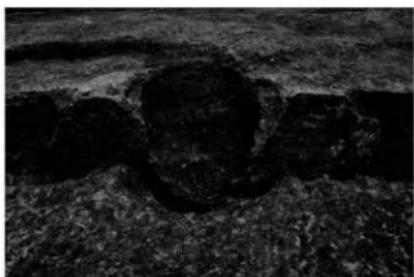
長宮遺跡第 60 地点 H8 号住居跡遺物出土状況



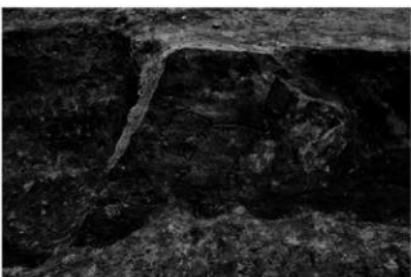
長宮遺跡第 60 地点 H8 号住居跡竈①



長宮遺跡第 60 地点 H8 号住居跡竈②



長宮遺跡第 60 地点 H 8 号住居跡竈土層①



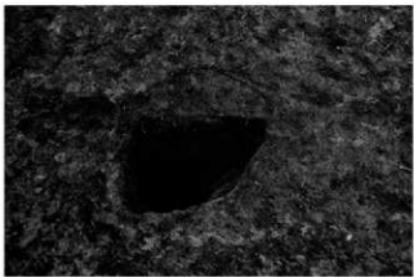
長宮遺跡第 60 地点 H8 号住居跡竈土層②



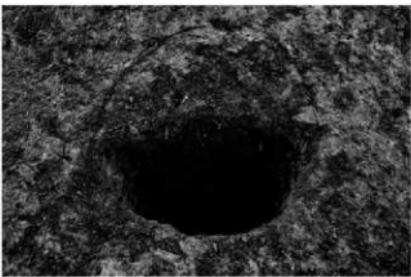
長宮遺跡第 60 地点 H8 号住居跡遺物出土状況



長宮遺跡第 60 地点 H8 号住居跡掘方



長宮遺跡第 60 地点 H8 号住居内ピット 2 土層



長宮遺跡第 60 地点 H8 号住居内ピット 3 土層



長宮遺跡第 60 地点調査風景①



長宮遺跡第 60 地点調査風景②



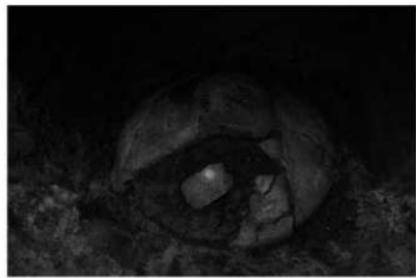
長宮遺跡第 60 地点 H8 号住居跡出土遺物①



長宮遺跡第 60 地点 H8 号住居跡出土遺物(②)



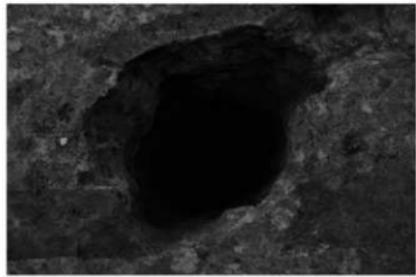
西ノ原遺跡第 181 地点 184 号住居跡全景



西ノ原遺跡第 181 地点 184 号住居跡伏甌 No. 1



西ノ原遺跡第 181 地点 184 号住居跡伏甌 No. 2



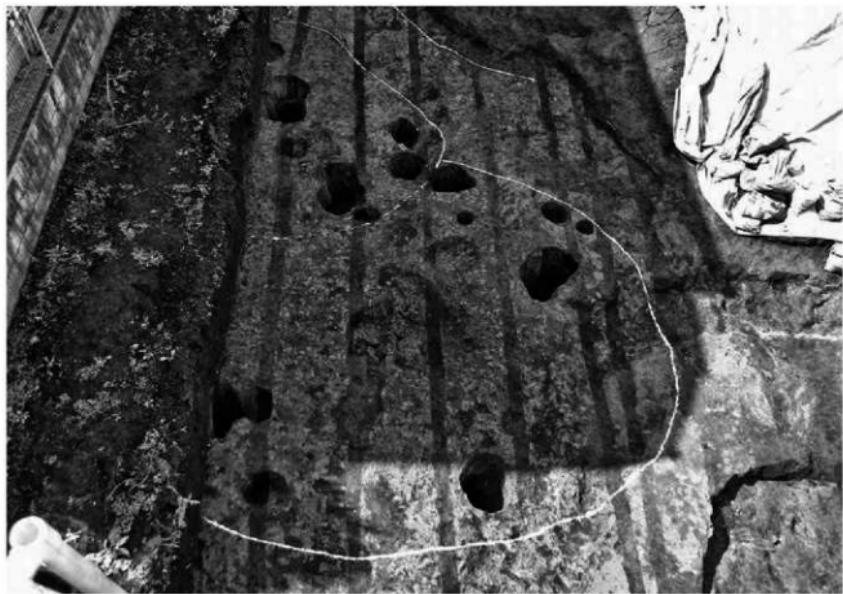
西ノ原遺跡第 181 地点 184 号住居跡ピット 1 土層



西ノ原遺跡第 181 地点 184 号住居跡ピット 2 土層



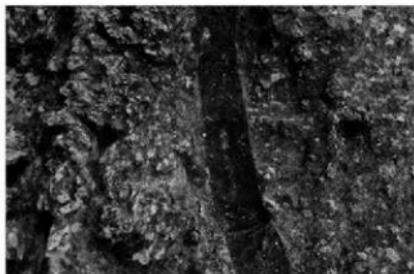
西ノ原遺跡第 181 地点 184 号住居跡出土遺物



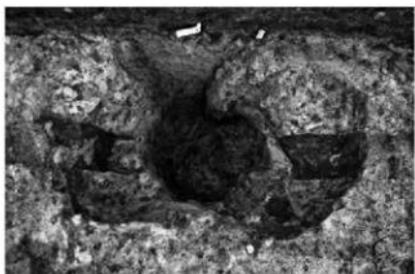
西ノ原遺跡第 181 地点 220 号住居跡全景



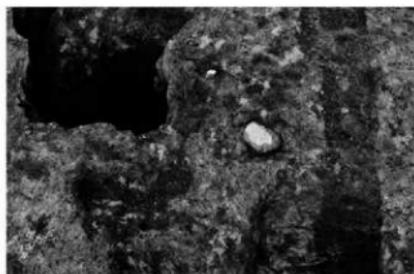
西ノ原遺跡第 181 地点 220 号住居跡



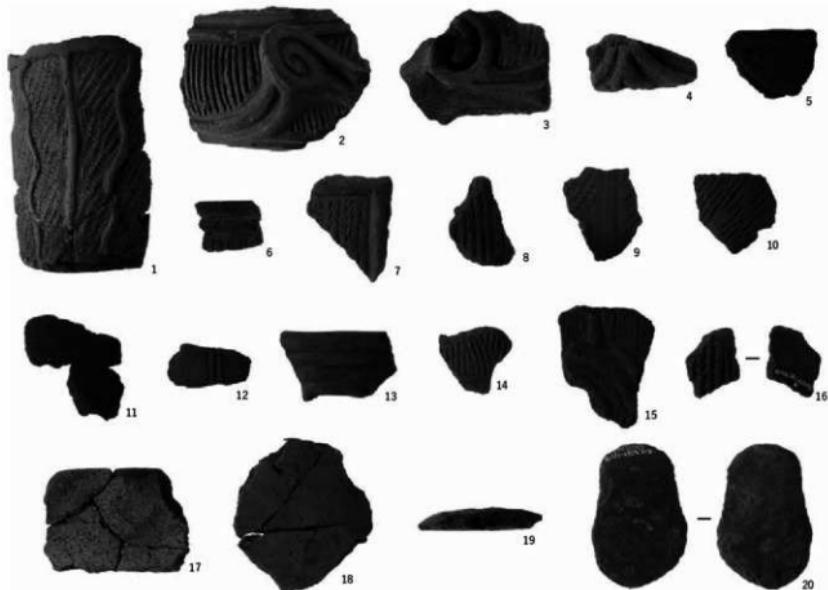
西ノ原遺跡第 181 地点 220 号住居跡炉



西ノ原遺跡第 181 地点 220 号住居跡ビット



西ノ原遺跡第 181 地点 220 号住居跡石斧出土状況



西ノ原遺跡第 181 地点 220 住居跡出土遺物



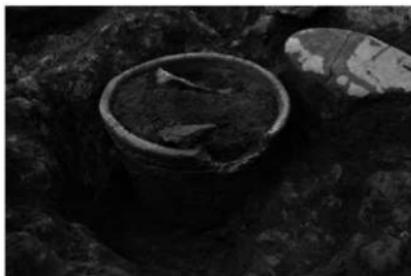
西ノ原遺跡第 181 地点 233 号住居跡全景



西ノ原遺跡第 181 地点 233 号住居跡炉 1・2 完掘



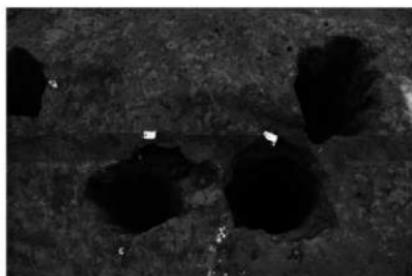
西ノ原遺跡第 181 地点 233 号住居跡炉 1



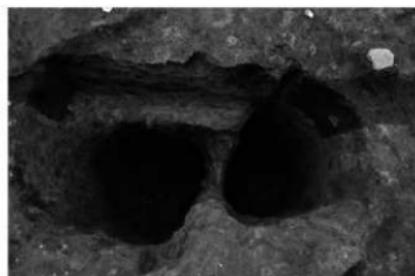
西ノ原遺跡第 181 地点 233 号住居跡炉体土器



西ノ原遺跡第 181 地点 233 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 181 地点 220 住ビット 3・4、233 住ビット 2・3



西ノ原遺跡第 181 地点 233 号住居跡ビット 4・5



西ノ原遺跡第 181 地点 233 号住居跡ビット 5 土層



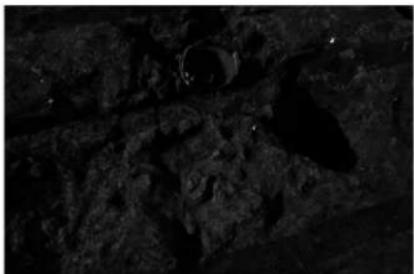
西ノ原遺跡第 181 地点 233 号住居跡ビット 10 土層



西ノ原遺跡第 181 地点 233 号住居跡出土遺物



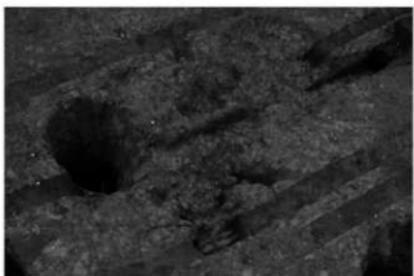
西ノ原遺跡第 181 地点 221 号住居跡全景①



西ノ原遺跡第 181 地点 221 号住居跡炉 1・2



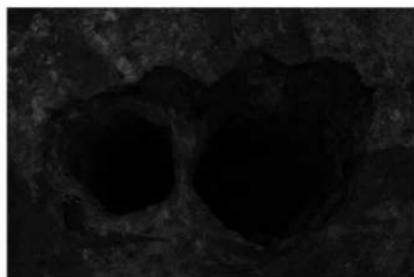
西ノ原遺跡第 181 地点 221 号住居跡炉体土器



西ノ原遺跡第 181 地点 221 号住居跡炉完掘



西ノ原遺跡第 181 地点 221 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 181 地点 221 号住居跡ピット 2・10



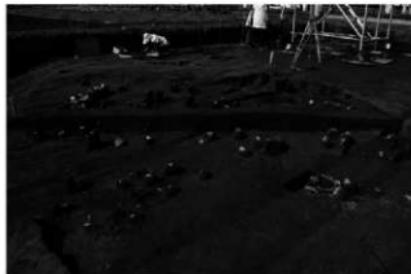
西ノ原遺跡第 181 地点 221 号住居跡全景②



西ノ原遺跡第 181 地点 221 号住居跡出土遺物



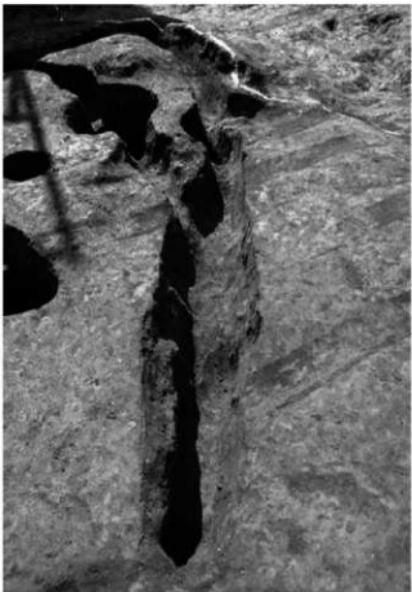
西ノ原遺跡第 181 地点 222・228・229 号住居跡全景



西ノ原遺跡第 181 地点 222・228・229 号住居跡土層



西ノ原遺跡第 181 地点 222 号住居跡炉



西ノ原遺跡第 181 地点 222 号住居跡周溝



西ノ原遺跡第 181 地点 222 号住居跡炉土層



西ノ原遺跡第 181 地点 228 号住居跡炉土層



西ノ原遺跡第 181 地点 229 号住居跡ミニチュア土器出土状況



西ノ原遺跡第 181 地点 222・228・229 号住居跡遺物出土状況

222 号住居跡

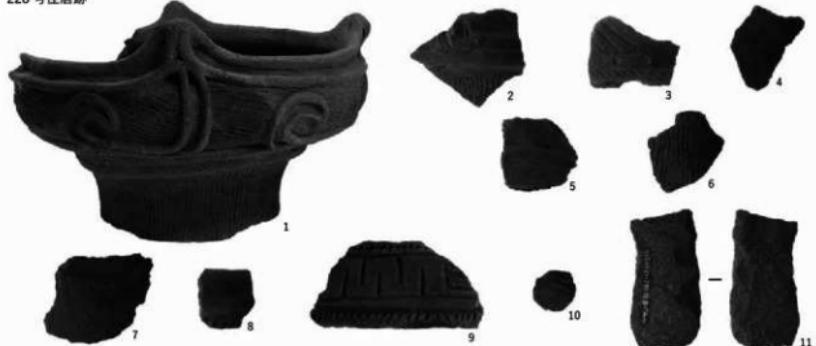


西ノ原遺跡第 181 地点 222・228・229 号住居跡出土遺物①

222号住居跡



228号住居跡

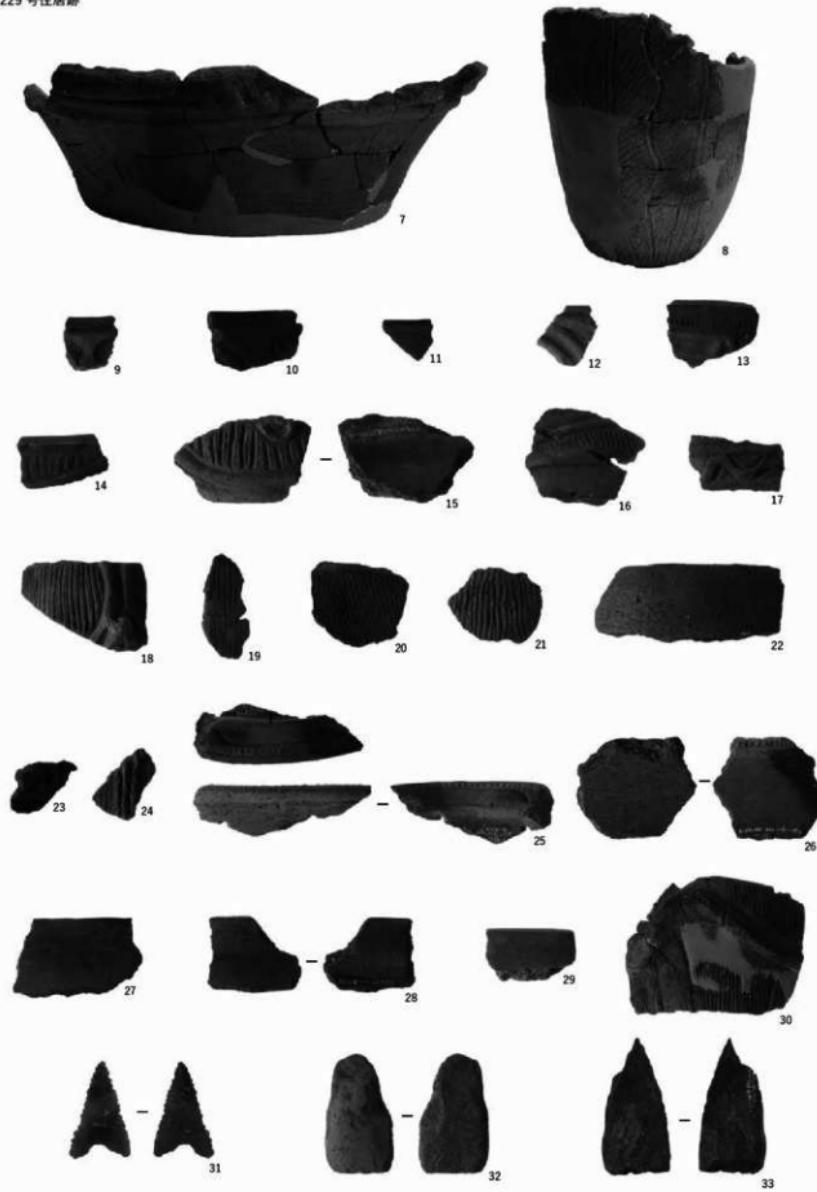


229号住居跡

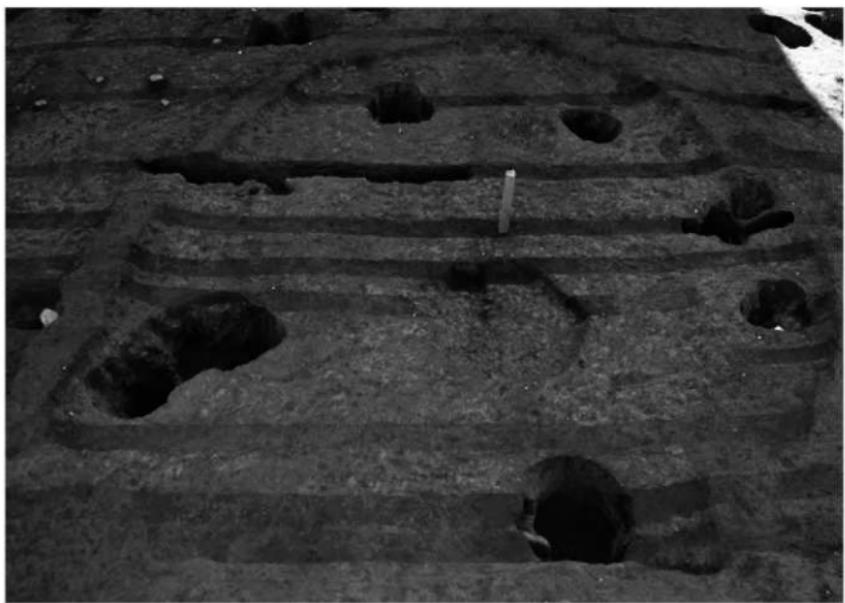


西ノ原遺跡第181地点 222・228・229号住居跡出土遺物②

229 号住居跡



西ノ原遺跡第 181 地点 222・228・229 号住居跡出土遺物③



西ノ原遺跡第 181 地点 223 号住居跡全景



西ノ原遺跡第 181 地点 223 号住居跡土層①



西ノ原遺跡第 181 地点 223 号住居跡土層②



西ノ原遺跡第 181 地点 223 号住居跡ピット 5 №.1



西ノ原遺跡第 181 地点 223 号住居跡遺物出土状況



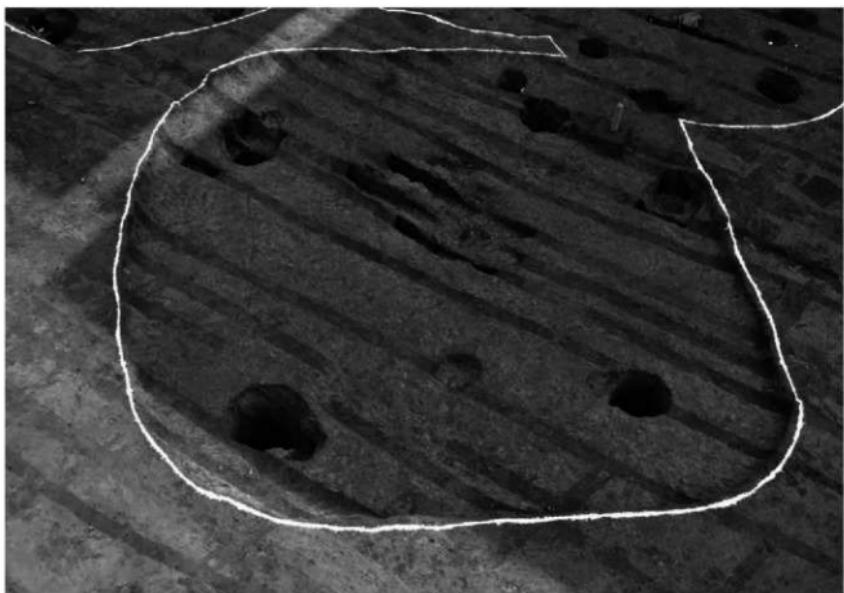
西ノ原遺跡第 181 地点 223 号住居跡ピット 4 土層



西ノ原遺跡第 181 地点 223 号住居跡ピット 1・8



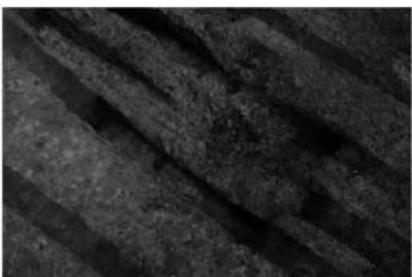
西ノ原遺跡第 181 地点 223 号住居跡出土遺物



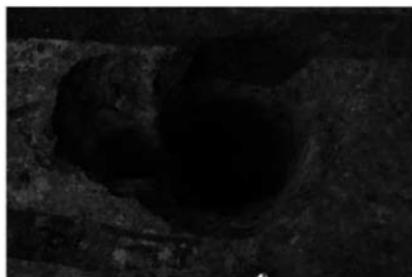
西ノ原遺跡第 181 地点 224 号住居跡全景



西ノ原遺跡第 181 地点 224 号住居跡土層



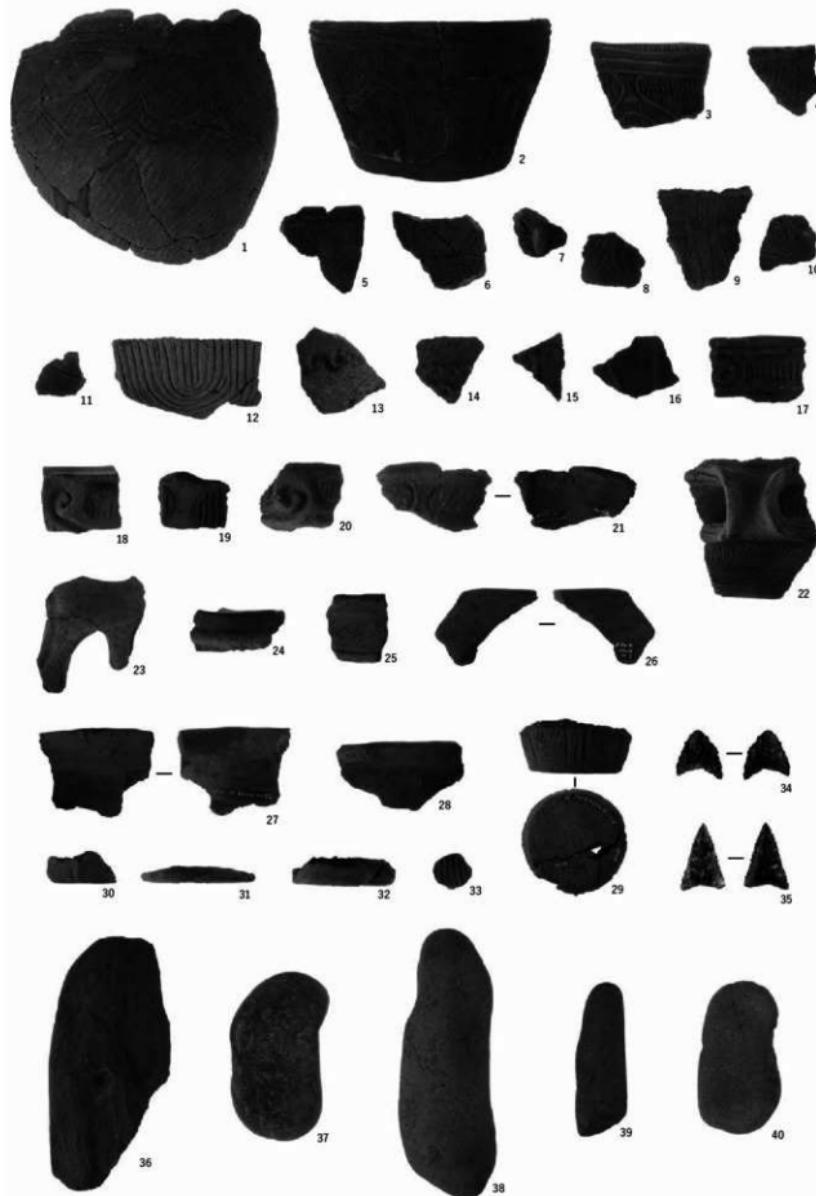
西ノ原遺跡第 181 地点 224 号住居跡炉完掘



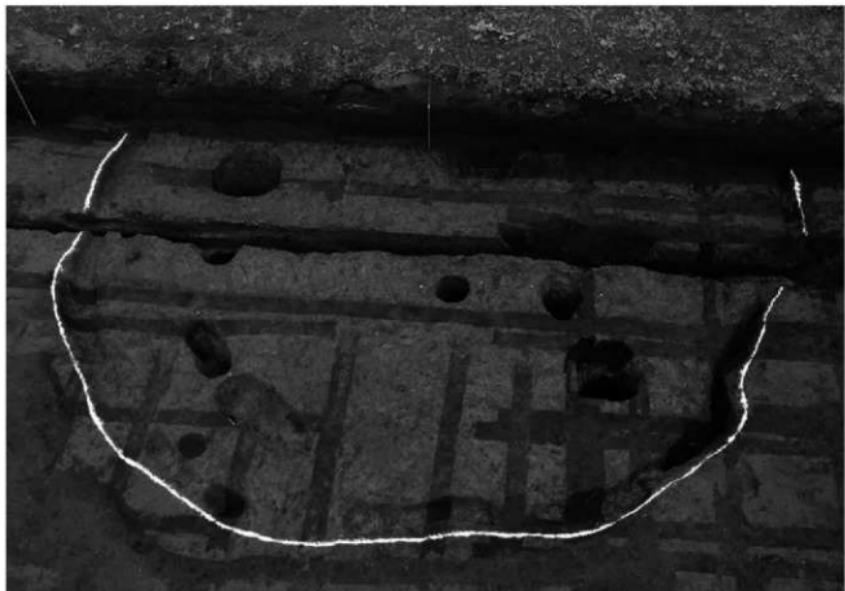
西ノ原遺跡第 181 地点 224 号住居跡ピット 1



西ノ原遺跡第 181 地点 224 号住居跡遺物出土状況



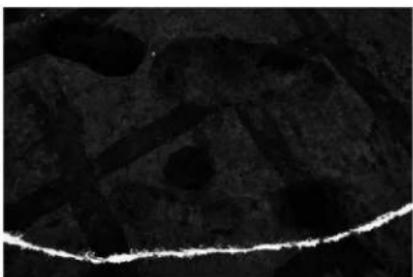
西ノ原遺跡第 181 地点 224 号住居跡出土遺物②



西ノ原遺跡第 181 地点 225 号住居跡全景



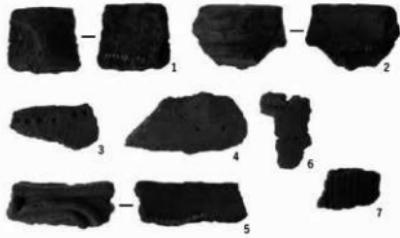
西ノ原遺跡第 181 地点 225 号住居跡周溝



西ノ原遺跡第 181 地点 225 号住居跡ピット 4・5・8



西ノ原遺跡第 181 地点 225 号住居跡調査風景



西ノ原遺跡第 181 地点 225 号住居跡出土遺物



西ノ原遺跡第 181 地点 226 号住居跡全景①



西ノ原遺跡第 181 地点 226 号住居跡炉



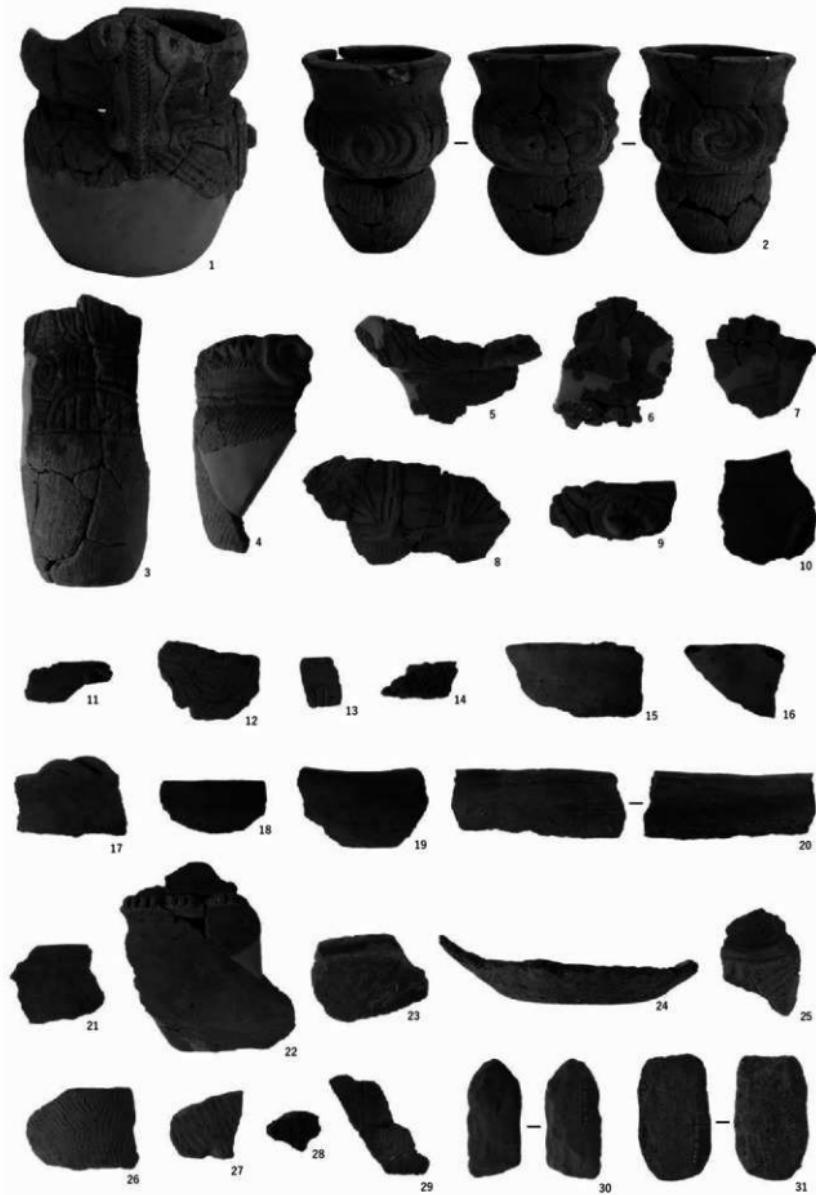
西ノ原遺跡第 181 地点 226 号住居跡炉遺物出土状況



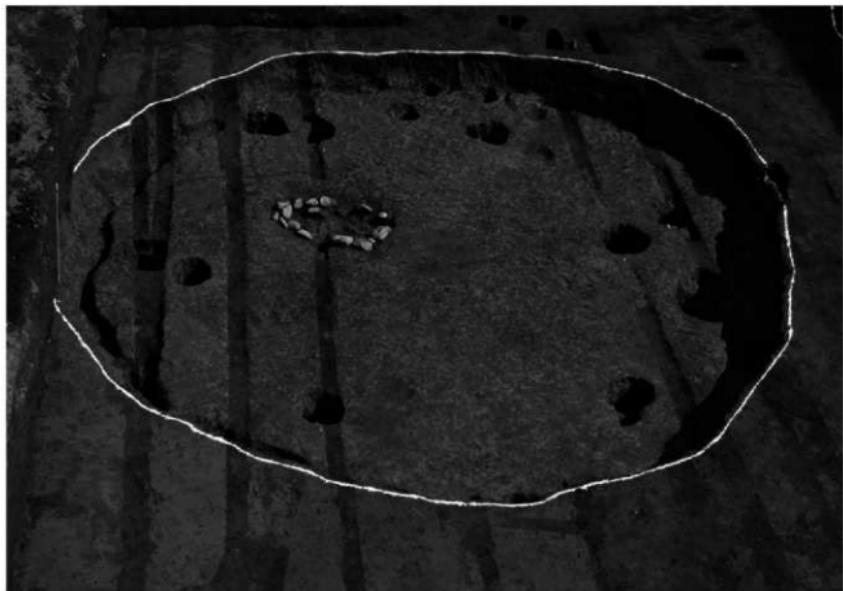
西ノ原遺跡第 181 地点 226 号住居跡全景②



西ノ原遺跡第 181 地点 226 号住居跡調査風景



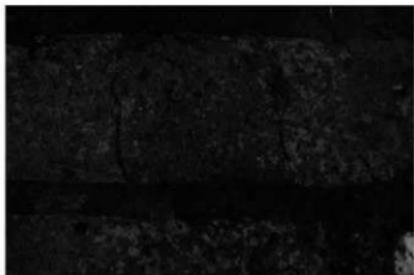
西ノ原遺跡第181地点226号住居跡出土遺物



西ノ原遺跡第 181 地点 227 号住居跡全景①



西ノ原遺跡第 181 地点 227 号住居跡炉



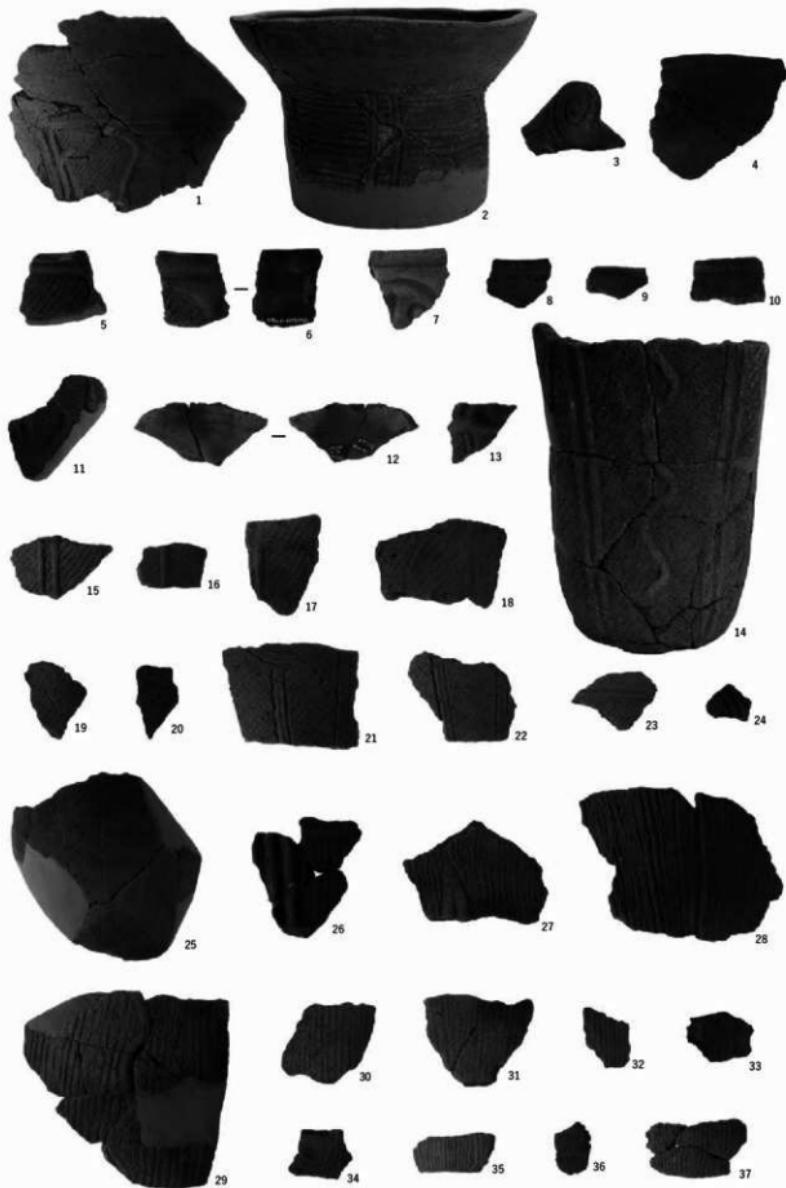
西ノ原遺跡第 181 地点 227 号住居跡床面焼土



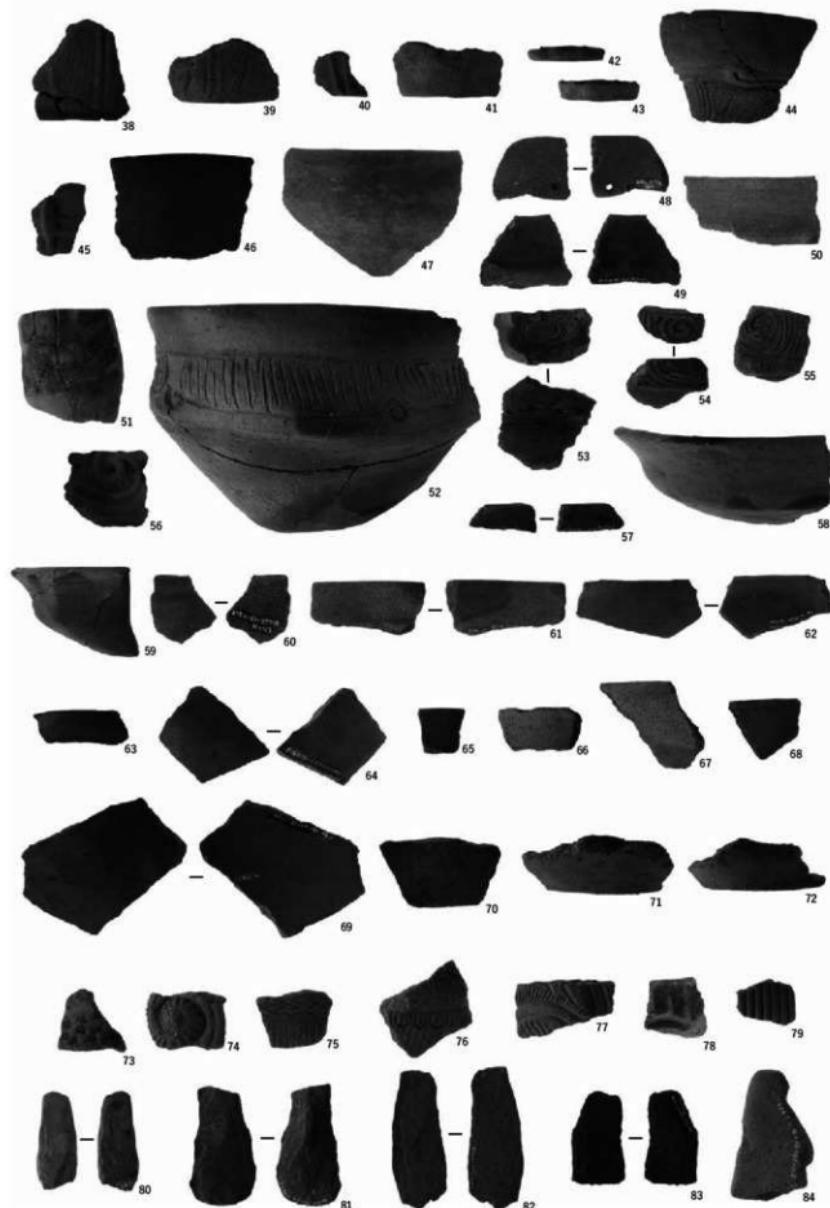
西ノ原遺跡第 181 地点 227 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 181 地点 227 号住居跡No.2



西ノ原遺跡第181地点227号住居跡出土遺物①



西ノ原遺跡第 181 地点 227 号住居跡出土遺物②



西ノ原遺跡第181地点230号住居跡全景



西ノ原遺跡第181地点230号住居跡土層



西ノ原遺跡第181地点230号住居跡炉掘方



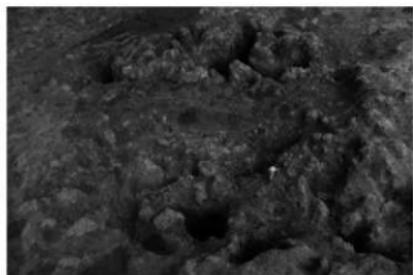
西ノ原遺跡第181地点230号住居跡炉体土器



西ノ原遺跡第181地点230号住居跡出土遺物



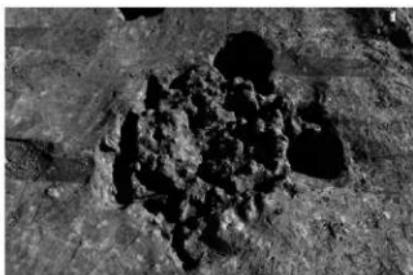
西ノ原遺跡第 181 地点 231 号住居跡全景



西ノ原遺跡第 181 地点 231 号住居跡炉土層



西ノ原遺跡第 181 地点 231 号住居跡炉ピット 6



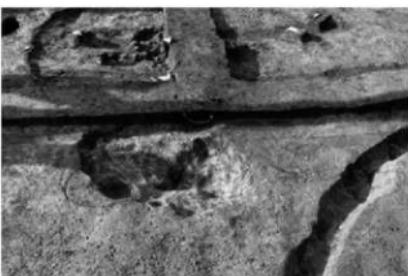
西ノ原遺跡第 181 地点 231 号住居跡炉ピット 6・8



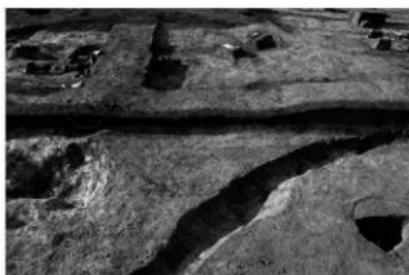
西ノ原遺跡第 181 地点 231 号住居跡ピット 3・4 土層



西ノ原遺跡第181地点231号住居跡土層①



西ノ原遺跡第181地点231号住居跡土層②



西ノ原遺跡第181地点231号住居跡土層③



西ノ原遺跡第181地点231号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第181地点231号住居跡出土遺物



西ノ原遺跡第 181 地点 234 号住居跡全景



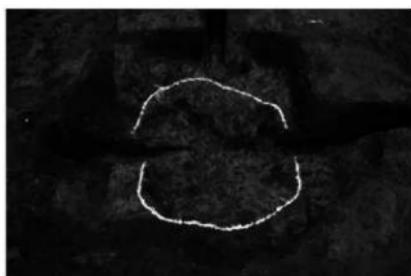
西ノ原遺跡第 181 地点 234 号住居跡跡



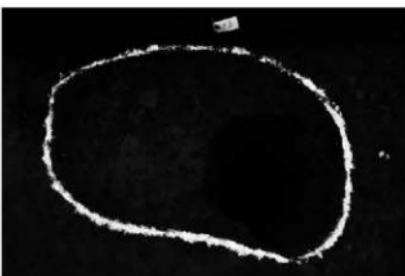
西ノ原遺跡第 181 地点 234 号住居跡ピット 3 土層



西ノ原遺跡第 181 地点 234 号住居跡出土遺物



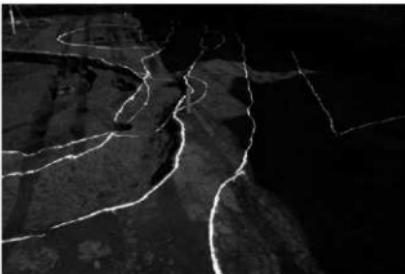
西ノ原遺跡第181地点土坑1



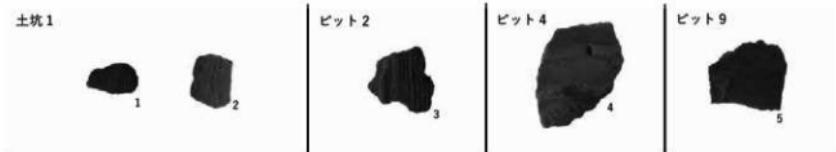
西ノ原遺跡第181地点ピット3



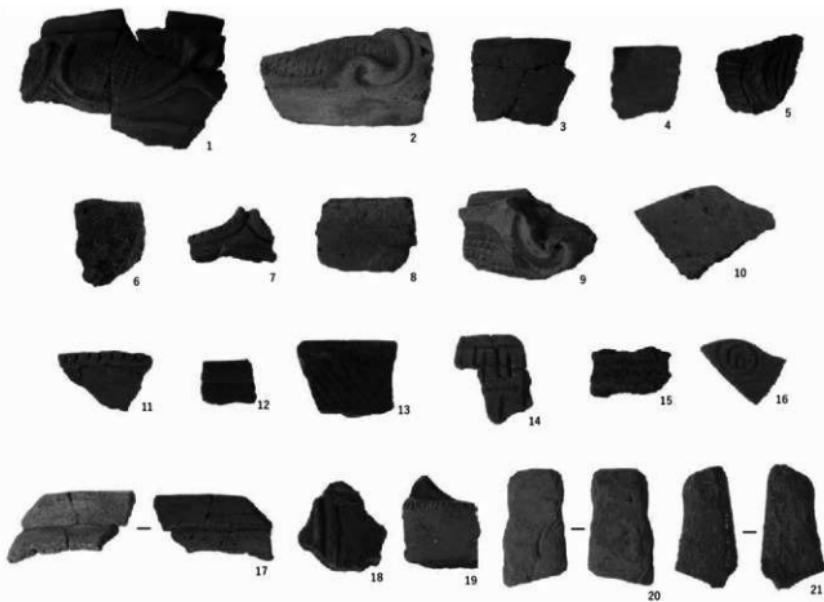
西ノ原遺跡第181地点溝①



西ノ原遺跡第181地点溝②



西ノ原遺跡第181地点遺構外出土遺物



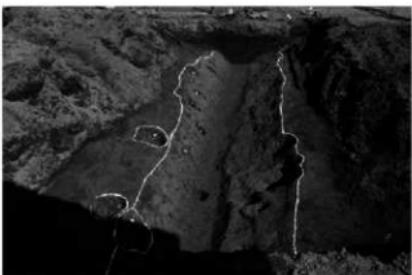
西ノ原遺跡第181地点遺構外出土遺物



西ノ原遺跡第181地点調査風景



神明後遺跡第 59 地点堀跡①



神明後遺跡第 59 地点堀跡②



神明後遺跡第 59 地点落とし穴①



神明後遺跡第 59 地点落とし穴②



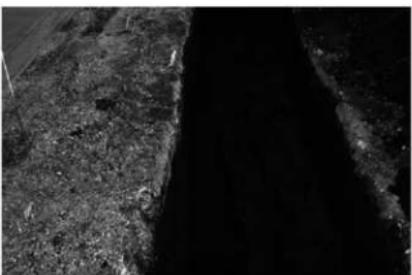
神明後遺跡第 59 地点落とし穴土層



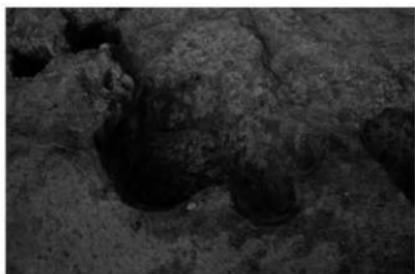
神明後遺跡第 59 地点ピット 2 土層



神明後遺跡第 59 地点トレンチ 3 溝



神明後遺跡第 59 地点トレンチ 6 溝



神明後遺跡第 59 地点掘跡内ピット



神明後遺跡第 59 地点 B 区トレンチ 9



神明後遺跡第 59 地点 A 区トレンチ 2



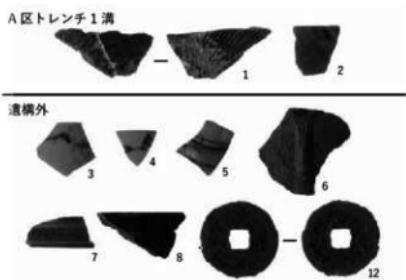
神明後遺跡第 59 地点調査風景①



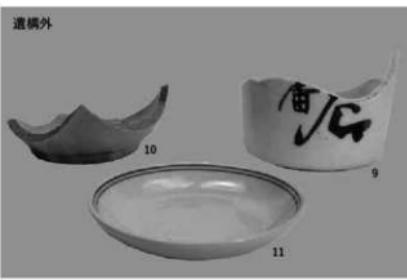
神明後遺跡第 59 地点調査風景②

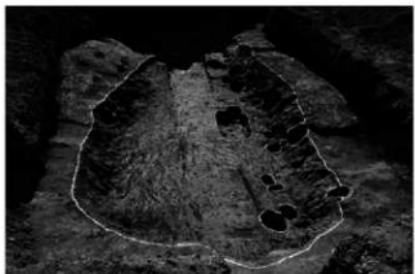


神明後遺跡第 59 地点調査風景③

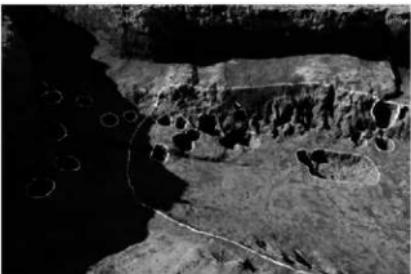


神明後遺跡第 59 地点出土遺物

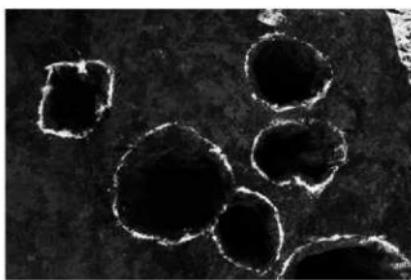




神明後遺跡第60地点大型土坑①



神明後遺跡第60地点大型土坑②



神明後遺跡第60地点ピット15～18・21



神明後遺跡第60地点井戸



神明後遺跡第60地点井戸土層



神明後遺跡第60地点トレンチ12

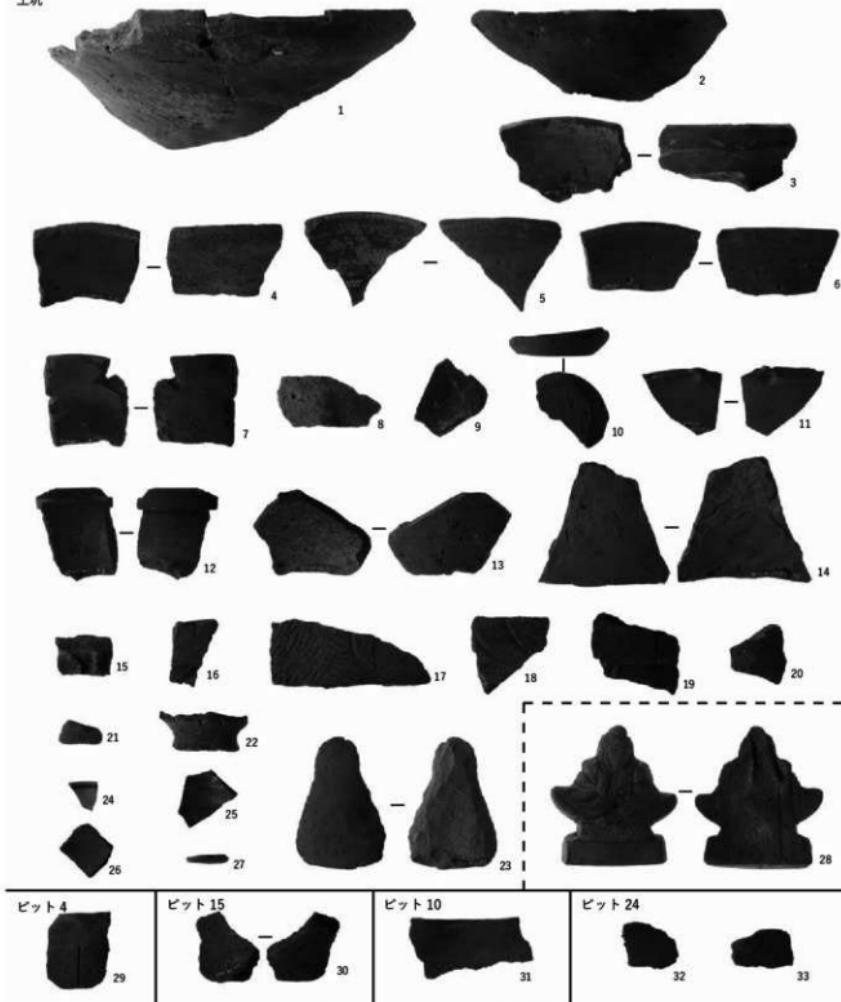


神明後遺跡第60地点調査風景①



神明後遺跡第60地点調査風景②

土坑



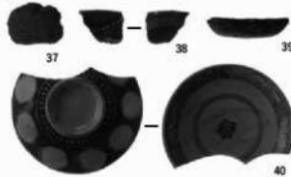
溝



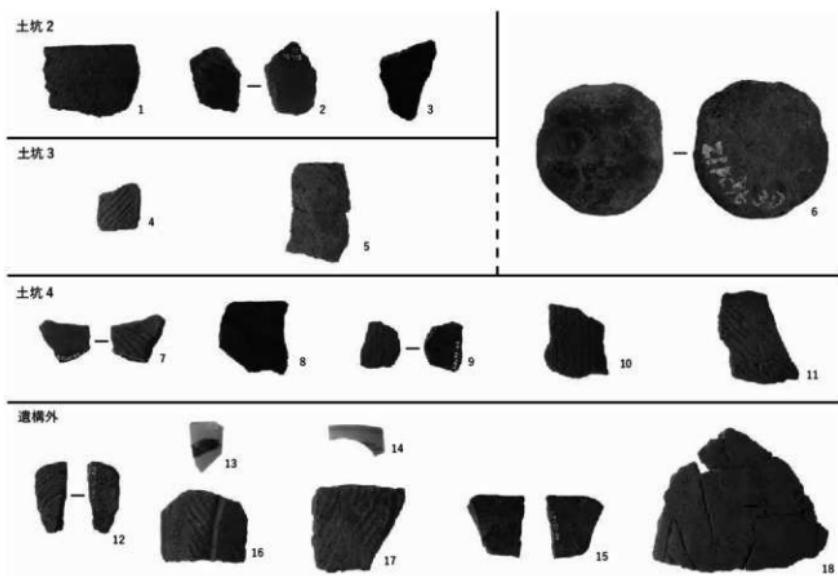
井戸



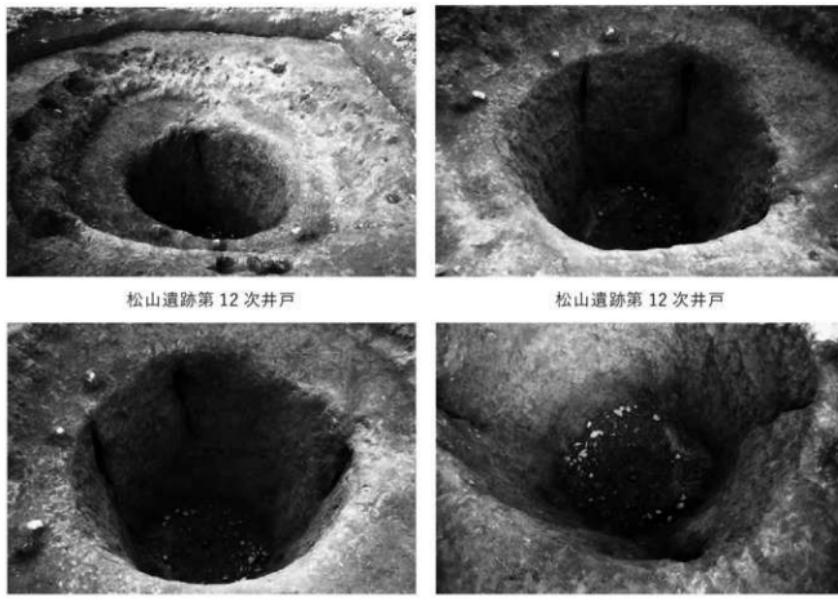
遺構外



神明後遺跡第 60 地点出土遺物



净禪寺跡遺跡第 56 地点出土遺物



松山遺跡第 12 次井戸

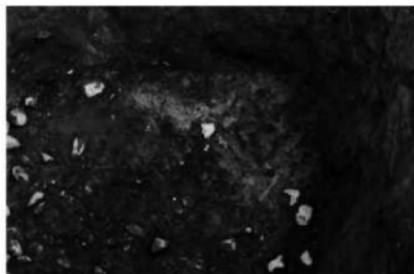
松山遺跡第 12 次井戸



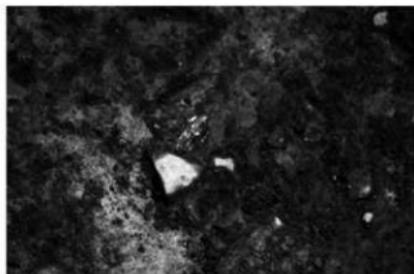
松山遺跡第 12 次井戸



松山遺跡第 12 次井戸



松山遺跡第 12 次遺物出土状況



松山遺跡第 12 次馬齒出土状況



松山遺跡第 12 次調査風景①



松山遺跡第 12 次調査風景②

井戸 覆土・一括

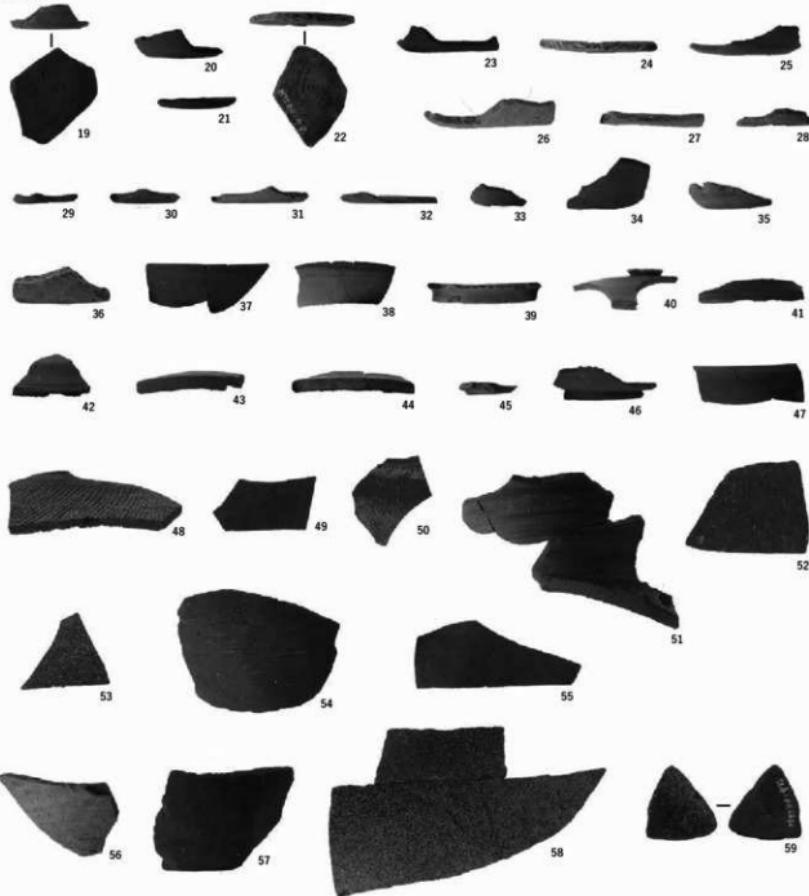


井戸 中層



松山遺跡第 12 次出土遺物①

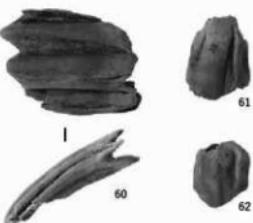
井戸 中層



井戸 石上(礎上)

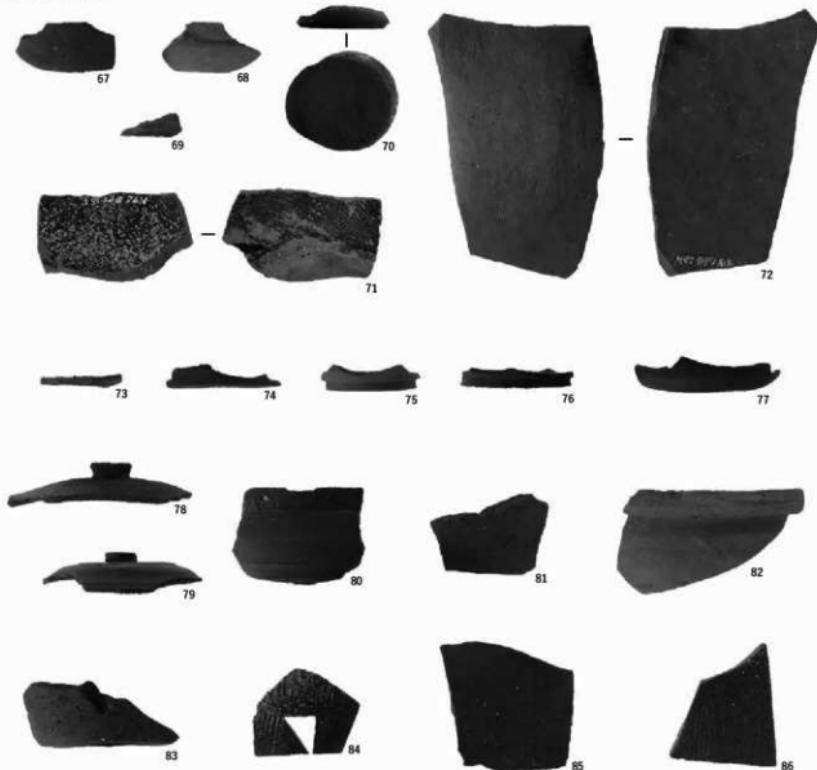


馬齒



松山遺跡第12次出土遺物②

#戸 石上(縦上)



#戸 石下(縦下)



ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第28集

埼玉県ふじみ野市 市内遺跡群27

2023年3月20日印刷

2023年3月25日発行

発 行 ふじみ野市教育委員会

〒356-8501 埼玉県ふじみ野市福岡一丁目1番1号

TEL 049-261-2611

FAX 049-266-6271

印 刷

株式会社 ブラウズ
